

令和4年度
市政世論調査結果報告書

越谷市

はじめに

本市の市政世論調査は昭和45年に実施して以来、今回で53回目を迎えます。

市政世論調査は市民各層の行政ニーズを的確にとらえ、行政施策に反映させていくために継続して実施しているものです。

今回は、「暮らし向きや居留意向について」「越谷市への愛着度と魅力発信について」「広報について」「市内の公共交通について」「景観（風景）について」「参加と協働のまちづくりについて」「地場農産物や地産地消について」「自殺防止について」「地域医療体制について」「人権全般に関する意識について」「男女共同参画について」「成年年齢引下げについて」「防犯カメラについて」「スポーツ・レクリエーションの実施状況について」「芸術文化活動について」「介護サービスについて」「子育て支援について」「自治会について」「越谷市の施策について」の各テーマにおいて、市民意識の把握に努めました。

今回の調査で、すべてのニーズや問題点が解明されたわけではありませんが、調査の結果を今後の市政運営の参考資料として活用しながら、市民の皆様の期待に応えられるまちづくりや、行政サービスを推進してまいりたいと考えております。

ご多忙にもかかわらず、市政世論調査にご協力をいただきました市民の皆様にご心より御礼申し上げます。

令和4年11月

越谷市長 福田 晃

目 次

第1章 調査設計	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査手法	3
3. 回収状況	3
4. 調査項目	3
5. 居住地区区分	4
6. 集計結果の誤差比率について	5
7. 集計結果の有意性について	6
8. 報告書の見かた	7
第2章 調査回答者の属性	9
1. 回答者の属性	11
第3章 調査結果の概要	15
1. 暮らし向きや居住意向について	17
2. 越谷市への愛着度と魅力発信について	17
3. 広報について	17
4. 市内の公共交通について	17
5. 景観（風景）について	17
6. 参加と協働のまちづくりについて	18
7. 地場農産物や地産地消について	18
8. 自殺防止について	18
9. 地域医療体制について	18
10. 人権全般に関する意識について	19
11. 男女共同参画について	19
12. 成年年齢引下げについて	19
13. 防犯カメラについて	20
14. スポーツ・レクリエーションの実施状況について	20
15. 芸術文化活動について	20
16. 介護サービスについて	20
17. 子育て支援について	21
18. 自治会について	21
19. 越谷市の施策について	21

第4章 調査結果の詳細	23
1. 暮らし向きや居住意向について	25
(1) 現在の暮らし向き	25
(2) 居住意向	31
(3) 転居意向の理由	37
2. 越谷市への愛着度と魅力発信について	43
(1) 越谷市への愛着	43
(2) 愛着がある理由	45
(3) 越谷市の誇れるもの	47
3. 広報について	49
(1) 市政情報の入手先	49
(2) 市政情報を得るために活用したもの	51
(3) 広報こしがやの感想	53
(4) 広報こしがやのわかりにくい点	55
(5) 紙媒体の広報の必要性	56
4. 市内の公共交通について	58
(1) 公共交通の利用状況	58
(2) 公共交通の満足度	60
5. 景観（風景）について	62
(1) 景観（風景）の満足度	62
(2) 行政に望むこと	64
6. 参加と協働のまちづくりについて	66
(1) 「参加と協働のまちづくり」の認知度	66
(2) 「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ	68
(3) 「参加と協働のまちづくり」への参加意向	70
(4) 「越谷市自治基本条例」の認知度	72
(5) 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ	74
(6) 「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法	76
7. 地場農産物や地産地消について	78
(1) 越谷の農業特産物の認知度	78
(2) 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所	80

8. 自殺防止について	84
(1) 自殺（自死）したいと考えたこと	84
(2) 自殺（自死）したいと考えた理由	86
(3) 自殺（自死）について相談する相手	88
(4) 自殺（自死）に関する相談窓口の認知度	90
(5) 自殺防止に最も効果的な対策	92
9. 地域医療体制について	94
(1) 地域医療体制の認知度	94
(2) 医療機関の情報の入手方法	97
(3) 特に力を入れる必要がある地域医療関連事業	99
10. 人権全般に関する意識について	101
(1) 基本的人権の意識	101
(2) 人権意識の変化	103
(3) 関心のある人権問題	105
(4) 人権侵害を感じたこと	107
(5) 人権侵害を感じた内容	109
11. 男女共同参画について	111
(1) 男性の育児・介護・看護休暇取得制度活用をどう思うか	111
(2) 男性が育児・介護のための長期休暇を取得しない理由	113
(3) 男女がともに仕事と家庭を両立するための条件	115
(4) 日常生活のなかでの優先度（希望）	117
(5) 日常生活のなかでの優先度（現実）	119
(6) 日常生活のなかでの優先度（比較）	121
(7) 政治・行政分野で女性の参画が少ない理由	122
12. 成年年齢引下げについて	124
(1) 成年年齢引下げの認知度	124
(2) 18歳からできることと、20歳にならないとできないこと	126
(3) 消費者トラブルに関する相談先の認知度	128
(4) 知っている相談先	130
13. 防犯カメラについて	132
(1) 防犯カメラのイメージ・設置してほしい場所・設置数	132
14. スポーツ・レクリエーションの実施状況について	135
(1) スポーツ・レクリエーション活動の実施状況	135
(2) スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由	137
(3) スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由	139
(4) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（比較的軽いスポーツ） ..	141
(5) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（野外活動）	143
(6) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（競技的スポーツ）	145

15. 芸術文化活動について	147
(1) 日常的に実施している芸術文化活動.....	147
(2) 市が主催する芸術文化事業の認知度・参加状況.....	149
(3) 市が主催する芸術文化事業に参加したことがない理由.....	152
16. 介護サービスについて	154
(1) 介護サービスの利用時に事業・事業所・職員に求めるもの.....	154
17. 子育て支援について	158
(1) 子育て支援に関する情報入手先.....	158
(2) 子育て支援に関する情報取得が難しいと感じたこと.....	160
(3) 子育て支援に関する情報が得にくい理由.....	162
18. 自治会について	164
(1) 自治会の加入状況.....	164
(2) 自治会に加入した理由.....	166
(3) 参加している自治会活動.....	168
(4) 自治会に加入して感じている点.....	170
(5) 自治会に加入しない理由.....	172
(6) 自治会に加入するために必要だと思うこと.....	174
(7) 自治会への加入意思.....	176
(8) 自治会を脱会した理由.....	178
19. 越谷市の施策について	180
(1) よくなってきたと感じるもの.....	180
(2) 特に力を入れるべきだと思われるもの.....	183
(3) 自由回答.....	186
第5章 調査票	191

第1章 調査設計

1. 調査実施の目的

本調査は、市民生活の現状、行政への要望及び市政に対する評価の意識を的確に把握するとともに、市民に対する施策の浸透状況を測定し、今後の行政運営等に反映させるための基礎的資料とすることを目的として実施した。

2. 調査手法

- (1) 調査地域：越谷市内全
- (2) 調査対象：市内在住の18歳以上の男女
- (3) 対象者数：5,000人
- (4) 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送法（郵送配布－郵送回収あるいはインターネット回収）
- (6) 調査期間：令和4年7月11日～令和4年7月25日

3. 回収状況

	票数		回収率
配布数	5,000		
回収数	2,717		54.3%
	うち郵送回収	2,042	40.8% (75.1%)
	うちインターネット回収	675	13.5% (24.9%)
有効回収数	2,717		54.3%

() は回収数に対する郵送、インターネット回収の割合

4. 調査項目

調査項目
(1) 基本属性（問1～問7）
(2) 暮らしや居住意向について（問8～問9-2）
(3) 越谷市への愛着度と魅力発信について（問10～問11）
(4) 広報について（問12～問15）
(5) 市内の公共交通について（問16）
(6) 景観（風景）について（問17～問18）
(7) 参加と協働のまちづくりについて（問19～問22）
(8) 地場農産物や地産地消について（問23～24）
(9) 自殺防止について（問25～問28）
(10) 地域医療体制について（問29～問31）
(11) 人権全般に関する意識について（問32～問35-2）
(12) 男女共同参画について（問36～問40）
(13) 成年年齢引下げについて（問41～問42-2）
(14) 防犯カメラについて（問43）
(15) スポーツ・レクリエーションの実施状況について（問44～問45）
(16) 芸術文化活動について（問46～問47-2）
(17) 介護サービスについて（問48）
(18) 子育て支援について（問49～問50-2）
(19) 自治会について（問51～問51-4）
(20) 越谷市の施策について（問52～問53）

5. 居住地区区分



◆ 居住地区該当町表

地区区分	該当町名
桜井	大字大里、大字下間久里、大字上間久里、大字大泊、大字平方、平方南町、千間台東1～4丁目
新方	大字弥十郎、大字大吉、大字向畑、大字北川崎、大字大杉、大字大松、大字船渡、弥栄町1～4丁目
増林	大字花田、大字増林、大字増森、大字中島、東越谷1～10丁目、中島1～3丁目、増林1～3丁目、増森1～2丁目、花田1～7丁目
大袋	大字恩間、大字大竹、大字大道、大字三野宮、大字恩間新田、大字袋山、大字大林、大字大房、千間台西1～6丁目
荻島	大字野島、大字小曾川、大字砂原、大字南荻島、大字西新井、大字北後谷、大字長島
出羽	宮本町1～5丁目、神明町1～3丁目、谷中町1～4丁目、七左町1・4～8丁目、大間野町1～5丁目、新川町1～2丁目、新越谷2丁目
蒲生	大字蒲生、瓦曾根1～2丁目、南越谷1丁目、登戸町、蒲生東町、蒲生寿町、蒲生旭町、蒲生本町、蒲生西町1～2丁目、蒲生1～4丁目、蒲生愛宕町、蒲生南町、南町1～3丁目
川柳	伊原1～2丁目、川柳町1～5丁目、レイクタウン7丁目
大相模	大字西方、相模町1～5丁目、大成町1～2・6～8丁目、東町1～3・5丁目、相模町6～7丁目、流通団地1～4丁目、西方1～2丁目、レイクタウン1～6・8～9丁目
大沢	大沢、大沢1～4丁目、東大沢1～5丁目
北越谷	北越谷1～5丁目
越ヶ谷	越ヶ谷、越ヶ谷1～5丁目、御殿町、柳町、越ヶ谷本町、中町、弥生町、赤山町1～2丁目、宮前1丁目、赤山本町
南越谷	瓦曾根3丁目、南越谷2～5丁目、蒲生茜町、東柳田町、元柳田町、赤山町3～5丁目、新越谷1丁目

6. 集計結果の誤差比率について

今回のアンケート調査は、その調査対象となる母集団（越谷市全域に住む18歳以上の男女）から一部を抽出した標本（サンプル）の比率、平均、標準偏差などを調べ、これらの値から母集団の比率や平均を推測する、いわゆる「標本調査」を行っている。したがって、調査結果には母集団に対する標本誤差が生じる。

本調査では、母集団の推定において、信頼度を95%として信頼区間を算出しており、その際の標本誤差は以下の数式で統計定期に算出される。

$$b = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b：信頼度95%の標本誤差

N：母集団のサイズ

n：有効回収数（=2,717）

P：サンプルの回答比率

$$\text{ただし、} \frac{N-n}{N-1} \doteq 1$$

回答比率（P） 基数（n）	5%または 95%前後	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
10,000	±0.4	±0.6	±0.8	±0.9	±1.0	±1.0
5,000	±0.6	±0.9	±1.1	±1.3	±1.4	±1.4
2,717	±0.8	±1.2	±1.5	±1.7	±1.8	±1.9
2,000	±1.0	±1.4	±1.8	±2.0	±2.1	±2.2
1,000	±1.4	±1.9	±2.5	±2.8	±3.0	±3.1
500	±1.9	±2.7	±3.5	±4.0	±4.3	±4.4
100	±4.3	±6.0	±7.8	±9.0	±9.6	±9.8

7. 集計結果の有意性について

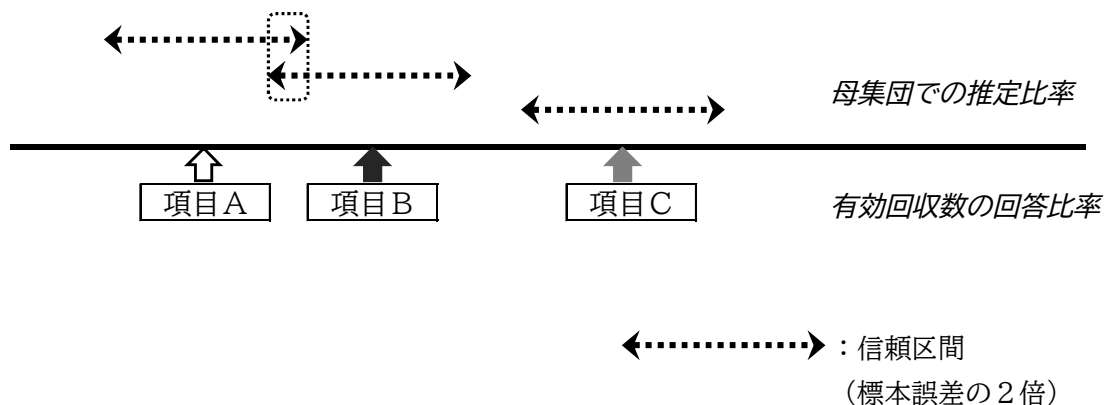
今回のアンケート調査は「標本調査」であり、調査対象となる母集団への標本誤差が必ず生じてくる。その際、どの程度までアンケート調査結果に基づく評価ができるのかという有意性が問題となる。

今回の調査では、有効回収数が2,717票であるため、回答比率がちょうど50%の場合には標本誤差 $\pm 1.9\%$ となっている。つまり、アンケート調査結果で得た50%という集計結果を、実際の母集団にあてはめるには標本誤差 $\pm 1.9\%$ 分の誤差が生じることになる。したがって、母集団の傾向として評価する際には、50%ではなく、 $50 \pm 1.9\%$ (48.1%~51.9%) という一定の幅を持った値(信頼区間)として取り扱う必要がある。そして、その信頼区間に基づいて母集団の評価のために、項目間の評価をする場合、少なくとも評価対象となる項目の回答比率の差が3.8% (標本誤差の2倍) 以上でなければ意味をなさない(有意性を持たない)ものとなる(下図参照)。

そのため、アンケート調査に有意性を持たせ、母集団へ効果的に反映させるためには、ある程度の回収数が必要とされている。例えば、100票程度の回収数の場合、その調査結果の標本誤差は、回答比率50%において9.8%となり、信頼区間は19.6%にも上がってしまう。このような状況では項目間の評価が事実上不可能に近くなり、アンケート調査自体が意味のないものになってしまう。このような事態を招かないためにも、通常の標本調査においては、回収数が1,000票程度は必要であるといえる。

今回のアンケート調査の場合、有効回収数2,717票であるため、評価にあたっての前提条件はクリアされている。ただし、前述の標本誤差が生じてくるため、評価・分析にあたっては、信頼区間(今回の調査の場合は3.8%程度)未満の差異は切り捨てて考える必要がある。

<項目Bは項目Aよりも有意に高いとはいえない場合>



8. 報告書の見かた

- (1) nは比率算出の基数であり、100%が何人の回答に相当するかを示す。
- (2) 「無回答」はその設問に回答をしなかったものであり、有効票となる。
- (3) 属性別の集計において、全体の調査数には無回答も含まれるため、各属性の調査数の合計は全体の調査数と一致しない。
- (4) 回答はすべて百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、数値の合計は100%を前後する場合がある。
- (5) 複数回答を求める質問の回答については、すべての数値を合計すると100%を超えることがある。
- (6) 複数の選択肢を合計した『○○○』の数値は算出したものであり、図表中の選択肢の数値の合計と一致しない場合がある。
- (7) 図表中の「-」は該当者なしを表す。
- (8) 割合の表記については、下記のとおり。
例 40%台

表記	約4割 (4割)	4割強	4割半ば	5割弱	約5割 (5割)
範囲	39.0~41.9% (40.0%)	42.0~43.9%	44.0~46.9%	47.0~48.9%	49.0~51.9% (50.0%)

- (9) 文中の「若年層」「中年層」「高齢層」については、下記の年齢層を示す。

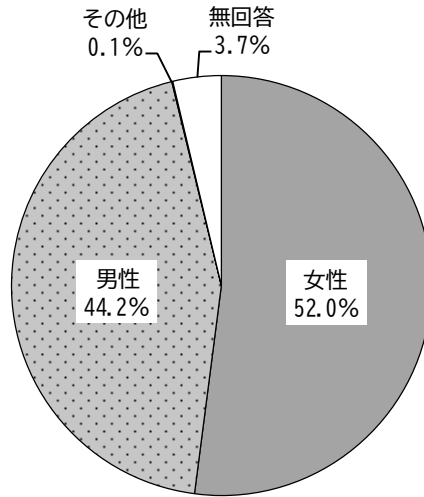
表記	若年層	中年層	高齢層
年齢層	18~29歳 30~39歳	40~49歳 50~59歳	60~69歳 70代以上

第2章 調査回答者の属性

1. 回答者の属性

1. 性別

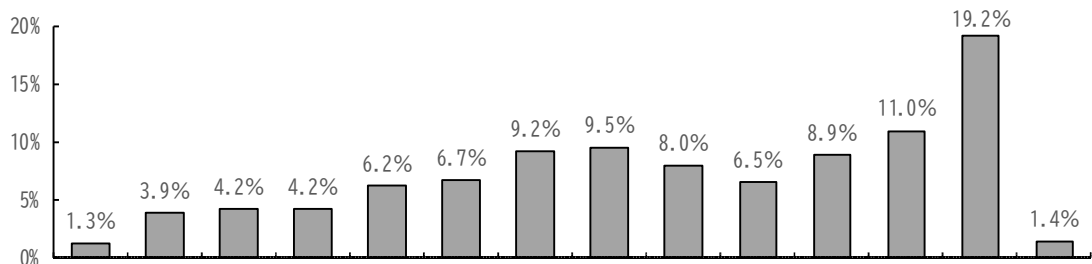
問1. あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)



(n=2,717)

2. 年代

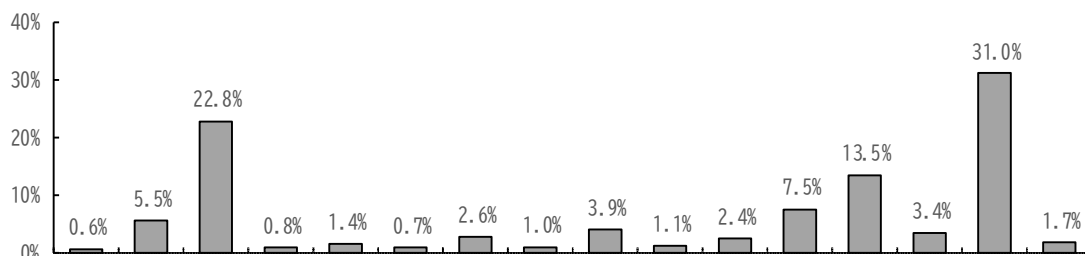
問2. あなたの年齢はどの区分にあてはまりますか。(〇は1つ)



	調査数	18歳以下	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳	31歳	無回答
合計	2,717(人)	34	105	113	114	168	182	250	259	217	177	241	298	521	38	
	100.0(%)	1.3	3.9	4.2	4.2	6.2	6.7	9.2	9.5	8.0	6.5	8.9	11.0	19.2	1.4	
女性	1,414(人)	18	53	70	59	94	97	129	127	117	88	122	168	271	1	
	100.0(%)	1.3	3.7	5.0	4.2	6.6	6.9	9.1	9.0	8.3	6.2	8.6	11.9	19.2	0.1	
男性	1,200(人)	16	51	43	52	74	81	120	129	98	85	116	118	215	2	
	100.0(%)	1.3	4.3	3.6	4.3	6.2	6.8	10.0	10.8	8.2	7.1	9.7	9.8	17.9	0.2	
その他	2(人)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
	100.0(%)	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	
無回答	101(人)	0	0	0	3	0	4	1	3	2	4	3	11	35	35	
	100.0(%)	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	4.0	1.0	3.0	2.0	4.0	3.0	10.9	34.7	34.7	

3. 職業

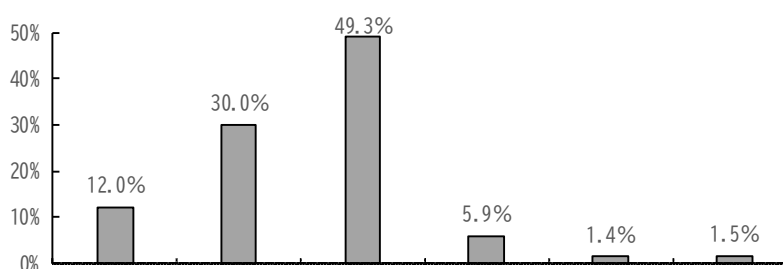
問3. あなたのご職業は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)



調査数	農業	市内会社員	市外会社員	小売店自営業	建築関係自営業	製造関係自営業	サービス関係自営業	自由業	公務員	団体職員	学生	家事従業	パートタイマー (アルバイト含む)	その他	無職 (年金生活を含む)	無回答	
合計	2,717(人)	17	149	619	22	39	20	71	26	106	31	65	204	366	93	843	46
	100.0(%)	0.6	5.5	22.8	0.8	1.4	0.7	2.6	1.0	3.9	1.1	2.4	7.5	13.5	3.4	31.0	1.7

4. 世帯の状況

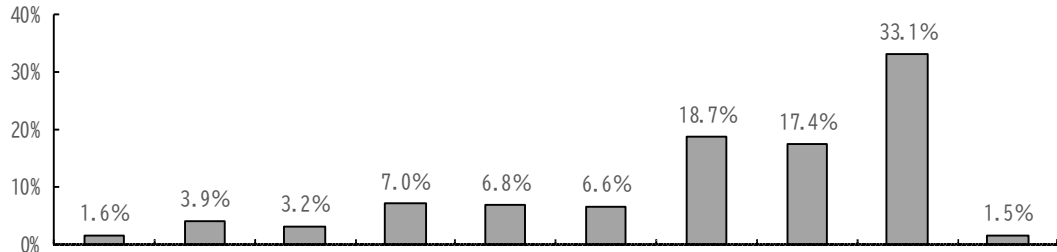
問4. あなたの世帯は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)



調査数	単身世帯 (ひとり暮らし)	一世帯のみ (夫婦のみ、兄弟姉妹のみ)	二世帯世帯 (親子など)	三世帯世帯 (親と子と孫など)	その他	無回答	
合計	2,717(人)	327	814	1339	159	37	41
	100.0(%)	12.0	30.0	49.3	5.9	1.4	1.5

5. 居住年数

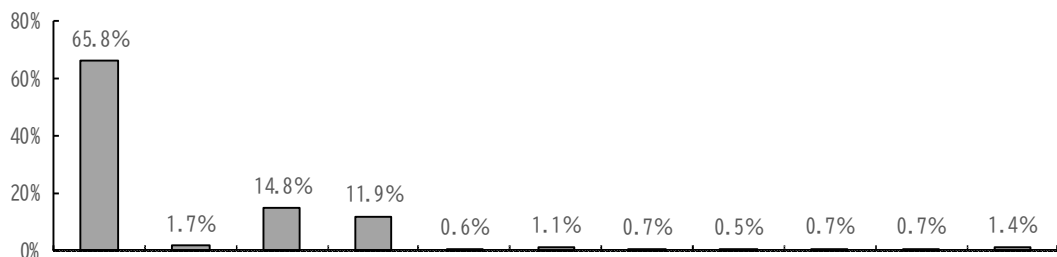
問5. あなたは、越谷市に住んでどれくらいになりますか。(〇は1つ)



	調査数	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20～30年未満	30～40年未満	40年以上	無回答
合計	2,717(人)	44	107	87	191	186	179	509	472	900	42
	100.0(%)	1.6	3.9	3.2	7.0	6.8	6.6	18.7	17.4	33.1	1.5

6. 居住形態

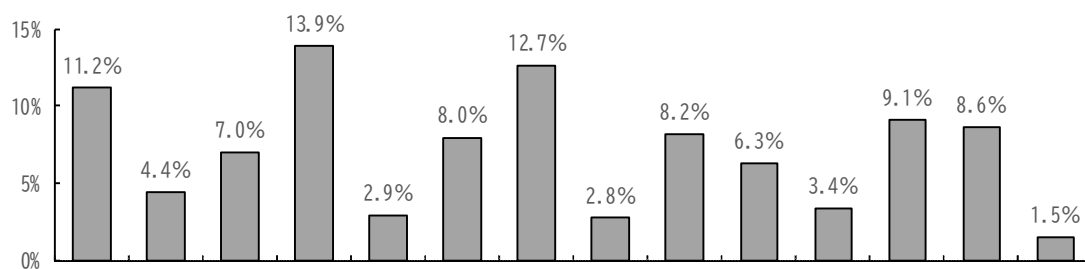
問6. あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。(〇は1つ)



	調査数	持ち家一戸建て	民間借家一戸建て	民間分譲マンション	民間賃貸マンション・アパート	公団・公社等分譲マンション	公団・公社等賃貸マンション	社宅・官舎	寄宿舎	間借り・下宿・寮	店舗・事務所併用住宅	その他	無回答
合計	2,717(人)	1789	47	402	323	17	31	18	13	19	19	19	39
	100.0(%)	65.8	1.7	14.8	11.9	0.6	1.1	0.7	0.5	0.7	0.7	0.7	1.4

7. 居住地区

問7. あなたは、どの地区に住んでいますか。(〇は1つ)



	調査数	桜井地区	新方地区	増林地区	大袋地区	荻島地区	出羽地区	蒲生地区	川柳地区	大相模地区	大沢地区	北越谷地区	越ヶ谷地区	南越谷地区	無回答
合計	2,717(人)	304	120	191	378	79	217	344	75	222	171	92	247	235	42
	100.0(%)	11.2	4.4	7.0	13.9	2.9	8.0	12.7	2.8	8.2	6.3	3.4	9.1	8.6	1.5

第3章 調査結果の概要

1. 暮らし向きや居住意向について

現在の暮らし向きについては、「十分満足している」と「十分とはいえないが、一応満足している」を合わせた『満足』は5割半ばとなっている。

今後の居住意向については、「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた『定住意向』は7割半ば、「どちらかといえば引っ越したい」と「引っ越したい」を合わせた『転居意向』は1割半ばとなっている。

『転居意向』の主な理由は、「付近の生活環境が悪いので」が1割強、「交通の便が悪いので」と「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」が約1割となっている。

2. 越谷市への愛着度と魅力発信について

越谷市への愛着については、「とても愛着がある」「愛着がある」「やや愛着がある」を合わせた『愛着がある』は7割半ばとなっている。

愛着がある理由としては、「交通の利便性がよく、都内等に近い」が約7割で最も多く、「ショッピング施設や商店街が豊富」が約5割で続いている。

越谷市の誇れるものについては、「イオンレイクタウン」が7割弱で最も多く、「南越谷阿波踊り」が約4割で続いている。

3. 広報について

市政情報の入手先は、「広報こしがや」が5割半ばで突出して多くなっている。

市政情報を得るために活用したものについては、「広報こしがや」が7割強で最も多く、「越谷市公式ホームページ」が約4割で続いている。

広報こしがやの感想については、「わかりやすい」と「おおむねわかりやすい」を合わせた『わかりやすい』は7割半ばとなっている。

広報こしがやのわかりにくい点については、「文字が多すぎる、図が少ない」が約3割で最も多く、「記事の配置」と「情報が多すぎる」が3割弱で続いている。

紙媒体の広報の必要性については、「インターネットを利用しているが、紙媒体も必要である」と「インターネット未利用のため、紙媒体が必要である」を合わせた『紙媒体が必要である』は8割弱となっている。

4. 市内の公共交通について

鉄道は「たまに利用している」が3割弱で最も多く、「とても満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足』は7割半ばとなっている。

バスは「全く利用しない」が3割半ばで最も多く、『満足』は4割強となっている。

タクシーは「全く利用しない」が4割強で最も多く、『満足』は4割半ばとなっている。

5. 景観（風景）について

住まいの地区の景観（風景）については、「満足している」と「十分とはいえないが、おおむね満足している」を合わせた『満足』は7割弱となっている。

良い景観（風景）のまちをつくるために行政に望むことは、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」が4割半ばで最も多く、「目標や基本方針を住民に示す」が約4割で続いている。

6. 参加と協働のまちづくりについて

「参加と協働のまちづくり」の認知度については、「よく知っている」と「まあまあ知っている」を合わせた『知っている』が1割半ばで、「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけは「広報こしがや」が8割強で突出して多くなっている。

「参加と協働のまちづくり」への参加意向については、「参加したい」と「どちらかといえば参加したい」を合わせた『参加したい』は3割半ばとなっている。

「越谷市自治基本条例」の認知度は、「よく知っている」と「まあまあ知っている」を合わせた『知っている』は約6%で、「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけは「広報こしがや」が7割半ばで最も多くなっている。

「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法については、「広報こしがやへの情報掲載」が6割強で最も多く、「公共施設等でのポスター掲示」が3割強で続いている。

7. 地場農産物や地産地消について

越谷の農業特産物の認知度については、「いちご」が7割半ばで最も多く、「ねぎ」が約7割で続いている。

購入経験は、「ねぎ」が6割強で最も多く、「いちご」が5割半ばで続いている。

購入した場所は、「太郎兵衛もち」は「市民まつりなどイベント」が、「くわい」、「山東菜」、「いちご」は「農産物直売所」が、「ねぎ」、「小松菜」は「市内スーパーマーケット」が、「チューリップ」は「市民まつりなどイベント」、「農産物直売所」がそれぞれ最も多くなっている。

8. 自殺防止について

これまでに自殺（自死）したいと考えたことがあるかについて、「はい」は1割半ばとなっており、自殺（自死）したいと考えた理由は「家庭問題」が約4割で最も多く、「経済・生活問題」が4割弱で続いている。

自殺（自死）について悩んだ時の相談者について、「配偶者」が約2割で最も多く、「友人」が約1割で続いている。一方、「誰にも相談しないと思う」は約4割となっている。

自殺（自死）に関する相談窓口を知っているかについて、「はい」は約3割となっている。

自殺防止に効果的だと思う対策は「健康や病気に関する相談」が2割半ばで最も多く、「資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談」が2割強で続いている。

9. 地域医療体制について

地域医療体制の認知度については、「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている」を合わせた『知っている』は、「越谷市夜間急患診療所」が8割弱、「休日当番医制度」が7割強、「埼玉県救急電話相談（＃7119）」が5割弱、「埼玉県A1救急相談」が1割半ばとなっている。

医療機関の情報の入手方法については、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」が4割半ばで最も多く、「広報こしがや」が約4割で続いている。

地域医療に関して、特に力を入れる必要がある事業は、「夜間急患診療所」が5割弱で最も多く、「休日当番医制度」が3割半ばで続いている。

10. 人権全般に関する意識について

今の日本社会における基本的人権の意識については、「十分尊重されている」と「やや尊重されている」を合わせた『尊重されている』は6割強となっている。

10年前と比べた人権意識の変化については、「非常に高くなっている」と「やや高くなっている」を合わせた『高くなっている』は5割弱となっている。

関心のある人権問題については、「インターネット上における人権問題」と「女性の人権問題」が約4割となっている。

日常生活の中で、自身や周りの人の人権が侵害されたと感じたことがあるかについては、「ある」が約2割となっており、その内容は「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」が5割半ばで最も多く、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」が5割弱で続いている。

11. 男女共同参画について

男性の育児・介護・看護休暇取得制度活用について、「男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」が6割弱で最も多く、「男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を積極的に取るべきである」が3割半ばで続いており、二つを合わせた『取ること賛成』は9割強だが、一方で6割弱が「現実的には取りづらい」と考えている。

男性が育児・介護のための長期休暇を取得しない理由については、「職場や周囲に休みにくい雰囲気があるから」が約6割で最も多く、「仕事の責任上、周囲の人に迷惑がかかるから」と「男性が取ることについて社会全体の認識が十分でないから」が約4割で続いている。

男女がともに仕事と家庭を両立するための条件については、「育児休業・介護休暇制度を利用できる職場環境を整備すること」が約6割で最も多く、「保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実させること」が3割半ばで続いている。

日常生活での優先度について、優先したいと希望するものは、「仕事」と「家庭生活」の両方と「家庭生活」が3割弱となっている。現実に優先しているものは、「家庭生活」が3割で最も多く、「仕事」が3割弱で続いている。

政治・行政分野で女性の参画が少ない理由については、「男性優位の組織運営」が6割弱で最も多く、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」が4割強で続いている。

12. 成年年齢引下げについて

成年年齢が20歳から18歳に引き下げられたことを知っているかについては、「はい」が9割強となっている。

18歳からできることについては、「親の同意がない契約（ローンを組む、クレジットカードの作成等）」が8割弱で最も多く、「結婚」が7割弱で続いている。20歳にならないとできないことについては、「飲酒」が9割強で最も多く、「喫煙」が9割弱で続いている。

消費者トラブルに関する相談先を知っているかについては、「はい」は約5割となっており、知っている相談先は、「越谷市立消費生活センター」が7割弱で最も多く、「国民生活センター」が約5割で続いている。

13. 防犯カメラについて

防犯カメラのイメージは「犯罪抑止による安心感がある」が約5割で最も多く、「犯罪者の検挙率がアップする（事件、事故等の証拠になる）」が約3割で続いている。

防犯カメラを設置してほしい場所については、「人や車の通りが少ない道路（周りに家などが無い道路など）」が4割半ばで最も多く、「住宅街」が2割半ばで続いている。

防犯カメラの設置数については、「増設してほしい」が8割弱となっている。

14. スポーツ・レクリエーションの実施状況について

この1年間のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況については、「週に3回以上」と「週に1～2回程度」を合わせた『週に1回以上』は4割半ば、『週に1回以上』と「月に1～3回程度」を合わせた『月に1回以上』は5割半ばとなっている。

スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由については、「運動不足解消」が約7割で最も多く、「健康、体力維持・増進」が5割半ばで続いている。

スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由については、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」が4割弱で最も多く、「年をとったから」が2割強で続いている。

今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動は、比較的軽いスポーツでは、「ウォーキング」、野外活動では「ハイキング」「サイクリング」「キャンプ（オートキャンプを含む）」、競技的スポーツでは「バドミントン」「テニス」「卓球」が多くなっている。

15. 芸術文化活動について

日常的に実施している芸術文化活動については、「音楽」が3割弱で最も多く、「美術」が1割強で続いている。

市が主催する芸術文化事業の認知度について、「参加（出演、出展、観覧、応募）したことがある」と「知っているが、参加（出演、出展、観覧、応募）したことがない」を合わせた『知っている』は「越谷市市民文化祭」が約5割、「越谷市美術展覧会（市展）」と「文化総合誌「川のあるまちー越谷文化」」が約3割、「越谷市県展記念作品展」が約2割となっている。

市が主催する芸術文化事業に参加したことがない理由について、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」が2割強で最も多く、「芸術文化に興味がないから」が1割強で続いている。

16. 介護サービスについて

介護サービスの利用時に求める事業の形態については、「地域に密着した事業展開をしている施設（市内在住者のみ利用できる施設）」が約4割、事業所の体制については、「職員のスキル向上や知識の取得に力を入れている」が5割半ば、職員の資質については、「利用者の話をしっかり聞く」が5割強で最も多くなっている。

17. 子育て支援について

子育て支援に関する情報入手先は「広報こしがや」が4割半ば最も多く、「越谷市公式ホームページ」が3割弱で続いている。

越谷市において、子育て支援に関する情報を得ることが難しいと感じたことがあるかについて、「ある」が約2割となっており、その理由は「情報を得る窓口や講座などが少ない」が約5割で最も多く、「ホームページなどのサイトが見にくい」が約3割で続いている。

18. 自治会について

自治会の加入状況は「加入している」が7割弱、「加入していない」が2割半ば、「加入していたが脱会した」が約3%となっている。

自治会に加入した理由については、「加入するのが当然だと思うため」が約6割で最も多く、「地域の人と触れ合えるため」が2割半ばで続いている。

参加している自治会活動については、「町内清掃などの環境美化活動」が約5割で最も多く、「お祭りなどの行事」が3割強で続いている。

自治会に加入して感じている点について、「地域に顔見知りができ安心感がある」が4割半ばで最も多く、「役員就任等への負担感」が約3割で続いている。

自治会に加入しない理由については、「加入しなくても困らないため」が3割半ばで最も多く、「仕事や家事が忙しくて時間がないため」と「住んでいるマンションなどに自治会がないため」が3割弱で続いている。

自治会に加入するために必要だと思うことについては、「仕事や家事にゆとりがあること」が約5割で最も多く、「参加してみたい魅力的な活動」が3割強で続いている。

自治会への加入意思については、「加入したくない」が5割半ば、「条件が合えば加入してもよい」が3割強で、「加入したい」は約4%となっている。

自治会に加入していたが脱会した理由については、「自治会に加入しているメリットが感じられなかった」が約6割で最も多く、「班長や役員などを引き受けたくなかった」が4割強で続いている。

19. 越谷市の施策について

越谷市の施策に対して、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」は、「駅周辺の整備」が3割弱で最も多く、「公園や緑地の整備」「防犯対策」「交通安全対策」が1割強で続いている。

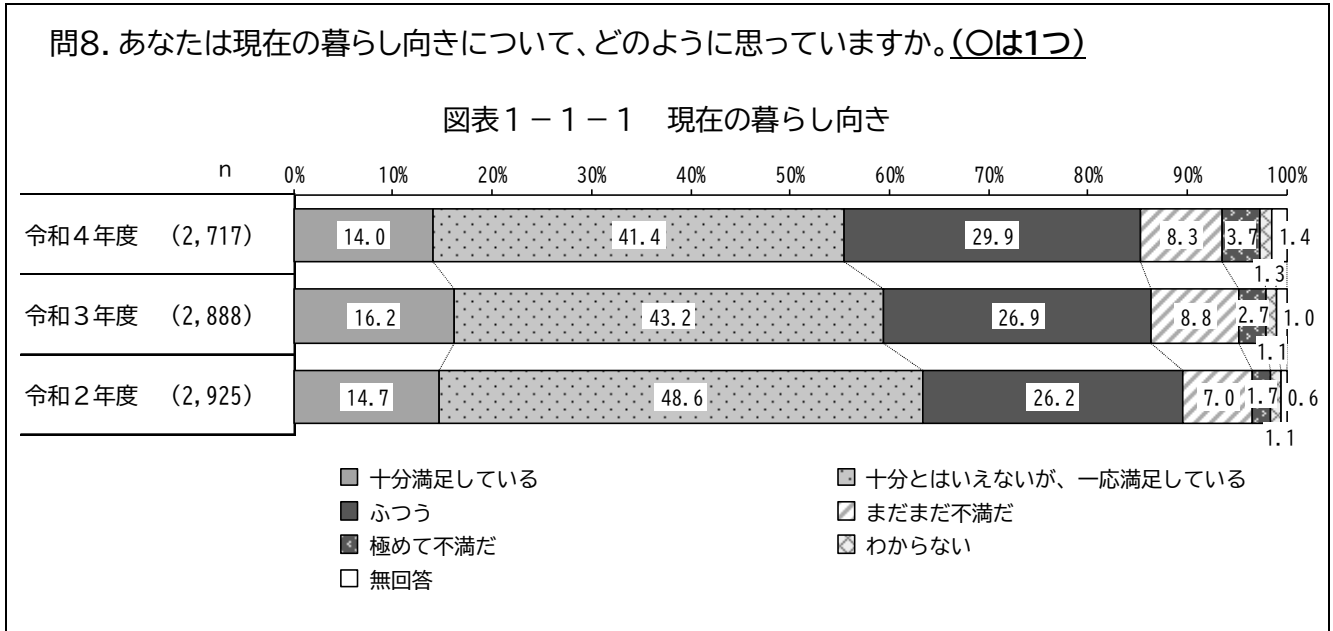
今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」は、「防犯対策」と「水害や地震などの災害対策」が3割弱となっている。

第4章 調査結果の詳細

1. 暮らし向きや居住意向について

(1) 現在の暮らし向き

◇『満足』が5割半ば



現在の暮らし向きについては、「十分とはいえないが、一応満足している」(41.4%)が最も多く、次いで「ふつう」(29.9%)、「十分満足している」(14.0%)、「まだまだ不満だ」(8.3%)、「極めて不満だ」(3.7%)の順となっている。「十分満足している」と「十分とはいえないが、一応満足している」を合わせた『満足』(55.4%)は5割半ば、「まだまだ不満だ」と「極めて不満だ」を合わせた『不満』(12.0%)は1割強となっている。

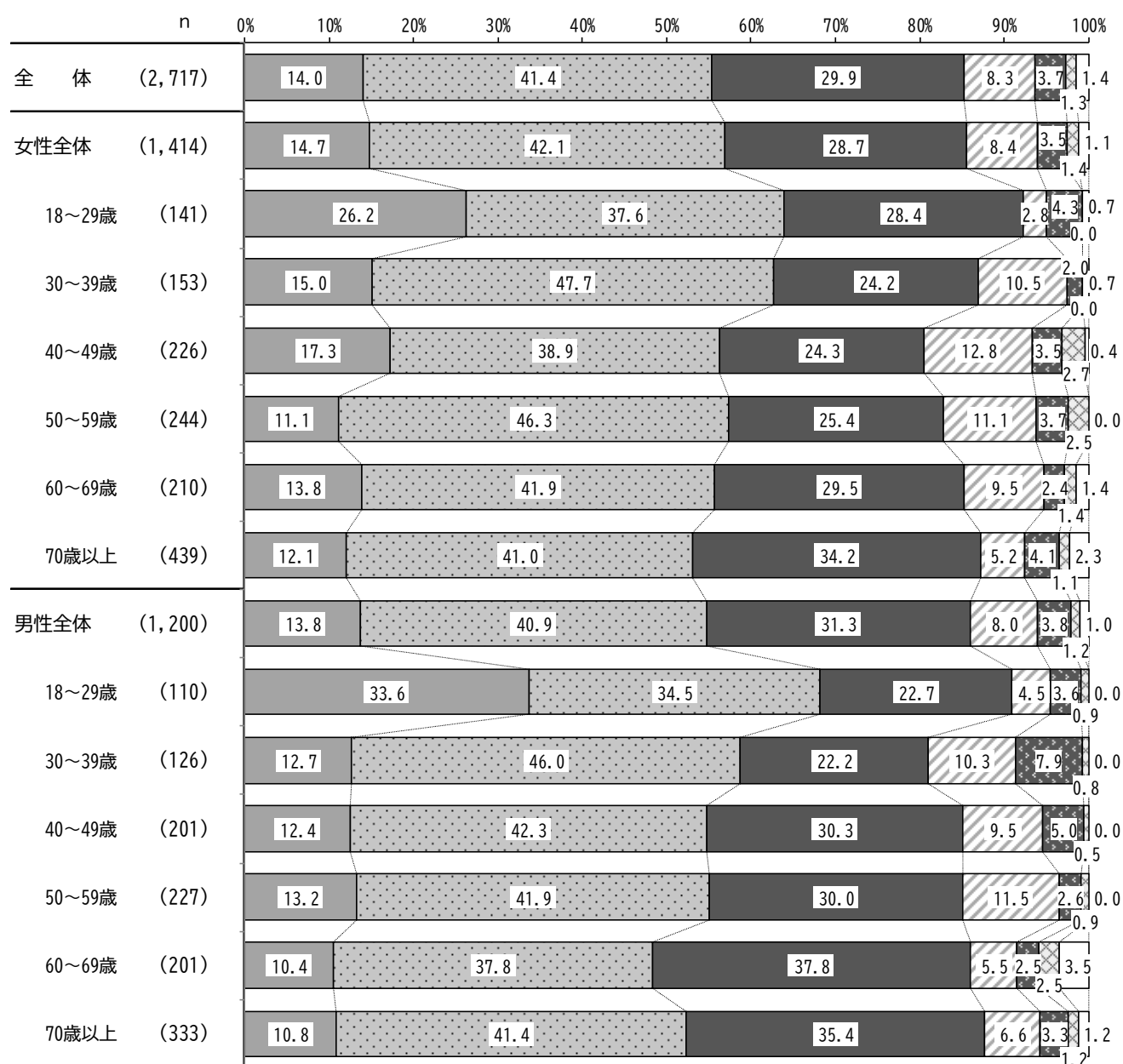
過去2回の調査と比較すると、『満足』は令和3年度(59.4%)から4.0ポイント、令和2年度(63.4%)から7.9ポイント、調査ごとに減少している。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

性別で見ると、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、『満足』は男性18～29歳（68.1%）で7割弱、女性18～29歳（63.8%）と女性30歳代（62.7%）で6割強と若年層で多くなる傾向にある。一方、男性60歳代（48.2%）で5割弱と全体を7.2ポイント下回っている。また、『不満』は男性30歳代（18.2%）が最も多く、全体を6.2ポイント上回っている。

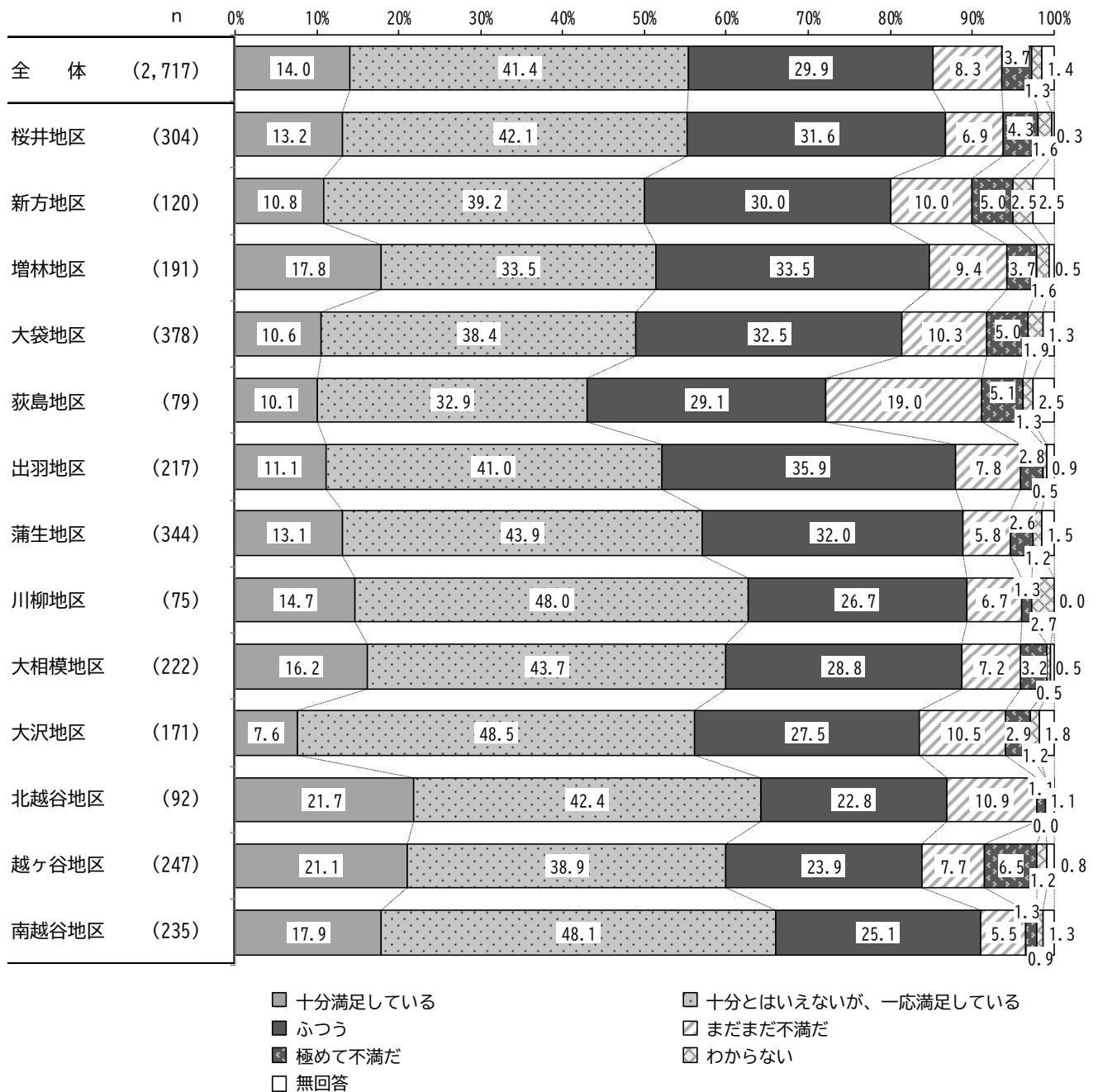
図表1-1-2 性・年齢別 現在の暮らし向き



- 十分満足している
- 十分とはいえないが、一応満足している
- ふつう
- まだまだ不満だ
- 極めて不満だ
- わからない
- 無回答

居住地区別でみると、『満足』は南越谷地区（66.0%）が6割半ばで全体を10.6ポイント上回り最も多く、北越谷地区（64.1%）も6割半ばとなっている。一方、荻島地区（43.0%）は12.4ポイント、大袋地区（49.0%）は6.4ポイント全体を下回っている。また荻島地区は『不満』（24.1%）が全体を12.1ポイント上回っている。

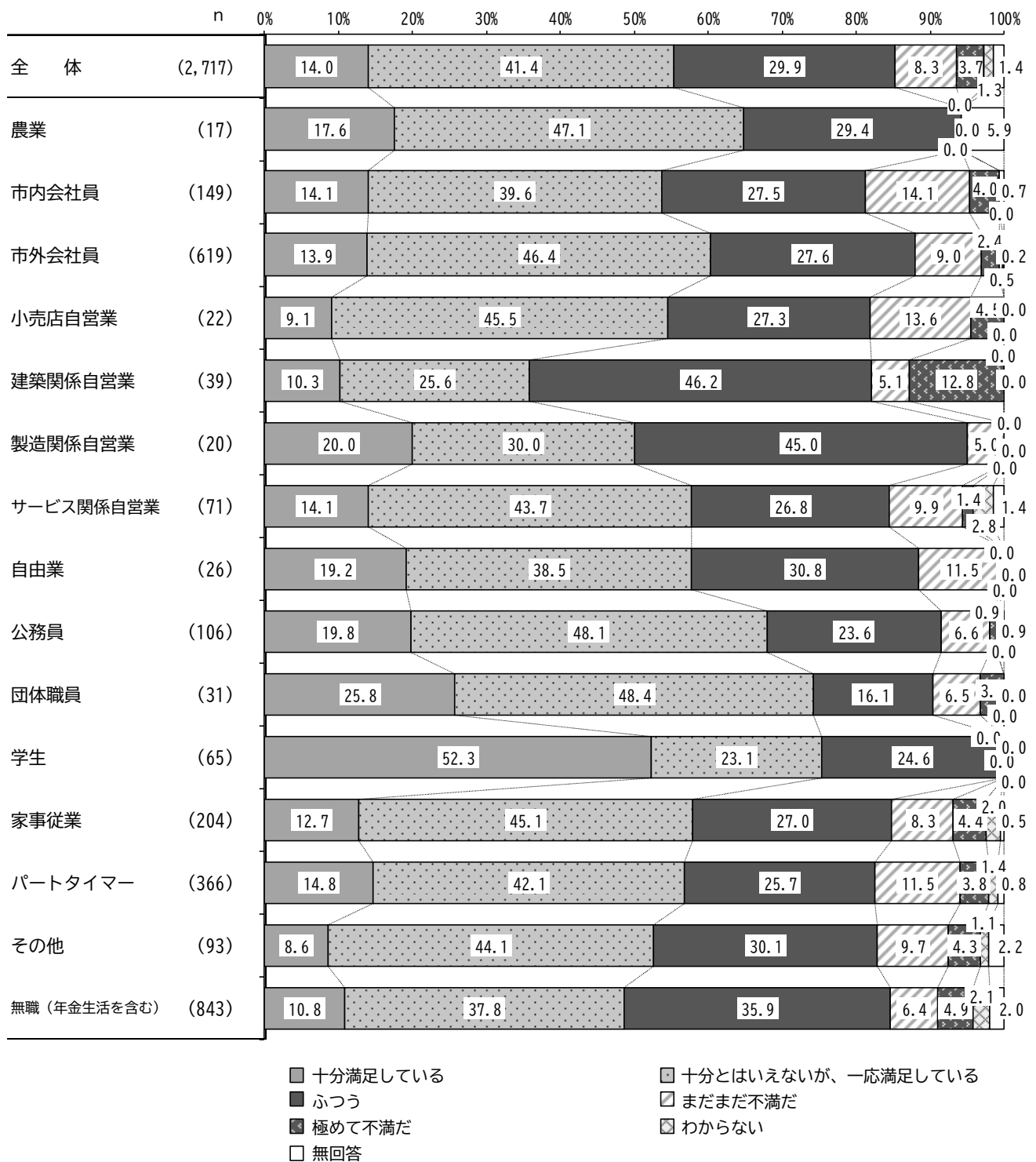
図表1-1-3 居住地区別 現在の暮らし向き



職業別でみると、『満足』は学生（75.4%）が最も多く、団体職員（74.2%）、公務員（67.9%）も全体を10ポイント以上上回っている。一方、建築関係自営業（35.9%）、無職（年金生活を含む）（48.6%）は『満足』が5割未満となっている。

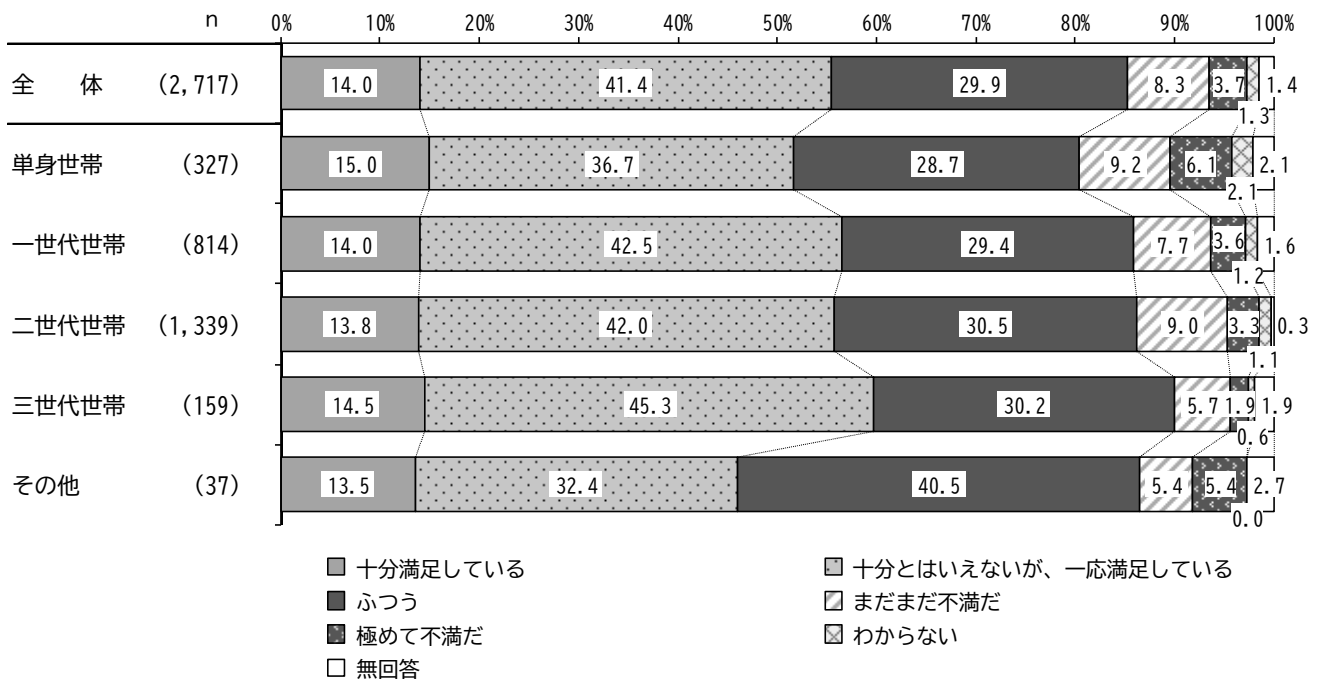
※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-1-4 職業別 現在の暮らし向き



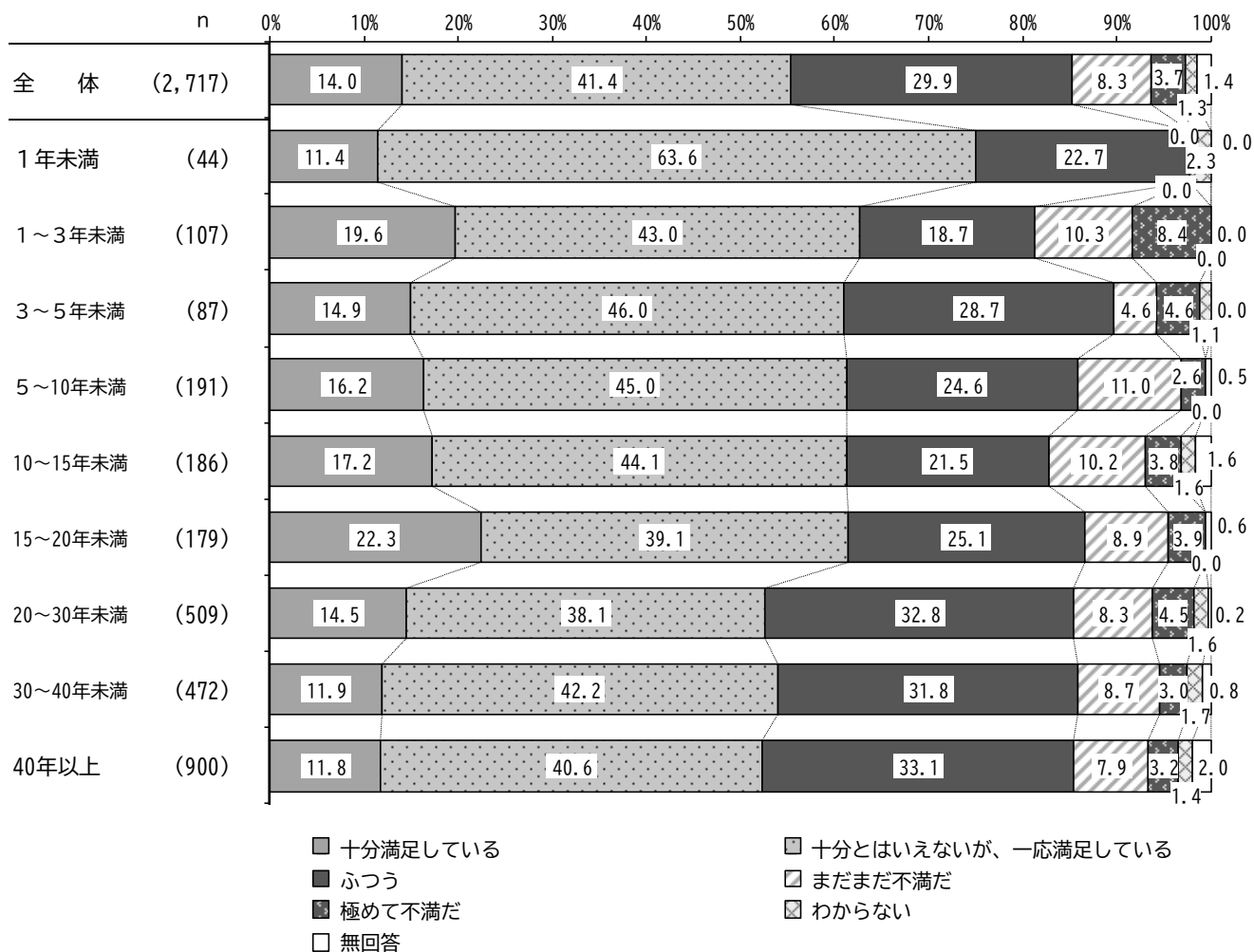
世帯状況別でみると、『満足』は三世代世帯（59.8%）で約6割を占める一方、その他（45.9%）は全体を9.5ポイント下回っている。

図表1-1-5 世帯状況別 現在の暮らし向き



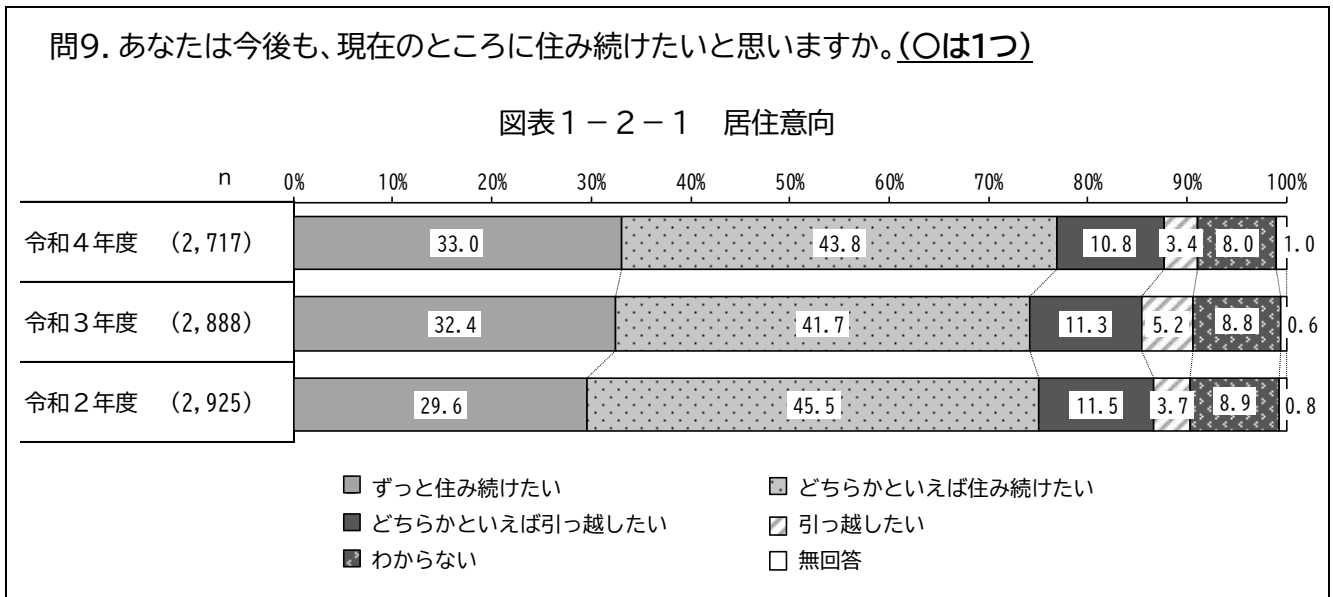
居住年数別でみると、『満足』は1年未満（75.0%）が7割半ばで最も多く、1年未満から20年未満の居住年数はいずれも全体を5ポイント以上上回っている一方、1～3年未満は『不満』（18.7%）が全体を6.7ポイント上回っている。

図表1-1-6 居住年数別 現在の暮らし向き



(2) 居住意向

◇『定住意向』が7割半ば



今後の居住意向については、「どちらかといえば住み続けたい」(43.8%)が最も多く、次いで「ずっと住み続けたい」(33.0%)、「どちらかといえば引っ越したい」(10.8%)、「引っ越したい」(3.4%)の順となっている。「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた『定住意向』(76.8%)は7割半ば、「どちらかといえば引っ越したい」と「引っ越したい」を合わせた『転居意向』(14.2%)は1割半ばとなっている。

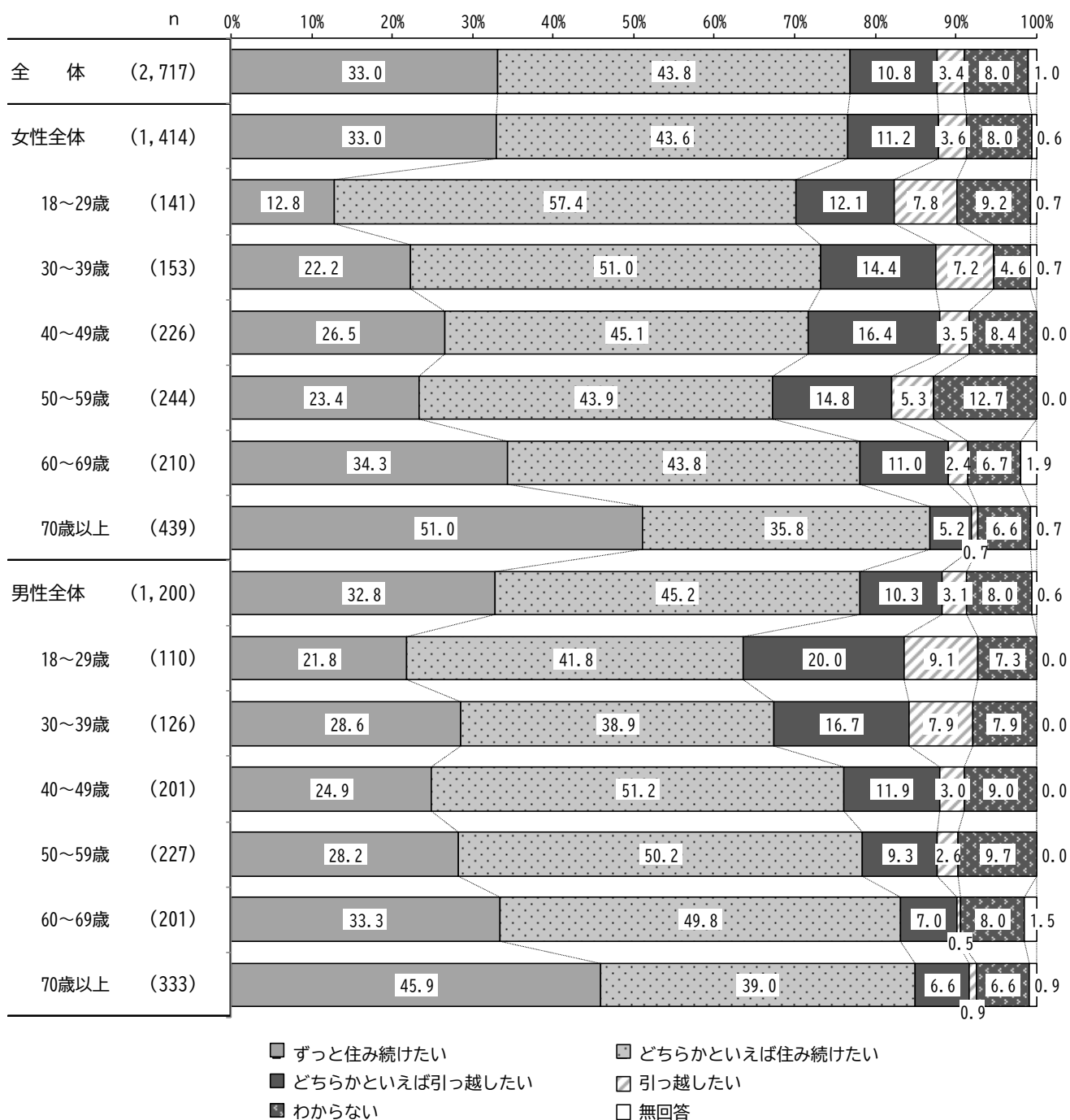
過去2回の調査と比較すると『定住意向』、『転居意向』ともに概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

性別で見ると、大きな差はみられない。

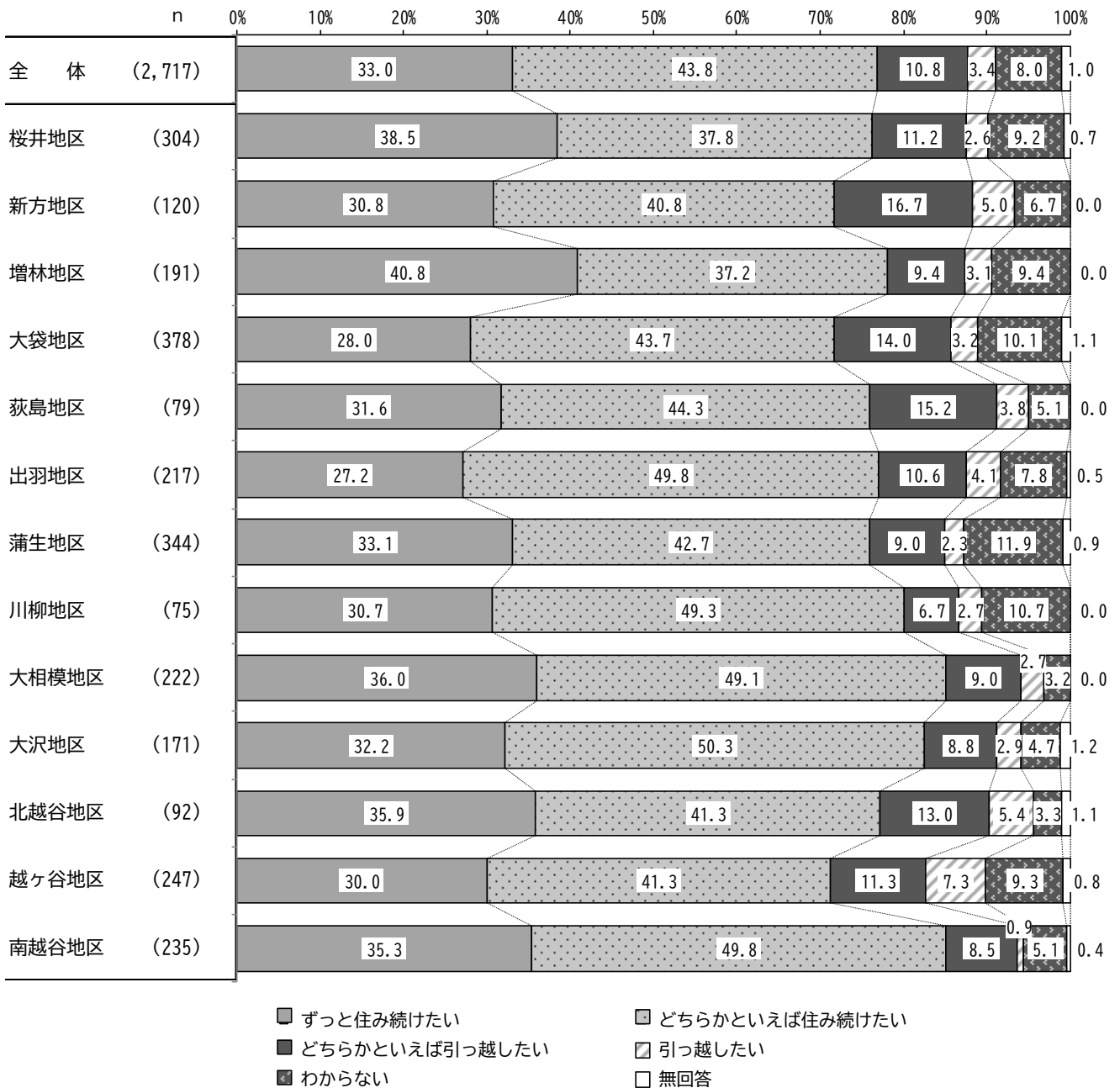
性・年齢別で見ると、『定住意向』は女性（86.8%）、男性（84.9%）とも70歳以上が8割半ばで最も多く、男性60歳代（83.1%）も8割強となっている。一方、女性50歳代（67.3%）、男性18～29歳（63.6%）、男性30歳代（67.5%）は6割台となっている。また、『転居意向』は男性18～29歳（29.1%）で約3割と多くっており、女性30歳代（21.6%）、女性50歳代（20.1%）、男性18～29歳（29.1%）、男性30歳代（24.6%）で2割台と多くとなっている。

図表1-2-2 性・年齢別 居住意向



居住地区別でみると、『定住意向』は大相模地区（85.1%）と南越谷地区（85.1%）が8割半ばで最も多く、川柳地区（80.0%）、大沢地区（82.5%）も8割台と多くなっている。一方、『転居意向』は新方地区（21.7%）が全体を7.5ポイント上回って、最も多くなっている。

図表1-2-3 居住地区別 居住意向

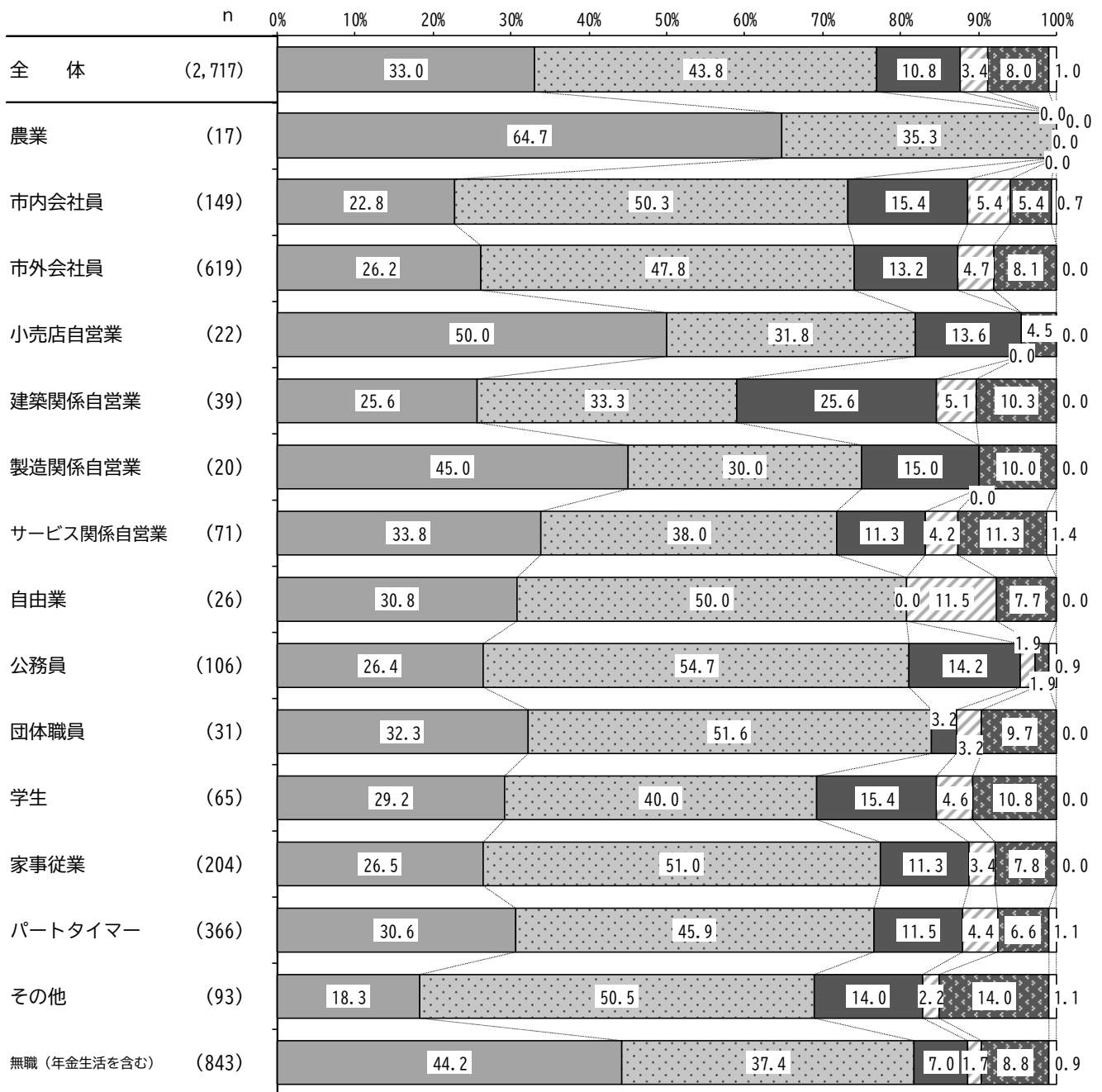


第4章 調査結果の詳細

職業別でみると、『定住意向』は団体職員（83.9%）が8割強で最も多く、無職（81.6%）、公務員（81.1%）も8割台で多くなっている。一方、建築関係自営業（58.9%）が5割台となっている。一方、『転居意向』は建築関係自営業（30.7%）が約3割と最も多く、市内会社員（20.8%）や学生（20.0%）も約2割と全体を5ポイント以上上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

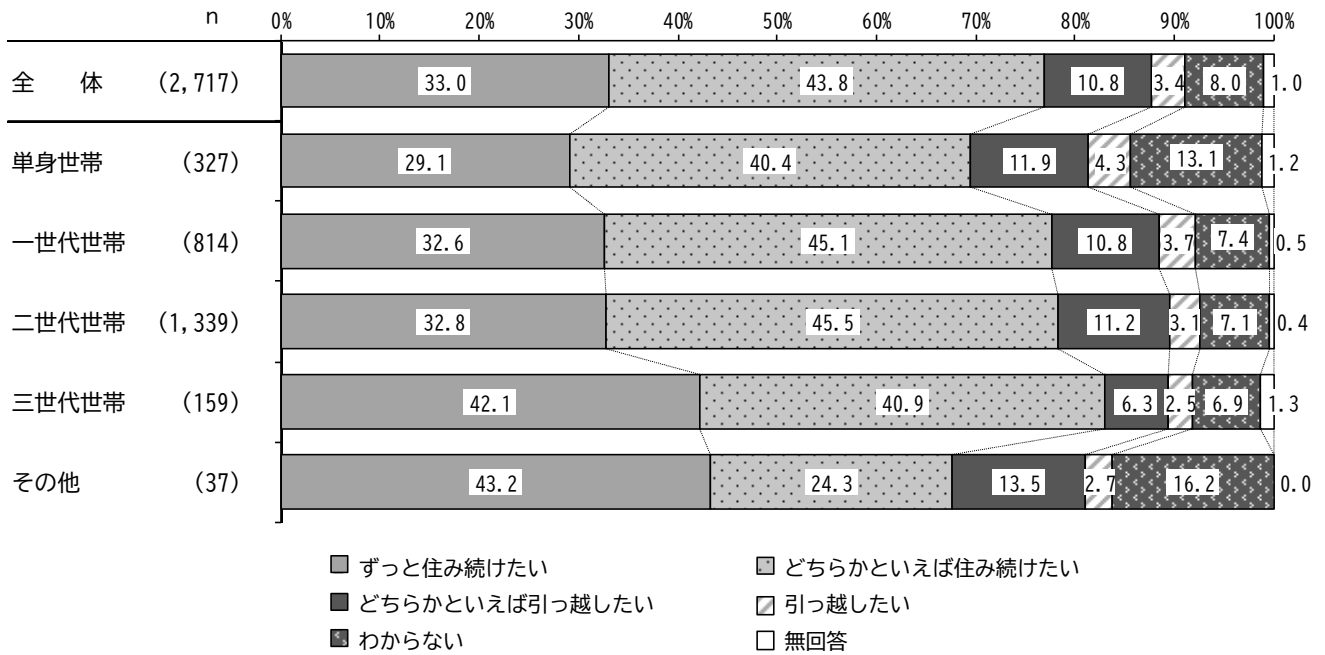
図表1-2-4 職業別 居住意向



ずっと住み続けたい
 どちらかといえば住み続けたい
 どちらかといえば引っ越したい
 引っ越したい
 わからない
 無回答

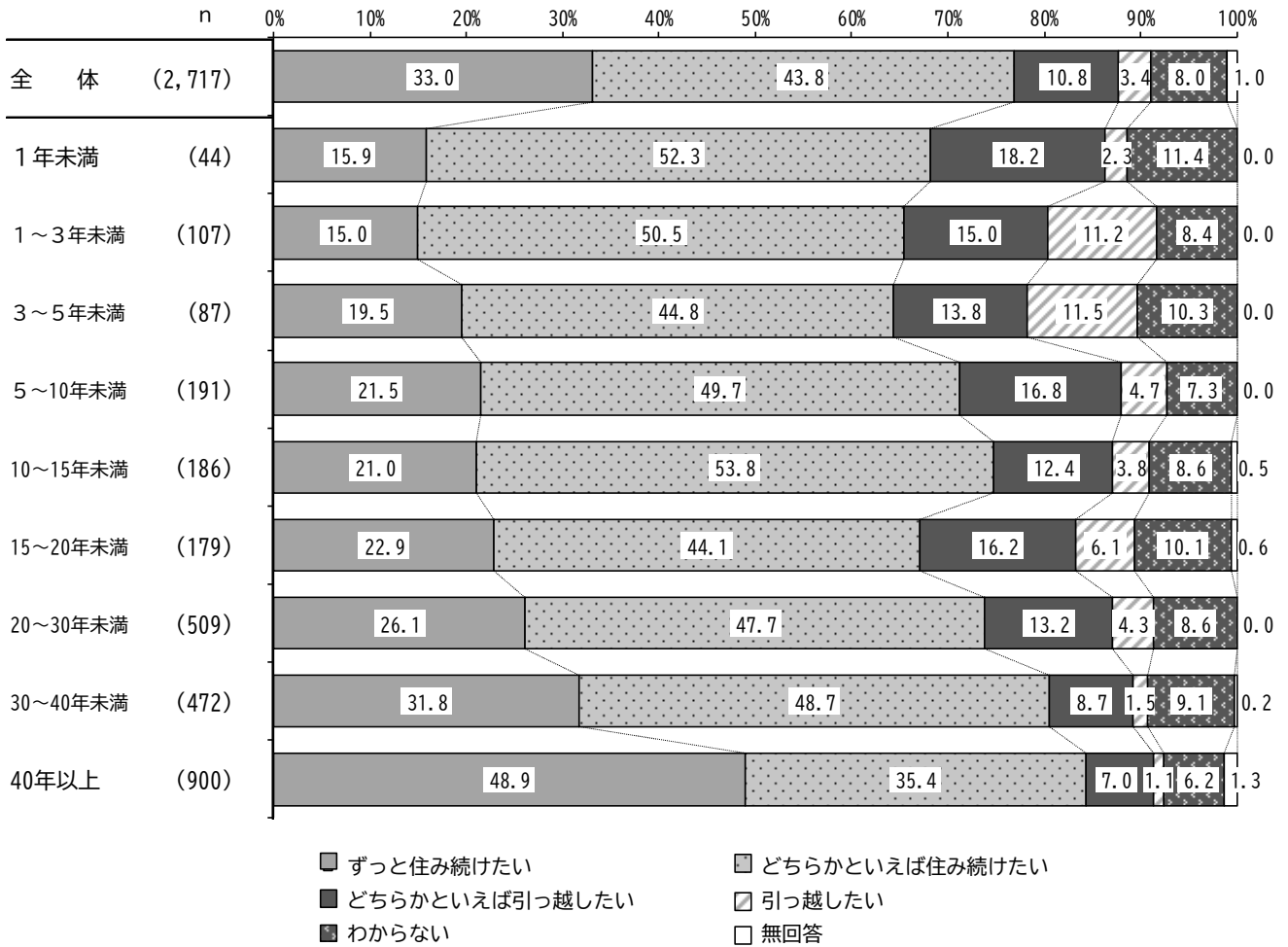
世帯状況別でみると、『定住意向』は三世代世帯（83.0%）が8割強、一世代世帯（77.7%）、二世
 代世帯（78.3%）も8割弱と多い。一方、単身世帯（69.5%）は『定住意向』が全体を7.3ポイント
 下回っている。

図表1-2-5 世帯状況別 居留意向



居住年数別でみると、『定住意向』は40年以上(84.3%)が8割半ばで最も多く、30~40年未満(80.5%)も約8割を占めている。一方、1~3年未満(65.5%)、3~5年未満(64.3%)は『定住意向』が6割半ばで全体より10ポイント以上少なくなっている。また、『転居意向』は1~3年未満(26.2%)と3~5年未満(25.3%)が2割半ばで、全体を10ポイント以上上回っている。

図表1-2-6 居住年数別 居住意向



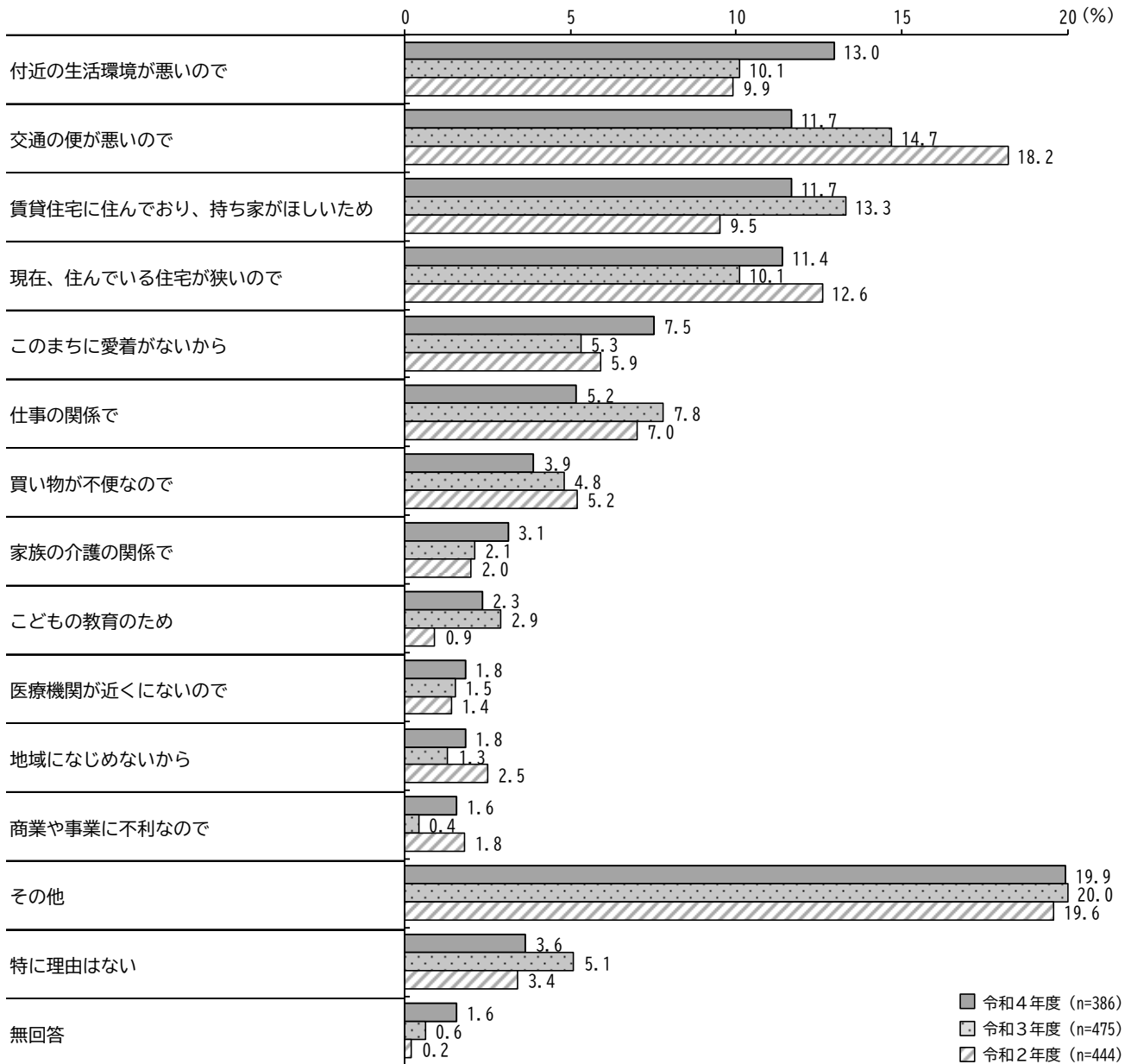
(3) 転居意向の理由

◇「付近の生活環境が悪いので」が1割強で最も多い

問9で「3」または「4」と答えた方(引っ越したいと答えた方)に伺います。

問9-2. 引っ越したいと思われる主な理由は何ですか。(〇は1つ)

図表1-3-1 転居意向の理由



『転居意向』のある386人に人に引っ越したいと思う主な理由を聞いたところ、「付近の生活環境が悪いので」(13.0%)が最も多く、次いで「交通の便が悪いので」と「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」(ともに11.7%)「現在、住んでいる住宅が狭いので」(11.4%)、「このまちに愛着がないから」(7.5%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「交通の便が悪いので」は調査ごとに下がっていく傾向にあるのに対し、「付近の生活環境が悪いので」は調査ごとに上がっていく傾向にある。

第4章 調査結果の詳細

性別で見ると、「交通の便が悪いので」は男性（14.3%）が女性（10.0%）を4.3ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「付近の生活環境が悪いので」は男性40歳代（23.3%）で2割強を占め、全体を10.3ポイント上回っている。また、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は女性30歳代・40歳代（18.2%、17.8%）で2割弱、男性30歳代（19.4%）で約2割、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は女性30歳代・40歳代（18.2%、17.8%）で2割弱、男性30歳代・40歳代（19.4%、20.0%）で約2割と多くなっている。「仕事の関係で」は男性18～29歳（12.5%）、「家族の介護の関係で」は女性50歳代（10.2%）で多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-3-2 性・年齢別 転居意向の理由

	調査数（人）	付近の生活環境が悪いので	交通の便が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	現在、住んでいる住宅が狭いので	このまちに愛着がないから	仕事の関係で	買い物が不便なので	家族の介護の関係で	こどもの教育のため	医療機関が近くにない	地域になじめないから	商業や事業に不利なので	その他	特に理由はない	無回答
全体	386	13.0	11.7	11.7	11.4	7.5	5.2	3.9	3.1	2.3	1.8	1.8	1.6	19.9	3.6	1.6
女性全体	209	12.9	10.0	11.5	11.5	8.6	4.8	4.3	3.8	2.4	2.9	1.4	1.4	20.6	2.4	1.4
18～29歳	28	7.1	14.3	14.3	14.3	3.6	17.9	-	-	3.6	-	-	-	17.9	7.1	-
30～39歳	33	6.1	9.1	18.2	18.2	12.1	6.1	3.0	-	6.1	-	-	-	21.2	-	-
40～49歳	45	15.6	4.4	17.8	17.8	4.4	-	4.4	4.4	4.4	2.2	-	-	22.2	2.2	-
50～59歳	49	16.3	4.1	10.2	8.2	12.2	4.1	2.0	10.2	-	2.0	4.1	4.1	18.4	2.0	2.0
60～69歳	28	10.7	17.9	3.6	7.1	10.7	3.6	-	3.6	-	3.6	3.6	3.6	25.0	-	7.1
70歳以上	26	19.2	19.2	-	-	7.7	-	19.2	-	-	11.5	-	-	19.2	3.8	-
男性全体	161	12.4	14.3	12.4	10.6	6.8	5.6	3.1	2.5	2.5	0.6	2.5	1.2	19.9	3.7	1.9
18～29歳	32	6.3	18.8	12.5	6.3	3.1	12.5	3.1	-	6.3	-	3.1	-	15.6	9.4	3.1
30～39歳	31	9.7	12.9	19.4	19.4	3.2	6.5	3.2	-	-	-	6.5	3.2	16.1	-	-
40～49歳	30	23.3	-	10.0	20.0	10.0	-	-	3.3	6.7	3.3	-	-	20.0	-	3.3
50～59歳	27	11.1	29.6	11.1	-	11.1	7.4	-	3.7	-	-	-	-	22.2	3.7	-
60～69歳	15	20.0	6.7	13.3	13.3	-	6.7	6.7	6.7	-	-	-	6.7	20.0	-	-
70歳以上	25	8.0	16.0	8.0	-	12.0	-	8.0	4.0	-	-	4.0	-	28.0	8.0	4.0

居住地区別でみると、「付近の生活環境が悪いので」は桜井地区（19.0％）で約2割と全体を6ポイント上回っており、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は蒲生地区（23.1％）で2割強と全体を11.4ポイント上回っている。「現在、住んでいる住宅が狭いので」は蒲生地区（17.9％）、越ヶ谷地区（15.2％）で1割半ば以上と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-3-3 居住地区別 転居意向の理由

	調査数（人）	付近の生活環境が悪いので	交通の便が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	現在、住んでいる住宅が狭いので	このまちに愛着がないから	仕事の関係で	買い物が不便なので	家族の介護の関係で	こどもの教育のため	医療機関が近くにない	地域になじめないから	商業や事業に不利なので	その他	特に理由はない	無回答
全 体	386	13.0	11.7	11.7	11.4	7.5	5.2	3.9	3.1	2.3	1.8	1.8	1.6	19.9	3.6	1.6
桜井地区	42	19.0	14.3	9.5	9.5	7.1	2.4	-	4.8	-	4.8	-	2.4	23.8	-	2.4
新方地区	26	19.2	34.6	-	3.8	3.8	3.8	-	-	-	-	7.7	-	19.2	3.8	3.8
増林地区	24	20.8	20.8	-	8.3	4.2	4.2	8.3	8.3	4.2	4.2	-	-	16.7	-	-
大袋地区	65	9.2	7.7	10.8	13.8	10.8	1.5	7.7	-	4.6	4.6	3.1	1.5	16.9	6.2	1.5
荻島地区	15	13.3	13.3	-	6.7	-	6.7	13.3	6.7	-	-	-	-	40.0	-	-
出羽地区	32	9.4	12.5	15.6	12.5	-	9.4	9.4	3.1	-	-	6.3	6.3	15.6	-	-
蒲生地区	39	2.6	7.7	23.1	17.9	12.8	7.7	-	7.7	2.6	-	-	2.6	7.7	7.7	-
川柳地区	7	-	-	-	-	28.6	14.3	14.3	-	-	-	-	-	28.6	-	14.3
大相模地区	26	15.4	7.7	23.1	-	7.7	7.7	7.7	-	3.8	3.8	-	-	23.1	-	-
大沢地区	20	10.0	-	20.0	30.0	15.0	-	-	5.0	5.0	-	-	-	15.0	-	-
北越谷地区	17	11.8	5.9	17.6	5.9	11.8	11.8	-	-	-	-	-	-	23.5	5.9	5.9
越ヶ谷地区	46	13.0	13.0	13.0	15.2	2.2	2.2	-	2.2	2.2	-	2.2	-	23.9	10.9	-
南越谷地区	22	22.7	4.5	-	9.1	9.1	13.6	-	4.5	4.5	-	-	-	31.8	-	-

第4章 調査結果の詳細

職業別でみると、「付近の生活環境が悪いので」は家事従業（23.3%）で2割強と全体を10.3ポイント上回っている。また、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は市外会社員（16.2%）、「パートタイマー」（15.5%）で1割半ばを占め、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は市内会社員（22.6%）で2割強と多く、「このまちに愛着がないから」は市内会社員（12.9%）で全体を5.4ポイント上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-3-4 職業別 転居意向の理由

	調査数（人）	付近の生活環境が悪いので	交通の便が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	現在、住んでいる住宅が狭いので	このまちに愛着がないから	仕事の関係で	買い物が不便なので	家族の介護の関係で	こどもの教育のため	医療機関が近くにない	地域になじめないから	商業や事業に不利なので	その他	特に理由はない	無回答
全 体	386	13.0	11.7	11.7	11.4	7.5	5.2	3.9	3.1	2.3	1.8	1.8	1.6	19.9	3.6	1.6
農業	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
市内会社員	31	16.1	6.5	9.7	22.6	12.9	3.2	-	6.5	3.2	-	-	-	12.9	6.5	-
市外会社員	111	14.4	11.7	16.2	16.2	5.4	7.2	3.6	0.9	2.7	0.9	0.9	2.7	14.4	2.7	-
小売店自営業	3	-	33.3	-	-	-	-	-	-	33.3	-	-	-	33.3	-	-
建築関係自営業	12	8.3	8.3	-	16.7	8.3	16.7	-	16.7	-	-	-	-	16.7	-	8.3
製造関係自営業	3	-	33.3	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サービス関係自営業	11	-	27.3	18.2	-	9.1	9.1	-	-	-	9.1	-	9.1	9.1	9.1	-
自由業	3	33.3	-	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
公務員	17	11.8	5.9	5.9	17.6	-	11.8	-	11.8	5.9	-	5.9	-	23.5	-	-
団体職員	2	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-
学生	13	7.7	23.1	-	-	-	23.1	-	-	-	-	-	-	30.8	7.7	7.7
家事従業	30	23.3	10.0	10.0	3.3	6.7	-	-	-	3.3	10.0	3.3	-	23.3	3.3	3.3
パートタイマー	58	12.1	8.6	15.5	10.3	10.3	1.7	5.2	5.2	1.7	-	1.7	1.7	20.7	1.7	3.4
その他	15	13.3	6.7	13.3	13.3	6.7	6.7	-	-	-	-	-	-	33.3	6.7	-
無職（年金生活を含む）	73	9.6	13.7	5.5	5.5	8.2	1.4	11.0	2.7	1.4	2.7	4.1	-	27.4	5.5	1.4

世帯状況別でみると、「付近の生活環境が悪いので」「仕事の関係で」は単身世帯（17.0%、9.4%）が、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は一世代世帯（16.1%）が全体を4ポイント上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-3-5 世帯状況別 転居意向の理由

	調査数（人）	付近の生活環境が悪いので	交通の便が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	現在、住んでいる住宅が狭いので	このまちに愛着がないから	仕事の関係で	買い物が不便なので	家族の介護の関係で	こどもの教育のため	医療機関が近くにない	地域になじめないから	商業や事業に不利なので	その他	特に理由はない	無回答
全 体	386	13.0	11.7	11.7	11.4	7.5	5.2	3.9	3.1	2.3	1.8	1.8	1.6	19.9	3.6	1.6
単身世帯	53	17.0	13.2	9.4	15.1	3.8	9.4	3.8	1.9	-	-	-	3.8	18.9	3.8	-
一世代世帯	118	13.6	14.4	16.1	8.5	8.5	2.5	3.4	3.4	2.5	2.5	2.5	1.7	15.3	3.4	1.7
二世帯世帯	191	11.5	9.4	9.4	13.1	8.4	5.2	4.7	3.1	2.6	1.0	1.6	0.5	24.1	3.1	2.1
三世帯世帯	14	14.3	14.3	-	7.1	7.1	7.1	-	-	7.1	7.1	7.1	-	14.3	14.3	-
その他	6	-	-	33.3	-	-	16.7	-	16.7	-	16.7	-	-	16.7	-	-

第4章 調査結果の詳細

居住年数別でみると、「付近の生活環境が悪いので」は10～15年未満（20.0%）で2割を占め全体を7ポイント上回っている。また、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」「現在、住んでいる住宅が狭いので」は5～10年未満（19.5%、19.5%）で約2割、「交通の便が悪いので」は30～40年未満（18.8%）で2割弱と全体を7ポイント以上上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-3-6 居住年数別 転居意向の理由

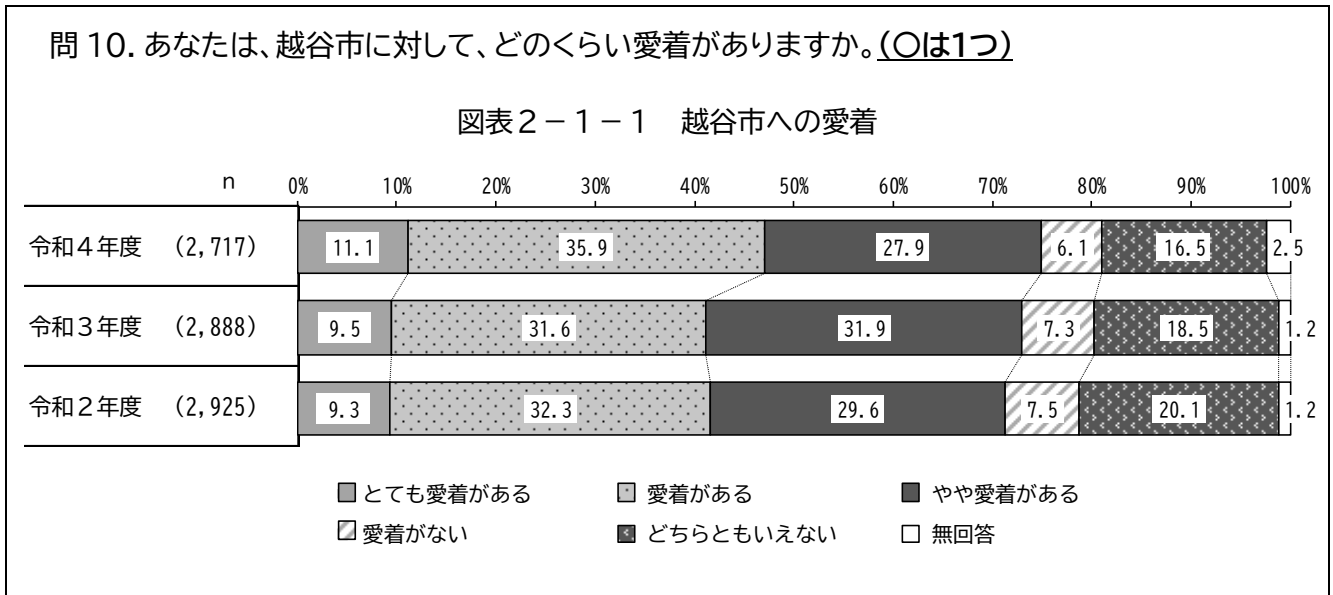
(%)

	調査数（人）	付近の生活環境が悪いので	交通の便が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	現在、住んでいる住宅が狭いので	このまちに愛着がないから	仕事の関係で	買い物が不便なので	家族の介護の関係で	こどもの教育のため	医療機関が近くにない	地域になじめないから	商業や事業に不利なので	その他	特に理由はない	無回答
全体	386	13.0	11.7	11.7	11.4	7.5	5.2	3.9	3.1	2.3	1.8	1.8	1.6	19.9	3.6	1.6
1年未満	9	22.2	-	22.2	-	-	11.1	-	-	-	-	-	11.1	33.3	-	-
1～3年未満	28	10.7	7.1	21.4	17.9	3.6	10.7	-	-	3.6	3.6	-	3.6	17.9	-	-
3～5年未満	22	9.1	4.5	13.6	22.7	9.1	-	4.5	-	4.5	4.5	-	-	27.3	-	-
5～10年未満	41	9.8	7.3	19.5	19.5	7.3	7.3	4.9	-	7.3	2.4	2.4	-	9.8	-	2.4
10～15年未満	30	20.0	16.7	16.7	13.3	6.7	3.3	3.3	3.3	3.3	-	3.3	-	6.7	3.3	-
15～20年未満	40	15.0	12.5	5.0	7.5	7.5	2.5	2.5	5.0	-	-	5.0	-	25.0	7.5	5.0
20～30年未満	89	13.5	11.2	7.9	11.2	11.2	9.0	2.2	1.1	2.2	-	1.1	1.1	18.0	9.0	1.1
30～40年未満	48	14.6	18.8	4.2	8.3	8.3	4.2	4.2	10.4	2.1	-	-	-	22.9	-	2.1
40年以上	73	9.6	12.3	11.0	6.8	4.1	1.4	8.2	4.1	-	5.5	2.7	2.7	27.4	2.7	1.4

2. 越谷市への愛着度と魅力発信について

(1) 越谷市への愛着

◇『愛着がある』が7割半ば



越谷市への愛着については、「愛着がある」(35.9%)が最も多く、次いで「やや愛着がある」(27.9%)、「どちらともいえない」(16.5%)、「とても愛着がある」(11.1%)、「愛着がない」(6.1%)となっている。「とても愛着がある」「愛着がある」「やや愛着がある」を合わせた『愛着がある』(74.9%)は7割半ばとなっている。

過去2回の調査と比較すると、「愛着がある」は令和3年度(31.6%)と比べ4.3ポイント上回っているが、「やや愛着がある」は令和3年度(31.9%)より4ポイント下回っており、『愛着がある』は概ね同様の傾向となっている。

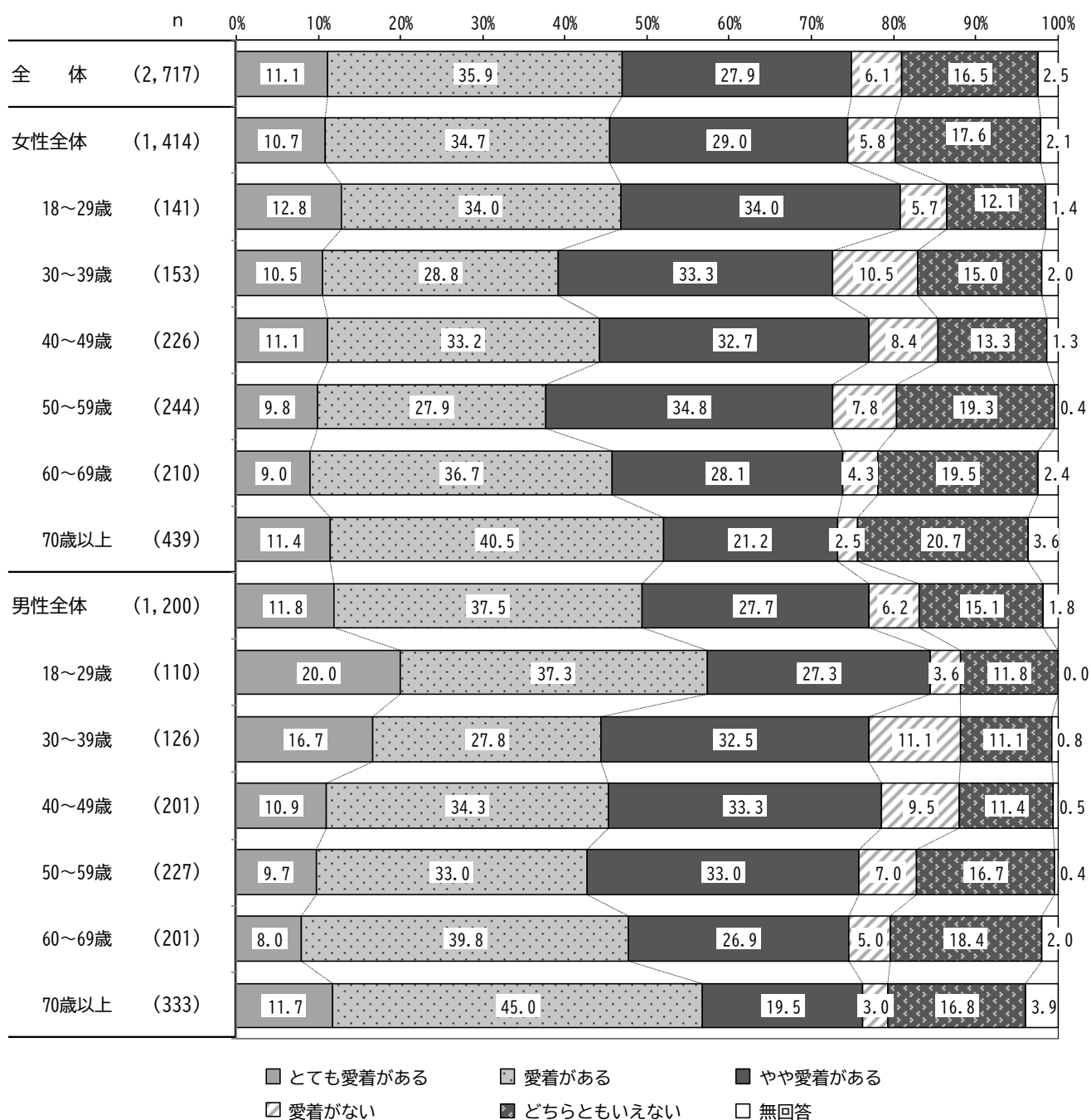
※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

第4章 調査結果の詳細

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『愛着がある』は18～29歳が男性（84.6%）、女性18～29歳（80.8%）で8割を超えている。男女とも18～29歳を除き7割台となっており、女性40歳代（77.0%）、男性30歳代（77.0%）、男性40歳代（78.6%）で8割弱と多くなっている。一方、「愛着がない」は30歳代で女性（10.5%）、男性（11.1%）と1割を超えている。

図表2-1-2 性・年齢別 越谷市への愛着



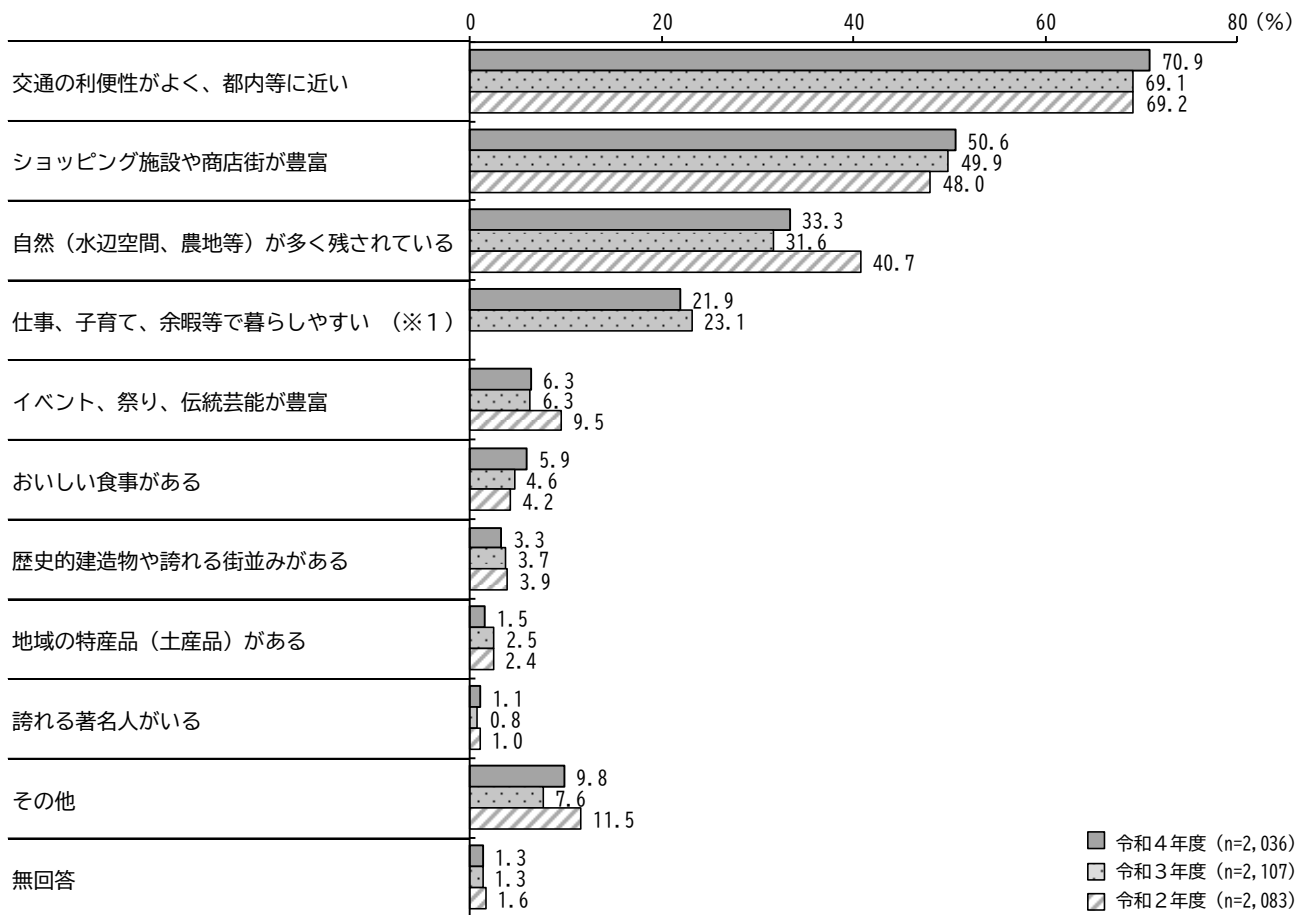
(2) 愛着がある理由

◇「交通の利便性がよく、都内等に近い」が約7割

問10で「1」から「3」(愛着がある)と答えた方に伺います。

問10-2. 愛着がある理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図表2-2-1 愛着がある理由



(※1)「仕事、子育て、余暇等で暮らしやすい」は令和3年度新規項目

越谷市に対して『愛着がある』と回答した2,036人に、愛着がある理由を聞いたところ、「交通の利便性がよく、都内等に近い」(70.9%)が最も多く、次いで「ショッピング施設や商店街が豊富」(50.6%)、「自然(水辺空間、農地等)が多く残されている」(33.3%)、「仕事、子育て、余暇等で暮らしやすい」(21.9%)、「イベント、祭り、伝統芸能が豊富」(6.3%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、いずれの項目も令和2年度と順位が同じになっており、概ね同様の傾向となっている。

第4章 調査結果の詳細

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「交通の利便性がよく、都内等に近い」が最も多く、「ショッピング施設や商店街が豊富」は2位となっている。「ショッピング施設や商店街が豊富」は女性40歳代・60歳代・70歳以上(48.3%、47.7%、46.4%)、男性60歳代・70歳以上(49.3%、48.8%)で5割未満となっている。また、「自然(水辺空間、農地等)が多く残されている」は70歳以上の女性(41.4%)、男性(40.2%)で4割、「仕事、子育て、余暇等で暮らしやすい」は女性30歳代・40歳代(38.7%、35.6%)、男性40歳代(30.4%)で3割、「おいしい食事がある」は18~29歳の女性(11.4%)、男性(15.1%)で1割を超えて多くなっている。

図表2-2-2 性・年齢別 愛着がある理由

	調査数(人)	交通の利便性がよく、都内等に近い	ショッピング施設や商店街が豊富	自然(水辺空間、農地等)が多く残されている	仕事、子育て、余暇等で暮らしやすい	イベント、祭り、伝統芸能が豊富	おいしい食事がある	歴史的建造物や誇れる街並みがある	地域の特産品(土産品)がある	誇れる著名人がいる	その他	無回答
全体	2,036	70.9	50.6	33.3	21.9	6.3	5.9	3.3	1.5	1.1	9.8	1.3
女性全体	1,053	71.0	50.2	33.9	23.5	5.9	6.1	3.9	2.0	1.2	10.6	1.0
18~29歳	114	69.3	56.1	22.8	20.2	7.0	11.4	2.6	0.9	2.6	10.5	0.9
30~39歳	111	64.0	52.3	27.9	38.7	8.1	8.1	2.7	0.9	1.8	9.0	0.9
40~49歳	174	69.5	48.3	27.6	35.6	1.7	5.2	2.3	1.7	0.6	10.3	-
50~59歳	177	71.2	55.9	32.2	23.7	5.6	4.5	3.4	-	-	12.4	1.1
60~69歳	155	70.3	47.7	39.4	18.1	5.8	3.2	6.5	5.2	1.3	17.4	-
70歳以上	321	75.1	46.4	41.4	15.0	6.9	6.2	4.7	2.5	1.6	7.2	2.2
男性全体	924	71.1	51.6	33.0	20.5	6.8	5.6	2.5	0.8	0.9	9.4	1.4
18~29歳	93	75.3	59.1	16.1	18.3	7.5	15.1	1.1	1.1	2.2	8.6	2.2
30~39歳	97	66.0	54.6	36.1	29.9	7.2	6.2	2.1	1.0	-	8.2	1.0
40~49歳	158	66.5	51.9	24.1	30.4	8.2	7.0	4.4	0.6	0.6	10.1	-
50~59歳	172	68.6	51.7	37.8	23.3	6.4	4.1	1.7	0.6	1.2	14.5	1.2
60~69歳	150	74.0	49.3	33.3	13.3	2.0	1.3	-	0.7	0.7	6.7	2.7
70歳以上	254	74.4	48.8	40.2	13.8	8.7	4.7	3.9	0.8	0.8	7.9	1.6

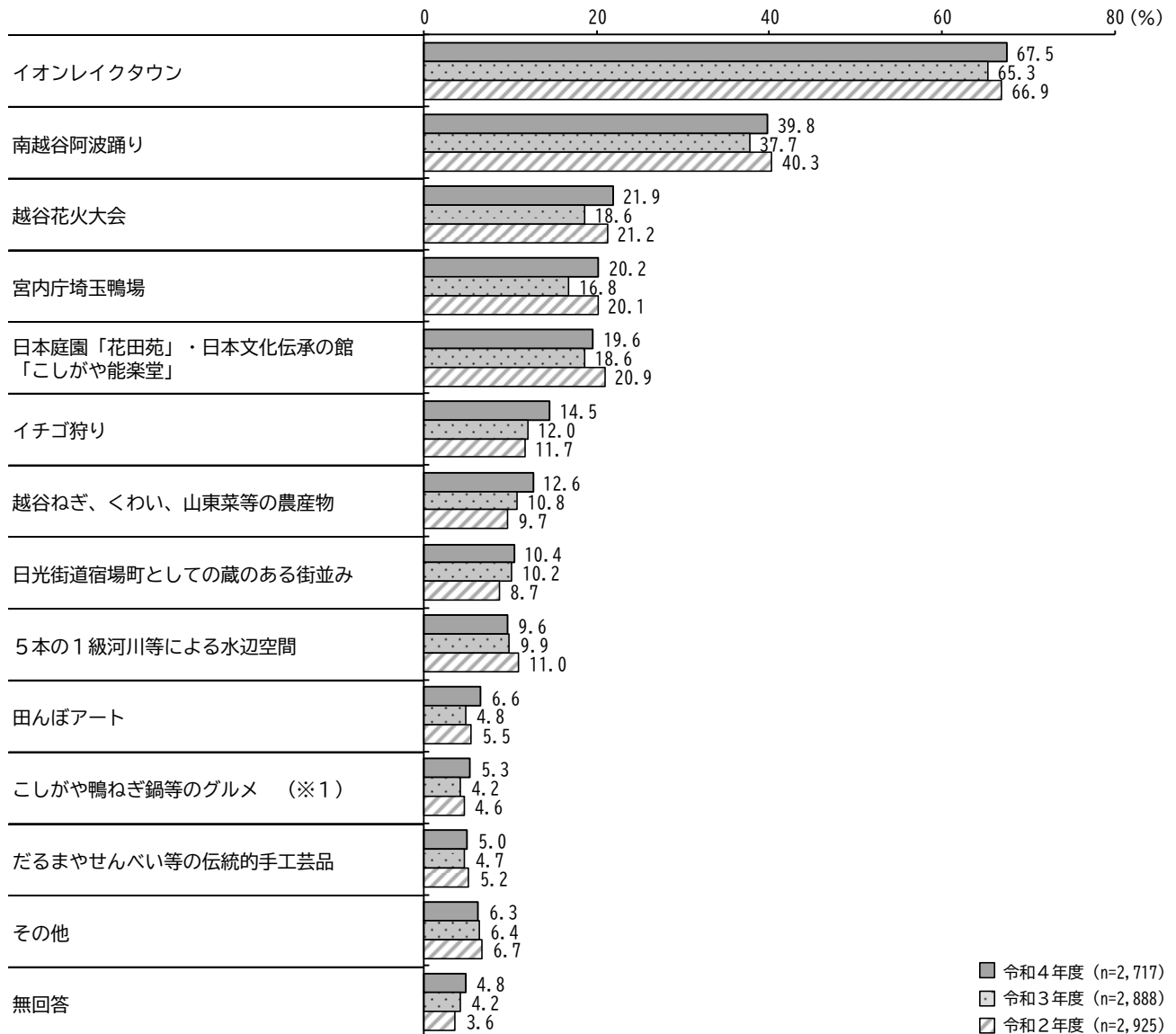
(3) 越谷市の誇れるもの

◇「イオンレイクタウン」が7割弱で最も多い

問 11. 皆さんに伺います。越谷市の誇れるもの、知人に自慢したいものは何ですか。

(○はいくつでも)

図表2-3-1 越谷市の誇れるもの



(※1) 「こしがや鴨ねぎ鍋等のグルメ」は、令和2年度までは「こしがや鴨ねぎ鍋」としていた。

越谷市の誇れるものについては、「イオンレイクタウン」(67.5%)が7割弱で最も多く、次いで「南越谷阿波踊り」(39.8%)、「越谷花火大会」(21.9%)、「宮内庁埼玉鴨場」(20.2%)、「日本庭園『花田苑』・日本文化伝承の館『こしがや能楽堂』」(19.6%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、上位5項目はいずれも令和2年度を上回り、令和元年度とほぼ同様の割合に回復する傾向にある。

第4章 調査結果の詳細

性別で見ると、「日本庭園『花田苑』・日本文化伝承の館『こしがや能楽堂』」は女性（23.8%）が男性（14.7%）を9.1ポイント、「イチゴ狩り」女性（17.3%）が男性（11.8%）を5.5ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、すべての年齢で「イオンレイクタウン」が1位、「南越谷阿波踊り」が2位となっている。前者は女性18～29歳（85.1%）、男性18～29歳・30歳代（90.9%、81.0%）で8割を超えており、すべての年齢で5割以上と多くなっている。後者は女性40歳代・60歳代・70歳以上（43.4%、43.8%、43.3%）、男性40歳代・70歳以上（41.8%、42.6%）で4割台を占める一方、女性18～29歳（28.4%）で3割未満と全体を11.4ポイント下回っている。「越谷花火大会」については女性すべての年齢が2割以上を占めている一方、男性60歳代と70歳以上以外の年齢は2割未満となっている。「宮内庁埼玉鴨場」「日本庭園『花田苑』・日本文化伝承の館『こしがや能楽堂』」については、男女ともに前者が70歳以上、後者が女性60歳代・70歳以上、男性70歳以上で2割半ばを超える一方、18～29歳・30歳代は男女とも1割未満となっている。

図表2-3-2 性・年齢別 越谷市の誇れるもの

	調査数（人）	イオンレイクタウン	南越谷阿波踊り	越谷花火大会	宮内庁埼玉鴨場	日本庭園「花田苑」・日本文化伝承の館「こしがや能楽堂」	イチゴ狩り	越谷ねぎ、くわい、山東菜等の農産物	並み日光街道宿場町としての蔵のある街	5本の1級河川等による水辺空間	田んぼアート	こしがや鴨ねぎ鍋等のグルメ	品だるまやせんべい等の伝統的手工芸	その他	無回答
全体	2,717	67.5	39.8	21.9	20.2	19.6	14.5	12.6	10.4	9.6	6.6	5.3	5.0	6.3	4.8
女性全体	1,414	68.5	40.7	23.3	21.0	23.8	17.3	13.7	10.2	8.7	8.3	4.7	5.4	6.4	3.8
18～29歳	141	85.1	28.4	26.2	2.8	9.9	13.5	8.5	4.3	2.8	5.7	5.0	7.1	2.8	1.4
30～39歳	153	79.7	37.3	24.8	8.5	9.8	25.5	9.2	5.9	5.9	6.5	3.9	3.3	5.9	4.6
40～49歳	226	73.0	43.4	23.5	19.5	15.5	23.5	15.9	11.9	4.9	10.6	7.1	5.8	8.0	1.3
50～59歳	244	71.7	39.8	21.7	22.1	23.8	15.6	8.2	7.0	6.6	4.1	3.3	3.7	7.8	3.3
60～69歳	210	68.6	43.8	24.8	24.8	25.7	16.7	16.7	12.4	10.5	8.1	4.8	5.2	5.7	4.3
70歳以上	439	55.4	43.3	22.1	29.4	36.7	13.9	17.5	13.4	13.7	10.9	4.3	6.6	6.4	5.7
男性全体	1,200	67.5	39.2	19.8	20.0	14.7	11.8	10.7	10.3	10.8	4.5	5.8	4.8	6.6	4.8
18～29歳	110	90.9	33.6	15.5	2.7	6.4	6.4	10.9	6.4	3.6	4.5	5.5	4.5	7.3	0.9
30～39歳	126	81.0	34.1	17.5	13.5	7.9	19.8	6.3	4.8	4.8	3.2	4.8	5.6	5.6	0.8
40～49歳	201	75.6	41.8	16.4	18.9	6.5	11.4	7.5	6.5	4.0	6.5	5.0	4.5	7.5	5.0
50～59歳	227	68.7	39.6	19.8	22.9	12.3	10.6	9.7	10.6	7.9	4.0	4.8	3.1	8.8	4.0
60～69歳	201	62.7	36.3	20.4	16.9	15.9	9.0	14.4	12.4	11.4	5.0	9.0	6.5	6.5	7.0
70歳以上	333	52.0	42.6	23.7	28.8	25.8	13.2	12.6	14.7	21.3	3.9	5.7	5.1	4.8	6.6

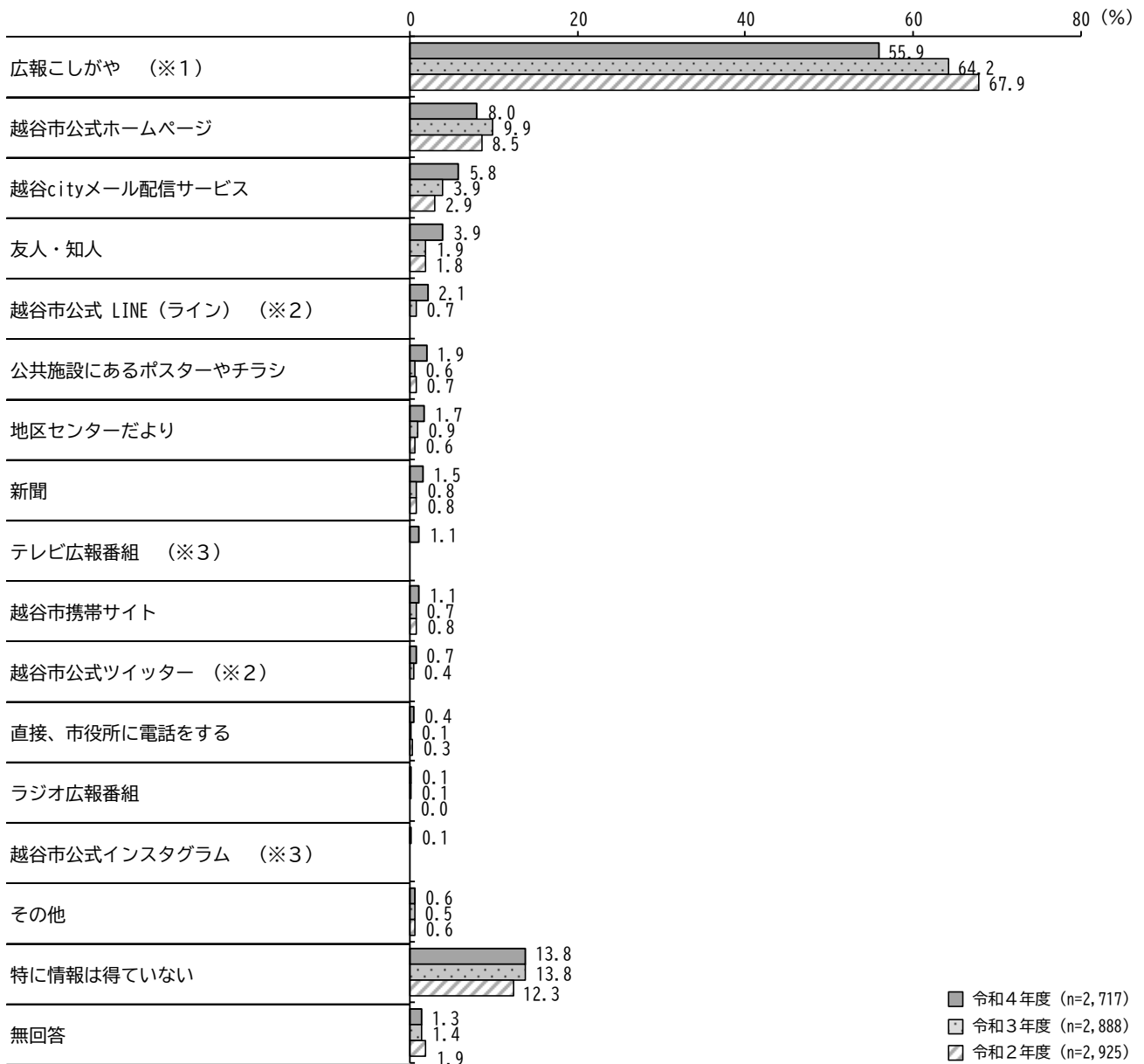
3. 広報について

(1) 市政情報の入手先

◇「広報こしがや」が5割半ばで最も多い

問 12. あなたは、市政情報を主に何から得ていますか。(〇は1つ)

図表3-1-1 市政情報の入手先



(※1) 「広報こしがや」は令和2年度までは「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」
 (※2) 「越谷市公式 LINE (ライン)」「越谷市公式ツイッター」は令和3年度新規項目
 (※3) 「テレビ広報番組」「越谷市公式インスタグラム」は令和4年度新規項目

市政情報の入手先は、「広報こしがや」(55.9%)が最も多く、次いで「越谷市公式ホームページ」(8.0%)、「越谷cityメール配信サービス」(5.8%)、「友人・知人」(3.9%)、「越谷市公式LINE(ライン)」(2.1%)の順となっている。一方、「特に情報は得ていない」(13.8%)は1割強となっている。過去2回の調査と比較すると、「広報こしがや」は令和3年度(64.2%)と比べ8.3ポイント減少しているが、依然5割半ばを占め突出している。

第4章 調査結果の詳細

性別で見ると、「越谷市公式ホームページ」は男性（10.2%）が女性（6.4%）を3.8ポイント、「特に情報は得ていない」は男性（16.1%）が女性（11.7%）を4.4ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、男女ともすべての年齢で「広報こしがや」が最も多くなっており、70歳以上の女性（76.3%）、男性（78.7%）ともに7割半ば以上となっているが、18～29歳では男女とも1割台となっている。「越谷市公式ホームページ」について、女性では30歳（15.0%）以外すべての年齢で1割未満となっている一方、男性では70歳以上（4.2%）以外のすべての年齢で1割台となっている。「越谷 city メール配信サービス」は女性30歳代・40歳代（17.0%、20.4%）、男性40歳代（13.9%）で1割以上となっている。また、「特に情報を得ていない」は18～29歳の女性（48.9%）と男性（43.6%）が4割以上を占めており、30歳代でも女性（20.9%）、男性（23.8%）と2割台が多くなっている。

図表3-1-2 性・年齢別 市政情報の入手先

(%)

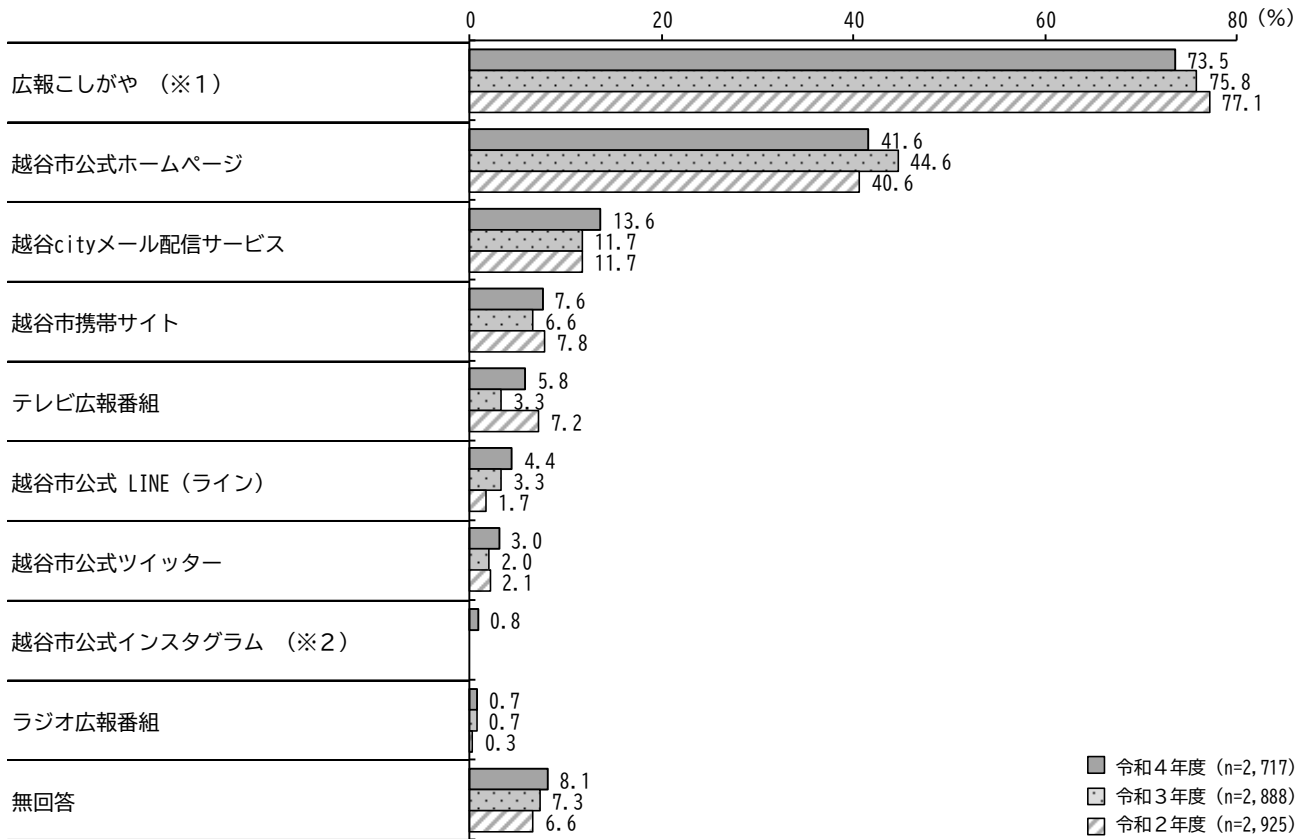
	調査数（人）	広報こしがや	越谷市公式ホームページ	越谷 city メール配信サービス	友人・知人	越谷市公式 LINE（ライン）	公共施設にあるポスターやチラシ	地区センターだより	新聞	テレビ広報番組	越谷市携帯サイト	越谷市公式ツイッター	直接、市役所に電話をする	ラジオ広報番組	越谷市公式インスタグラム	その他	特に情報は得ていない	無回答
全体	2,717	55.9	8.0	5.8	3.9	2.1	1.9	1.7	1.5	1.1	1.1	0.7	0.4	0.1	0.1	0.6	13.8	1.3
女性全体	1,414	57.6	6.4	7.2	5.0	2.1	2.3	2.1	1.0	0.9	0.9	0.6	0.6	0.1	0.1	0.4	11.7	0.9
18～29歳	141	16.3	7.8	2.8	6.4	3.5	5.0	0.7	-	1.4	2.1	0.7	-	-	-	2.1	48.9	2.1
30～39歳	153	30.7	15.0	17.0	7.8	1.3	1.3	2.6	-	-	0.7	1.3	-	-	-	0.7	20.9	0.7
40～49歳	226	47.8	6.6	20.4	4.0	5.8	1.3	0.9	0.4	0.4	1.8	1.3	-	-	0.4	-	8.4	0.4
50～59歳	244	63.1	9.8	7.0	4.9	2.5	2.5	2.0	0.4	0.4	1.2	0.8	-	-	0.4	-	4.9	-
60～69歳	210	69.5	3.8	1.4	3.3	1.9	3.3	3.8	1.0	1.9	1.0	-	0.5	-	-	-	7.1	1.4
70歳以上	439	76.3	2.3	1.4	4.8	-	1.6	2.3	2.3	1.1	-	0.2	1.6	0.2	-	0.5	4.3	1.1
男性全体	1,200	54.8	10.2	4.5	3.0	2.0	1.6	1.1	1.9	1.1	1.3	0.7	0.1	0.1	0.1	0.8	16.1	0.8
18～29歳	110	17.3	12.7	1.8	6.4	2.7	1.8	-	0.9	1.8	2.7	3.6	-	-	0.9	3.6	43.6	-
30～39歳	126	36.5	19.0	4.8	3.2	4.8	2.4	-	-	0.8	3.2	0.8	-	-	-	0.8	23.8	-
40～49歳	201	41.3	12.4	13.9	4.0	3.5	2.0	0.5	1.0	2.5	0.5	1.0	-	-	-	0.5	16.9	-
50～59歳	227	55.1	10.6	3.1	2.2	1.8	1.8	0.9	1.3	1.3	1.8	0.4	-	-	-	0.9	18.5	0.4
60～69歳	201	61.2	10.4	3.5	2.0	2.0	1.0	1.5	2.0	0.5	2.0	-	-	0.5	-	0.5	11.4	1.5
70歳以上	333	78.7	4.2	1.2	2.4	-	1.2	2.1	3.9	0.3	-	-	0.3	-	-	-	4.5	1.2

(2) 市政情報を得るために活用したもの

◇「広報こしがや」が7割強で最も多い

問 13. 市政情報を得るために活用したことがあるものを、次の中から選んでください。
(○はいくつでも)

図表3-2-1 市政情報を得るために活用したもの



(※1) 「広報こしがや」は令和2年度までは「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」
(※2) 「越谷市公式インスタグラム」は令和4年度新規項目

市政情報を得るために活用したものは、「広報こしがや」(73.5%)が最も多く、次いで「越谷市公式ホームページ」(41.6%)、「越谷 city メール配信サービス」(13.6%)、「越谷市携帯サイト」(7.6%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、令和4年度新規項目の「越谷市公式インスタグラム」を除くと、令和3年度と全体の順位も割合も概ね同様の傾向となっている。

第4章 調査結果の詳細

性別で見ると、「越谷 city メール配信サービス」(女性 17.5%、男性 9.9%) は 7.6 ポイント、「広報こしがや」(女性 76.6%、男性 70.8%) は 5.8 ポイント、女性が男性を上回っている一方、「越谷市公式ホームページ」(男性 45.8%、女性 39.7%) は 6.1 ポイント、男性が女性を上回っている。

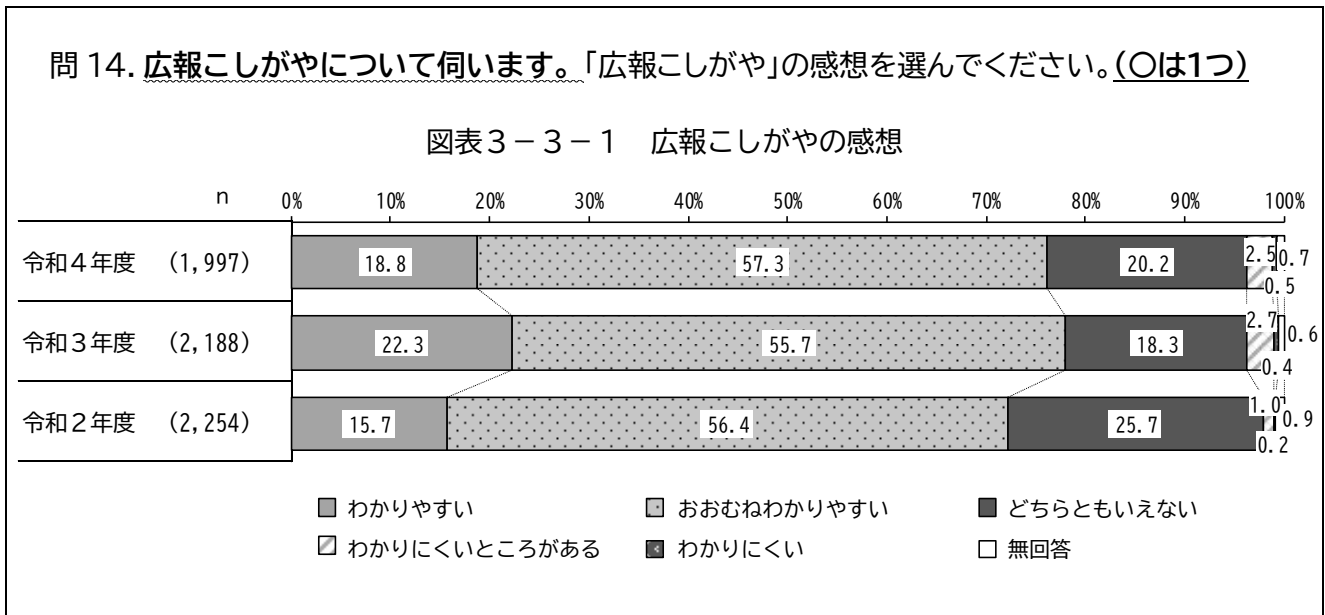
性・年齢別で見ると、「広報こしがや」は年齢が上がるにつれ増加する傾向にあり、女性 50 歳代以上、男性 70 歳以上で 8 割を超え、男女とも 70 歳以上(女性 88.4%、男性 89.8%) で最も多くなっている。「越谷市公式ホームページ」は女性の 30 歳代～50 歳代(54.9%、56.6%、56.6%) と男性 30 歳代～60 歳代(54.0%、52.7%、57.3%、54.2%) で 5 割を超えているが、70 歳以上は男女とも(女性 15.7%、男性 26.4%) とともに低くなっている。また、「越谷 city メール配信サービス」は女性 30 歳代・40 歳代(35.3%、38.5%) が 3 割半ば以上で突出して多くなっている。

図表 3-2-2 市政情報を得るために活用したもの

	調査数(人)	広報こしがや	越谷市公式ホームページ	越谷 city メール配信サービス	越谷市携帯サイト	テレビ広報番組	越谷市公式 LINE(ライン)	越谷市公式ツイッター	越谷市公式インスタグラム	ラジオ広報番組	無回答
全体	2,717	73.5	41.6	13.6	7.6	5.8	4.4	3.0	0.8	0.7	8.1
女性全体	1,414	76.6	39.7	17.5	8.4	5.2	4.6	2.6	0.7	0.5	7.8
18～29歳	141	39.7	45.4	5.7	7.1	4.3	7.1	6.4	2.8	-	21.3
30～39歳	153	53.6	54.9	35.3	11.8	3.3	7.2	4.6	1.3	-	9.8
40～49歳	226	76.5	56.6	38.5	16.4	1.8	8.0	4.4	0.9	0.4	2.2
50～59歳	244	83.6	56.6	22.1	11.1	5.3	4.5	2.9	0.4	0.4	2.5
60～69歳	210	85.2	37.1	11.0	5.2	4.8	5.2	1.0	-	1.0	5.7
70歳以上	439	88.4	15.7	4.8	3.6	8.0	0.9	0.5	0.2	0.7	9.6
男性全体	1,200	70.8	45.8	9.9	7.2	5.9	4.2	3.7	1.0	1.1	7.3
18～29歳	110	39.1	43.6	7.3	4.5	7.3	2.7	11.8	4.5	0.9	19.1
30～39歳	126	54.0	54.0	14.3	10.3	4.0	8.7	7.9	2.4	2.4	8.7
40～49歳	201	65.7	52.7	19.4	11.4	4.5	6.0	6.5	0.5	1.5	6.5
50～59歳	227	65.6	57.3	11.0	7.9	7.5	4.0	2.2	0.4	0.4	7.0
60～69歳	201	78.6	54.2	6.5	10.4	5.0	3.5	0.5	1.0	1.0	4.5
70歳以上	333	89.8	26.4	4.8	1.8	6.6	2.4	0.6	-	0.9	4.8

(3) 広報こしがやの感想

◇『わかりやすい』が7割半ば



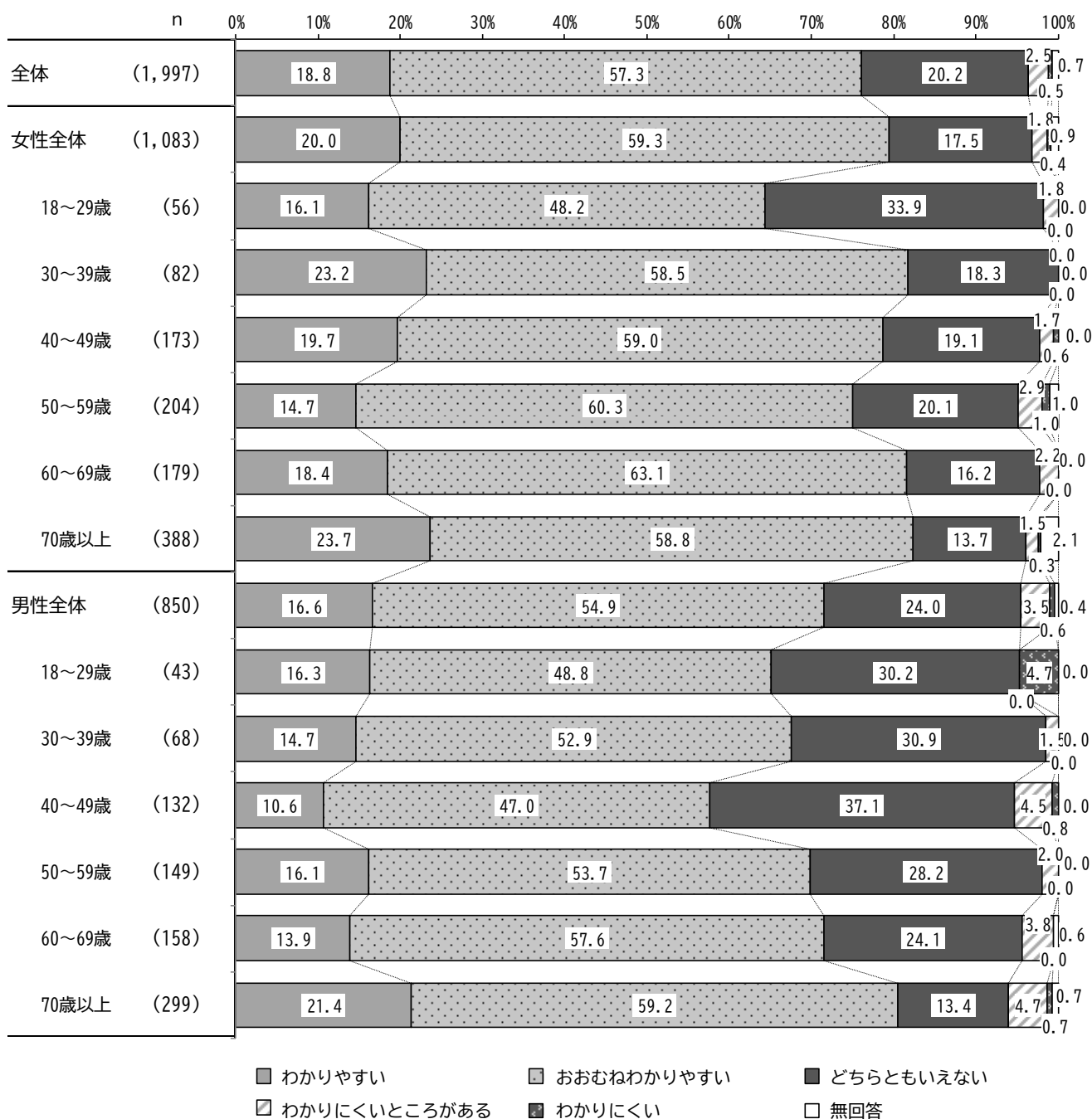
市政情報を得るために「広報こしがや」を活用したことがあると回答した1,997人に、広報こしがやの感想について聞いたところ、「わかりやすい」(18.8%)と「おおむねわかりやすい」(57.3%)を合わせた『わかりやすい』(76.1%)は7割半ばとなっている。一方、「わかりにくいところがある」(2.5%)と「わかりにくい」(0.5%)を合わせた『わかりにくい』(3.0%)は1割未満となっている。過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

性別で見ると、『わかりやすい』は女性（79.3%）が約8割で男性（71.5%）を7.8ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、女性30歳代・60歳代・70歳以上（81.7%、81.5%、82.5%）、男性70歳以上（80.6%）で8割以上と多くなっている。また、『わかりにくい』は男女ともすべての年齢で1割未満となっている。

図表3-3-2 広報こしがやの感想



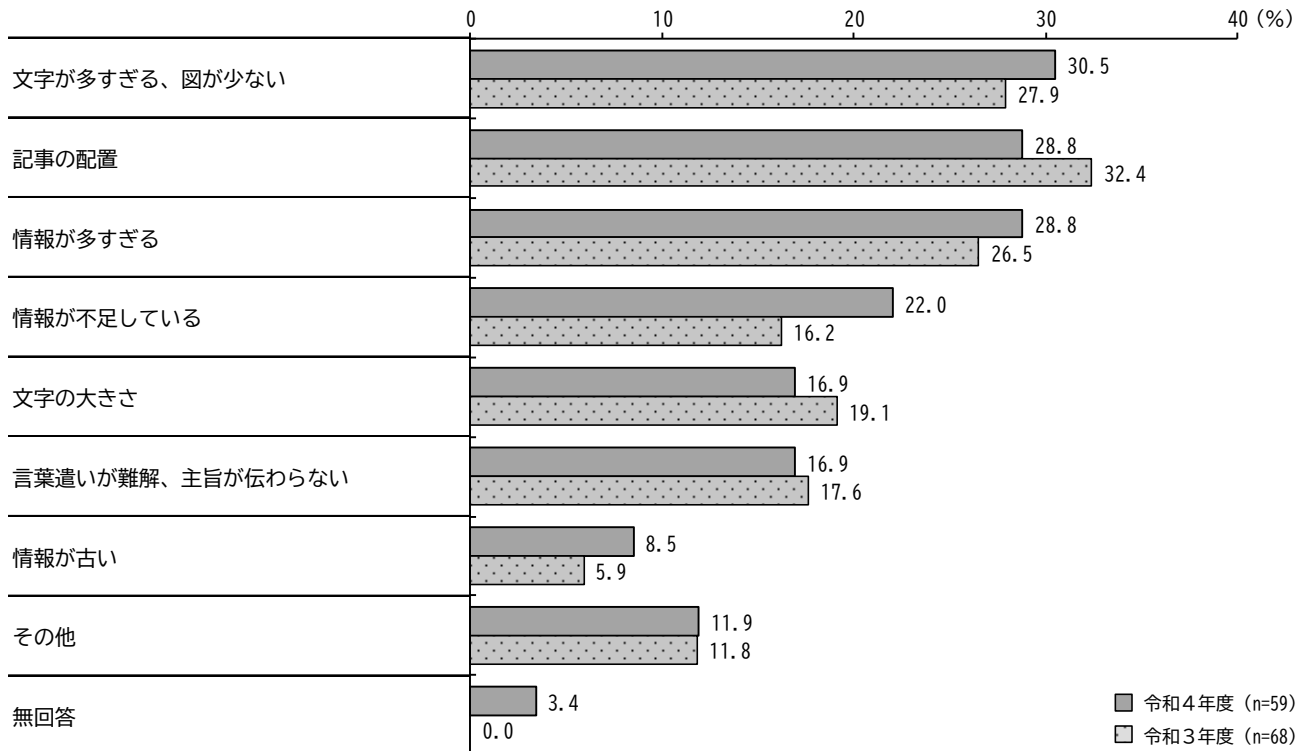
(4) 広報こしがやのわかりにくい点

◇「文字が多すぎる、図が少ない」が約3割で最も多い

問 14-2. 問 14 で「4」または「5」と答えた方に伺います。

どのような点についてそう感じましたか。(〇はいくつでも)

図表 3-4-1 広報こしがやのわかりにくい点



広報こしがやが『わかりにくい』と回答した 59 人に、その理由を尋ねたところ、「文字が多すぎる、図が少ない」(30.5%) が最も多く、次いで「記事の配置」と「情報が多すぎる」(ともに 28.8%)、「情報が不足している」(22.0%)、「文字の大きさ」(16.9%) の順となっている。

過去の調査と比較すると、「情報が不足している」が令和 3 年度 (16.2%) より 5.8 ポイント高くなっている。

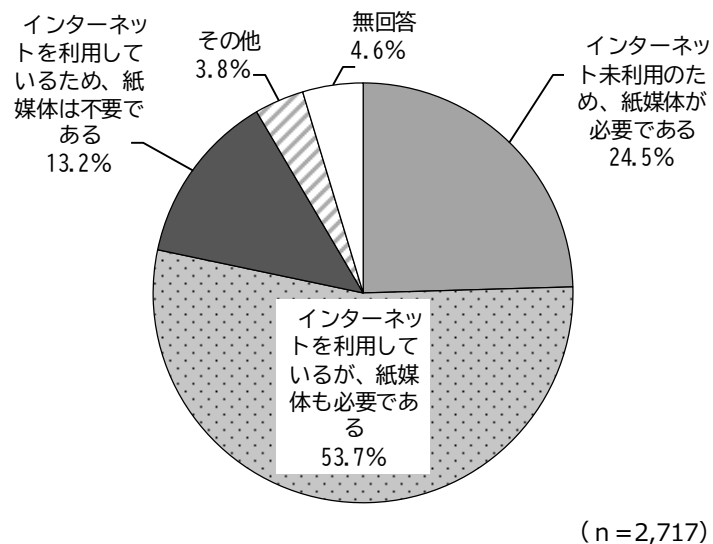
(5) 紙媒体の広報の必要性

◇『紙媒体が必要である』は8割弱

問 15. 皆さんに伺います。

あなたは、「広報こしがや」など紙媒体の広報の必要性をどう考えますか。(○は1つ)

図表3-5-1 紙媒体の広報の必要性

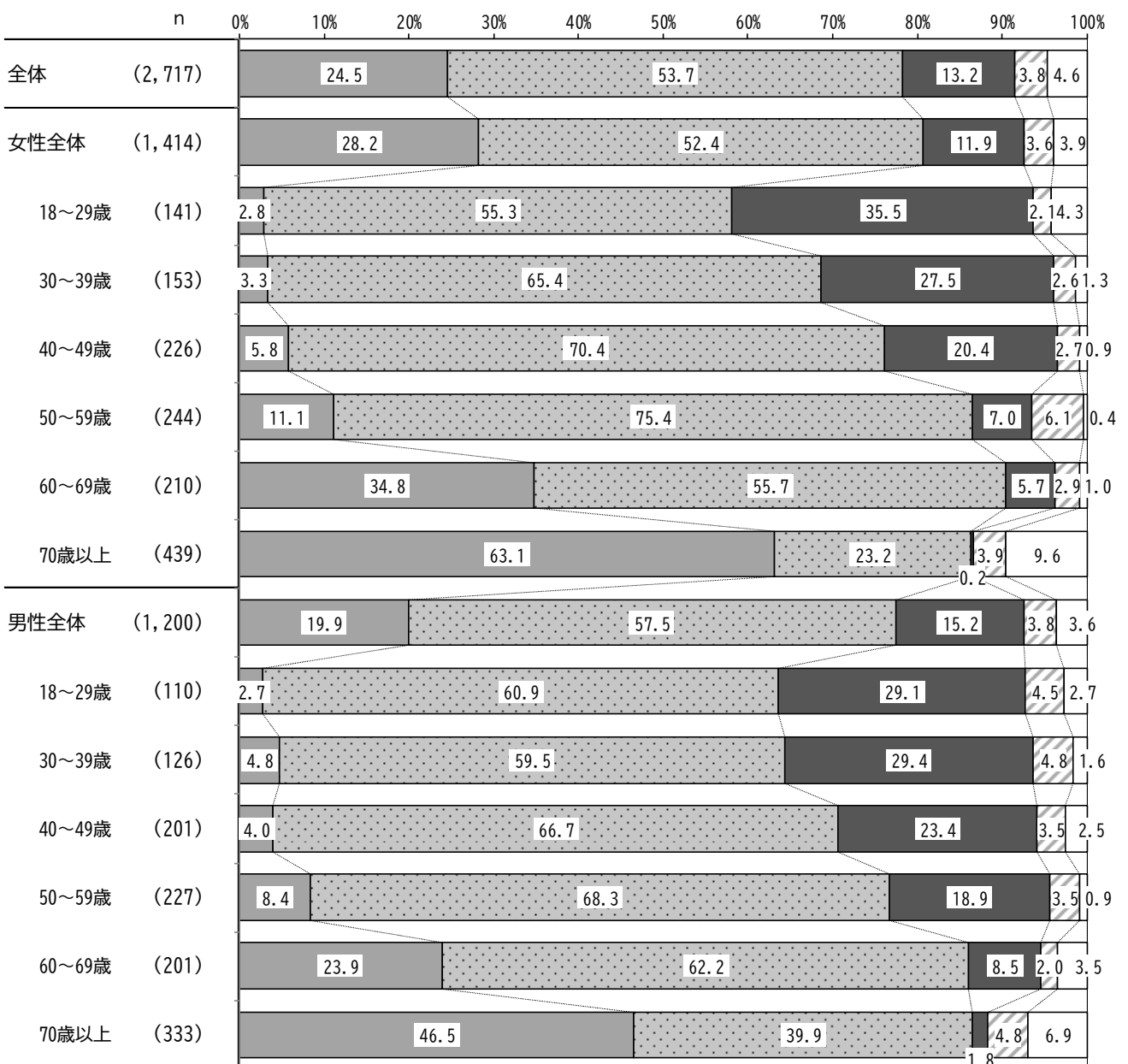


紙媒体の広報の必要性について、「インターネットを利用しているが、紙媒体も必要である」(53.7%)が最も多く、次いで「インターネット未利用のため、紙媒体が必要である」(24.5%)、「インターネットを利用しているため、紙媒体は不要である」(13.2%)の順となっている。「インターネットを利用しているが、紙媒体も必要である」と「インターネット未利用のため、紙媒体が必要である」を合わせた『紙媒体が必要である』(78.2%)は8割弱となっている。

性別でみると、「インターネット未利用のため、紙媒体が必要である」は女性(28.2%)が男性(19.9%)を8.3ポイント上回っている一方、「インターネットを利用しているが、紙媒体も必要である」は男性(57.5%)が女性(52.4%)を5.1ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「インターネット未利用のため、紙媒体が必要である」は男性40歳代を除き、年齢が上がるにつれて多くなる傾向にあり、男女ともに70歳以上(女性63.1%、男性46.5%)で最も多い。一方、「インターネットを利用しているため、紙媒体は不要である」は年齢が下がるにつれて多くなる傾向にあり、女性18~29歳(35.5%)を筆頭に、男女ともに18~29歳・30歳代・40歳代で2割以上となっている。

図表3-5-2 性・年齢別 紙媒体の広報の必要性

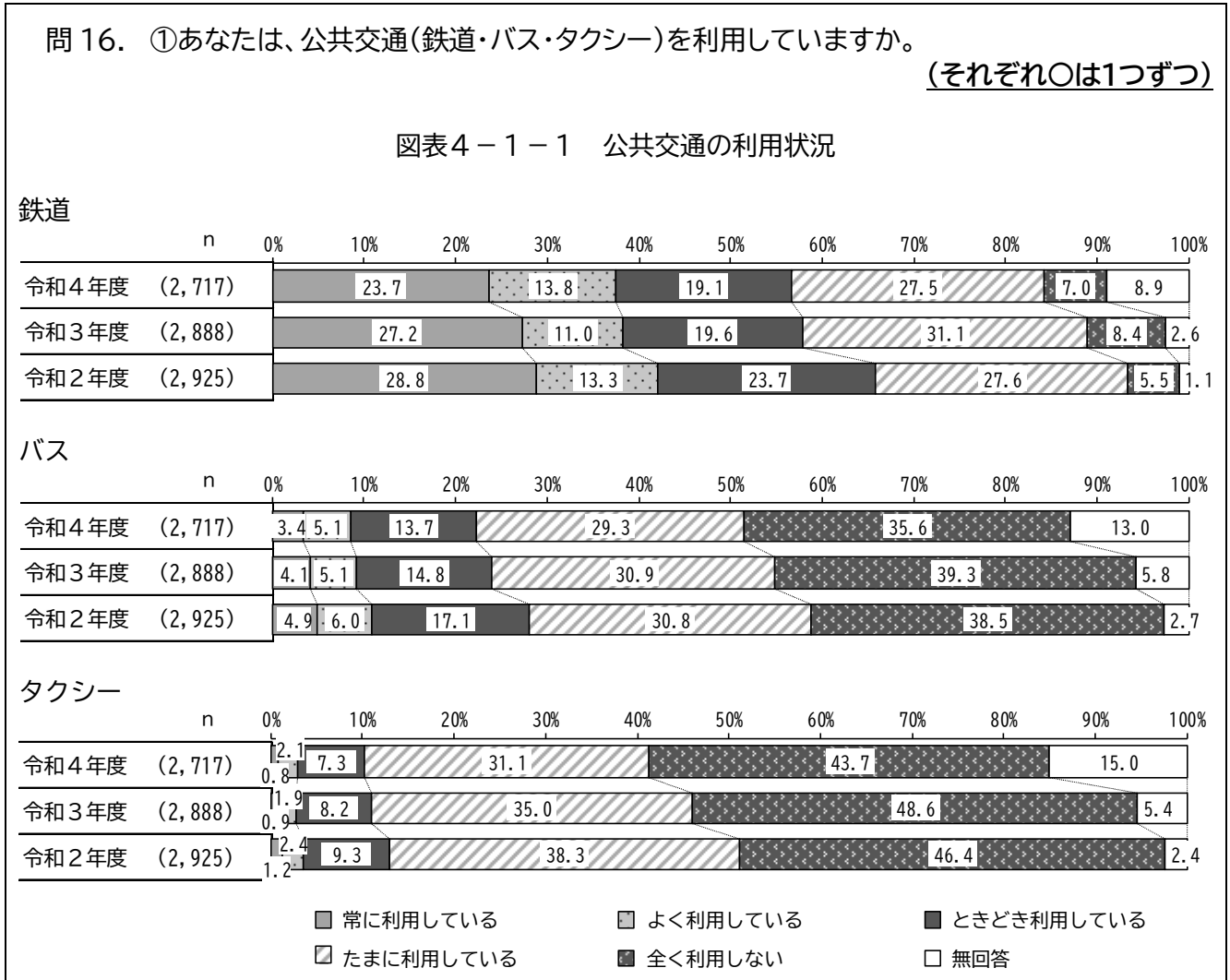


インターネット未利用のため、紙媒体が必要である
 インターネットを利用しているが、紙媒体も必要である
 インターネットを利用しているため、紙媒体は不要である
 その他
 無回答

4. 市内の公共交通について

(1) 公共交通の利用状況

◇鉄道は「たまに利用している」が3割弱、バスは「全く利用しない」が3割半ば、タクシーは「全く利用しない」が4割強



鉄道の利用については、「たまに利用している」(27.5%)が最も多く、次いで「常に利用している」(23.7%)、「ときどき利用している」(19.1%)、「よく利用している」(13.8%)、「全く利用しない」(7.0%)の順となっている。

バスの利用については、「全く利用しない」(35.6%)が最も多く、次いで「たまに利用している」(29.3%)、「ときどき利用している」(13.7%)、「よく利用している」(5.1%)、「常に利用している」(3.4%)の順となっている。

タクシーの利用については、「全く利用しない」(43.7%)が最も多く、次いで「たまに利用している」(31.1%)、「ときどき利用している」(7.3%)、「よく利用している」(2.1%)、「常に利用している」(0.8%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、令和2年度から全体的に利用頻度が減少した令和3年度と、「常に利用している」「よく利用している」「ときどき利用している」は概ね同様の傾向となっている。一方、タクシーは「たまに利用している」「全く利用しない」が令和3年度(35.0%、48.6%)と比べそれぞれ3.9ポイント、4.9ポイント下がっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

鉄道の利用について性別でみると、「常に利用している」は男性（28.8%）が女性（20.1%）を8.7ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「常に利用している」は18～29歳で女性（56.0%）、男性（53.6%）ともに5割台となっている。また、男性30歳代（45.2%）が4割半ば、男性40歳代・50歳代（36.3%、33.5%）が3割台、60歳代（22.4%）が2割強であるのに対し、女性30歳代～50歳代（28.1%、23.5%、20.9%）は2割台、60歳代（12.9%）は1割強と、18～29歳以外のすべての年齢で男性の利用率を下回っている。また、「全く利用しない」は女性70歳以上（10.3%）、男性50歳代（10.1%）以外の年齢で1割未満となっている。

バスの利用について性別でみると、「常に利用している」は女性（3.5%）と男性（3.6%）がほぼ同率となっている。また、「常に利用している」と「よく利用している」を合わせた『よく利用している』についても、女性（8.8%）と男性（8.4%）の間にほぼ差はない。

性・年齢別でみると、『よく利用している』は男性30歳（15.8%）が1割半ばで最も多く、女性18～29歳・70歳以上（14.9%、11.0%）、男性18～29歳（10.0%）も1割台となっている。一方、「全く利用しない」は女性30歳代～50歳代（48.4%、42.5%、40.6%）と男性50歳代以下（45.5%、46.0%、49.3%、41.4%）で4割台となっている。

タクシーの利用について性別でみると、「常に利用している」は女性（1.0%）と男性（0.7%）がほぼ同率となっている。また、『よく利用している』についても、女性（3.1%）と男性（2.6%）の間に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『よく利用している』は70歳以上の女性（6.6%）、男性（3.9%）ともに最も多くなっているが、すべての年齢で1割未満となっている。一方、「全く利用しない」は男性18～29歳（66.4%）で6割半ばを占めており、女性30歳代・40歳代（61.4%、61.5%）も約6割となっている。

図表4-1-2 性・年齢別 公共交通の利用状況

（%）

	調査数（人）	鉄道						バス						タクシー					
		常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答	常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答	常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答
全体	2,717	23.7	13.8	19.1	27.5	7.0	8.9	3.4	5.1	13.7	29.3	35.6	13.0	0.8	2.1	7.3	31.1	43.7	15.0
女性全体	1,414	20.1	14.4	21.4	28.0	7.4	8.6	3.5	5.3	15.2	30.1	34.9	11.1	1.0	2.1	7.5	32.7	43.3	13.4
18～29歳	141	56.0	22.7	9.2	7.8	1.4	2.8	5.7	9.2	18.4	26.2	36.9	3.5	-	1.4	5.7	29.1	59.6	4.3
30～39歳	153	28.1	11.8	17.6	30.7	9.8	2.0	3.9	2.0	15.7	25.5	48.4	4.6	1.3	-	7.2	24.8	61.4	5.2
40～49歳	226	23.5	13.7	25.7	30.5	6.6	-	3.1	3.1	13.7	35.4	42.5	2.2	0.4	0.9	3.1	31.0	61.5	3.1
50～59歳	244	20.9	14.3	24.6	32.4	5.7	2.0	2.0	4.5	14.3	34.8	40.6	3.7	0.4	1.2	6.1	36.5	49.6	6.1
60～69歳	210	12.9	11.0	27.1	31.9	6.7	10.5	4.8	2.9	15.2	30.0	29.0	18.1	1.0	1.0	6.7	36.7	32.4	22.4
70歳以上	439	6.8	14.8	20.0	28.0	10.3	20.0	3.0	8.0	15.3	27.3	25.3	21.2	1.8	4.8	11.6	33.7	23.9	24.1
男性全体	1,200	28.8	13.9	16.7	27.3	6.5	6.8	3.6	4.8	11.9	29.1	37.9	12.8	0.7	1.9	6.6	29.8	46.2	14.8
18～29歳	110	53.6	16.4	17.3	8.2	1.8	2.7	4.5	5.5	6.4	30.9	45.5	7.3	0.9	-	3.6	20.9	66.4	8.2
30～39歳	126	45.2	18.3	11.9	17.5	4.8	2.4	8.7	7.1	15.1	19.8	46.0	3.2	-	1.6	7.9	28.6	58.7	3.2
40～49歳	201	36.3	11.9	17.9	24.4	7.5	2.0	2.5	3.0	9.5	25.4	49.3	10.4	-	3.0	7.5	28.4	50.2	10.9
50～59歳	227	33.5	10.6	13.2	30.8	10.1	1.8	1.8	3.5	11.5	35.7	41.4	6.2	-	2.2	6.2	32.2	52.4	7.0
60～69歳	201	22.4	17.9	12.9	34.3	7.5	5.0	2.0	5.0	11.9	29.9	39.8	11.4	-	2.0	3.5	31.3	47.8	15.4
70歳以上	333	10.5	12.6	22.2	32.4	5.1	17.1	4.2	5.4	14.1	29.4	22.2	24.6	2.1	1.8	8.7	31.8	27.0	28.5

(2) 公共交通の満足度

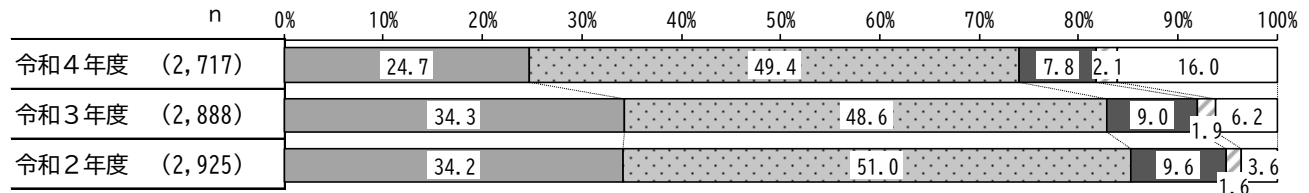
◇『満足』は鉄道が7割半ば、バスが4割強、タクシーが4割半ば

問 16. ①あなたは、公共交通(鉄道・バス・タクシー)を利用していますか。

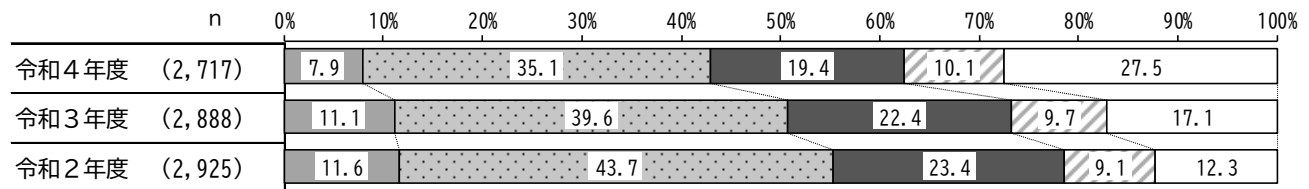
(それぞれ〇は1つずつ)

図表4-2-1 公共交通の満足度

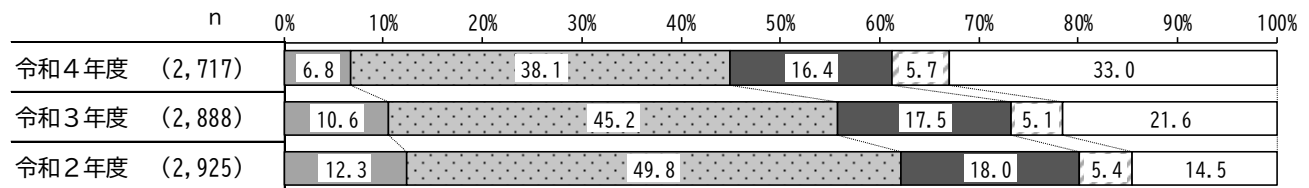
鉄道



バス



タクシー



とても満足している
 やや満足している
 やや不満である
 とても不満である
 無回答

鉄道の満足度については、「とても満足している」(24.7%)と「やや満足している」(49.4%)を合わせた『満足』(74.1%)は7割半ばとなっている。

バスの満足度については、「とても満足している」(7.9%)と「やや満足している」(35.1%)を合わせた『満足』(43.0%)は4割強となっている。

タクシーの満足度については、「とても満足している」(6.8%)と「やや満足している」(38.1%)を合わせた『満足』(44.9%)は4割半ばとなっている。

過去2回の調査と比較すると、『満足』はいずれも令和3年度を下回っており、鉄道は令和3年度(82.9%)と比べ8.8ポイント、バスは令和3年度(50.7%)と比べ7.7ポイント、タクシーは令和3年度(55.8%)と比べ10.9ポイント減少した。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

鉄道の満足度について性別でみると、『満足』は女性（75.1%）、男性 76.0%）ともに7割半ばと大きな差はみられない。また、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた『不満』も、女性（9.0%）と男性（11.3%）の間に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『満足』は女性 50 歳代以下（80.9%、82.4%、81.0%、82.0%）と男性 18～29 歳・40 歳代（81.9%、84.1%）で8割台となっている。一方、『不満』は女性 60 歳代・70 歳以上（5.7%、3.6%）、男性 70 歳以上（6.9%）以外のすべての年齢で1割台となっている。

バスの満足度について性別でみると、『満足』は女性（44.1%）、男性（43.6%）ともに4割台、『不満』は女性（30.5%）、男性（29.5%）ともに約3割で、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、男性 18～29 歳（60.9%）で約6割と最も多く、女性 18～29 歳・30 歳代（56.1%、50.3%）が5割台と若い年齢層で多くなっている。一方、『不満』は40 歳代の女性（42.0%）と男性（41.8%）ともに4割を超え、前者は『満足』と『不満』がほぼ拮抗している。

タクシーの満足度について性別でみると、『満足』は女性（46.4%）、男性（44.8%）とも4割半ば、『不満』は女性（21.6%）、男性（23.9%）とも2割台で、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『満足』は18～29 歳の女性（63.1%）と男性（63.6%）ともに6割強を占めて多くなっている。一方、『不満』は女性 40 歳代（31.9%）、男性 30 歳代・40 歳代（30.9%、30.4%）で約3割を占め多くなっている。

図表4-2-2 性・年齢別 公共交通の満足度

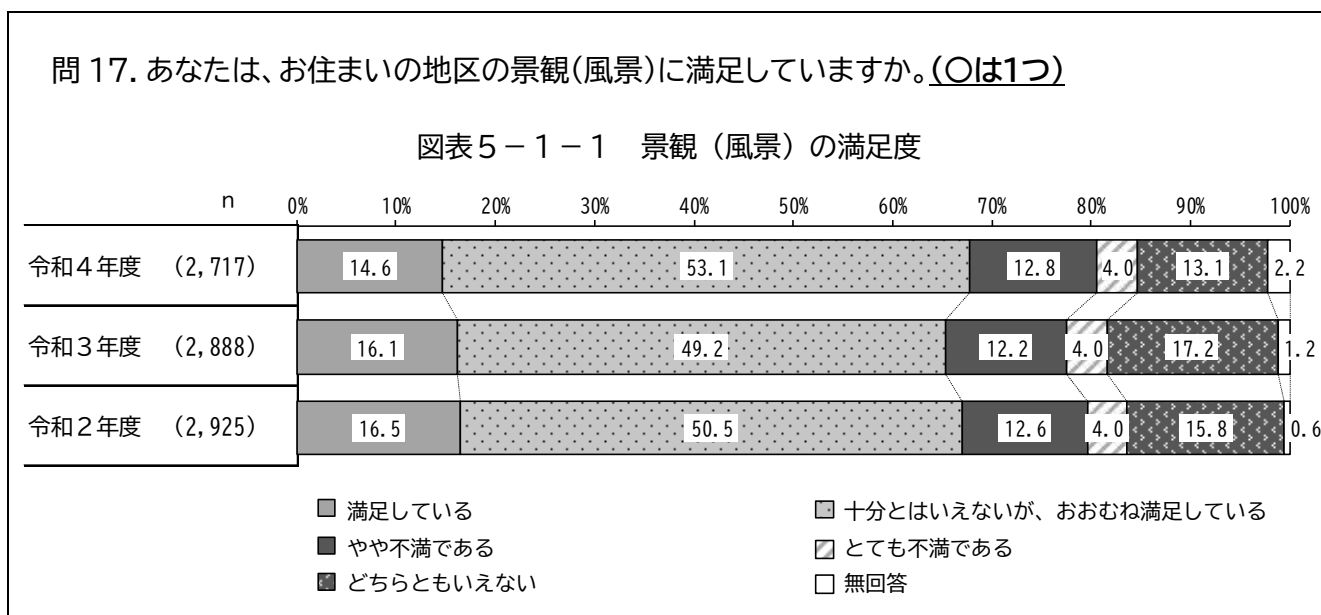
（%）

	調査数（人）	鉄道					バス					タクシー				
		とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答
全体	2,717	24.7	49.4	7.8	2.1	16.0	7.9	35.1	19.4	10.1	27.5	6.8	38.1	16.4	5.7	33.0
女性全体	1,414	24.2	50.9	6.7	2.3	15.9	7.6	36.4	20.3	10.2	25.5	7.1	39.3	16.5	5.1	32.0
18～29歳	141	32.6	48.2	9.9	5.0	4.3	12.1	44.0	22.0	8.5	13.5	14.2	48.9	14.2	5.7	17.0
30～39歳	153	24.2	58.2	9.8	3.9	3.9	9.8	40.5	25.5	10.5	13.7	8.5	49.7	17.6	4.6	19.6
40～49歳	226	25.7	55.3	12.4	1.3	5.3	7.1	36.3	29.2	12.8	14.6	4.4	43.4	23.5	8.4	20.4
50～59歳	244	23.0	59.0	8.6	2.0	7.4	5.7	38.5	27.5	10.2	18.0	7.8	42.2	23.4	4.1	22.5
60～69歳	210	24.3	52.4	4.3	1.4	17.6	8.1	36.2	13.8	7.6	34.3	3.8	34.8	13.8	4.3	43.3
70歳以上	439	21.4	41.7	1.8	1.8	33.3	6.6	31.4	12.5	10.5	39.0	7.1	31.0	10.7	4.3	46.9
男性全体	1,200	27.0	49.0	9.3	2.0	12.8	8.6	35.0	19.1	10.4	26.9	6.5	38.3	17.1	6.8	31.3
18～29歳	110	35.5	46.4	10.0	0.9	7.3	14.5	46.4	13.6	6.4	19.1	12.7	50.9	14.5	2.7	19.1
30～39歳	126	24.6	53.2	13.5	4.0	4.8	7.9	39.7	19.0	15.1	18.3	8.7	42.1	21.4	9.5	18.3
40～49歳	201	28.4	55.7	10.4	1.0	4.5	7.5	30.3	24.9	16.9	20.4	8.0	39.8	21.4	9.0	21.9
50～59歳	227	32.6	45.4	9.7	3.1	9.3	10.1	32.6	26.0	9.7	21.6	8.4	37.9	19.8	7.5	26.4
60～69歳	201	23.4	53.2	10.4	2.5	10.4	6.0	32.8	24.4	9.5	27.4	3.0	36.3	20.4	8.5	31.8
70歳以上	333	22.5	44.4	5.7	1.2	26.1	8.1	35.1	9.6	7.2	39.9	3.6	33.0	9.9	4.5	48.9

5. 景観（風景）について

(1) 景観（風景）の満足度

◇『満足』が7割弱



住まいの地区の景観（風景）については、「満足している」（14.6％）と「十分とはいえないが、おおむね満足している」（53.1％）を合わせた『満足』（67.7％）は7割弱、「やや不満である」（12.8％）と「とても不満である」（4.0％）を合わせた『不満』（16.8％）は1割半ばとなっている。

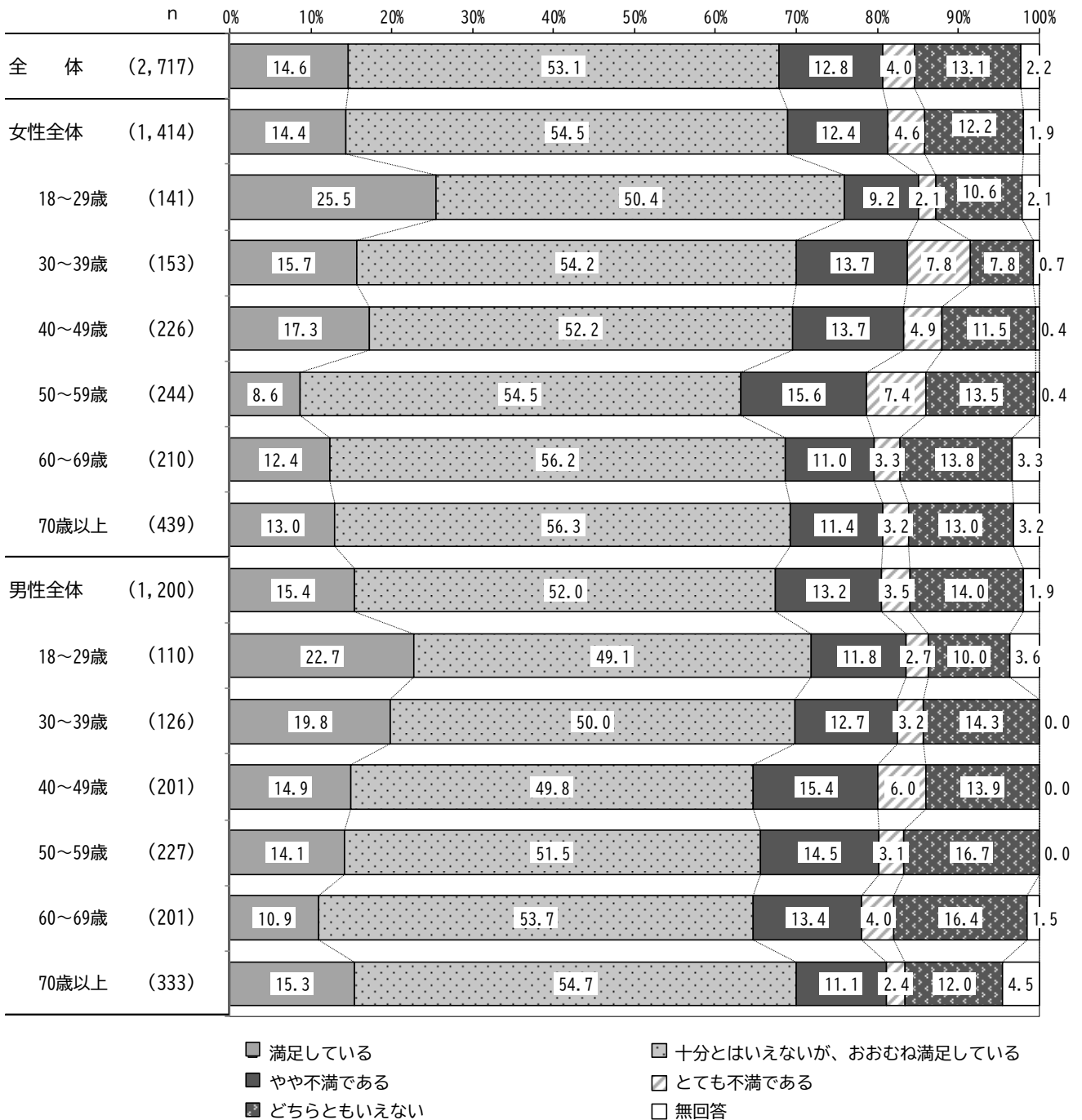
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

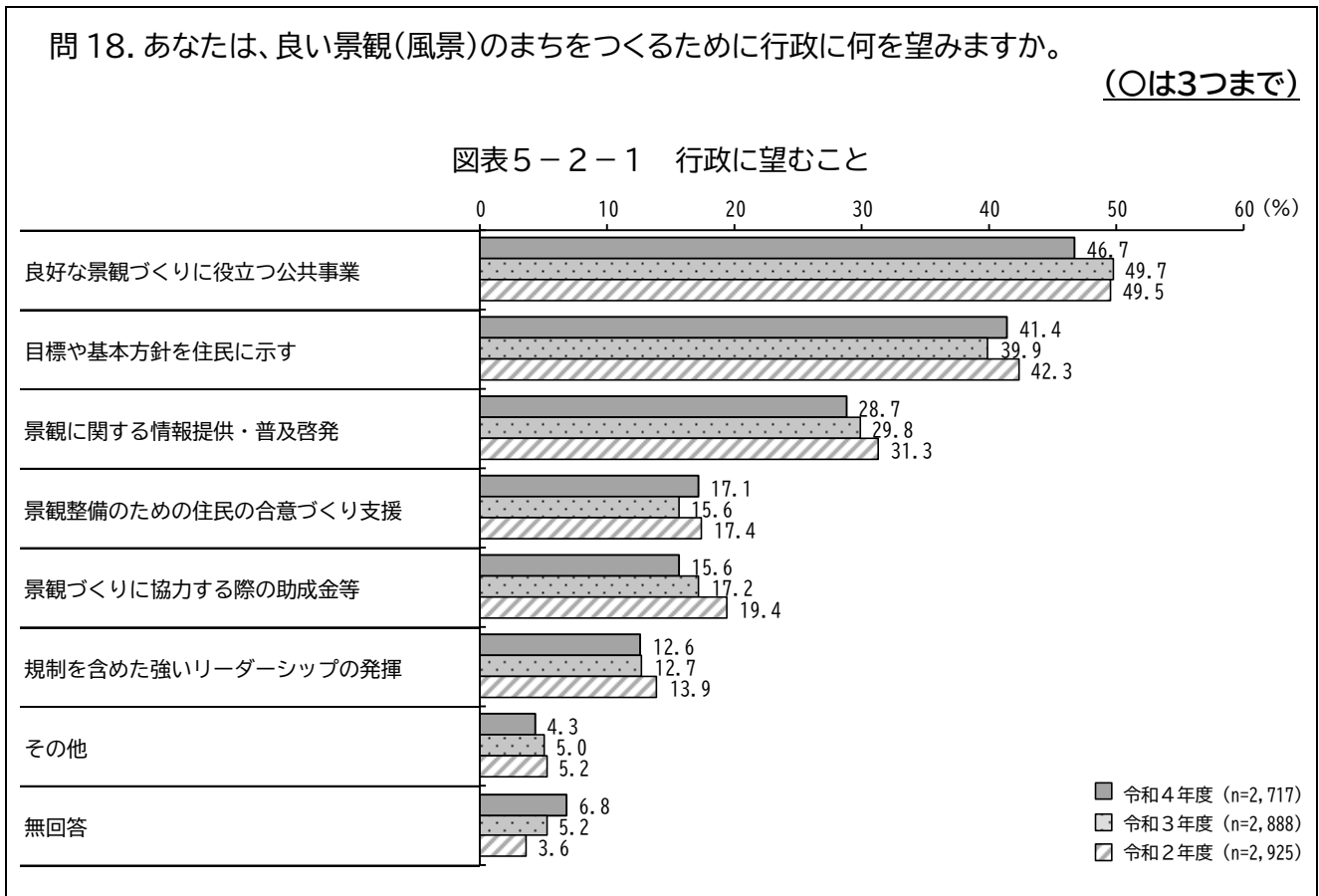
性・年齢別でみると、『満足』は女性 18～29 歳 (75.9%)、男性 18～29 歳・70 歳以上 (71.8%、70.0%) で7割台となっており、すべての年齢で6割以上となっている。一方、『不満』は女性 30 歳代・50 歳代 (21.5%、23.0%)、男性 40 歳代 (21.4%) を除く年齢で1割台となっている。

図表5-1-2 性・年齢別 景観(風景)の満足度



(2) 行政に望むこと

◇「良好な景観づくりに役立つ公共事業」が4割半ばで最も多い



良い景観(風景)のまちをつくるため、行政に望むことは、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」(46.7%)が最も多く、次いで「目標や基本方針を住民に示す」(41.4%)、「景観に関する情報提供・普及啓発」(28.7%)、「景観整備のための住民の合意づくり支援」(17.1%)、「景観づくりに協力する際の助成金等」(15.6%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、令和3年度から大きな変化はないが、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」「景観に関する情報提供・普及啓発」「景観づくりに協力する際の助成金等」は減少傾向にある。

性別で見ると、「規制を含めた強いリーダーシップの発揮」は男性（16.8%）が女性（9.3%）を7.5ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」は70歳以上の女性（39.2%）と男性（38.1%）を除くすべての年齢で4割以上となっており、特に女性18～29歳・30歳代・50歳代（52.5%、51.6%、51.2%）と男性40歳代以下（57.3%、54.0%、55.2%）とともに5割台と多くなっている。また、「目標や基本方針を住民に示す」は女性18～29歳・40歳代（31.9%、39.8%）と男性18～29歳・30歳代・50歳代（33.6%、36.5%、38.3%）を除くすべての年齢で4割台、「景観に関する情報提供・普及啓発」は女性50歳代・60歳代（36.9%、31.9%）と男性50歳代以上（30.4%、33.3%、32.4%）で3割台となっている。「景観整備のための住民の合意づくり支援」は男性18～29歳（6.4%）が1割を切って全体を10.7ポイント下回っており、「景観づくりに協力する際の助成金等」は男性30歳代（25.4%）が全体を9.8ポイント上回っている。「規制を含めた強いリーダーシップの発揮」は女性40歳代（14.2%）を除く女性すべての年齢で1割を切っているが、男性はすべての年齢で1割台となっている。

図表5-2-2 性・年齢別 行政に望むこと

	調査数（人）	良好な景観づくりに役立つ公共事業	目標や基本方針を住民に示す	景観に関する情報提供・普及啓発	景観整備のための住民の合意づくり支援	景観づくりに協力する際の助成金等	規制を含めた強いリーダーシップ	その他	無回答
全体	2,717	46.7	41.4	28.7	17.1	15.6	12.6	4.3	6.8
女性全体	1,414	46.8	40.9	28.5	16.5	15.4	9.3	4.7	7.0
18～29歳	141	52.5	31.9	22.7	12.8	17.7	5.7	2.8	3.5
30～39歳	153	51.6	41.2	23.5	16.3	18.3	9.2	3.9	2.6
40～49歳	226	48.7	39.8	26.5	15.0	18.6	14.2	4.4	3.5
50～59歳	244	51.2	43.0	36.9	17.6	18.4	8.6	4.1	2.0
60～69歳	210	48.1	45.2	31.9	17.1	13.3	8.1	5.2	5.2
70歳以上	439	39.2	41.2	26.9	17.8	11.4	9.1	5.9	15.0
男性全体	1,200	47.3	42.5	30.4	17.8	16.2	16.8	3.9	4.9
18～29歳	110	57.3	33.6	27.3	6.4	13.6	11.8	3.6	6.4
30～39歳	126	54.0	36.5	24.6	15.9	25.4	19.8	7.1	1.6
40～49歳	201	55.2	40.3	29.9	16.4	17.9	18.4	2.5	2.0
50～59歳	227	48.0	38.3	30.4	17.6	19.8	16.7	5.3	3.1
60～69歳	201	43.8	46.3	33.3	23.9	14.4	13.4	2.5	4.0
70歳以上	333	38.1	49.8	32.4	19.5	11.1	18.3	3.6	9.0

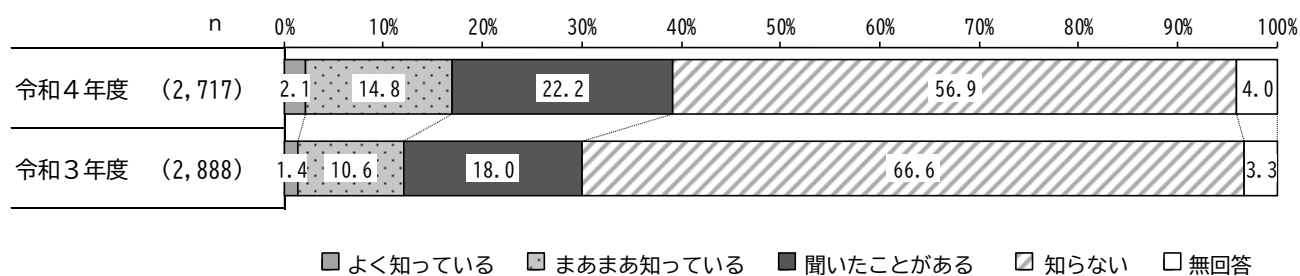
6. 参加と協働のまちづくりについて

(1) 「参加と協働のまちづくり」の認知度

◇『知っている』が1割半ば

問 19. 越谷市では、市民の市政への参加が可能となるような機会の充実や、地域コミュニティ組織との協働に取り組んでいます。あなたは、越谷市がこのような「参加と協働のまちづくり」をすすめていることを知っていますか。(〇は1つ)

図表6-1-1 「参加と協働のまちづくり」の認知度



「参加と協働のまちづくり」の認知度については、「よく知っている」(2.1%)と「まあまあ知っている」(14.8%)を合わせた『知っている』(16.9%)が1割半ば、「聞いたことがある」(22.2%)が2割強、「知らない」(56.9%)が5割半ばとなっている。

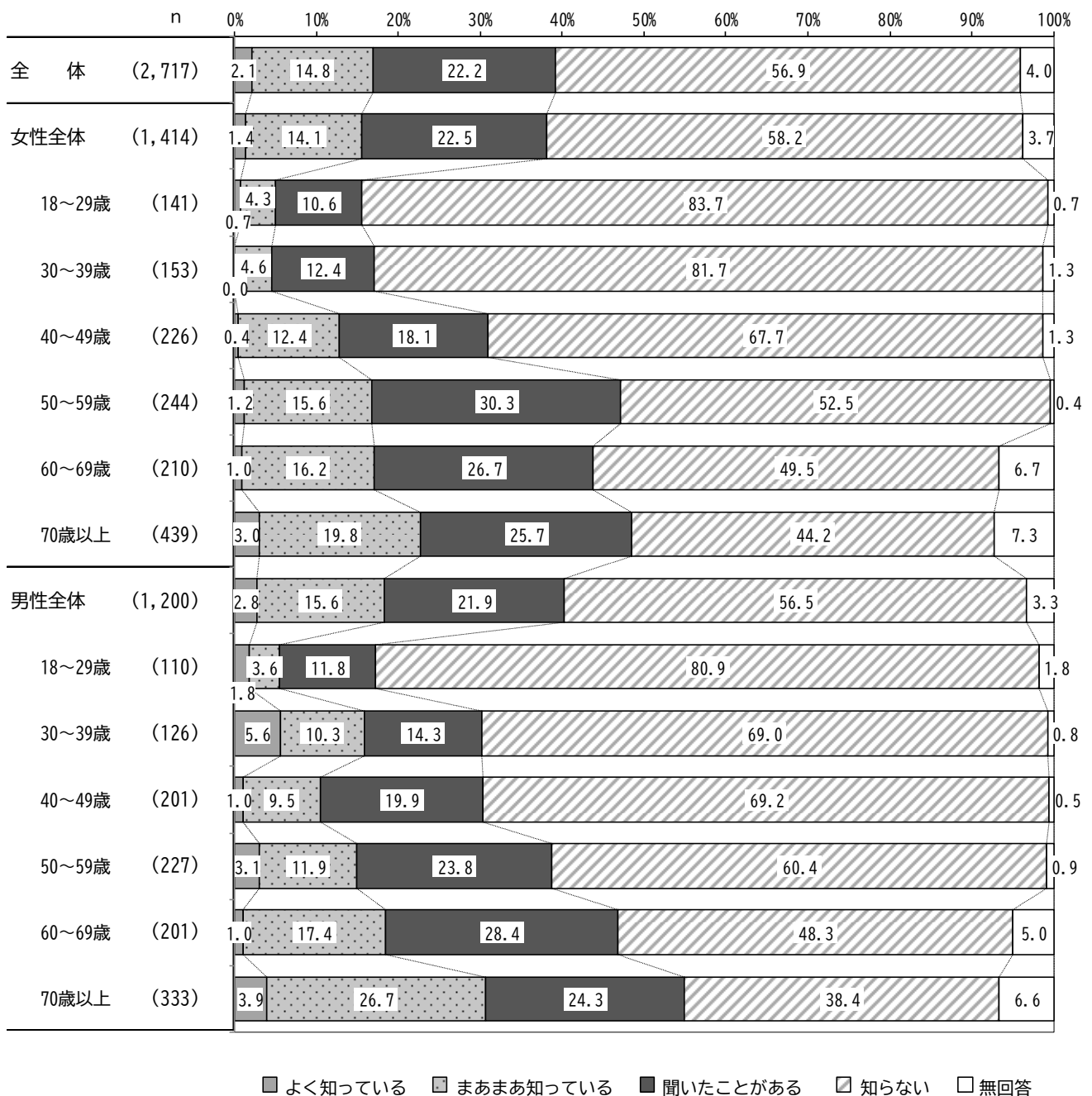
過去の調査と比較すると、『知っている』は令和3年度(12.0%)と比べ4.9ポイント上回っている一方、「知らない」は令和3年度(66.6%)より9.7ポイント減少している。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

性別で見ると、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、『知っている』女性 18～29 歳・30 歳代(5.0%、4.6%)と男性 18～29 歳(5.4%)とを除き、すべての年齢で 1 割以上となっており、特に 70 歳代の女性(22.8%)は 2 割強、男性(30.6%)は約 3 割と多くなっている。一方、「知らない」は 60 歳以上の女性(49.5%、44.2%)と男性(48.3%、38.4%)を除くすべての年齢で 5 割以上を占めており、特に女性 18～29 歳・30 歳代(83.7%、81.7%)と男性 18～29 歳(80.9%)は 8 割台と多くなっている。

図表 6-1-2 性・年齢別 「参加と協働のまちづくり」の認知度

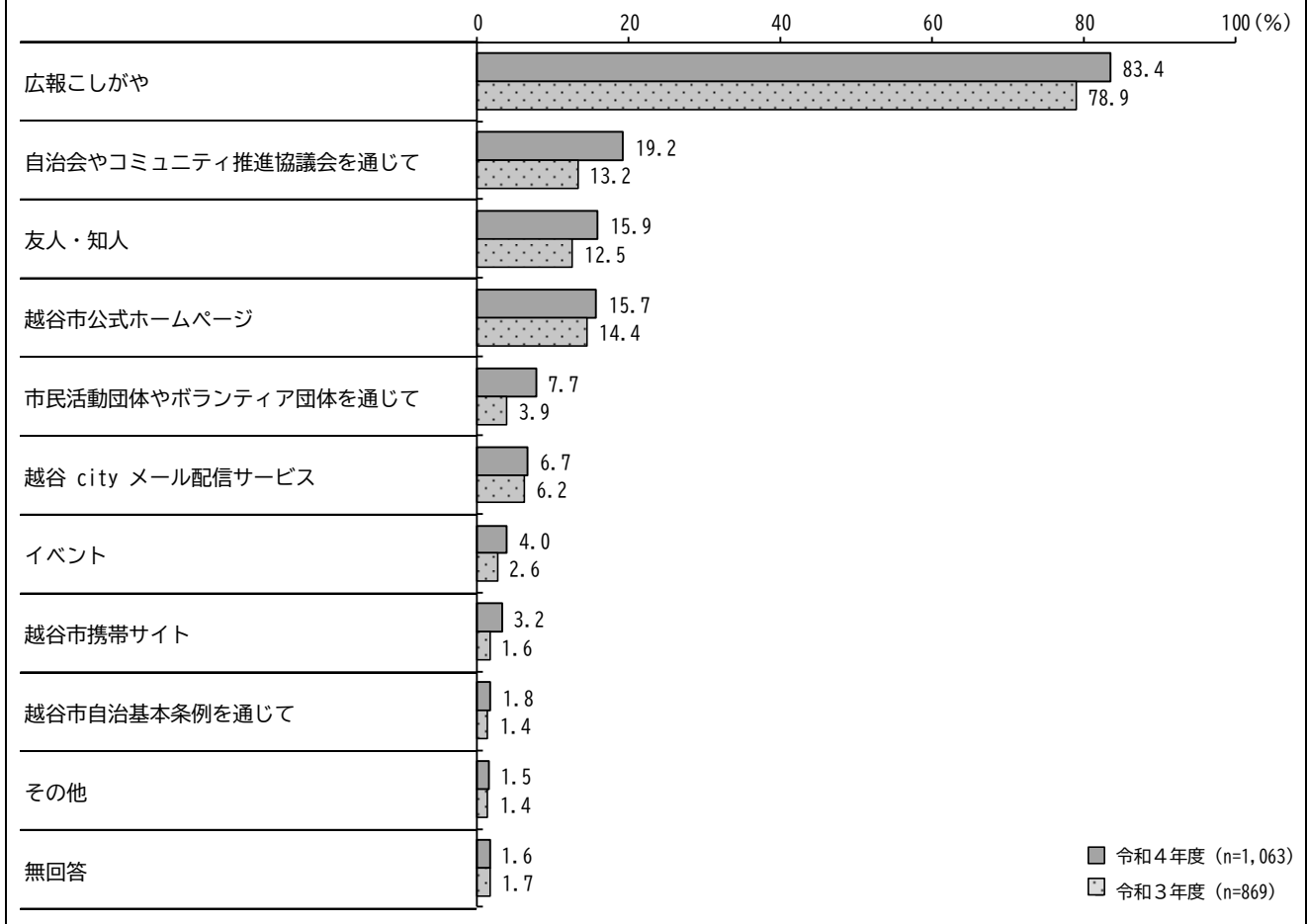


(2) 「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ

◇「広報こしがや」が8割強で最も多い

問 19-2. 問 19 で「1」から「3」と答えた方に伺います。
越谷市が「参加と協働のまちづくり」をすすめていることをどのようにして知り(聞き)ましたか。(〇はいくつでも)

図表 6-2-1 「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ



「参加と協働のまちづくり」を「知っている」または「聞いたことがある」と回答した 1,063 人に、知ったきっかけを聞いたところ、「広報こしがや」(83.4%) が最も多く、次いで「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」(19.2%)、「友人・知人」(15.9%)、「越谷市公式ホームページ」(15.7%)、「市民活動団体やボランティア団体を通じて」(7.7%) の順となっている。

過去の調査と比較すると、すべての項目で令和3年度を上回っており、特に「広報こしがや」「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」「市民活動団体やボランティア団体を通じて」は令和3年度(78.9%、13.2%、3.9%)に比べそれぞれ4.5ポイント、6.0ポイント、3.8ポイント高くなっている。

性別で見ると、「友人・知人」は女性（18.2%）が男性（12.4%）を5.8ポイント上回っている一方、「越谷市公式ホームページ」は男性（20.9%）が女性（11.0%）を9.9ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、男女ともすべての年齢で「広報こしがや」が最も多くなっており、男性70歳以上（90.7%）では9割に達し、女性50歳代以上（82.6%、87.0%、88.7%）、男性40歳代～60歳代（80.3%、85.2%、86.2%）は8割台となっている。また、「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」は男性70歳以上（29.5%）が約3割、「越谷市公式ホームページ」は男性30歳代（34.2%）が3割半ばと多くなっている。

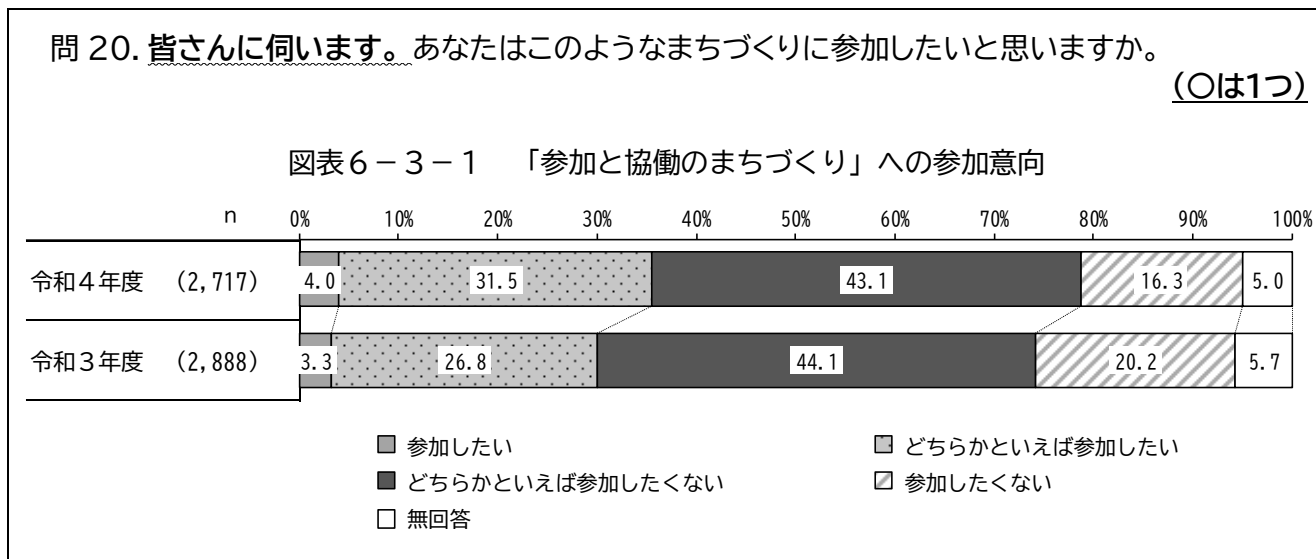
※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表6-2-2 性・年齢別 「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ

	調査数（人）	広報こしがや	自治会やコミュニティ推進協議会を通じて	友人・知人	越谷市公式ホームページ	市民活動団体やボランティア団体を通じて	越谷市公式ホームページ	越谷市公式ホームページ	越谷市公式ホームページ	越谷市公式ホームページ	越谷市公式ホームページ	その他	無回答
全体	1,063	83.4	19.2	15.9	15.7	7.7	6.7	4.0	3.2	1.8	1.5	1.6	
女性全体	538	83.6	18.6	18.2	11.0	8.7	7.8	4.1	3.3	0.9	1.9	1.5	
18～29歳	22	59.1	-	13.6	22.7	4.5	-	-	-	-	9.1	-	
30～39歳	26	80.8	15.4	3.8	11.5	-	15.4	3.8	3.8	-	-	3.8	
40～49歳	70	74.3	5.7	10.0	18.6	2.9	17.1	4.3	8.6	-	2.9	2.9	
50～59歳	115	82.6	18.3	18.3	13.0	9.6	13.9	3.5	3.5	-	0.9	0.9	
60～69歳	92	87.0	21.7	17.4	13.0	9.8	6.5	3.3	3.3	1.1	1.1	-	
70歳以上	213	88.7	23.9	23.5	5.2	11.3	1.9	5.2	1.9	1.9	1.9	1.9	
男性全体	483	83.6	19.7	12.4	20.9	6.4	5.6	3.5	3.1	2.7	1.2	1.4	
18～29歳	19	42.1	10.5	10.5	15.8	5.3	-	10.5	5.3	10.5	5.3	-	
30～39歳	38	65.8	-	5.3	34.2	-	5.3	7.9	-	-	2.6	2.6	
40～49歳	61	80.3	8.2	11.5	21.3	1.6	16.4	-	1.6	-	-	1.6	
50～59歳	88	85.2	17.0	10.2	25.0	5.7	2.3	-	1.1	3.4	1.1	1.1	
60～69歳	94	86.2	20.2	11.7	20.2	6.4	7.4	4.3	8.5	1.1	2.1	-	
70歳以上	183	90.7	29.5	15.8	16.9	9.8	3.3	4.4	2.2	3.8	0.5	2.2	

(3) 「参加と協働のまちづくり」への参加意向

◇『参加したい』が3割半ば



「参加と協働のまちづくり」への参加意向については、「参加したい」(4.0%)と「どちらかといえ
ば参加したい」(31.5%)を合わせた『参加したい』(35.5%)は3割半ばを占めている。一方、「ど
ちらかといえ参加したくない」(43.1%)と「参加したくない」(16.3%)を合わせた『参加したくな
い』(59.4%)は約6割となっている。

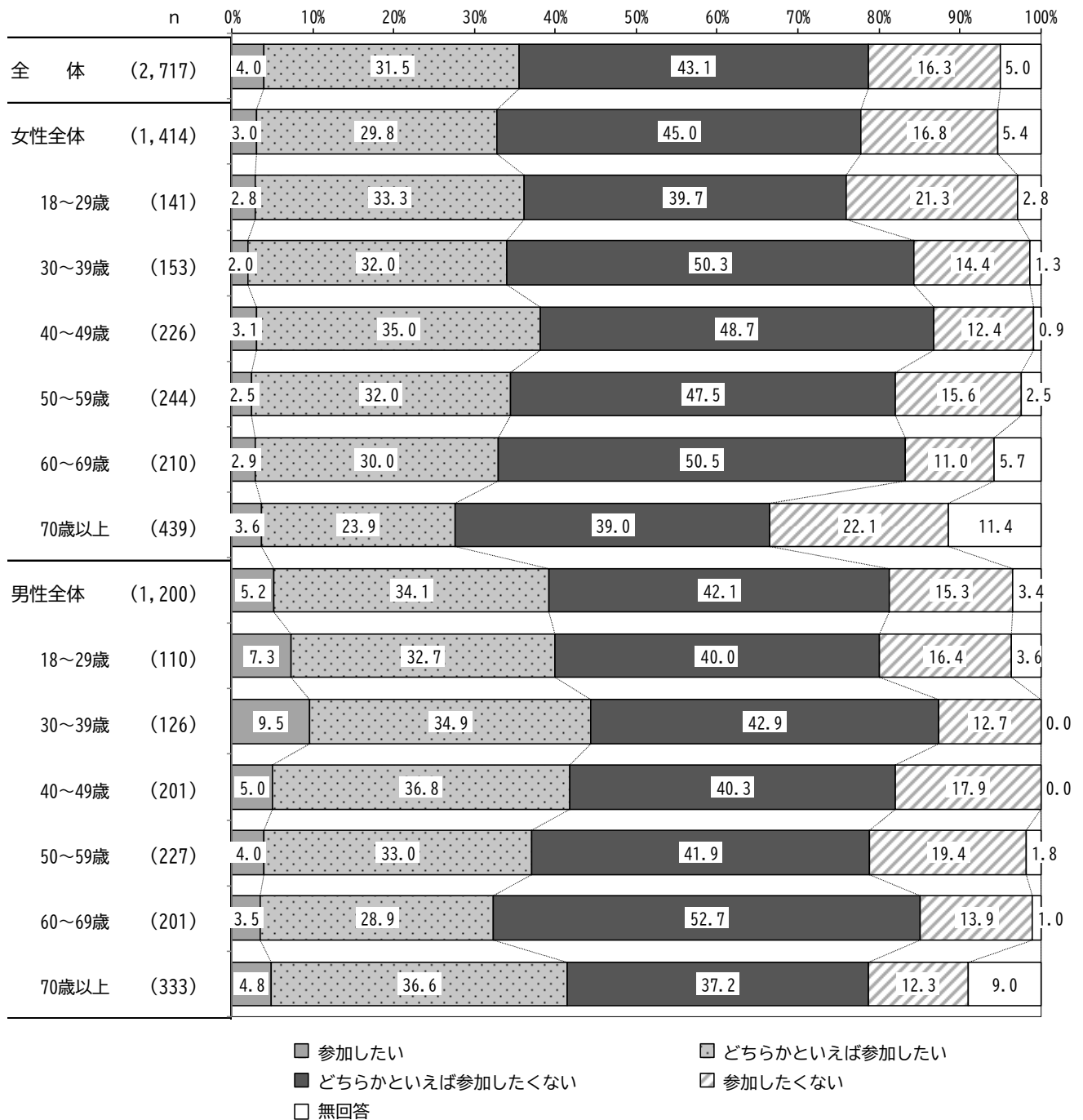
過去の調査と比較すると、『参加したい』は令和3年度(30.1%)と比べ5.4ポイント上回ってい
る。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

性別で見ると、『参加したい』は男性（39.3%）が女性（32.8%）を6.5ポイント上回っている。一方、『参加したくない』は女性（61.8%）が男性（57.4%）を4.4ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、『参加したい』は男性18～29歳・30歳代・40歳代・70歳以上（40.0%、44.4%、41.8%、41.4%）で4割台となっている。一方、女性は特に70歳以上（27.5%）で全体より8ポイント少なくなっている。また、『参加したくない』は男性50歳代・60歳代（61.3%、66.6%）と女性のすべての年齢で6割台となっている。

図表6-3-2 性・年齢別 「参加と協働のまちづくり」への参加意向

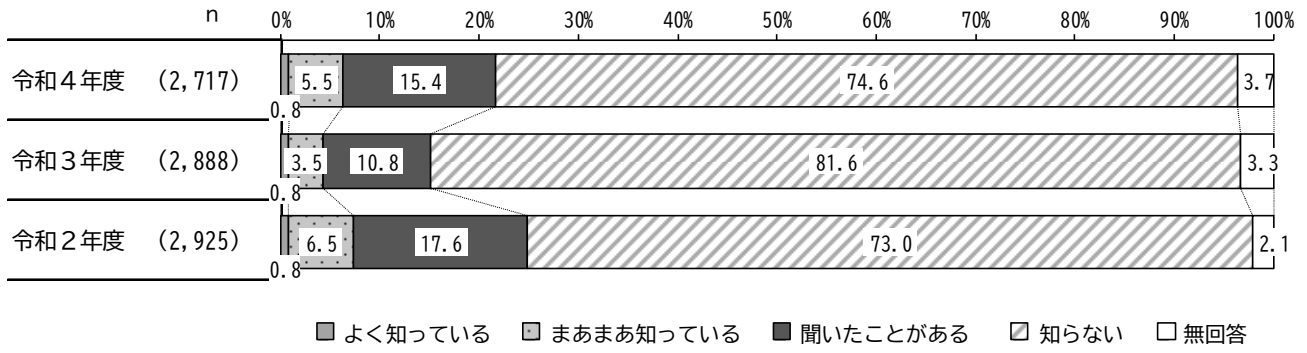


(4) 「越谷市自治基本条例」の認知度

◇『知っている』は1割未満

問 21. 皆さんに伺います。あなたは参加と協働のまちづくりに必要なルールなどが書かれている「越谷市自治基本条例」を知っていますか。(〇は1つ)

図表6-4-1 「越谷市自治基本条例」の認知度



「越谷市自治基本条例」の認知度については、「よく知っている」(0.8%)と「まあまあ知っている」(5.5%)を合わせた『知っている』(6.3%)は1割未満となっている。一方、「聞いたことがある」(15.4%)は1割半ば、「知らない」(74.6%)は7割半ばとなっている。

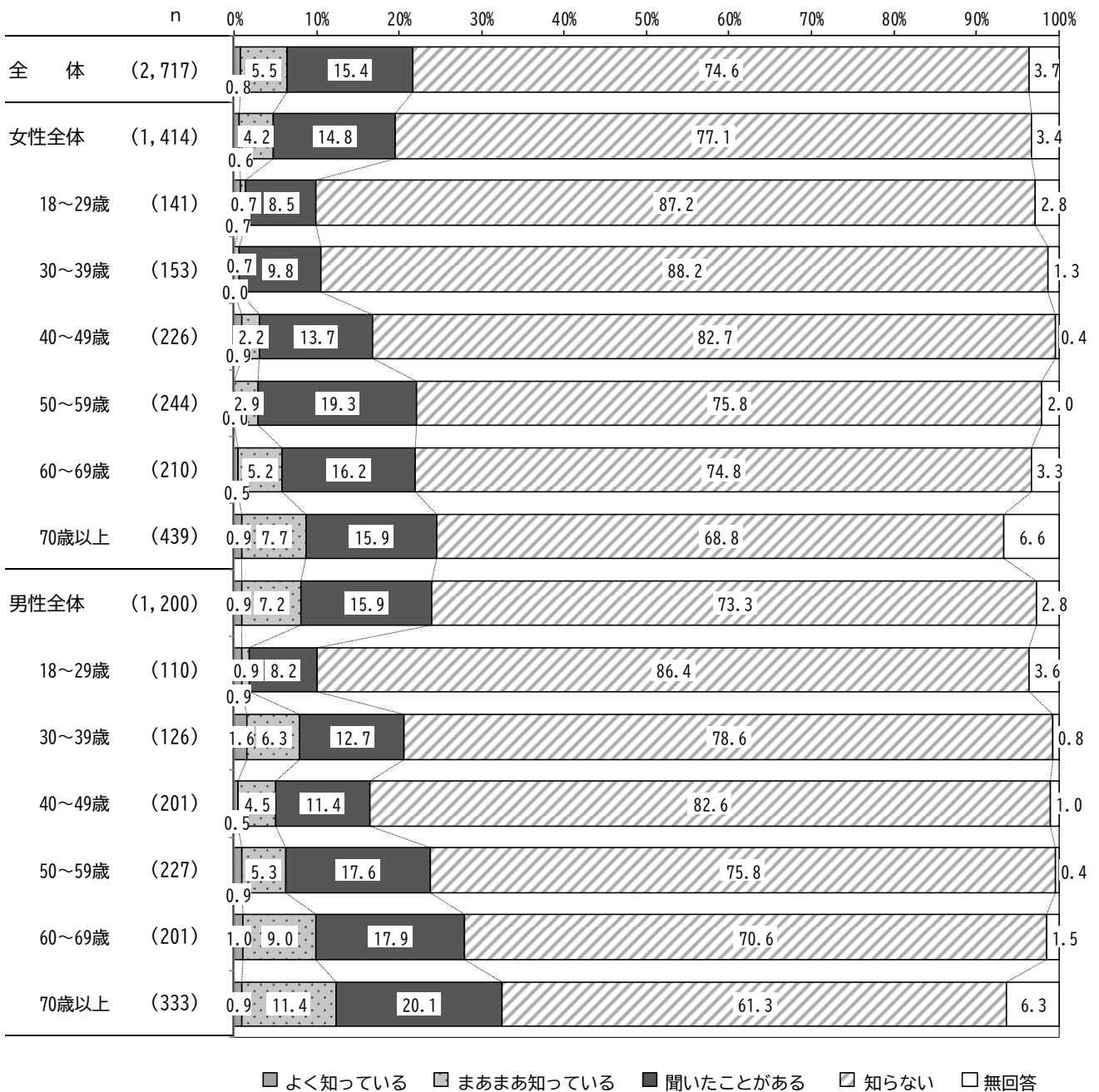
過去2回の調査と比較すると、「聞いたことがある」が令和3年度(10.8%)と比べ4.6ポイント上回っている一方、「知らない」は令和3年度(81.6%)から7ポイント減少している。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

性別で見ると、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、『知っている』は男性60歳代・70歳以上（10.0%、12.3%）を除くすべての年齢で男女ともに1割未満となっている。一方、「知らない」は男女ともにすべての年齢で6割を超え、女性18～29歳・30歳代・40歳代（87.2%、88.2%、82.7%）と男性18～29歳・40歳代（86.4%、82.6%）で8割台となっている。

図表6-4-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」の認知度



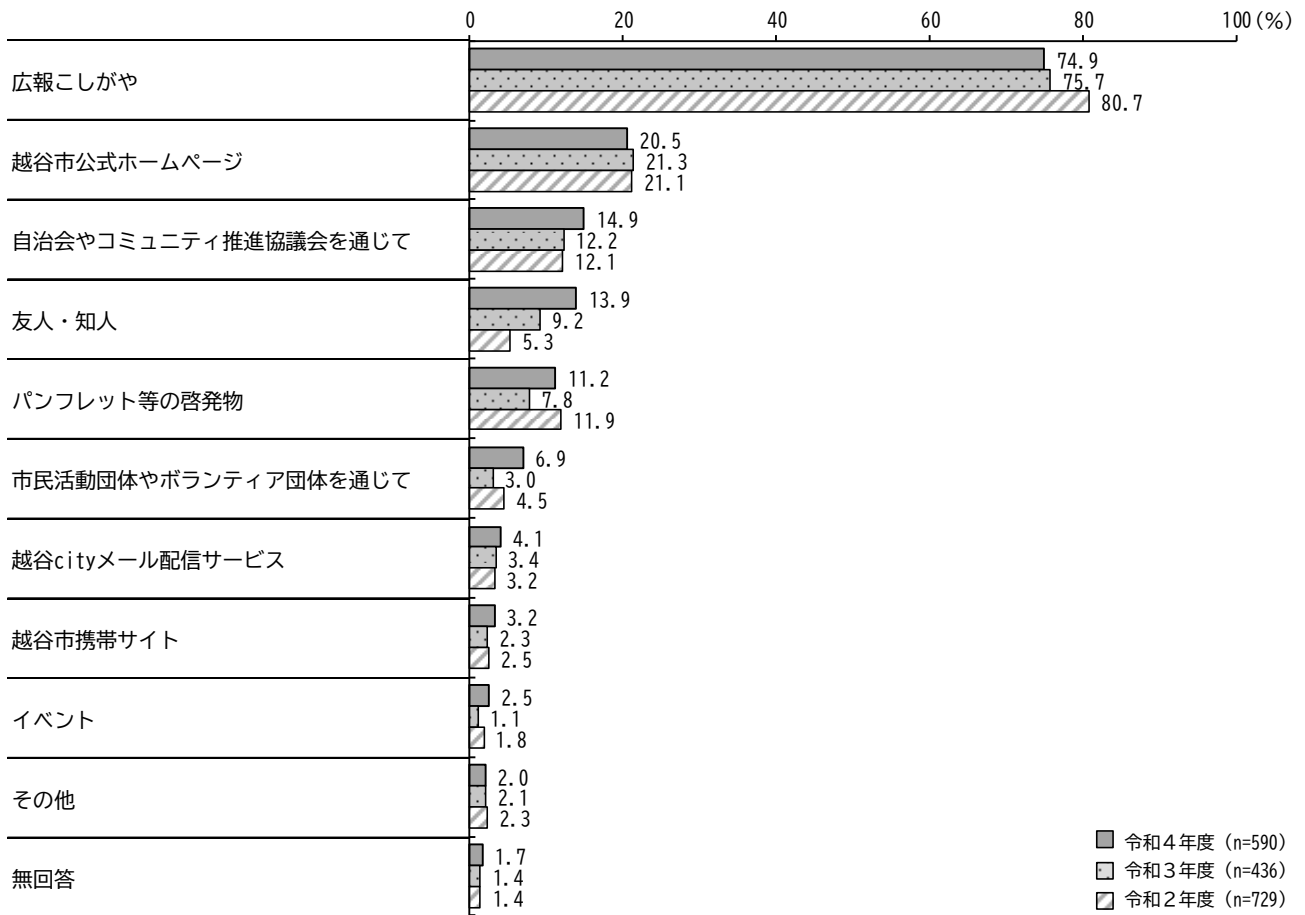
(5) 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ

◇「広報こしがや」が7割半ばで最も多い

問 21-2. 問 21 で「1」から「3」と答えた方に伺います。
「越谷市自治基本条例」のことをどのようにして知り(聞き)ましたか。

(○はいくつでも)

図表 6-5-1 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ



「越谷市自治基本条例」を「知っている」または「聞いたことがある」と回答した 590 人に、知ったきっかけを聞いたところ、「広報こしがや」(74.9%)が最も多く、次いで「越谷市公式ホームページ」(20.5%)、「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」(14.9%)、「友人・知人」(13.9%)、「パンフレット等の啓発物」(11.2%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「友人・知人」は令和3年度(9.2%)と比べ4.7ポイント、「市民活動団体やボランティア団体を通じて」は令和3年度(3.0%)と比べ3.9ポイント高くなっている。

性別で見ると、「広報こしがや」「市民活動団体やボランティア団体を通じて」は女性(77.5%、8.7%)が男性(72.9%、4.5%)をそれぞれ4.6ポイント、4.2ポイント上回っている一方、「越谷市公式ホームページ」は男性(25.3%)が女性(15.6%)を9.7ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「広報こしがや」は男女ともにすべての年代で最も多く、男性70歳以上(92.6%)で9割強、女性70歳以上(88.9%)で9割弱となっている。また、「越谷市公式ホームページ」は男性40歳代・50歳代(33.3%、31.5%)が3割台、「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」は70歳以上の女性(20.4%)と男性(29.6%)、「友人・知人」は女性60歳代(21.7%)が2割台と多くなっている。

※調査数が少ないもの(本調査では30人未満とする)については、記述の対象としない。

図表6-5-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ

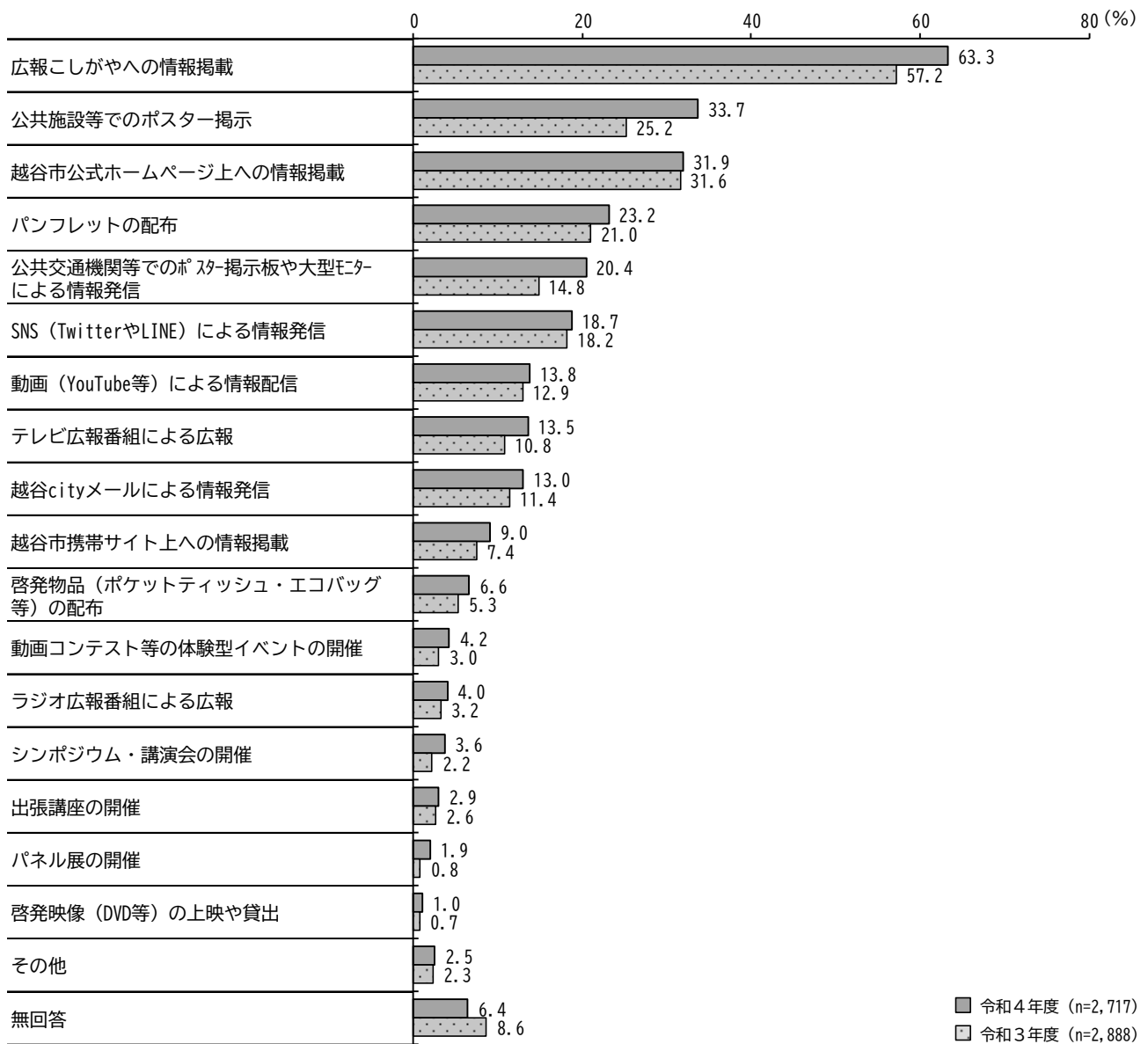
	調査数(人)	広報こしがや	越谷市公式ホームページ	自治会やコミュニティ推進協議会を通じて	友人・知人	パンフレット等の啓発物	市民活動団体やボランティア団体を通じて	越谷cityメール配信サービス	越谷市携帯サイト	イベント	その他	無回答
全体	590	74.9	20.5	14.9	13.9	11.2	6.9	4.1	3.2	2.5	2.0	1.7
女性全体	276	77.5	15.6	13.4	15.2	9.8	8.7	4.3	3.3	3.3	1.1	1.1
18～29歳	14	57.1	14.3	-	21.4	7.1	-	-	-	-	7.1	-
30～39歳	16	50.0	18.8	18.8	6.3	-	-	18.8	-	6.3	-	-
40～49歳	38	73.7	26.3	5.3	5.3	-	-	5.3	5.3	-	5.3	2.6
50～59歳	54	72.2	22.2	5.6	14.8	14.8	9.3	1.9	7.4	1.9	-	1.9
60～69歳	46	76.1	15.2	15.2	21.7	8.7	6.5	4.3	-	4.3	-	-
70歳以上	108	88.9	8.3	20.4	16.7	13.0	14.8	3.7	2.8	4.6	-	0.9
男性全体	288	72.9	25.3	17.0	11.8	11.8	4.5	4.2	3.5	2.1	2.8	2.4
18～29歳	11	45.5	45.5	-	-	9.1	-	-	-	-	-	9.1
30～39歳	26	53.8	38.5	-	3.8	3.8	-	3.8	-	3.8	-	7.7
40～49歳	33	57.6	33.3	6.1	18.2	6.1	-	3.0	3.0	-	9.1	-
50～59歳	54	51.9	31.5	13.0	7.4	14.8	1.9	-	1.9	1.9	5.6	3.7
60～69歳	56	78.6	25.0	14.3	10.7	12.5	5.4	10.7	8.9	3.6	-	-
70歳以上	108	92.6	14.8	29.6	15.7	13.9	8.3	3.7	2.8	1.9	1.9	1.9

(6) 「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法

◇「広報こしがやへの情報掲載」が6割強で最も多い

問 22. 皆さんに伺います。「参加と協働のまちづくり」を推進するために「越谷市自治基本条例」の普及・啓発を行っています。普及・啓発方法としてどのような方法が効果的だと思いますか。(〇はいくつでも)

図表6-6-1 「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法



「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法については、「広報こしがやへの情報掲載」(63.3%)が最も多く、次いで「公共施設等でのポスター掲示」(33.7%)、「越谷市公式ホームページ上への情報掲載」(31.9%)、「パンフレットの配布」(23.2%)、「公共交通機関等でのポスター掲示板や大型モニターによる情報発信」(20.4%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、すべての項目で令和3年度を上回っており、特に「公共施設等でのポスター掲示」「広報こしがやへの情報掲載」「公共交通機関等でのポスター掲示板や大型モニターによる情報発信」が令和3年度(25.2%、57.2%、14.8%)と比べそれぞれ8.5ポイント、6.1ポイント、5.6ポイント高くなっている。

性別でみると、「公共施設等でのポスター掲示」「越谷 city メールによる情報発信」は女性(36.9%、15.6%)が男性(30.7%、10.6%)をそれぞれ6.2ポイント、5.0ポイント上回っている。一方、「越谷市公式ホームページ上への情報掲載」「動画(YouTube等)による情報配信」は男性(36.2%、17.3%)が女性(29.7%、11.2%)をそれぞれ6.5ポイント、6.1ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「広報こしがやへの情報掲載」は男性70以上(82.3%)で8割強と最も多く、女性50歳代以上(70.9%、74.8%、77.4%)も7割台と多くなっている。「SNS(TwitterやLINE)による情報発信」は男性18~29歳(54.5%)が5割半ば、女性18~29歳(48.2%)で5割弱と多くなっている。また、「越公共施設等でのポスター掲示」は女性30歳代・50歳代(46.4%、43.0%)が、「越谷市公式ホームページ上への情報掲載」は女性50歳代(45.1%)と男性50歳代・60歳代(43.2%、42.8%)が4割台となっている。「公共交通機関等でのポスター掲示板や大型モニターによる情報発信」は女性30歳代・50歳代(30.1%、30.7%)が、「越谷 city メールによる情報発信」は女性30歳代・40歳代(30.1%、33.2%)が3割台と多くなっている。

図表6-6-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法

	調査数(人)	広報こしがやへの情報掲載	公共施設等でのポスター掲示	越谷市公式ホームページ上への情報掲載	パンフレットの配布	公共交通機関等でのポスター掲示板や大型モニターによる情報発信	SNS(TwitterやLINE)による情報発信	動画(YouTube等)による情報配信	テレビ広報番組による広報	越谷 city メールによる情報発信	越谷市携帯サイト上への情報掲載	啓発物品(ポケットティッシュ・エコバッグ等)の配布	動画コンテンツ等の体験型イベントの開催	ラジオ広報番組による広報	シンポジウム・講演会の開催	出張講座の開催	パネル展の開催	啓発映像(DVD等)の上映や貸出	その他	無回答
全体	2,717	63.3	33.7	31.9	23.2	20.4	18.7	13.8	13.5	13.0	9.0	6.6	4.2	4.0	3.6	2.9	1.9	1.0	2.5	6.4
女性全体	1,414	65.2	36.9	29.7	21.9	22.0	18.7	11.2	13.3	15.6	9.7	7.1	4.5	3.3	3.1	2.7	1.7	1.2	2.5	6.4
18~29歳	141	32.6	31.2	27.7	13.5	28.4	48.2	19.1	12.8	9.9	8.5	7.1	2.8	1.4	1.4	1.4	3.5	2.8	5.7	5.0
30~39歳	153	45.8	46.4	34.6	15.0	30.1	36.6	17.0	7.8	30.1	14.4	7.8	8.5	3.3	2.0	2.6	0.7	1.3	1.3	3.3
40~49歳	226	59.7	33.2	38.1	15.0	26.5	29.2	15.9	8.4	33.2	15.9	11.9	5.8	3.5	1.3	1.8	2.7	0.9	2.7	2.7
50~59歳	244	70.9	43.0	45.1	23.4	30.7	20.5	15.6	18.4	18.4	13.9	7.4	7.4	3.3	3.3	2.0	0.8	0.8	1.6	2.5
60~69歳	210	74.8	39.5	32.4	25.2	19.0	5.7	9.0	15.7	10.0	7.6	6.2	3.8	4.3	4.3	2.9	2.9	1.4	4.3	4.8
70歳以上	439	77.4	32.6	14.6	28.0	11.4	2.7	2.7	13.9	4.6	3.9	4.6	1.8	3.2	4.3	3.9	0.9	0.9	1.6	12.8
男性全体	1,200	62.3	30.7	36.2	24.9	19.6	19.8	17.3	14.0	10.6	8.8	6.3	4.0	4.9	4.5	3.3	2.0	0.8	2.5	4.4
18~29歳	110	31.8	30.9	27.3	13.6	17.3	54.5	30.9	14.5	12.7	10.0	8.2	6.4	2.7	2.7	1.8	4.5	-	2.7	5.5
30~39歳	126	45.2	31.0	39.7	16.7	27.8	40.5	28.6	14.3	10.3	11.1	7.1	6.3	6.3	4.0	4.8	2.4	2.4	1.6	2.4
40~49歳	201	55.2	30.8	36.8	21.4	29.4	29.4	27.9	12.9	18.4	9.5	9.5	3.0	6.5	3.0	2.5	1.0	-	2.5	3.0
50~59歳	227	59.9	33.5	43.2	24.2	24.2	18.1	18.9	17.2	13.7	11.9	6.2	4.8	7.0	3.1	1.3	1.8	1.3	4.4	3.5
60~69歳	201	66.7	26.4	42.8	27.9	15.9	10.0	13.4	13.4	7.5	10.4	4.5	5.0	5.0	5.5	4.5	2.5	0.5	3.0	3.0
70歳以上	333	82.3	30.9	28.8	32.7	10.2	1.8	3.3	12.6	5.1	3.9	4.5	1.8	2.7	6.6	4.5	1.5	0.9	1.2	6.9

7. 地場農産物や地産地消について

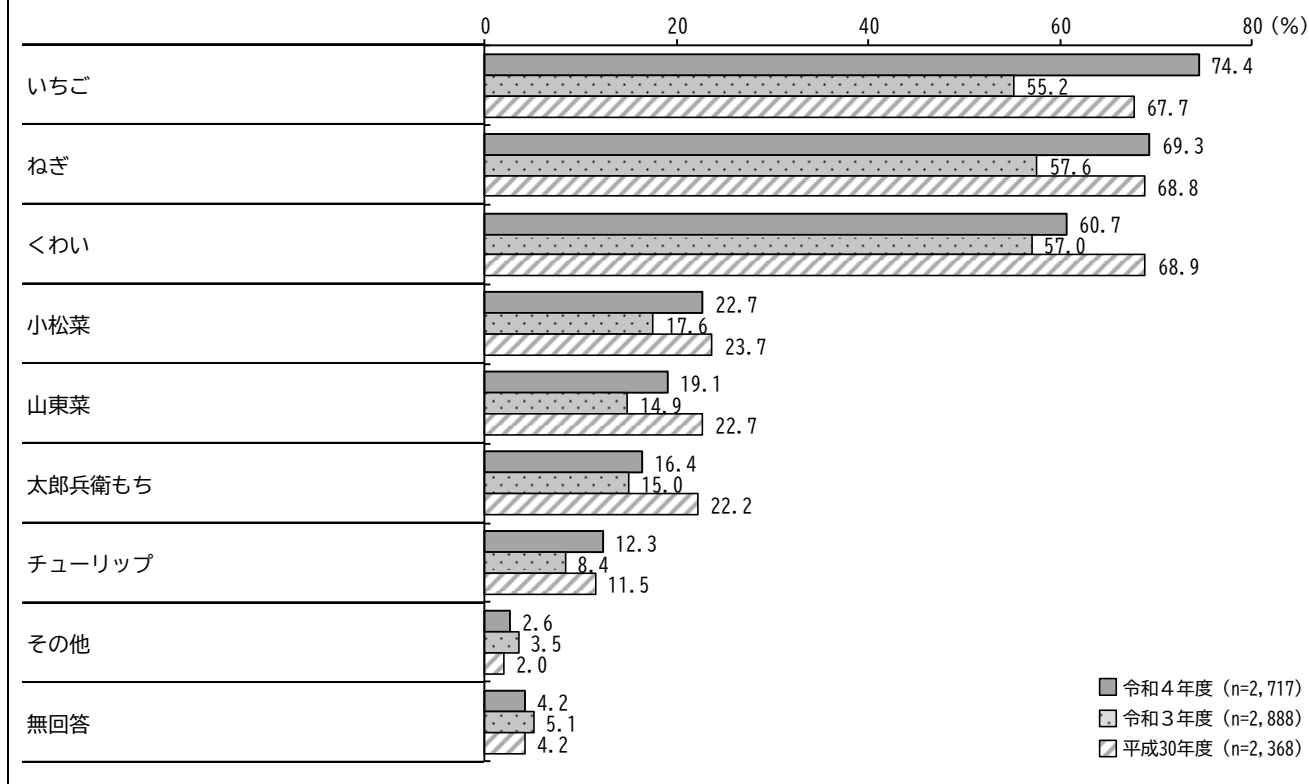
(1) 越谷の農業特産物の認知度

◇「いちご」が7割半ばで最も多い

問 23. 越谷を代表する農産物について、あなたが知っているものを選んでください。

(〇はいくつでも)

図表7-1-1 越谷の農業特産物の認知度



越谷の農業特産物の認知度については、「いちご」(74.4%)が最も多く、次いで「ねぎ」(69.3%)、「くわい」(60.7%)、「小松菜」(22.7%)、「山東菜」(19.1%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、7項目すべて令和3年度を上回り、平成30年度に近い割合に戻っている。

性別で見ると、7項目すべてで女性が男性より多くなっており、「くわい」(女性66.6%、男性55.0%)は11.6ポイント、小松菜(女性26.1%、男性19.1%)は7ポイント、山東菜(女性22.0%、男性15.7%)は6.3ポイント、いちご(女性77.7%、男性71.9%)は5.8ポイント、チューリップ(女性15.0%、男性9.3%)は5.7ポイント、太郎兵衛もち(女性18.5%、男性14.1%)は4.4ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「いちご」は18～29歳(女性53.9%、男性49.1%)を除くすべての年齢で男女ともに7割以上、「ねぎ」は女性30歳代(57.5%)を除くすべての年齢で男女ともに6割以上、「くわい」は女性30歳代(45.1%)と男性30歳代・40歳代(45.2%、44.8%)を除くすべての年齢で男女ともに5割以上となっている。女性は7項目すべて、男性は18～29歳の「くわい」(67.3%)を除く6項目で、70歳以上が最も多くなっている。

図表7-1-2 性・年齢別 越谷の農業特産物の認知度

	調査数 (人)	いちご	ねぎ	くわい	小松菜	山東菜	太郎兵衛もち	チューリップ	その他	無回答
全体	2,717	74.4	69.3	60.7	22.7	19.1	16.4	12.3	2.6	4.2
女性全体	1,414	77.7	70.9	66.6	26.1	22.0	18.5	15.0	2.3	3.5
18～29歳	141	53.9	61.7	69.5	9.2	2.8	2.8	12.1	1.4	7.1
30～39歳	153	74.5	57.5	45.1	15.0	6.5	2.6	9.8	3.9	6.5
40～49歳	226	77.9	78.3	63.3	26.5	14.2	14.2	11.1	0.9	1.3
50～59歳	244	83.2	71.3	66.8	26.2	25.4	17.2	15.2	2.9	1.2
60～69歳	210	79.5	69.5	68.6	27.6	29.0	22.4	13.8	1.9	4.8
70歳以上	439	82.5	75.2	73.8	34.4	32.3	29.8	20.3	2.7	3.2
男性全体	1,200	71.9	68.6	55.0	19.1	15.7	14.1	9.3	3.0	3.7
18～29歳	110	49.1	68.2	67.3	16.4	4.5	9.1	9.1	2.7	1.8
30～39歳	126	71.4	66.7	45.2	11.1	8.7	10.3	5.6	3.2	3.2
40～49歳	201	73.6	70.1	44.8	15.9	7.5	10.0	10.0	4.5	3.5
50～59歳	227	73.1	68.3	50.2	15.4	15.0	10.1	7.5	2.2	3.5
60～69歳	201	76.6	65.7	59.2	22.9	16.4	14.9	7.5	3.0	2.5
70歳以上	333	75.4	70.9	61.9	25.2	27.0	21.9	12.6	2.7	4.8

(2) 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所

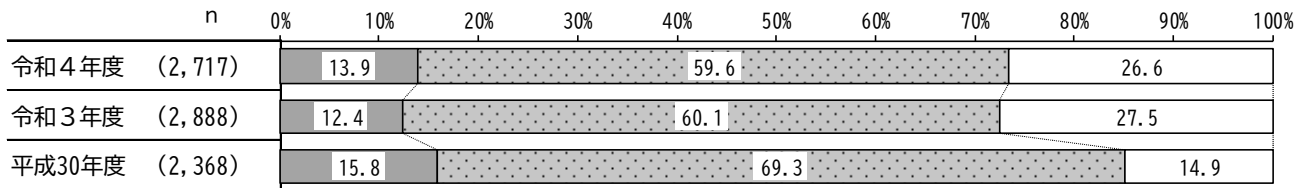
◇購入経験は「ねぎ」が6割強で最も多く、購入場所は品目による

問 24. あなたは、越谷を代表する農産物を購入したことがありますか。ある場合は、どこで購入しましたか。

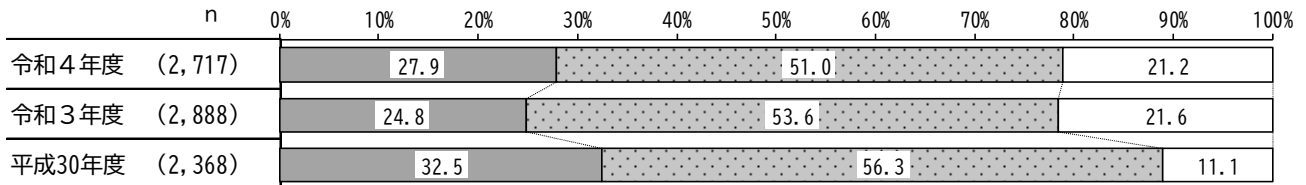
(ア～ク それぞれ横に○はいくつでも)

図表7-2-1 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所

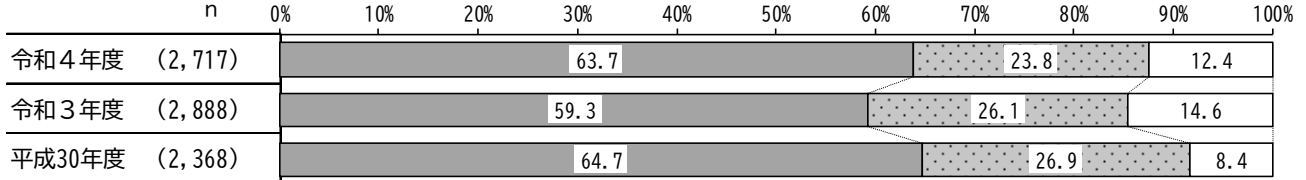
ア 太郎兵衛もち



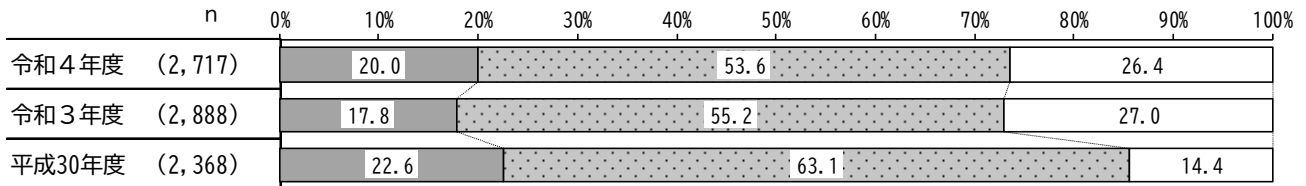
イ くわい



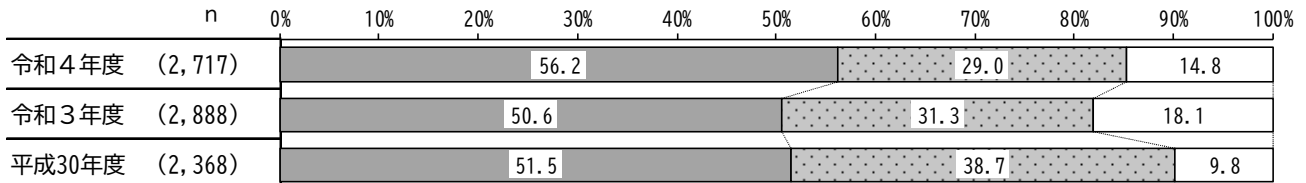
ウ ねぎ



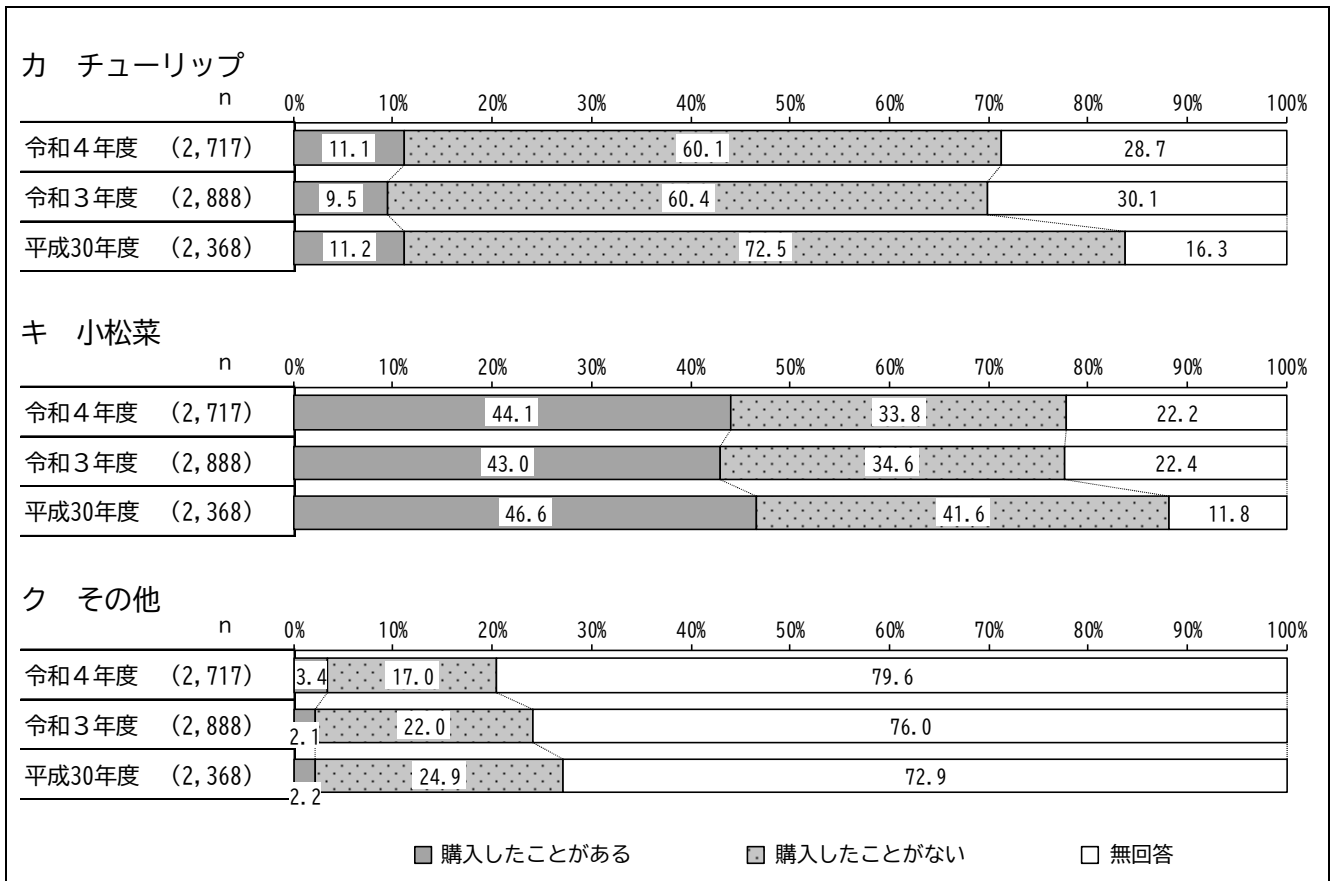
エ 山東菜



オ いちご



■ 購入したことがある ▨ 購入したことがない □ 無回答



越谷の農業特産物の購入経験については、「ねぎ」(63.7%)が最も多く、次いで、「いちご」(56.2%)、「小松菜」(44.1%)、「くわい」(27.9%)、「山東菜」(20.0%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、7項目すべてが令和3年度を上回り、「いちご」(令和3年度50.6%)は5.6ポイント、「ねぎ」(令和3年度59.3%)は4.4ポイント高くなっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

第4章 調査結果の詳細

購入した場所については、「市民まつりなどイベント」は「太郎兵衛もち」(6.6%)と「チューリップ」(3.6%)が、「農産物直売所」は「くわい」(10.3%)、「山東菜」(8.9%)、「いちご」(28.5%)、「チューリップ」(3.6%)が、「市内スーパーマーケット」は「ねぎ」(41.7%)、「小松菜」(32.9%)が最も多くなっている。

「太郎兵衛もち」について性別でみると、「購入したことがある」割合に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性70歳以上(24.6%)が2割半ばで最も多くなっている。また、男女とも70歳以上を除き「購入したことがない」が5割を超えている。

「くわい」について性別でみると、「購入したことがある」は女性(29.6%)が男性(25.8%)を3.8ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性60歳代(40.5%)が約4割で最も多くなっている。また、女性70歳以上(38.5%)、男性60歳代・70歳以上(30.3%、34.2%)も3割台となっている。一方、男女とも50歳代以下は「購入したことがない」が5割を超えている。

「ねぎ」について性別でみると、「購入したことがある」は女性(67.9%)が男性(59.8%)を8.1ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性40歳以上(73.5%、74.6%、70.5%、70.8%)で7割以上となっている。また、男女とも18~29歳(女性48.9%、男性42.7%)を除くすべての年齢で「購入したことがある」が5割を超えている。

「山東菜」について性別でみると、「購入したことがある」割合に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は男女ともに70歳以上(女性33.9%、男性31.5%)が3割台で多くなっている。一方、男女とも70歳以上を除くすべての年齢で「購入したことがない」が5割を超えている。

「いちご」について性別でみると、「購入したことがある」は女性(61.0%)が男性(52.4%)を8.6ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性50歳代(65.6%)が6割半ばで最も多く、女性30歳代以上、男性60歳代で6割台となっている。一方、「購入したことがない」は男性40歳代以下(48.2%、42.9%、41.8%)で4割を超えている。

「チューリップ」について性別でみると、「購入したことがある」割合に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性70歳以上(18.0%)が2割弱で最も多くなっている。また、男女とも70歳以上を除き「購入したことがない」が5割を超えている。

「小松菜」について性別でみると、「購入したことがある」は女性(51.1%)が男性(36.8%)を14.3ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性40歳代以上(53.1%、55.3%、57.1%、55.6%)で5割台となっている。一方、女性18~29歳(51.8%)、男性40歳代以下(56.4%、57.9%、51.2%)で「購入したことがない」が5割を超えている。

図表7-2-2 性・年齢別 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所

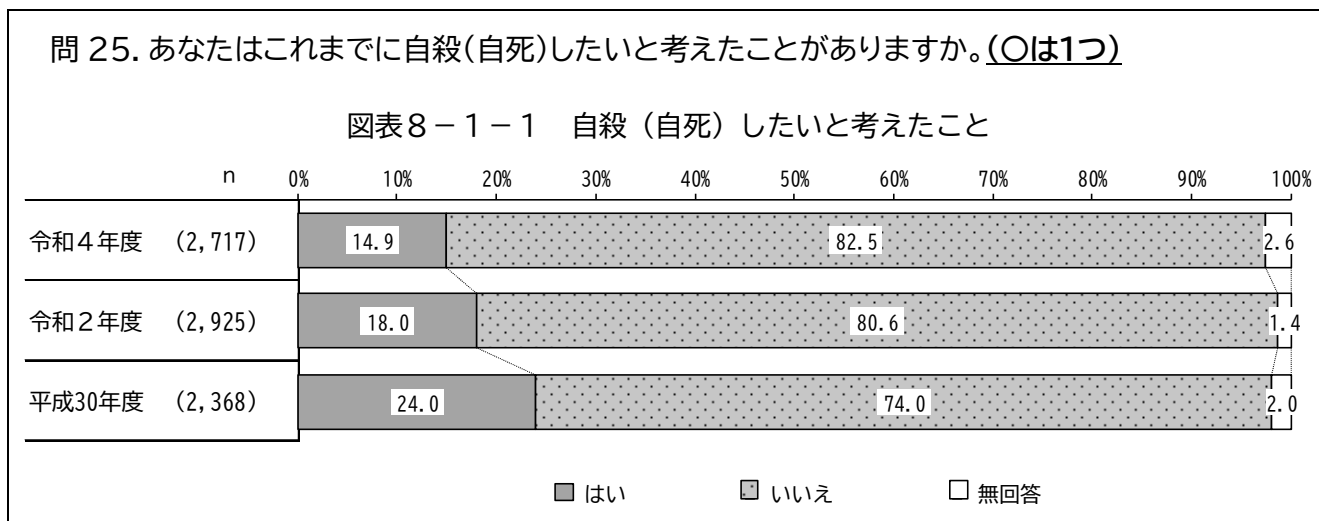
		ア 太郎兵衛もち								イ くわい								ウ ねぎ								エ 山東菜							
	調査数(人)	購入したことがある				購入したことがない				購入したことがある				購入したことがない				購入したことがある				購入したことがない											
		市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他												
全体	2,717	13.9	6.6	4.1	0.9	3.5	59.6	26.6	27.9	6.3	10.3	8.1	5.9	51.0	21.2	63.7	7.9	23.4	41.7	3.2	23.8	12.4	20.0	1.4	8.9	8.2	3.3	53.6	26.4				
女性全体	1,414	15.3	7.5	4.9	0.6	3.7	59.6	25.1	29.6	6.9	10.3	8.2	6.6	50.6	19.8	67.9	8.3	25.8	44.2	3.3	20.7	11.5	21.8	2.0	10.0	8.8	3.3	53.5	24.7				
18～29歳	141	2.8	1.4	0.7	-	0.7	79.4	17.7	18.4	7.1	2.8	4.3	5.7	67.4	14.2	48.9	2.1	8.5	39.0	3.5	38.3	12.8	4.3	-	-	2.1	2.1	75.2	20.6				
30～39歳	153	2.6	1.3	0.7	-	1.3	81.7	15.7	12.4	3.9	4.6	1.3	3.9	73.9	13.7	54.9	7.8	20.9	35.9	2.6	36.6	8.5	8.5	1.3	4.6	2.0	2.6	75.8	15.7				
40～49歳	226	11.5	5.3	4.4	0.4	2.2	71.7	16.8	23.9	6.2	7.1	6.6	5.8	60.6	15.5	73.5	8.4	29.6	49.6	3.1	21.2	5.3	17.3	-	5.8	7.5	4.4	64.2	18.6				
50～59歳	244	14.3	5.7	3.3	1.2	4.5	68.9	16.8	26.6	7.4	6.1	7.8	7.0	58.6	14.8	74.6	7.4	25.4	52.9	4.1	20.1	5.3	21.3	1.2	10.2	8.2	3.3	62.3	16.4				
60～69歳	210	18.6	9.5	7.1	0.5	3.3	52.4	29.0	40.5	6.2	15.7	12.4	8.1	36.7	22.9	70.5	9.5	27.6	41.4	1.9	15.7	13.8	23.3	3.3	13.8	6.2	1.0	50.0	26.7				
70歳以上	439	24.6	12.8	7.7	0.7	6.2	37.6	37.8	38.5	8.2	15.9	10.9	7.1	34.2	27.3	70.8	10.5	30.5	42.6	3.6	11.6	17.5	33.9	3.6	15.3	15.7	4.3	30.1	36.0				
男性全体	1,200	12.2	5.5	3.1	1.3	3.2	61.5	26.3	25.8	5.7	10.0	8.0	5.4	53.5	20.7	59.8	7.3	21.4	39.2	3.2	28.3	11.8	18.3	0.7	8.1	7.5	3.5	55.6	26.1				
18～29歳	110	5.5	0.9	0.9	0.9	2.7	76.4	18.2	18.2	1.8	5.5	8.2	6.4	67.3	14.5	42.7	4.5	13.6	32.7	1.8	42.7	14.5	7.3	-	-	5.5	1.8	73.6	19.1				
30～39歳	126	8.7	4.8	3.2	-	2.4	77.0	14.3	15.1	4.0	2.4	5.6	6.3	72.2	12.7	55.6	9.5	14.3	42.9	3.2	37.3	7.1	7.9	0.8	2.4	1.6	4.8	76.2	15.9				
40～49歳	201	10.0	4.0	2.5	1.0	2.5	71.6	18.4	18.4	2.5	6.0	4.5	6.5	65.2	16.4	52.2	4.5	17.4	37.3	2.5	38.8	9.0	12.9	-	3.5	5.5	4.0	67.2	19.9				
50～59歳	227	10.1	5.3	0.9	0.9	3.1	69.6	20.3	26.0	6.2	9.7	7.9	4.8	56.4	17.6	59.9	6.6	23.3	39.6	3.1	30.8	9.3	16.3	-	7.5	7.0	2.6	62.6	21.1				
60～69歳	201	12.9	4.5	3.0	1.5	5.5	55.7	31.3	30.3	4.0	11.9	10.4	6.5	45.8	23.9	67.7	7.5	21.9	42.3	5.5	21.4	10.9	16.9	-	10.0	5.5	2.0	51.2	31.8				
70歳以上	333	18.0	9.0	5.7	2.1	2.7	42.6	39.3	34.2	10.2	15.9	9.6	3.9	37.5	28.2	67.3	9.6	27.6	39.0	2.7	16.2	16.5	31.5	2.1	15.0	13.2	4.8	32.7	35.7				

		オ いちご				カ チューリップ								キ 小松菜				ク その他											
	調査数(人)	購入したことがある				購入したことがない				購入したことがある				購入したことがない				購入したことがある				購入したことがない							
		市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他								
全体	2,717	56.2	2.7	28.5	26.6	7.0	29.0	14.8	11.1	3.6	3.6	2.2	2.8	60.1	28.7	44.1	1.1	13.7	32.9	2.6	33.8	22.2	3.4	0.3	1.6	1.2	0.9	17.0	79.6
女性全体	1,414	61.0	2.6	31.8	29.3	6.9	26.0	13.0	12.5	4.5	3.7	2.3	3.0	60.3	27.2	51.1	1.1	16.3	39.0	2.3	28.9	19.9	3.5	0.2	1.6	1.3	1.0	13.7	82.8
18～29歳	141	46.8	0.7	17.7	27.7	7.1	38.3	14.9	7.8	4.3	1.4	0.7	2.1	73.0	19.1	29.8	-	4.3	26.2	2.1	51.8	18.4	1.4	-	-	0.7	0.7	30.5	68.1
30～39歳	153	60.1	6.5	28.8	28.8	11.8	34.0	5.9	5.9	3.3	0.7	1.3	0.7	78.4	15.7	40.5	0.7	14.4	32.7	2.0	48.4	11.1	2.6	-	0.7	1.3	1.3	19.0	78.4
40～49歳	226	63.3	2.2	31.9	33.2	9.3	28.8	8.0	10.6	4.4	1.8	1.8	2.7	69.9	19.5	53.1	-	18.6	40.3	2.7	32.3	14.6	4.4	-	2.7	1.3	0.9	17.7	77.9
50～59歳	244	65.6	2.5	31.6	33.2	7.8	29.9	4.5	10.7	3.7	2.0	2.0	3.3	70.9	18.4	55.3	0.8	15.6	43.0	2.5	32.0	12.7	2.9	-	1.2	1.2	1.2	14.3	82.8
60～69歳	210	63.8	1.4	42.4	22.4	3.8	18.1	18.1	13.3	4.3	5.7	2.4	2.4	57.6	29.0	57.1	1.9	22.9	38.6	1.4	21.0	21.9	3.3	0.5	1.0	1.0	1.4	9.5	87.1
70歳以上	439	60.6	2.7	32.3	29.4	4.8	19.6	19.8	18.0	5.5	6.6	3.4	4.3	40.1	41.9	55.6	2.1	16.9	42.8	2.5	15.0	29.4	4.3	0.5	2.3	1.6	0.7	5.9	89.7
男性全体	1,200	52.4	2.7	25.6	24.2	7.5	33.1	14.5	9.4	2.4	3.3	2.1	2.8	62.1	28.5	36.8	1.1	10.8	26.6	3.1	40.3	22.9	3.3	0.3	1.5	1.2	0.8	21.5	75.3
18～29歳	110	35.5	-	12.7	22.7	6.4	48.2	16.4	9.1	1.8	-	3.6	3.6	70.9	20.0	23.6	-	5.5	17.3	3.6	56.4	20.0	-	-	-	-	-	31.8	68.2
30～39歳	126	48.4	3.2	17.5	24.6	14.3	42.9	8.7	3.2	-	1.6	0.8	3.2	81.0	15.9	29.4	1.6	5.6	26.2	3.2	57.9	12.7	0.8	-	-	0.8	-	28.6	70.6
40～49歳	201	50.7	3.5	23.4	24.4	8.0	41.8	7.5	10.9	2.5	3.5	2.0	4.0	71.1	17.9	32.8	1.5	7.5	24.4	3.0	51.2	15.9	2.5	0.5	0.5	0.5	1.5	27.9	69.7
50～59歳	227	52.9	1.8	28.2	21.6	8.4	36.1	11.0	6.2	0.9	2.6	1.8	1.8	71.8	22.0	35.2	0.9	9.3	26.4	3.1	43.6	21.1	3.5	-	1.8	1.3	1.3	23.8	72.7
60～69歳	201	60.7	3.0	31.3	26.4	8.5	24.9	14.4	9.5	2.5	2.5	0.5	4.0	57.7	32.8	43.3	1.0	13.4	31.3	4.0	30.8	25.9	3.0	1.0	0.5	1.5	-	16.9	80.1
70歳以上	333	55.6	3.3	29.1	24.9	3.9	21.9	22.5	13.2	4.5	5.7	3.3	1.8	42.6	44.1	43.5	1.2	16.2	28.2	2.4	25.2	31.2	5.7	-	3.6	1.8	0.9	12.6	81.7

8. 自殺防止について

(1) 自殺（自死）したいと考えたこと

◇自殺（自死）したいと考えたことがあるのは1割半ば



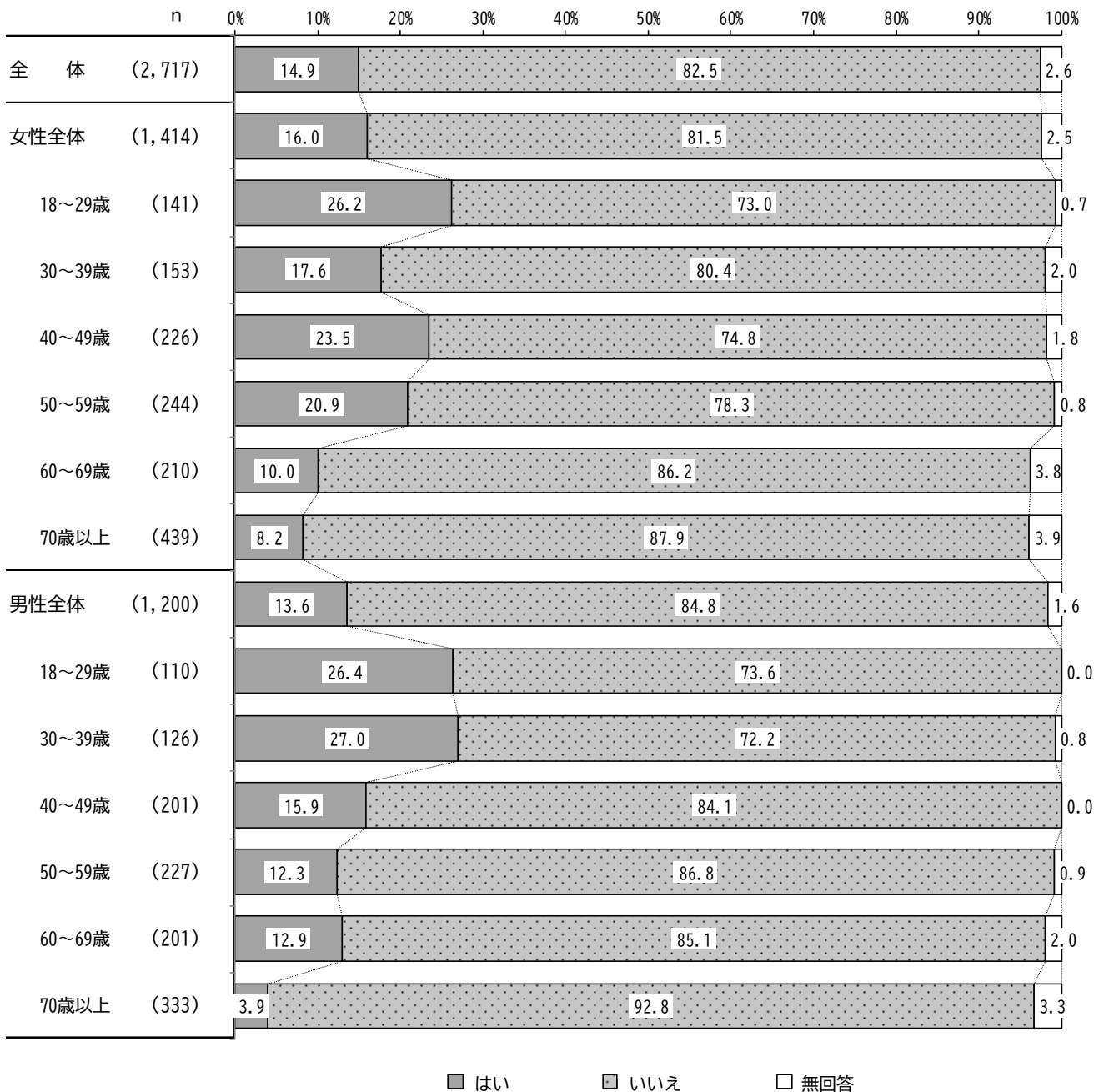
これまでに自殺（自死）したいと考えたことがあるか聞いたところ、「はい」（14.9％）は1割半ば、「いいえ」（82.5％）は8割強となっている。

過去2回の調査と比較すると、「はい」は調査ごとに下がっていく傾向にある。

性別で見ると、大きな差はみられない。

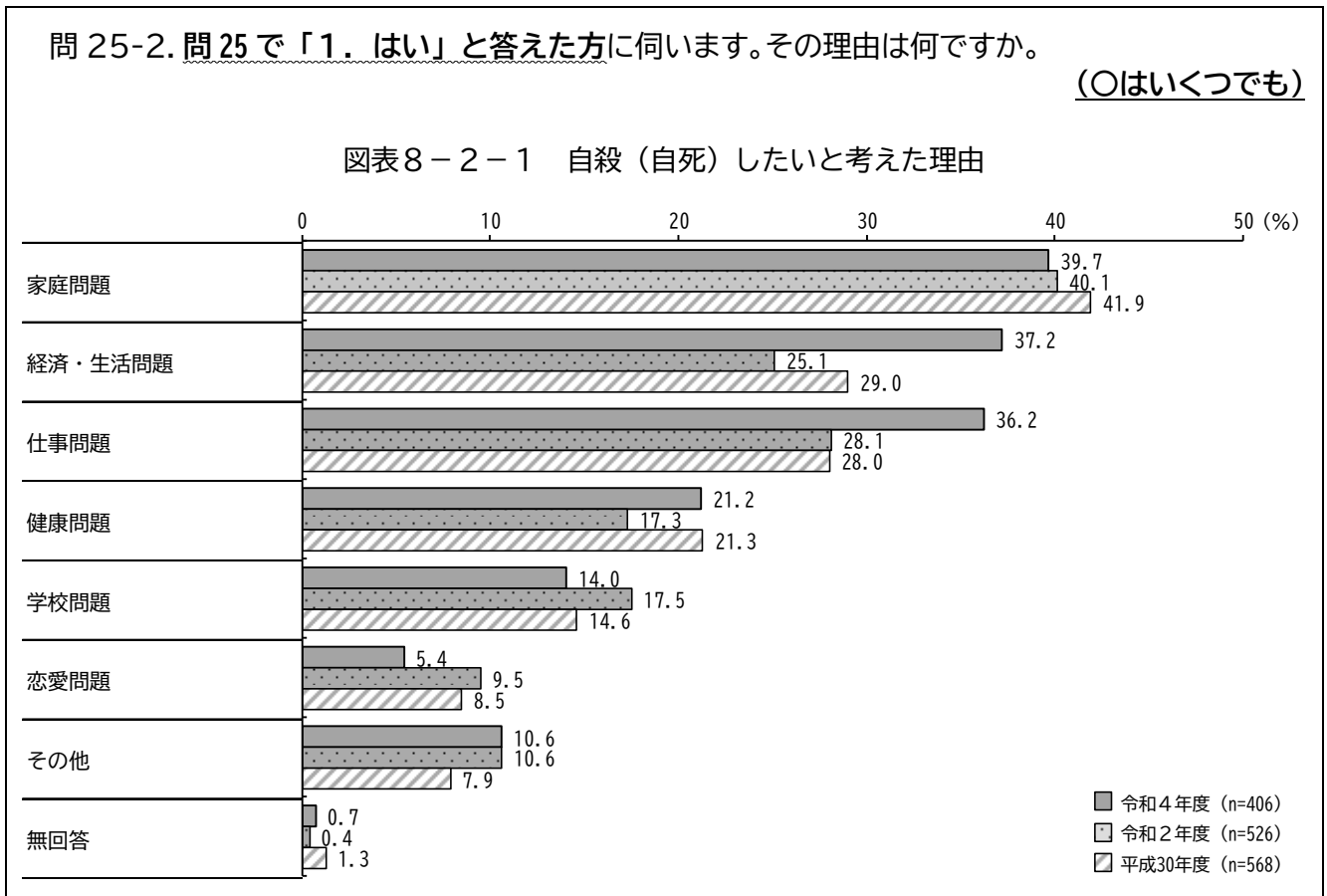
性・年齢別で見ると、「はい」は女性 18～29歳・40歳代・50歳代（26.2%、23.5%、20.9%）、男性 18～29歳・30歳代（26.4%、27.0%）で2割台となっている。

図表8-1-2 性・年齢別 自殺（自死）したいと考えたこと



(2) 自殺（自死）したいと考えた理由

◇「家庭問題」が約4割で最も多い



自殺（自死）したいと考えたことがあるかについて「はい」と回答した 406 人に、自殺（自死）したいと考えた理由を聞いたところ、「家庭問題」(39.7%)が最も多く、次いで「経済・生活問題」(37.2%)、「仕事問題」(36.2%)、「健康問題」(21.2%)、「学校問題」(14.0%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、令和2年度と比べ「経済・生活問題」(25.1%)は12.1ポイント、「仕事問題」(28.1%)は8.1ポイント、「健康問題」(17.3%)は3.9ポイント高くなっている。一方、「恋愛問題」は令和2年度(9.5%)と比べ4.1ポイント減少している。

性別でみると、「家庭問題」「健康問題」「恋愛問題」は女性（50.9%、23.0%、7.5%）が男性（23.9%、18.4%、3.1%）をそれぞれ27.0ポイント、4.6ポイント、4.4ポイント上回っている。一方、「仕事問題」「経済・生活問題」は男性（50.9%、40.5%）が女性（27.0%、34.5%）をそれぞれ23.9ポイント、6.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「家庭問題」は女性40歳代・50歳代（64.2%、60.8%）で6割を超えている。「経済・生活問題」は女性70歳以上（41.7%）と男性30歳代（41.2%）で約4割となっている。「仕事問題」は男性40歳代（78.1%）で8割弱、男性30歳代（64.7%）で6割半ばと多くなっている。「健康問題」は女性50歳代（43.1%）が4割強、「学校問題」は女性18～29歳（32.4%）が3割強と多くなっている。

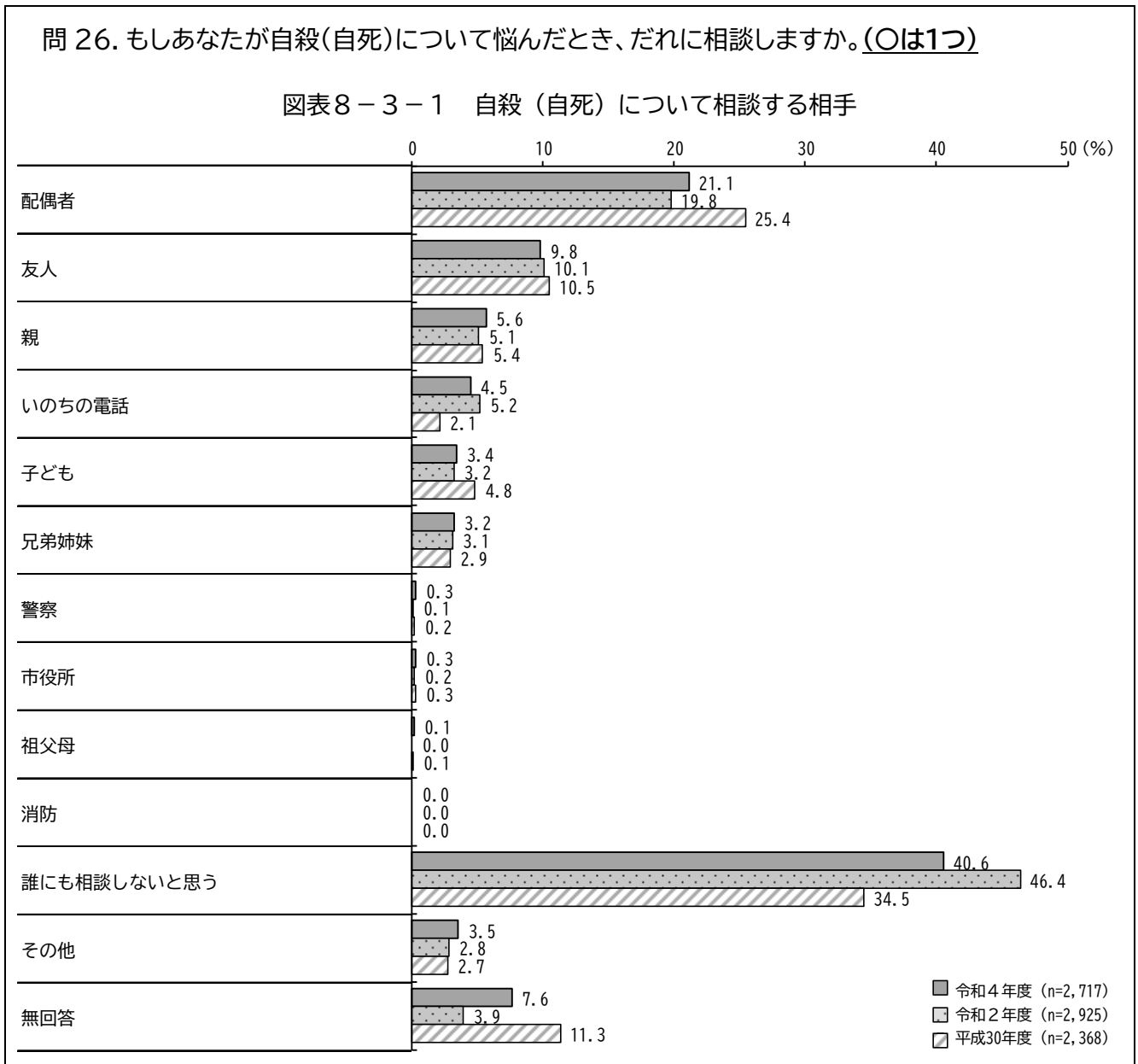
※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表8-2-2 性・年齢別 自殺（自死）したいと考えた理由

	調査数 (人)	家庭 問題	経済・ 生活 問題	仕事 問題	健康 問題	学校 問題	恋愛 問題	その 他	無 回 答
全 体	406	39.7	37.2	36.2	21.2	14.0	5.4	10.6	0.7
女性全体	226	50.9	34.5	27.0	23.0	15.0	7.5	13.7	0.9
18～29歳	37	32.4	27.0	51.4	10.8	32.4	13.5	10.8	-
30～39歳	27	40.7	29.6	40.7	25.9	22.2	7.4	14.8	-
40～49歳	53	64.2	37.7	17.0	20.8	20.8	11.3	5.7	-
50～59歳	51	60.8	35.3	31.4	43.1	5.9	5.9	11.8	-
60～69歳	21	38.1	33.3	9.5	23.8	4.8	-	23.8	-
70歳以上	36	52.8	41.7	8.3	8.3	2.8	2.8	25.0	5.6
男性全体	163	23.9	40.5	50.9	18.4	12.9	3.1	6.7	0.6
18～29歳	29	13.8	41.4	44.8	13.8	48.3	6.9	6.9	-
30～39歳	34	23.5	41.2	64.7	11.8	11.8	2.9	8.8	-
40～49歳	32	25.0	31.3	78.1	12.5	6.3	-	3.1	3.1
50～59歳	28	25.0	42.9	57.1	28.6	3.6	7.1	10.7	-
60～69歳	26	30.8	50.0	15.4	23.1	-	-	3.8	-
70歳以上	13	30.8	38.5	15.4	30.8	-	-	7.7	-

(3) 自殺（自死）について相談する相手

◇「配偶者」が約2割で最も多い



自殺（自死）について相談する相手を聞いたところ、「配偶者」（21.1%）が最も多く、次いで「友人」（9.8%）、「親」（5.6%）、「いのちの電話」（4.5%）の順となっている。一方、「誰にも相談しないと思う」（40.6%）は約4割を占めている。

過去2回の調査と比較すると、相談者の割合は令和2年度と概ね同様の傾向となっている。一方、「誰にも相談しないと思う」は令和2年度（46.4%）と比べ5.8ポイント減少している。

性別で見ると、「配偶者」は男性（26.1%）が女性（17.5%）を8.6ポイント上回っている。

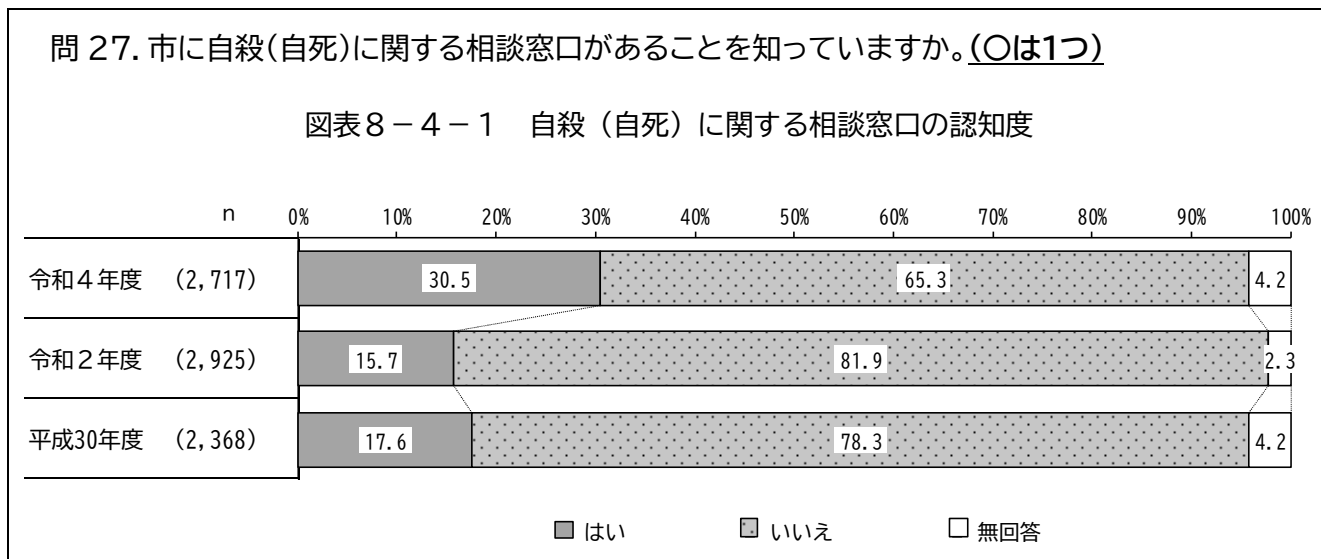
性・年齢別で見ると、「誰にも相談しないと思う」は男性60歳代（52.2%）で5割強と最も多く、女性40歳代・50歳代（44.7%、47.1%）、男性50歳代（47.1%）も4割台となっている。また、「配偶者」は男性50歳代（30.8%）で約3割、「友人」は男性18～29歳（22.7%）で2割強と多くなっている。「親」は18～29歳の男性（31.8%）、女性（22.0%）で2割を超えている。

図表8-3-2 性・年齢別 自殺（自死）について相談する相手

	調査数（人）	配偶者	友人	親	いのちの電話	子ども	兄弟姉妹	警察	市役所	祖父母	消防	誰にも相談しないと思う	その他	無回答
全体	2,717	21.1	9.8	5.6	4.5	3.4	3.2	0.3	0.3	0.1	-	40.6	3.5	7.6
女性全体	1,414	17.5	10.7	5.7	4.9	4.8	4.1	0.1	0.2	0.3	-	40.4	3.8	7.6
18～29歳	141	14.9	13.5	22.0	3.5	-	2.8	-	-	2.1	-	34.0	4.3	2.8
30～39歳	153	23.5	11.1	10.5	5.2	-	6.5	-	0.7	0.7	-	37.9	2.0	2.0
40～49歳	226	16.8	14.6	7.1	4.4	0.9	5.3	0.4	-	-	-	44.7	2.7	3.1
50～59歳	244	18.0	11.5	4.5	6.6	2.0	4.1	-	-	-	-	47.1	2.9	3.3
60～69歳	210	20.5	13.8	2.9	8.1	4.3	2.9	-	-	-	-	36.7	3.3	7.6
70歳以上	439	14.8	5.7	0.2	3.0	11.8	3.6	-	0.5	-	-	39.0	5.7	15.7
男性全体	1,200	26.1	8.8	5.9	3.9	1.7	2.3	0.4	0.3	-	-	42.0	3.2	5.5
18～29歳	110	6.4	22.7	31.8	0.9	-	1.8	-	-	-	-	33.6	1.8	0.9
30～39歳	126	30.2	15.1	8.7	3.2	-	1.6	-	0.8	-	-	36.5	1.6	2.4
40～49歳	201	28.9	11.9	8.0	6.5	-	1.5	0.5	-	-	-	39.3	2.0	1.5
50～59歳	227	30.8	4.4	3.5	3.1	-	1.8	0.4	-	-	-	47.1	6.2	2.6
60～69歳	201	23.4	6.5	0.5	5.5	2.0	3.0	-	-	-	-	52.2	2.5	4.5
70歳以上	333	27.9	4.2	-	3.3	4.8	3.0	0.9	0.9	-	-	38.7	3.3	12.9

(4) 自殺（自死）に関する相談窓口の認知度

◇「自殺（自死）に関する相談窓口を知っているのは約3割

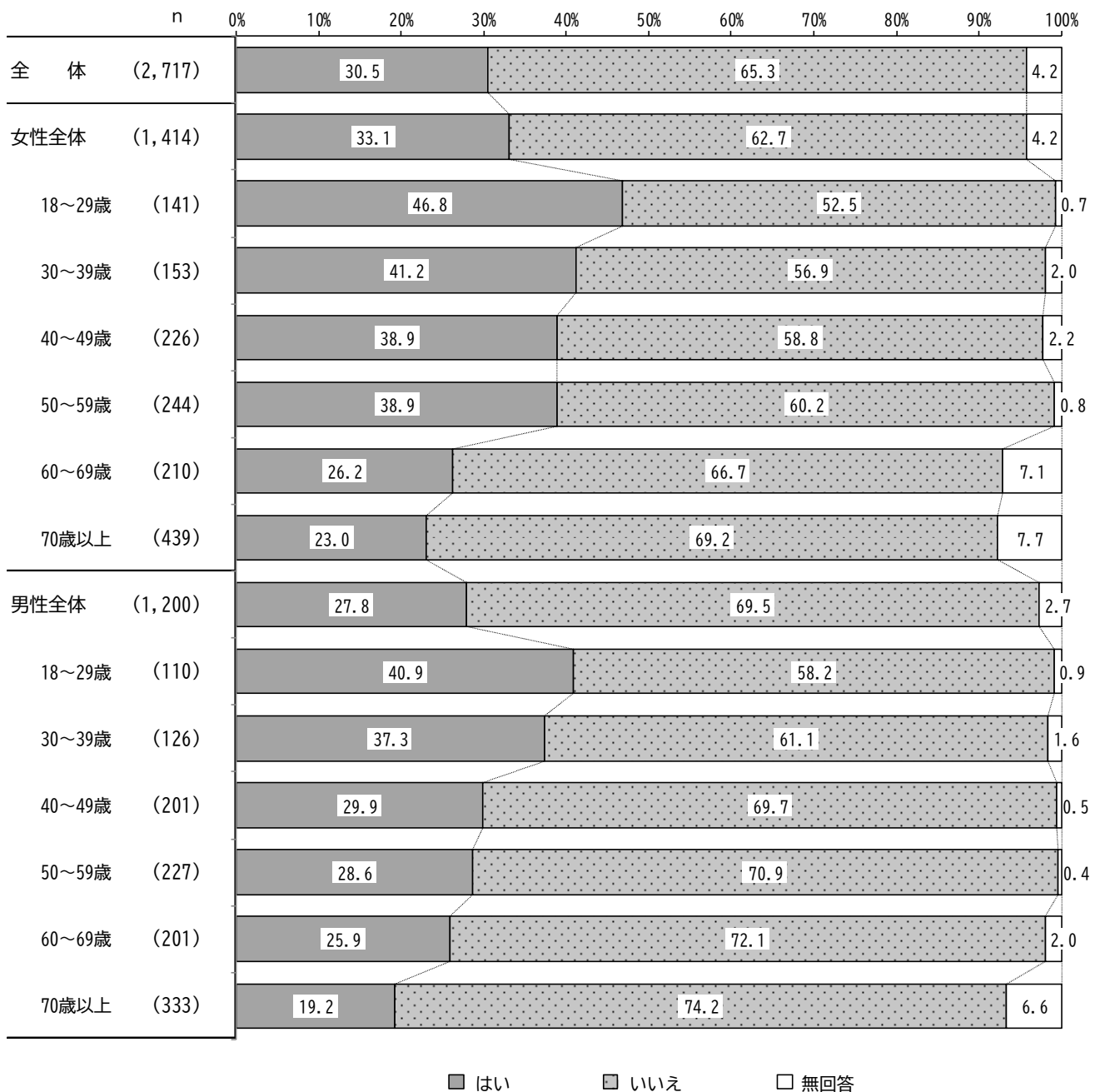


自殺（自死）に関する相談窓口を知っているか聞いたところ、「はい」（30.5％）は約3割、「いいえ」（65.3％）は6割半ばとなっている。

過去2回の調査と比較すると、「はい」は令和2年度（15.7％）と比べ14.8ポイント高くなっており、2倍近くの割合を占めている。

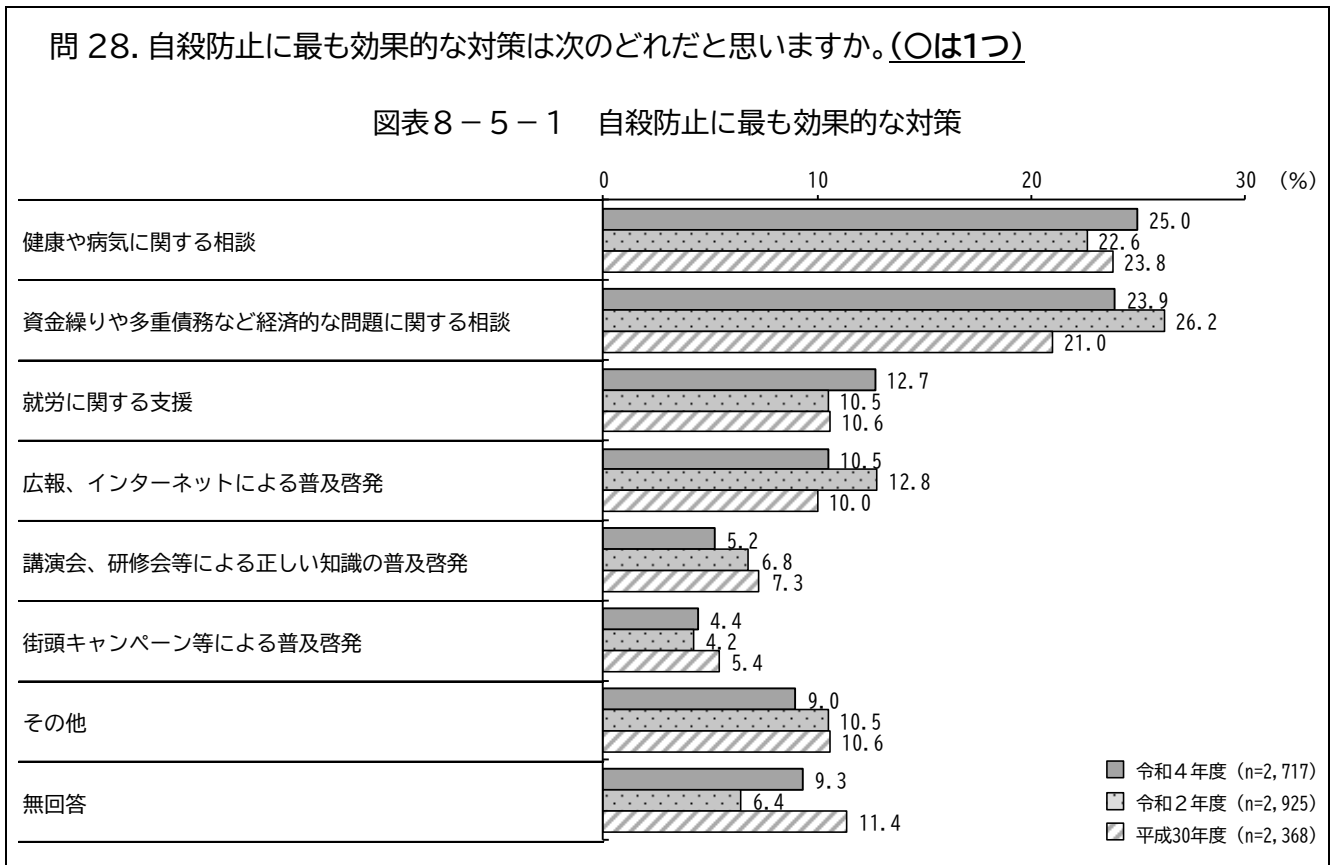
性別で見ると、「はい」は女性（33.1%）が男性（27.8%）を5.3ポイント上回っている。
 性・年齢別で見ると、「はい」は女性18～29歳・30歳代（46.8%、41.2%）、男性18～29歳（40.9%）で4割台と多くなっている。一方、「いいえ」は男性50歳以上（70.9%、72.1%、74.2%）で7割を超えている。

図表8-4-2 性・年齢別 自殺（自死）に関する相談窓口の認知度



(5) 自殺防止に最も効果的な対策

◇「健康や病気に関する相談」が2割半ばで最も多い



自殺防止に最も効果的な対策について聞いたところ、「健康や病気に関する相談」(25.0%)が最も多く、次いで「資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談」(23.9%)、「就労に関する支援」(12.7%)、「広報、インターネットによる普及啓発」(10.5%)、「講演会、研修会等による正しい知識の普及啓発」(5.2%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、令和2年度から項目ごとに増減はあるものの、概ね同様の傾向となっている。

性別で見ると、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、「健康や病気に関する相談」は女性70歳以上（31.7%）、男性60歳代・70歳以上（31.3%、39.0%）で、「資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談」は女性18～29歳・30歳代（30.5%、37.3%）、男性18～29歳・40歳代（30.0%、31.3%）で、「就労に関する支援」は女性18～29歳（32.6%）でそれぞれ3割台と多くなっている。

図表8-5-2 性・年齢別 自殺防止に最も効果的な対策

	調査数（人）	健康や病気に関する相談	資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談	就労に関する支援	広報、インターネットによる普及啓発	講演会、研修会等による正しい知識の普及啓発	街頭キャンペーン等による普及啓発	その他	無回答
全体	2,717	25.0	23.9	12.7	10.5	5.2	4.4	9.0	9.3
女性全体	1,414	23.6	24.0	12.4	11.5	5.0	4.8	8.5	10.3
18～29歳	141	9.9	30.5	32.6	11.3	2.1	2.8	7.8	2.8
30～39歳	153	15.7	37.3	17.6	9.8	3.3	3.3	8.5	4.6
40～49歳	226	18.1	27.9	17.7	13.3	2.2	7.1	8.4	5.3
50～59歳	244	23.4	28.3	7.4	15.2	2.5	5.7	11.9	5.7
60～69歳	210	27.6	13.8	10.0	12.9	7.1	7.6	7.6	13.3
70歳以上	439	31.7	17.8	5.2	8.7	8.4	3.0	7.1	18.2
男性全体	1,200	26.4	24.8	13.3	10.0	5.4	4.3	9.8	5.9
18～29歳	110	22.7	30.0	22.7	5.5	4.5	1.8	10.9	1.8
30～39歳	126	11.9	27.0	25.4	7.9	4.0	1.6	18.3	4.0
40～49歳	201	20.9	31.3	17.4	6.5	4.0	8.5	9.5	2.0
50～59歳	227	18.5	26.4	15.4	15.0	5.3	3.5	11.5	4.4
60～69歳	201	31.3	25.9	8.5	14.4	4.0	2.5	9.0	4.5
70歳以上	333	39.0	16.5	4.8	8.4	8.1	5.1	6.0	12.0

9. 地域医療体制について

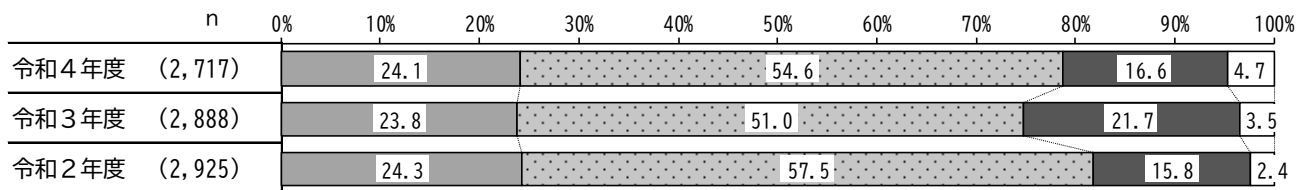
(1) 地域医療体制の認知度

◇認知度は「越谷市夜間急患診療所」が8割弱

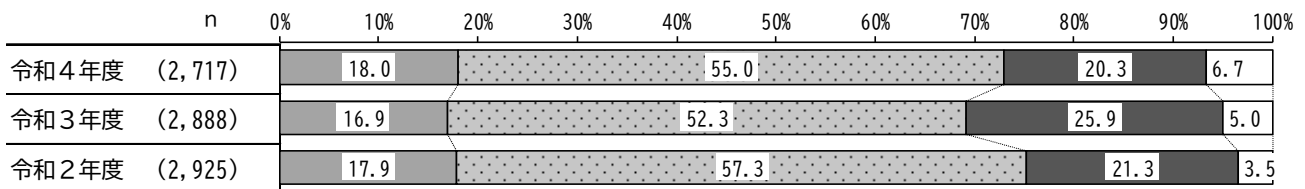
問 29. あなたは、「越谷市夜間急患診療所・休日当番医制度・埼玉県救急電話相談（#7119）・埼玉県AI救急相談」を知っていますか。（ア～エ それぞれ横に○は1つずつ）

図表9-1-1 地域医療体制の認知度

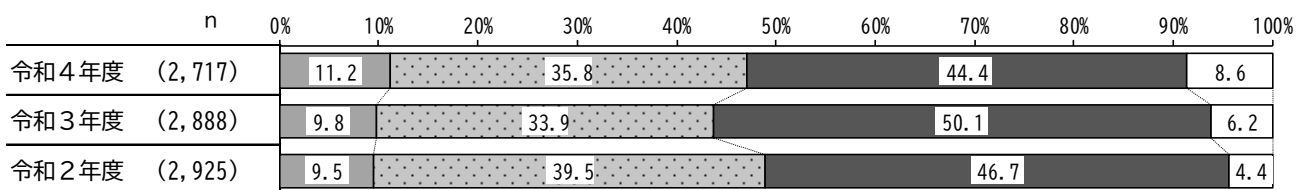
ア 越谷市夜間急患診療所



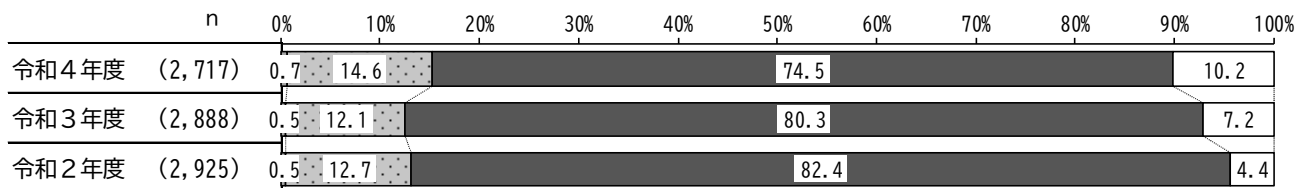
イ 休日当番医制度



ウ 埼玉県救急電話相談（#7119）



エ 埼玉県AI救急相談



■ 利用したことがある ■ 利用したことはないが知っている ■ 知らない □ 無回答

地域医療体制の認知度については、「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている」を合わせた『知っている』では、「越谷市夜間急患診療所」（78.7%）が最も多く、次いで「休日当番医制度」（73.0%）、「埼玉県救急電話相談（#7119）」（47.0%）、「埼玉県AI救急相談」（15.3%）となっている。また、「利用したことがある」では、「越谷市夜間急患診療所」（24.1%）が2割半ば、「休日当番医制度」（18.0%）が2割弱、「埼玉県救急電話相談（#7119）」（11.2%）が約1割、「埼玉県AI救急相談」（0.7%）が1割未満となっている。

過去2回の調査と比較すると、『知っている』は4項目すべてで令和3年度を上回っており、特に「越谷市夜間急患診療所」は令和3年度（74.8%）に比べ3.9ポイント、「休日当番医制度」は令和3年度（69.2%）に比べ3.8ポイント高くなっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

「越谷市夜間急患診療所」について性別で見ると、『知っている』は女性(83.0%)が男性(75.7%)を7.3ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、『知っている』は女性40歳代(92.0%)が9割強で最も多く、女性50歳代以上(88.5%、87.1%、81.8%)、男性50歳代(84.6%)で8割台となっている。一方、「知らない」は男性18~29歳(44.5%)で4割半ばと最も多く、女性18~29歳(36.2%)、男性30歳代(34.1%)でも3割台と多くなっている。

「休日当番医制度」について性別で見ると、『知っている』は女性(77.4%)が男性(70.0%)を7.4ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、『知っている』は女性40歳代~60歳代(85.8%、89.3%、86.2%)、男性50歳代・60歳代(80.6%、81.1%)で8割台となっている。一方、「知らない」は18~29歳の男性(60.9%)と女性(58.2%)が『知っている』(男性38.1%、女性41.1%)それぞれ上回って多くなっている。

「埼玉県救急電話相談(＃7119)」について性別で見ると、『知っている』は女性(54.2%)が男性(40.0%)を14.2ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、『知っている』は女性30歳代・40歳代(64.7%、65.0%)で6割台となっている。一方、男性はすべての年齢で『知っている』が5割未満と低くなっている。また、「知らない」は18~29歳の女性(63.1%)と男性(67.3%)ともに6割台となっており、男性は70歳以上(43.8%)を除くすべての年齢で5割を超えている。

「埼玉県A I救急相談」について性別で見ると、『知っている』は女性(15.0%)と男性(15.9%)の間に大きな差はみられない。また、「知らない」は女性(75.2%)、男性(76.1%)ともに7割半ばとなっている。

性・年齢別で見ると、『知っている』は男女ともにすべての年齢で1割台となっている。一方、「知らない」は男女ともに70歳以上(女性64.2%、男性62.8%)を除くすべての年齢で7割を超えている。

図表9-1-2 性・年齢別 地域医療体制の認知度

(%)

	調査数（人）	ア 越谷市夜間急患診療所				イ 休日当番医制度			
		利用したことがある	知っていたことは無いが	知らない	無回答	利用したことがある	知っていたことは無いが	知らない	無回答
全体	2,717	24.1	54.6	16.6	4.7	18.0	55.0	20.3	6.7
女性全体	1,414	24.9	58.1	12.8	4.2	20.0	57.4	16.1	6.4
18～29歳	141	12.8	50.4	36.2	0.7	7.8	33.3	58.2	0.7
30～39歳	153	30.1	46.4	21.6	2.0	26.1	38.6	33.3	2.0
40～49歳	226	45.6	46.5	6.2	1.8	35.8	50.0	10.2	4.0
50～59歳	244	35.2	53.3	9.8	1.6	31.1	58.2	8.6	2.0
60～69歳	210	21.4	65.7	9.0	3.8	16.2	70.0	7.6	6.2
70歳以上	439	12.3	69.5	9.1	9.1	9.3	69.0	8.0	13.7
男性全体	1,200	23.9	51.8	20.6	3.7	16.3	53.7	24.8	5.3
18～29歳	110	10.9	43.6	44.5	0.9	4.5	33.6	60.9	0.9
30～39歳	126	27.0	38.1	34.1	0.8	15.9	40.5	42.9	0.8
40～49歳	201	38.3	39.8	20.9	1.0	22.4	43.3	33.3	1.0
50～59歳	227	31.7	52.9	14.1	1.3	26.0	54.6	17.6	1.8
60～69歳	201	20.4	58.2	15.9	5.5	18.4	62.7	12.4	6.5
70歳以上	333	15.3	62.8	14.4	7.5	9.0	65.8	12.9	12.3

(%)

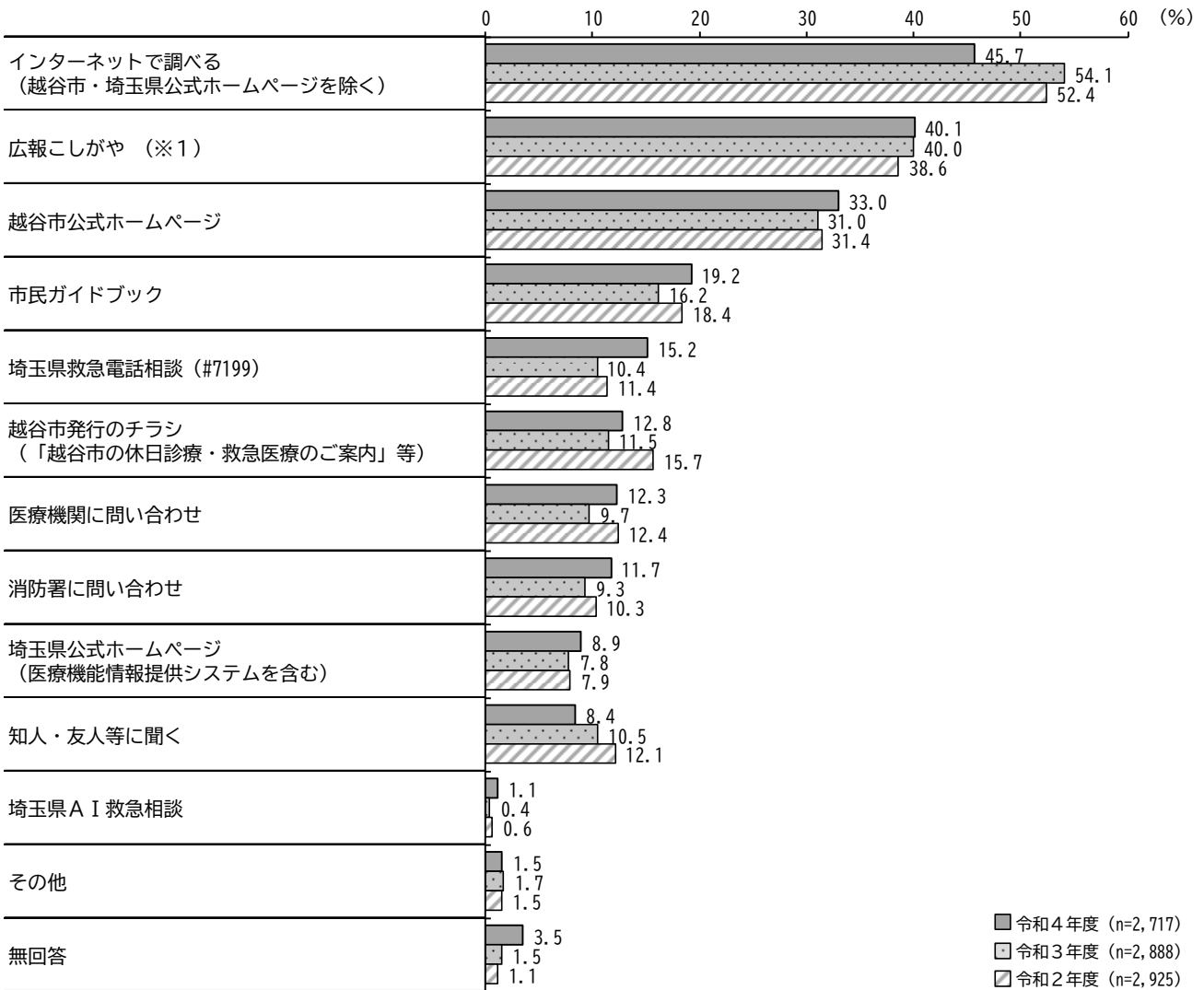
	調査数（人）	ウ 埼玉県救急電話相談（#7119）				エ 埼玉県AI救急相談			
		利用したことがある	知っていたことは無いが	知らない	無回答	利用したことがある	知っていたことは無いが	知らない	無回答
全体	2,717	11.2	35.8	44.4	8.6	0.7	14.6	74.5	10.2
女性全体	1,414	13.6	40.6	38.2	7.6	0.7	14.3	75.2	9.8
18～29歳	141	7.1	29.1	63.1	0.7	-	12.1	87.2	0.7
30～39歳	153	33.3	31.4	33.3	2.0	1.3	15.7	80.4	2.6
40～49歳	226	28.8	36.3	31.4	3.5	0.9	16.4	77.4	5.3
50～59歳	244	15.2	43.4	40.2	1.2	1.2	15.2	81.1	2.5
60～69歳	210	6.7	49.5	34.8	9.0	-	12.4	77.1	10.5
70歳以上	439	3.6	44.0	35.8	16.6	0.7	13.9	64.2	21.2
男性全体	1,200	8.9	31.1	52.4	7.6	0.7	15.2	76.1	8.1
18～29歳	110	-	31.8	67.3	0.9	-	17.3	81.8	0.9
30～39歳	126	16.7	23.8	58.7	0.8	1.6	15.9	81.7	0.8
40～49歳	201	15.9	27.4	54.2	2.5	-	13.4	84.6	2.0
50～59歳	227	11.0	31.7	54.6	2.6	0.9	14.1	82.8	2.2
60～69歳	201	6.5	32.8	50.2	10.4	1.0	12.9	75.6	10.4
70歳以上	333	4.8	34.5	43.8	16.8	0.6	17.4	62.8	19.2

(2) 医療機関の情報の入手方法

◇「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」が4割半ばで最も多い

問 30. あなたは、夜間や休日に利用できる医療機関の情報が必要な場合、どこから情報を入手しますか。次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

図表9-2-1 医療機関の情報の入手方法



(※1) 「広報こしがや」は令和2年度までは「広報こしがや『お知らせ版』」

医療機関の情報の入手方法については、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」(45.7%)が最も多く、次いで「広報こしがや」(40.1%)、「越谷市公式ホームページ」(33.0%)、「市民ガイドブック」(19.2%)、「埼玉県救急電話相談 (#7199)」(15.2%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」は令和3年度(54.1%)に比べ8.4ポイント下回っている一方、「埼玉県救急電話相談 (#7199)」は令和3年度(10.4%)に比べ4.8ポイント上回っている。また、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」「知人・友人等に聞く」以外の9項目は令和3年度から増加傾向にある。

第4章 調査結果の詳細

性別で見ると、「埼玉県救急電話相談（#7199）」（女性17.8%、男性12.0%）は5.8ポイント、「越谷市発行のチラシ（「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等）」（女性15.3%、男性10.3%）は5.0ポイント、「広報こしがや」（女性42.4%、男性37.6%）は4.8ポイント、女性が男性を上回っている。一方、「越谷市公式ホームページ」（男性36.1%、女性31.7%）は4.4ポイント、男性が女性を上回っている。

性・年齢別で見ると、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」は女性18～29歳（72.3%）で7割強と多く、女性30歳代（60.1%）、男性50歳代以下（63.6%、60.3%、66.2%、61.2%）で6割台となっている。「越谷市公式ホームページ」は、女性40歳代（53.5%）が5割強と最も高く、女性30歳代・50歳代（46.4%、45.1%）、男性30歳代～50歳代（40.5%、49.8%、46.3%）で4割を超えている。また、「広報こしがや」「市民ガイドブック」「越谷市発行のチラシ（「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等）」は年齢が上がるにつれて割合が多くなる傾向にある。

図表9-2-2 性・年齢別 医療機関の情報の入手方法

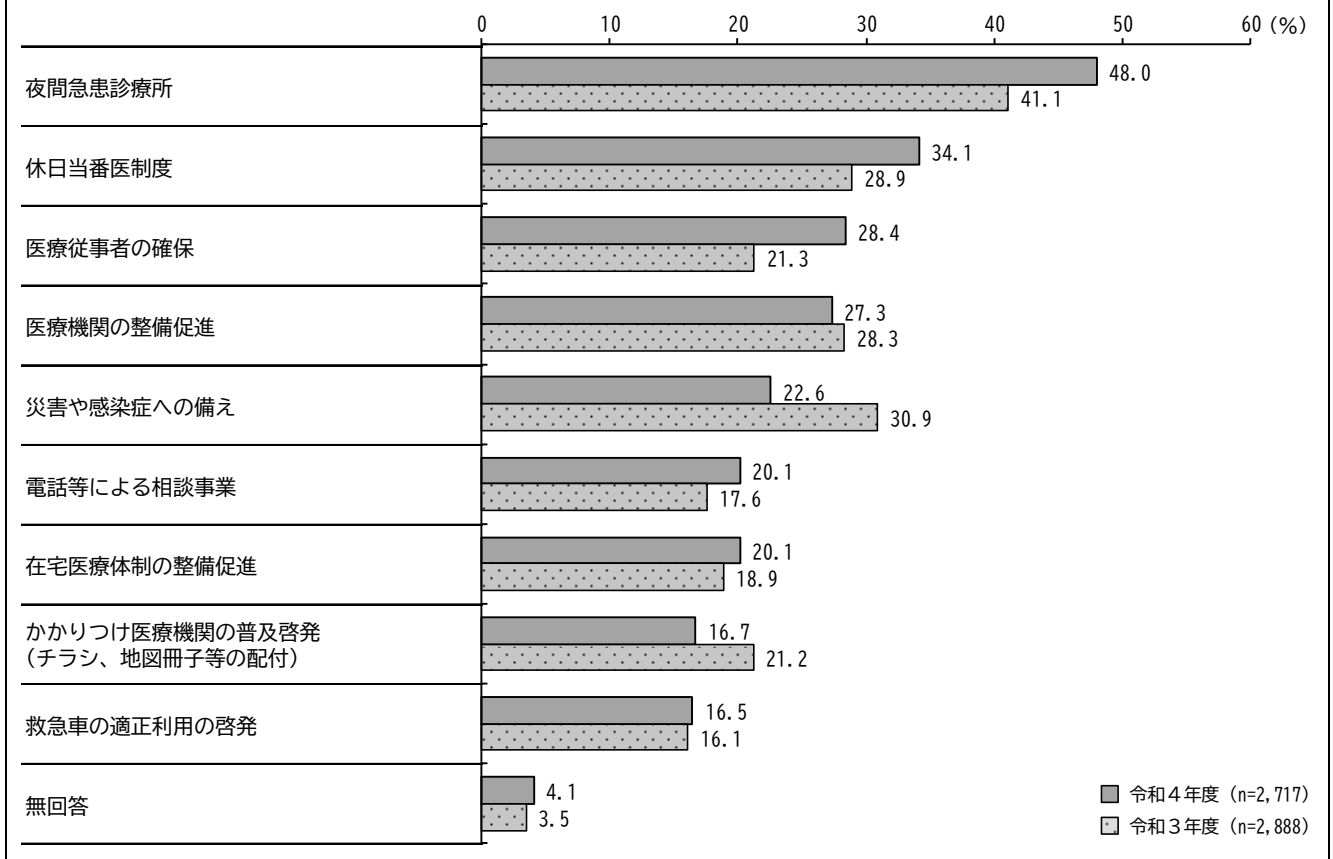
	調査数（人）	埼玉県公式ホームページで調べる（越谷市・	広報こしがや	越谷市公式ホームページ	市民ガイドブック	埼玉県救急電話相談（#7199）	越谷市発行のチラシ（「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等）	医療機関に問い合わせ	消防署に問い合わせ	埼玉県公式ホームページ（医療機能情報システムを含む）	知人・友人等に聞く	埼玉県A I救急相談	その他	無回答
全体	2,717	45.7	40.1	33.0	19.2	15.2	12.8	12.3	11.7	8.9	8.4	1.1	1.5	3.5
女性全体	1,414	45.0	42.4	31.7	19.7	17.8	15.3	12.5	11.5	8.6	9.6	1.3	1.8	3.4
18～29歳	141	72.3	9.9	30.5	4.3	11.3	2.8	14.2	5.0	12.8	13.5	2.1	0.7	2.1
30～39歳	153	60.1	15.7	46.4	8.5	24.2	11.1	7.8	4.6	15.7	7.8	3.3	-	3.9
40～49歳	226	58.0	32.7	53.5	10.2	15.5	10.2	7.1	4.0	13.3	5.3	-	-	1.3
50～59歳	244	59.4	46.3	45.1	18.4	13.9	15.6	12.3	11.1	11.5	6.1	0.8	1.2	0.4
60～69歳	210	44.3	54.8	25.7	25.7	14.3	19.5	14.3	12.9	6.7	9.5	1.4	1.4	4.3
70歳以上	439	16.6	59.0	11.2	31.4	22.6	21.4	15.7	19.6	1.6	13.2	1.4	4.3	5.9
男性全体	1,200	48.4	37.6	36.1	18.9	12.0	10.3	12.3	11.4	10.0	7.0	0.9	1.3	2.2
18～29歳	110	63.6	11.8	31.8	3.6	7.3	0.9	15.5	5.5	15.5	13.6	2.7	0.9	2.7
30～39歳	126	60.3	18.3	40.5	6.3	13.5	4.0	16.7	4.8	18.3	8.7	-	0.8	1.6
40～49歳	201	66.2	24.9	49.8	11.9	11.9	6.5	9.0	4.5	12.4	2.0	-	0.5	1.0
50～59歳	227	61.2	38.8	46.3	16.7	7.0	7.0	11.0	5.7	11.0	4.4	0.4	0.9	0.9
60～69歳	201	41.3	48.3	36.8	24.9	9.5	13.9	9.0	17.4	7.0	5.5	-	3.0	1.5
70歳以上	333	23.7	54.1	20.4	30.9	18.0	18.0	14.7	20.4	4.8	9.9	2.1	1.2	3.9

(3) 特に力を入れる必要がある地域医療関連事業

◇「夜間急患診療所」が5割弱で最も多い

問 31. 地域医療に関する事業のうち、あなたが特に力を入れる必要があると思うことは何ですか。
(○は3つまで)

図表9-3-1 特に力を入れる必要がある地域医療関連事業



地域医療に関して、特に力を入れる必要がある事業は、「夜間急患診療所」(48.0%)が最も多く、次いで、「休日当番医制度」(34.1%)、「医療従事者の確保」(28.4%)、「医療機関の整備促進」(27.3%)、「災害や感染症への備え」(22.6%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「医療従事者の確保」「夜間急患診療所」「休日当番医制度」は令和3年度(21.3%、41.1%、28.9%)と比べそれぞれ7.1ポイント、6.9ポイント、5.2ポイント上回っている一方、「災害や感染症への備え」「かかりつけ医療機関の普及啓発(チラシ、地図冊子等の配付)」は令和3年度(30.9%、21.2%)に比べ8.3ポイント、4.5ポイント下回っている。

性別でみると、「在宅医療体制の整備促進」(女性 23.1%、男性 17.0%)は 6.1 ポイント、「災害や感染症への備え」(女性 25.2%、男性 20.5%)は 4.7 ポイント、女性が男性を上回っている。一方、「医療機関の整備促進」は男性 (29.8%) が女性 26.0%) を 3.8 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「夜間急患診療所」は男女ともにすべての年齢で4割を超え、最も多くなっており、「休日当番医制度」も女性 18～29 歳・70 歳以上 (24.1%、29.4%) を除くすべての年齢で男女ともに3割を超えている。また「夜間急患診療所」「休日当番医制度」「医療従事者の確保」「医療機関の整備促進」の4項目は、女性 30 歳代・40 歳代、男性 50 歳代以下の年齢でいずれも3割を超えている。

図表9-3-2 性・年齢別 特に力を入れる必要がある地域医療関連事業

	調査数(人)	夜間急患診療所	休日当番医制度	医療従事者の確保	医療機関の整備促進	災害や感染症への備え	電話等による相談事業	在宅医療体制の整備促進	かかりつけ医療機関の普及啓発 (チラシ、地図冊子等の配付)	救急車の適正利用の啓発	無回答
全体	2,717	48.0	34.1	28.4	27.3	22.6	20.1	20.1	16.7	16.5	4.1
女性全体	1,414	46.9	33.2	28.6	26.0	25.2	21.4	23.1	15.9	15.7	3.8
18～29歳	141	46.8	24.1	34.0	34.8	27.7	21.3	10.6	13.5	18.4	1.4
30～39歳	153	50.3	35.9	31.4	32.0	24.8	22.2	10.5	15.0	13.7	2.6
40～49歳	226	48.7	42.9	35.0	31.9	28.3	16.8	17.3	8.8	12.8	2.7
50～59歳	244	45.5	34.0	34.8	29.9	27.0	21.7	27.0	17.6	11.9	1.2
60～69歳	210	45.2	33.8	28.6	25.2	24.3	24.3	26.2	13.8	15.7	3.8
70歳以上	439	46.2	29.4	19.4	16.2	22.3	22.1	31.0	20.7	19.1	7.1
男性全体	1,200	50.0	35.7	29.1	29.8	20.5	18.8	17.0	17.7	17.0	3.0
18～29歳	110	43.6	30.9	34.5	30.9	26.4	18.2	5.5	8.2	25.5	4.5
30～39歳	126	50.0	35.7	42.1	38.9	24.6	14.3	10.3	10.3	14.3	1.6
40～49歳	201	49.3	40.3	40.3	30.8	18.4	16.4	13.9	9.5	16.9	0.5
50～59歳	227	50.2	38.8	36.6	35.7	20.3	21.1	13.2	14.1	14.1	2.6
60～69歳	201	52.2	37.8	20.4	30.3	17.4	20.9	22.9	22.4	13.4	2.0
70歳以上	333	51.4	31.2	15.6	21.0	20.1	19.2	24.3	28.2	19.5	5.1

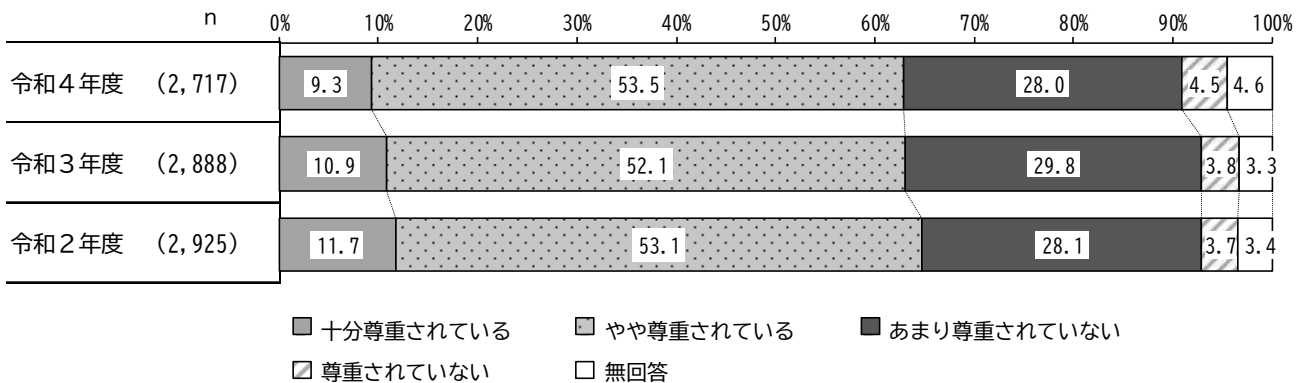
10. 人権全般に関する意識について

(1) 基本的人権の意識

◇『尊重されている』が6割強

問 32. あなたは、今の日本社会において、どのくらい基本的人権が尊重されていると思いますか。
(〇は1つ)

図表 10-1-1 基本的人権の意識



今の日本社会における基本的人権の意識については、「やや尊重されている」(53.5%)が最も多く、「十分尊重されている」(9.3%)を合わせた『尊重されている』(62.8%)は6割強となっている。一方、「あまり尊重されていない」(28.0%)と「尊重されていない」(4.5%)を合わせた『尊重されていない』(32.5%)は3割強となっている。

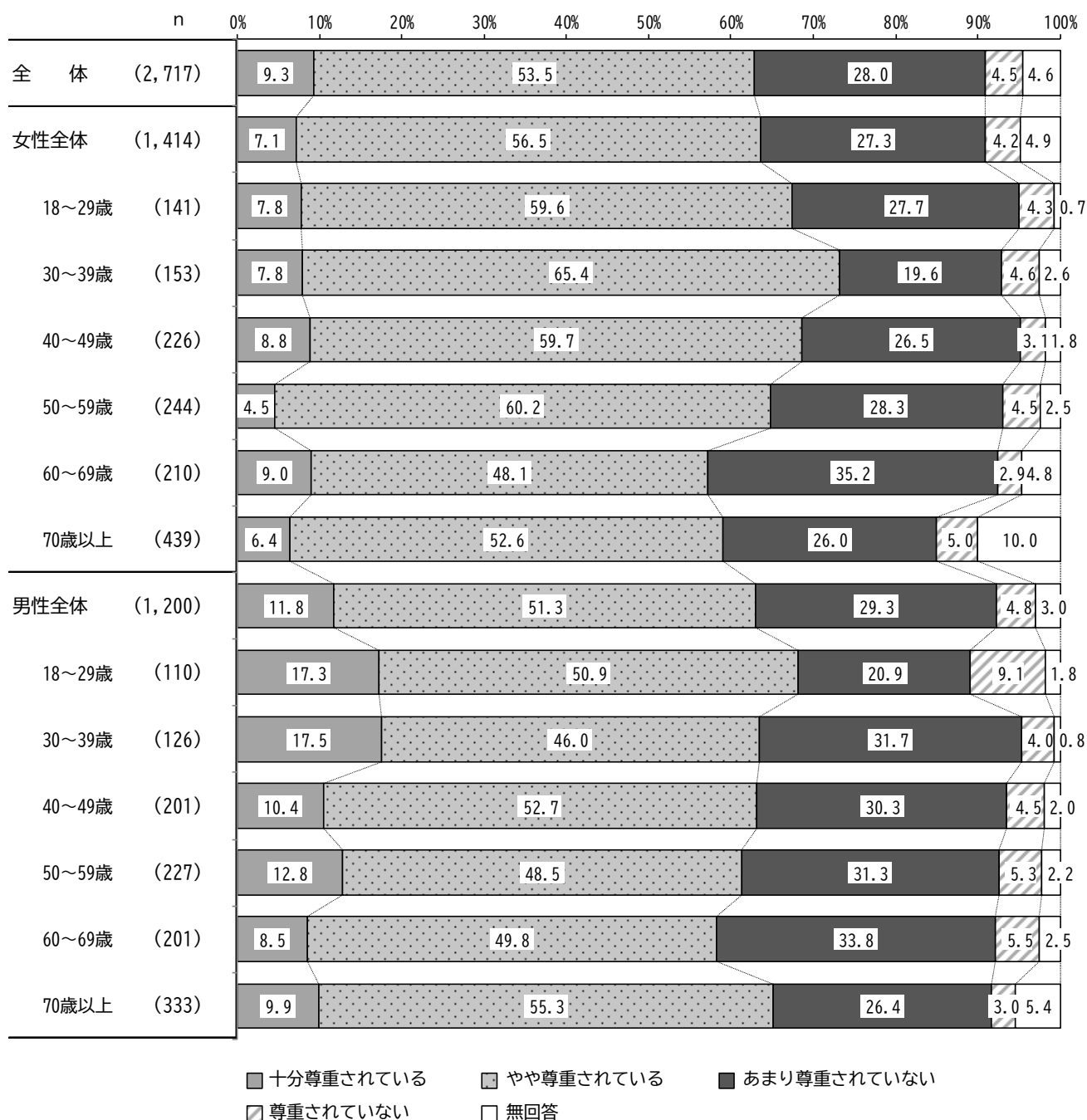
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

性別で見ると、「十分尊重されている」は男性（11.8%）が女性（7.1%）を4.7ポイント上回っており、「やや尊重されている」は女性（56.5%）が男性（51.3%）を5.2ポイント上回っているが、『尊重されている』は大きな差はみられない。

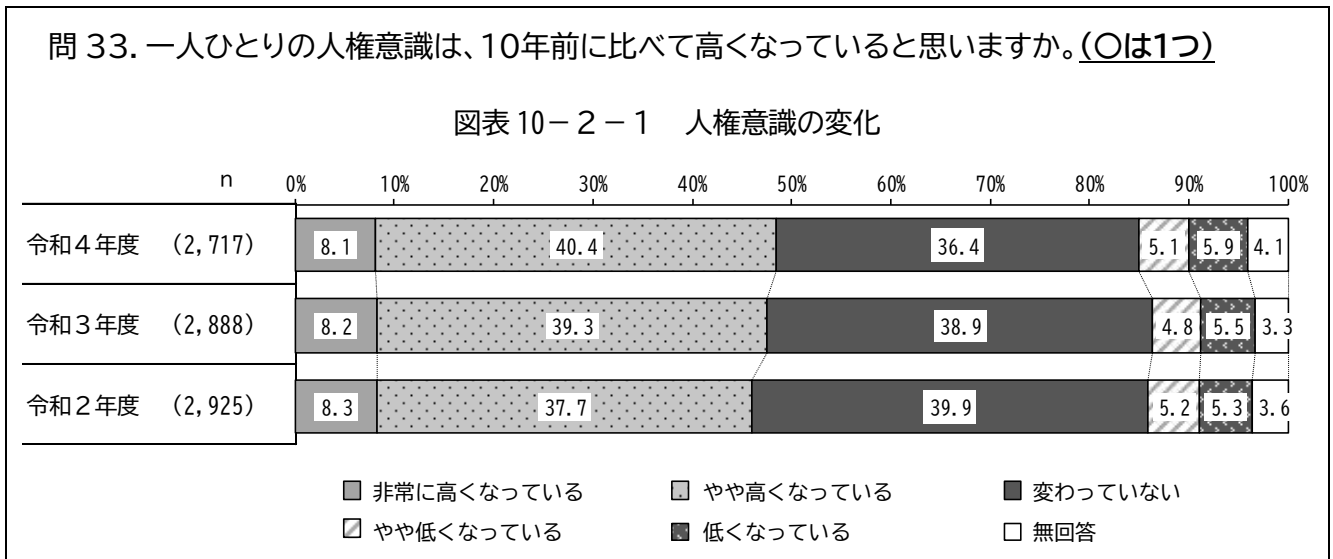
性・年齢別で見ると、『尊重されている』は男女ともにすべての年齢で5割を超えており、特に女性30歳代（73.2%）は7割強を占め多くなっている。一方『尊重されていない』は女性30歳代（24.2%）、男性70歳以上（29.4%）を除いたすべての年齢で男女ともに3割台となっている。

図表 10-1-2 性・年齢別 基本的人権の意識



(2) 人権意識の変化

◇『高くなっている』が5割弱



10年前と比べた人権意識の変化については、「やや高くなっている」(40.4%)が最も多く、次いで「変わっていない」(36.4%)、「非常に高くなっている」(8.1%)、「低くなっている」(5.9%)、「やや低くなっている」(5.1%)となっている。「非常に高くなっている」と「やや高くなっている」を合わせた『高くなっている』(48.5%)は5割弱となっている。一方、「やや低くなっている」と「低くなっている」を合わせた『低くなっている』(11.1%)は約1割となっている。

過去2回の調査と比較すると、令和3年度と概ね同様の傾向となっている。

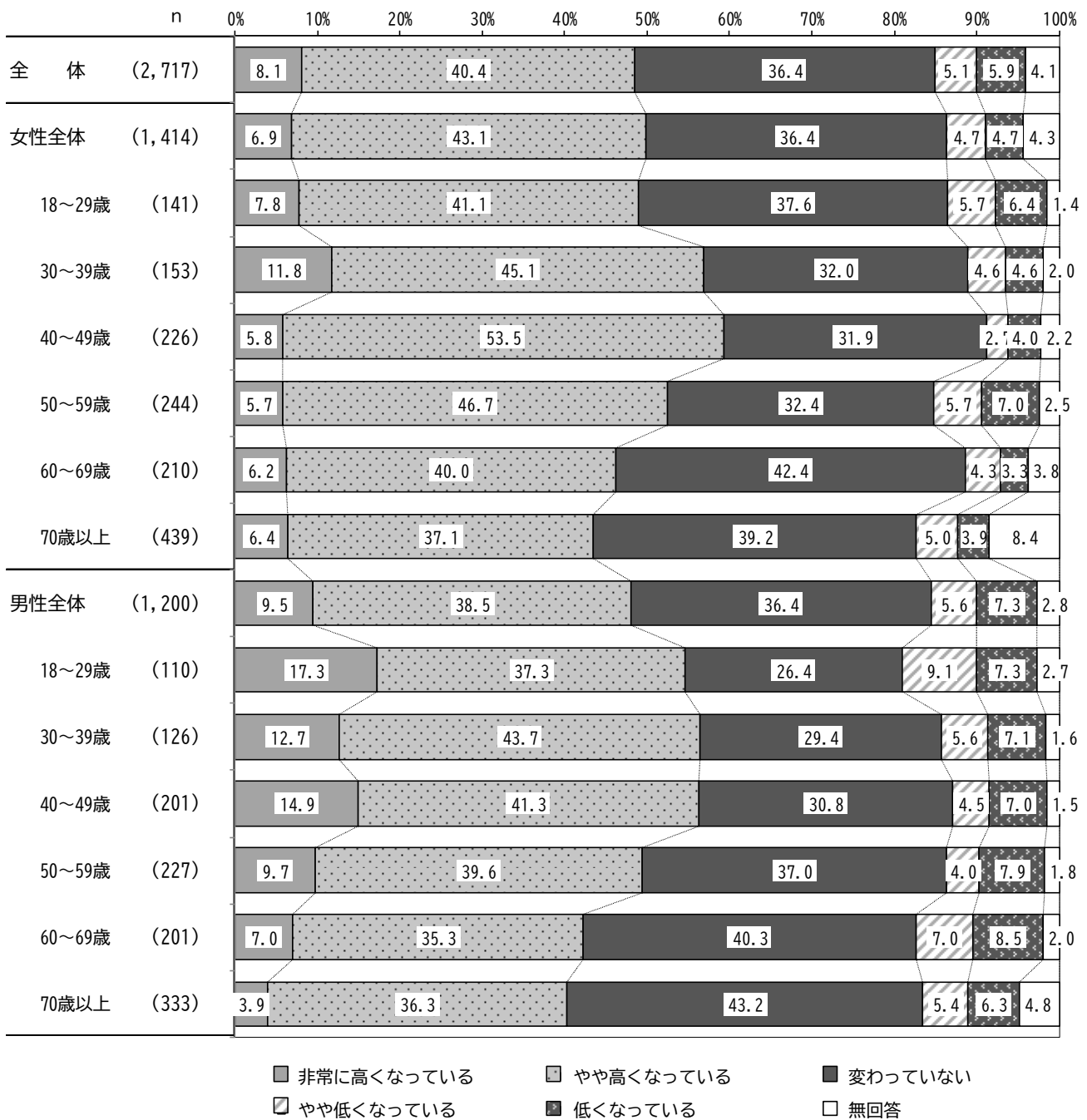
※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

第4章 調査結果の詳細

性別でみると、「やや高くなっている」は女性（43.1%）が男性（38.5%）を4.6ポイント上回っているが、『高くなっている』は大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『高くなっている』は女性30歳代～50歳代（56.9%、59.3%、52.4%）と男性40歳代以下（54.6%、56.4%、56.2%）で5割を超えている。一方、『低くなっている』は最も高い男性18～29歳（16.4%）を含め、すべての年齢で男女ともに2割未満となっている。

図表10-2-2 性・年齢別 人権意識の変化

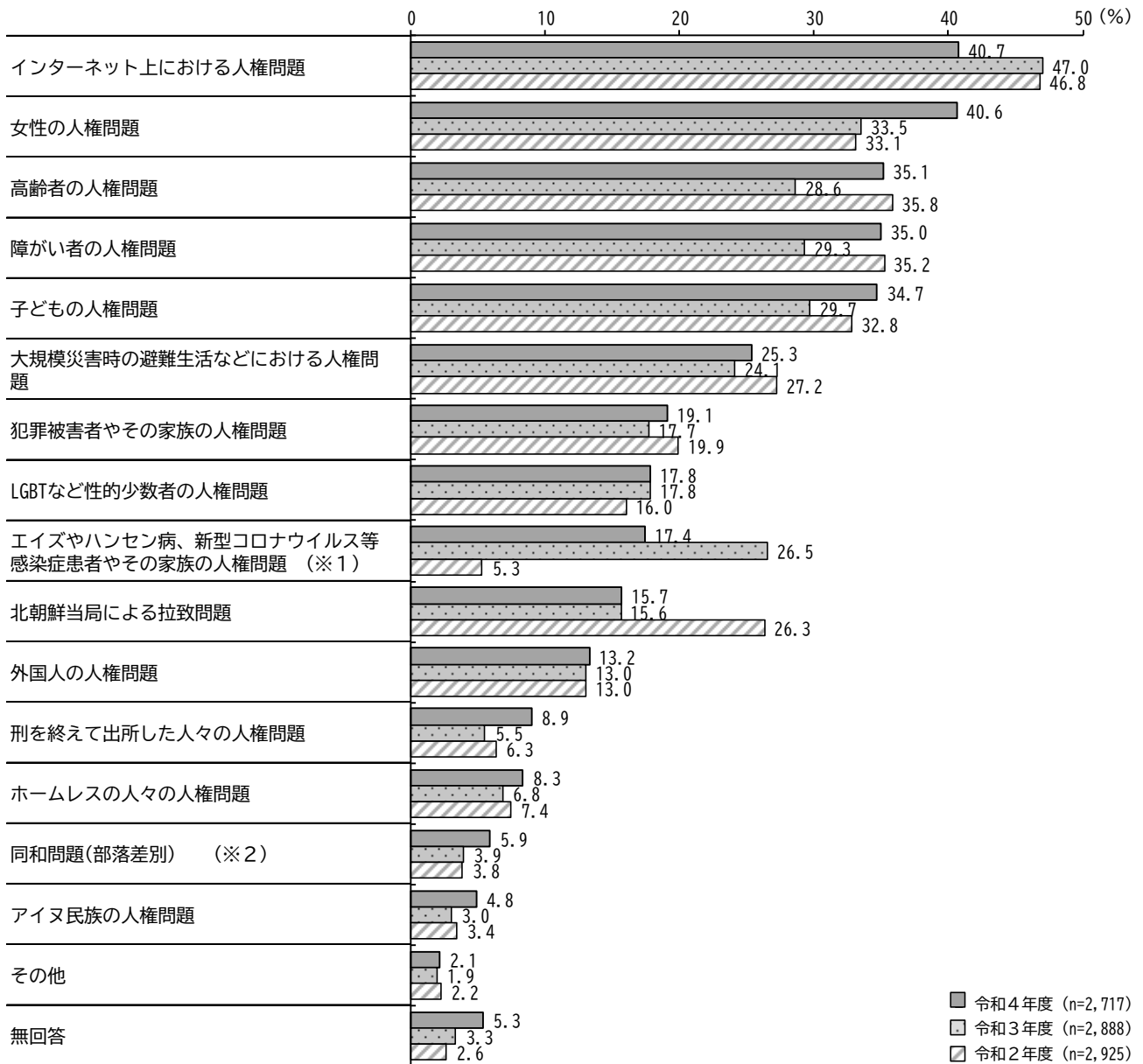


(3) 関心のある人権問題

◇「インターネット上における人権問題」が約4割で最も多い

問 34. 今の日本の社会に様々な人権問題がありますが、あなたが関心のあるものはどれですか。
(○はいくつでも)

図表 10-3-1 関心のある人権問題



(※1) 令和2年度までの選択肢は「エイズやハンセン病等感染症患者の人権問題」

(※2) 令和2年度までの選択肢は「同和問題」

関心のある人権問題については、「インターネット上における人権問題」(40.7%)が最も多く、次いで「女性の人権問題」(40.6%)、「高齢者の人権問題」(35.1%)、「障がい者の人権問題」(35.0%)、「子どもの人権問題」(34.7%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「女性の人権問題」「高齢者の人権問題」「障がい者の人権問題」「子どもの人権問題」は令和3年度(33.5%、28.6%、29.3%、29.7%)に比べ5ポイント以上上回っている。一方、「エイズやハンセン病、新型コロナウイルス等感染症患者やその家族の人権問題」「インターネット上における人権問題」は令和3年度(26.5%、47.0%)に比べそれぞれ9.1ポイント、6.3ポイント下回っている。

第4章 調査結果の詳細

性別で見ると、「女性の人権問題」は女性（48.3%）が男性（32.6%）を15.7ポイント、「子どもの人権問題」は女性（37.6%）が男性（32.0%）を5.6ポイント上回っている。一方で、「インターネット上における人権問題」は男性（43.3%）が女性（39.3%）を4ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「インターネット上における人権問題」は女性30歳代・50歳代（52.3%、51.6%）、男性40歳代（56.2%）で5割台となっている。また、「女性の人権問題」は50歳以下の女性（58.2%、64.1%、56.6%、53.7%）で5割を超えており、特に30歳代は6割半ばを占めている。

「高齢者の人権問題」は70歳以上の女性（57.6%）と男性（57.4%）ともに6割弱と多く、「子どもの人権問題」も30歳代の女性（61.4%）、男性（50.8%）と5割以上で多くなっている。

図表10-3-2 性・年齢別 関心のある人権問題

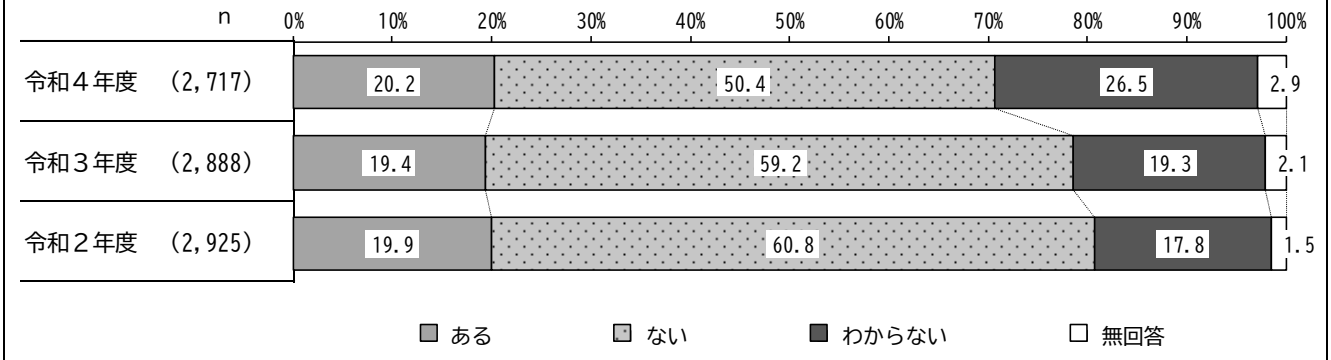
	調査数（人）	インターネット上における人権問題	女性の人権問題	高齢者の人権問題	障がい者の人権問題	子どもの人権問題	大規模災害時の避難生活などにおける人権問題	犯罪被害者やその家族の人権問題	LGBTなど性的少数者の人権問題	エイズやハンセン病、新型コロナウイルス感染症患者やその家族の人権問題	北朝鮮当局による拉致問題	外国人の人権問題	刑を終えて出所した人々の人権問題	ホームレスの人々の人権問題	同和問題（部落差別）	アイヌ民族の人権問題	その他	無回答
全体	2,717	40.7	40.6	35.1	35.0	34.7	25.3	19.1	17.8	17.4	15.7	13.2	8.9	8.3	5.9	4.8	2.1	5.3
女性全体	1,414	39.3	48.3	36.2	34.7	37.6	26.1	17.9	19.9	18.1	14.9	12.0	8.3	7.4	5.5	4.1	1.9	5.1
18～29歳	141	46.1	58.2	9.9	29.8	41.8	12.8	12.1	43.3	14.2	7.1	16.3	8.5	3.5	6.4	3.5	2.8	1.4
30～39歳	153	52.3	64.1	14.4	30.1	61.4	20.3	15.0	32.7	17.6	5.9	16.3	6.5	6.5	3.3	4.6	2.6	2.0
40～49歳	226	48.2	56.6	18.1	32.3	42.0	22.6	19.0	27.4	17.3	8.4	11.9	4.9	4.0	6.2	3.5	0.9	3.1
50～59歳	244	51.6	53.7	34.0	34.4	37.3	29.9	22.1	18.9	18.0	14.8	12.3	10.2	8.6	4.9	4.1	2.0	2.0
60～69歳	210	38.1	47.1	47.1	40.5	42.9	25.2	21.9	14.8	19.0	17.6	11.4	9.5	9.0	7.1	5.2	2.4	3.8
70歳以上	439	21.9	32.8	57.6	36.7	23.5	32.6	15.9	7.1	19.6	22.8	9.3	8.9	9.3	5.2	3.9	1.6	10.7
男性全体	1,200	43.3	32.6	32.8	35.7	32.0	25.0	21.1	16.5	16.3	16.9	14.8	9.8	9.7	6.4	5.9	2.3	4.4
18～29歳	110	48.2	37.3	10.9	34.5	26.4	15.5	25.5	33.6	19.1	11.8	21.8	16.4	10.0	6.4	6.4	2.7	3.6
30～39歳	126	48.4	39.7	14.3	30.2	50.8	25.4	24.6	28.6	14.3	13.5	16.7	10.3	9.5	7.9	7.1	5.6	2.4
40～49歳	201	56.2	34.8	19.4	33.8	32.3	24.9	24.4	20.4	17.4	10.9	14.4	10.4	8.5	4.5	6.0	2.5	2.5
50～59歳	227	47.1	29.5	22.0	29.5	31.3	27.8	21.6	14.1	14.5	15.4	15.9	8.4	9.7	10.1	6.2	3.5	4.8
60～69歳	201	46.3	31.8	41.3	41.3	32.8	26.9	18.9	12.9	14.9	17.9	17.9	9.0	11.9	7.5	6.5	1.5	3.0
70歳以上	333	27.6	29.7	57.4	40.2	26.7	25.2	17.4	7.8	17.4	24.0	9.3	8.4	9.0	3.9	4.8	0.6	6.9

(4) 人権侵害を感じたこと

◇人権が侵害されたと感じたことが「ある」は約2割

問 35. あなたは、日常生活の中であなた自身またはあなたの周りの人の人権が侵害されたと感じたことはありますか。(〇は1つ)

図表 10-4-1 人権侵害を感じたこと



日常生活の中で、自身や周りの人の人権が侵害されたと感じたことがあるかを聞いたところ、「ある」(20.2%)が約2割、「ない」(50.4%)が約5割となっている。

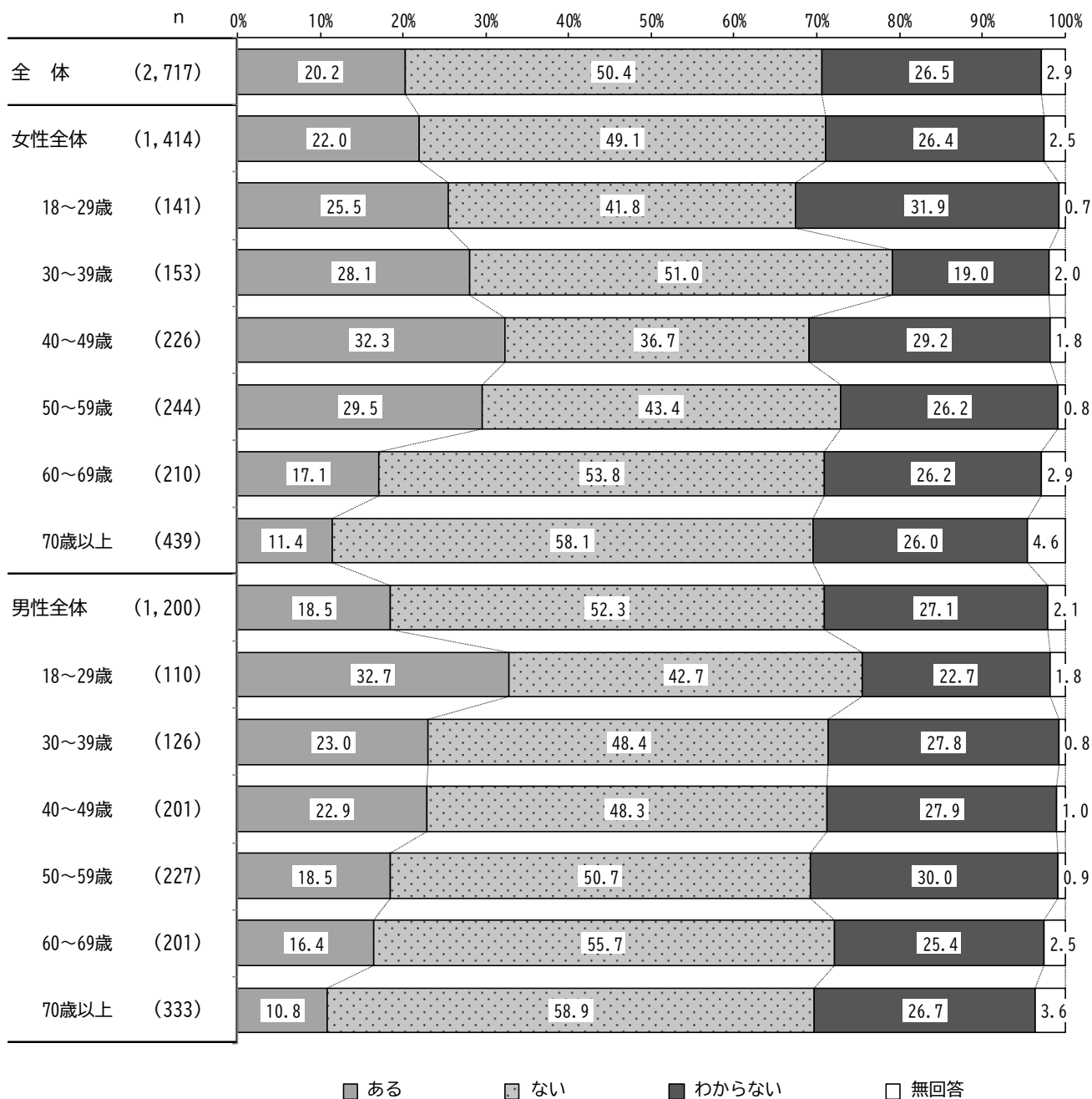
過去2回の調査と比較すると、「ない」は令和3年度(59.2%)に比べ8.8ポイント下回っている一方、「わからない」は令和3年(19.3%)比較して7.2ポイント上回っている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

性別で見ると、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、「ある」は女性40歳代（32.3%）、男性18～29歳（32.7%）で3割強を占めて多く。女性60歳代・70歳以上（17.1%、11.4%）、男性50歳代以上（18.5%、16.4%、10.8%）を除いたすべての年齢で男女ともに2割を超えている。

図表 10-4-2 性・年齢別 人権侵害を感じたこと

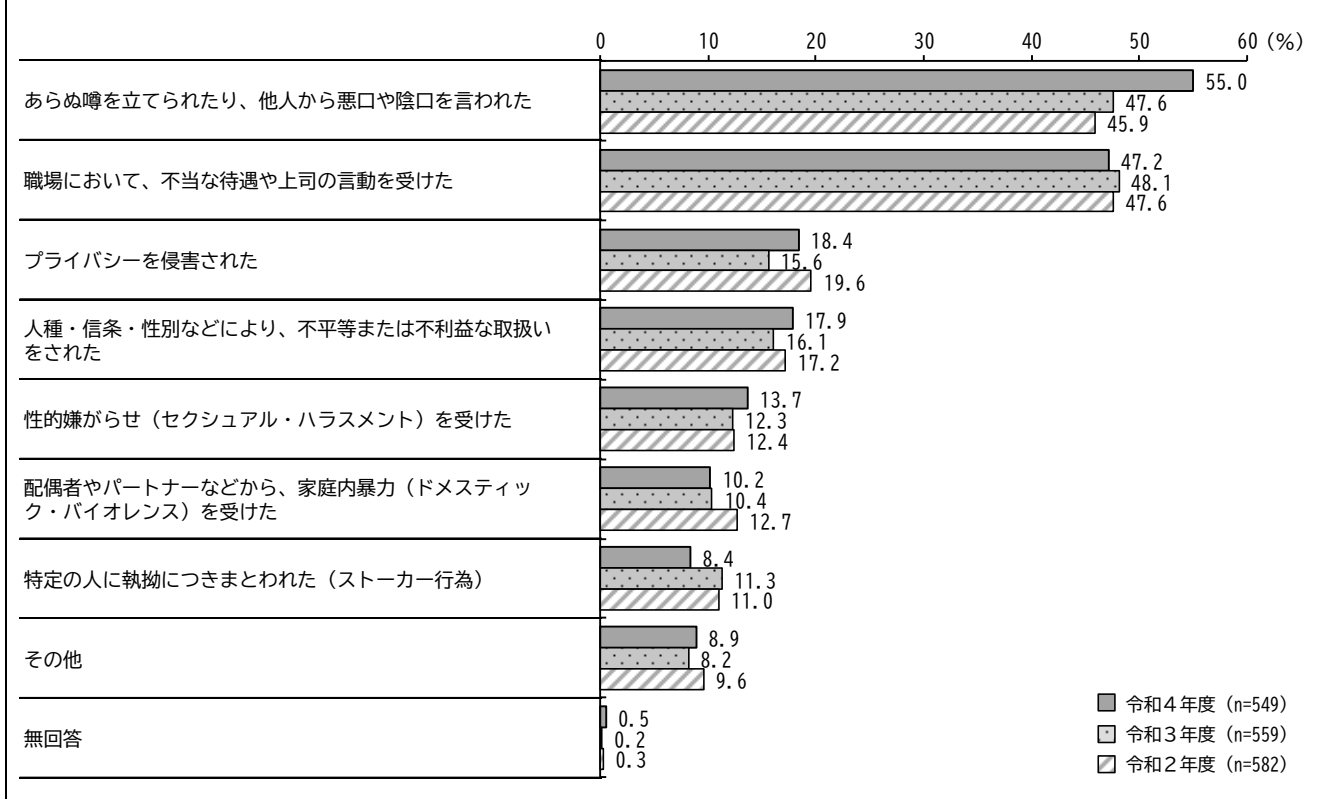


(5) 人権侵害を感じた内容

◇「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」が5割半ばで最も多い

問 35-2. 問 35 で「1. ある」と答えた方に伺います。人権が侵害されたと感じたことは、どのような内容ですか。(〇はいくつでも)

図表 10-5-1 人権侵害を感じた内容



人権が侵害されたと感じたことが「ある」と回答した 549 人に、人権侵害を感じた内容について聞いたところ、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」（55.0%）が最も多く、次いで「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」（47.2%）、「プライバシーを侵害された」（18.4%）、「人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた」（17.9%）、「性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた」（13.7%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」は令和3年度（47.6%）と比べ7.4ポイント上回っている。

第4章 調査結果の詳細

性別で見ると、「性的嫌がらせ(セクシュアル・ハラスメント)を受けた」(女性 17.7%、男性 9.0%)、「配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力(ドメスティック・バイオレンス)を受けた」(女性 12.5%、男性 6.8%)、「特定の人に執拗につきまとわれた(ストーカー行為)」(女性 10.6%、男性 5.4%)、「人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた」(女性 20.3%、男性 15.3%)は女性が男性をそれぞれ5ポイント以上上回っている。一方、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」(男性 51.8%、女性 44.4%)、「プライバシーを侵害された」(男性 20.7%、女性 16.4%)は男性が女性をそれぞれ7.4ポイント、4.3ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」は60歳代(女性 44.4%、男性 48.5%)を除くすべての年齢で男女ともに5割を超えている。また、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」は女性 30歳代・40歳代(53.5%、52.1%)、男性 40歳代～60歳代(60.9%、59.5%、54.5%)で5割を超えて多く、特に40歳代は6割を占めている。

※調査数が少ないもの(本調査では30人未満とする)については、記述の対象としない。

図表 10-5-2 性・年齢別 人権侵害を感じた内容

	調査数(人)	あらぬ噂や陰口を言われたり、他人	職場の言動を受けて、不当な待遇や上	プライバシーを侵害された	不平等・信条・性別などにより、	性的嫌がらせ(セクシュアル・	家庭内暴力(ストーカー行為)を受けた	配偶者やパートナーなどから、	特定の人に執拗につきまとわれ	その他	無回答
全体	549	55.0	47.2	18.4	17.9	13.7	10.2	8.4	8.9	0.5	
女性全体	311	55.3	44.4	16.4	20.3	17.7	12.5	10.6	8.7	1.0	
18～29歳	36	50.0	33.3	11.1	27.8	22.2	2.8	16.7	11.1	5.6	
30～39歳	43	51.2	53.5	20.9	37.2	32.6	9.3	16.3	7.0	-	
40～49歳	73	60.3	52.1	13.7	21.9	17.8	13.7	12.3	6.8	1.4	
50～59歳	72	59.7	48.6	13.9	13.9	18.1	15.3	6.9	9.7	-	
60～69歳	36	44.4	44.4	22.2	8.3	11.1	19.4	8.3	13.9	-	
70歳以上	50	56.0	26.0	20.0	16.0	6.0	12.0	6.0	6.0	-	
男性全体	222	53.6	51.8	20.7	15.3	9.0	6.8	5.4	9.0	-	
18～29歳	36	61.1	38.9	19.4	22.2	11.1	5.6	5.6	8.3	-	
30～39歳	29	55.2	58.6	34.5	13.8	13.8	10.3	6.9	10.3	-	
40～49歳	46	52.2	60.9	15.2	10.9	4.3	13.0	6.5	10.9	-	
50～59歳	42	54.8	59.5	19.0	16.7	11.9	7.1	2.4	-	-	
60～69歳	33	48.5	54.5	24.2	18.2	12.1	3.0	6.1	6.1	-	
70歳以上	36	50.0	36.1	16.7	11.1	2.8	-	5.6	19.4	-	

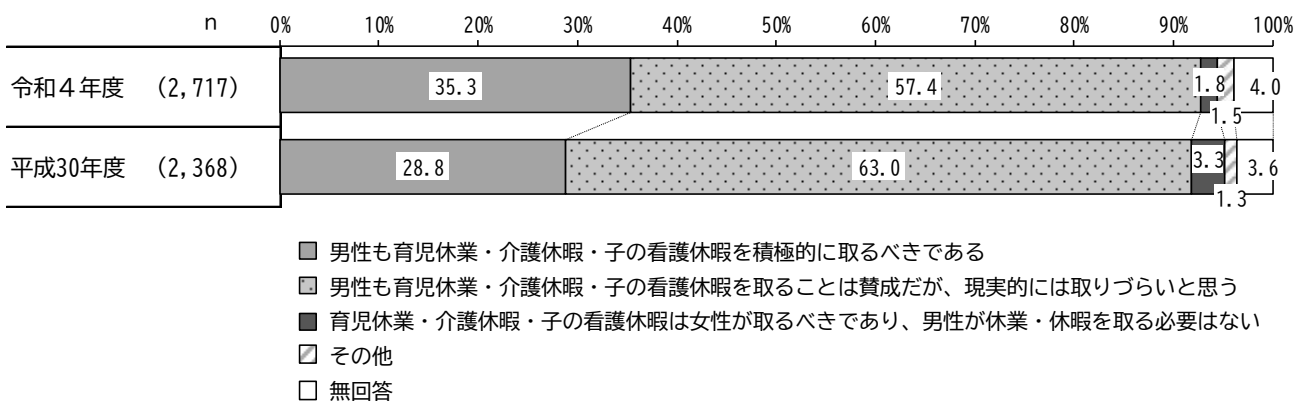
11. 男女共同参画について

(1) 男性の育児・介護・看護休暇取得制度活用をどう思うか

◇9割強が『取ることは賛成』だが、6割弱が「現実的には取りづらい」と考えている

問 36. 育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業・介護休暇・子の看護休暇を取得できる制度があります。あなたは、男性がこの制度を活用することについてどう思いますか。
(〇は1つ)

図表 11-1-1 男性の育児・介護・看護休暇取得制度活用をどう思うか



男性の育児・介護・看護休暇取得制度活用について、「男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」(57.4%)が最も多く、次いで「男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を積極的に取るべきである」(35.3%)、「育児休業・介護休暇・子の看護休暇は女性が取るべきであり、男性が休業・休暇を取る必要はない」(1.8%)の順となっている。

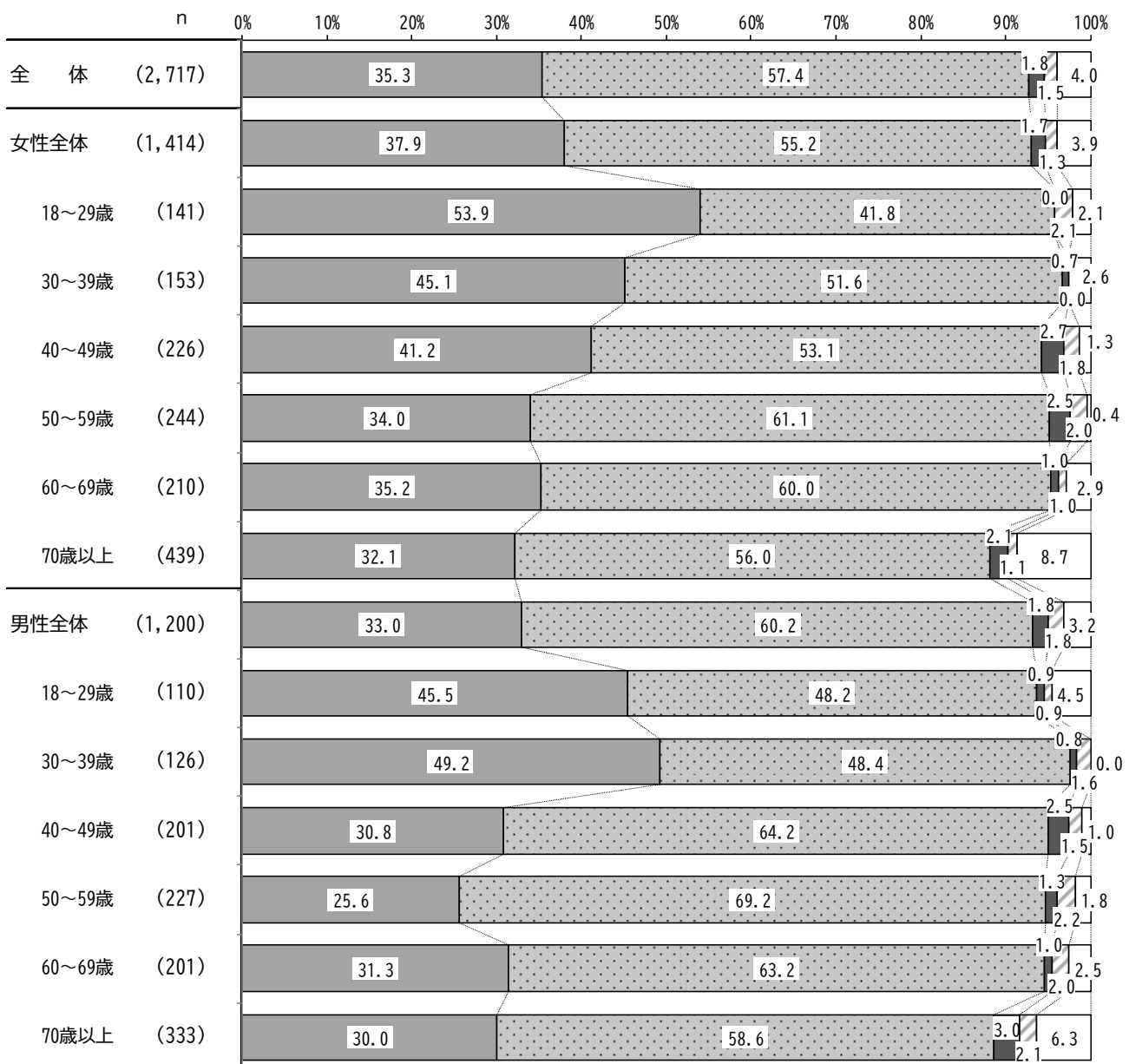
「男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を積極的に取るべきである」と「男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」を合わせた『取ることに賛成』(92.7%)は9割強となっている。

過去の調査と比較すると、「男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を取るべきである」は平成30年度(28.8%)と比べ6.5ポイント上回った一方、「育児休業・介護休暇・子の看護休暇は女性が取るべきであり、男性が休業・休暇を取る必要はない」は平成30年度(3.3%)と比べ1.5ポイント減少している。

性別でみると、「男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を積極的に取るべきである」は女性(37.9%)が男性(33.0%)を4.9ポイント上回っている一方、「男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」は男性(60.2%)が女性(55.2%)を5ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を積極的に取るべきである」は女性18～29歳(53.9%)が5割強で最も多く、女性30歳代・40歳代(45.1%、41.2%)や男性18～29歳・30歳代(45.5%、49.2%)といった若年層で4割を超えている。「男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」は女性50歳代・60歳代(61.1%、60.0%)、男性40歳代～60歳代(64.2%、69.2%、63.2%)で6割を超えて多く、年齢層で意識が分かれている。

図表 11-1-2 性・年齢別 男性の育児・介護・看護休暇取得制度活用をどう思うか



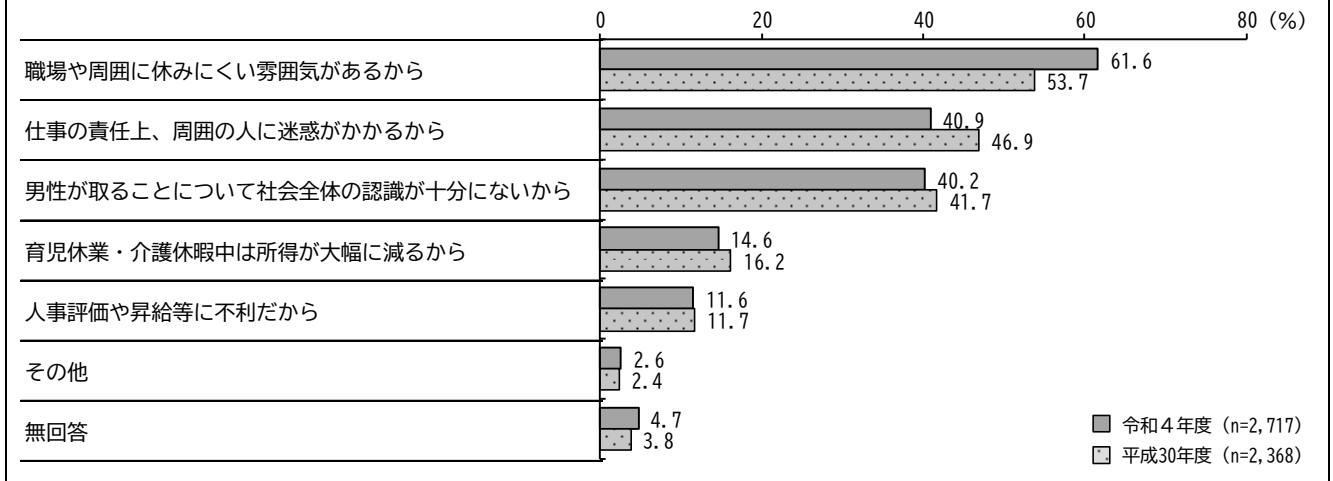
- 男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を積極的に取るべきである
- ▨ 男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う
- 育児休業・介護休暇・子の看護休暇は女性が取るべきであり、男性が休業・休暇を取る必要はない
- ▨ その他
- 無回答

(2) 男性が育児・介護のための長期休暇を取得しない理由

◇「職場や周囲に休みにくい雰囲気があるから」が約6割で最も多い

問37. 育児・介護のための長期休暇は、男性の取得がきわめて少ない状況です。
その理由は、何だと思えますか。(〇は2つまで)

図表 11-2-1 男性が育児・介護のための長期休暇を取得しない理由



男性が育児・介護のための長期休暇を取得しない理由については、「職場や周囲に休みにくい雰囲気があるから」(61.6%)が最も多く、次いで「仕事の責任上、周囲の人に迷惑がかかるから」(40.9%)、「男性が取ることについて社会全体の認識が十分でないから」(40.2%)、「育児休業・介護休業中は所得が大幅に減るから」(14.6%)、「人事評価や昇給等に不利だから」(11.6%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、全体的な順位に変化はないが、「職場や周囲に休みにくい雰囲気があるから」は平成30年度(53.7%)と比べ7.9ポイント上がっている一方、「仕事の責任上、周囲の人に迷惑がかかるから」は平成30年度(46.9%)と比べ6ポイント下がっている。

性別で見ると、「職場や周囲に休みにくい雰囲気があるから」（女性 65.1%、男性 58.8%）、「男性が取ることにについて社会全体の認識が十分でないから」（女性 42.9%、男性 37.8%）は女性が男性をそれぞれ 6.3 ポイント、5.1 ポイント上回っている。一方、「仕事の責任上、周囲の人に迷惑がかかるから」は男性（45.5%）が女性（37.1%）を 8.4 ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「職場や周囲に休みにくい雰囲気があるから」は男女ともにすべての年齢で5割を超えており、特に女性 18～29 歳・40 歳代～60 歳代（71.6%、70.4%、70.1%、70.0%）で約7割を占め多くなっている。また、「仕事の責任上、周囲の人に迷惑がかかるから」では男性の 40 歳代・50 歳代（53.7%、54.6%）で、「男性が取ることにについて社会全体の認識が十分でないから」では女性 60 歳代（51.0%）でそれぞれ5割を超えて多くなっている。

図表 11-2-2 性・年齢別 男性が育児・介護のための長期休暇を取得しない理由

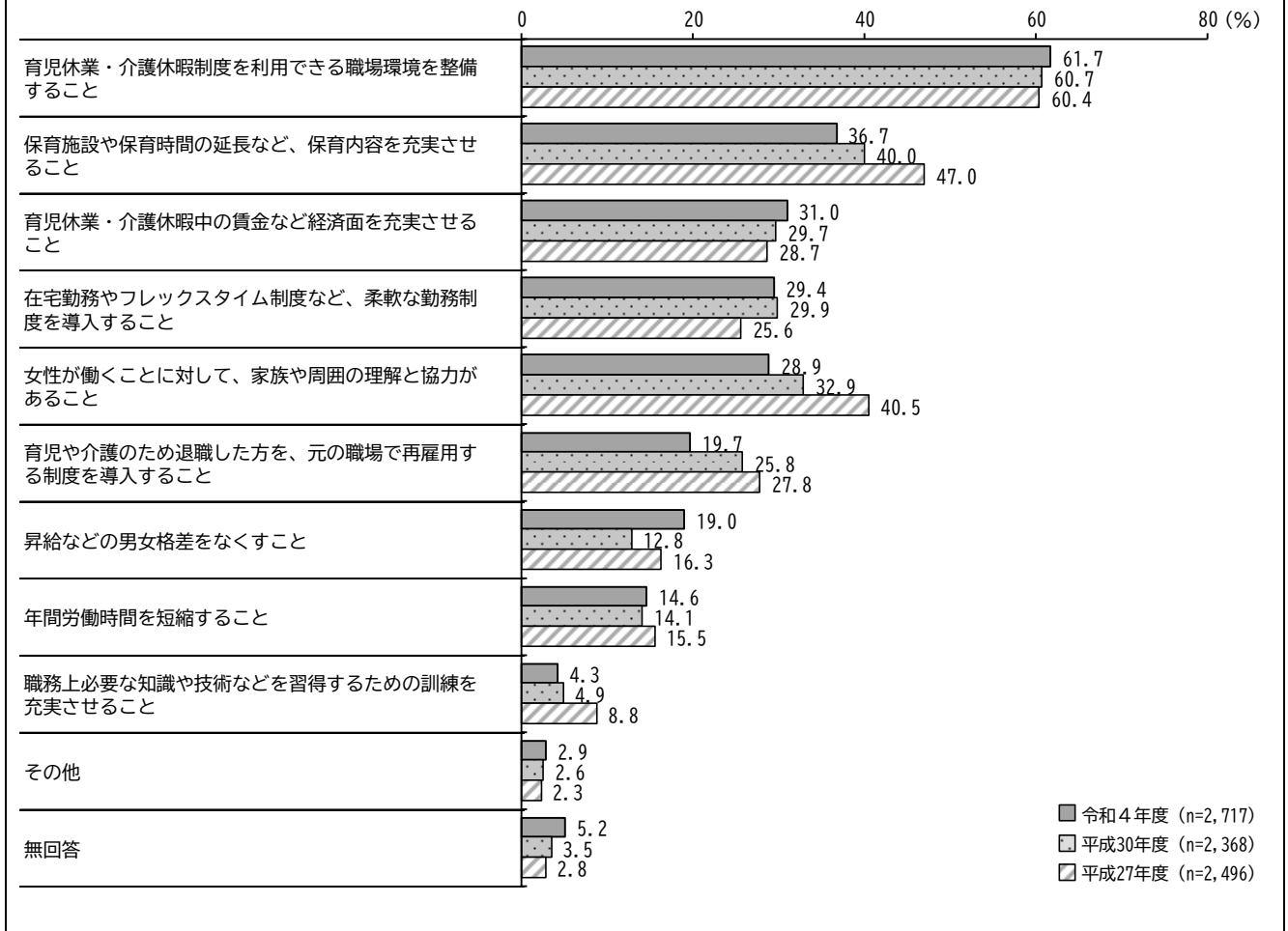
	調査数（人）	職場や周囲に休みにくい雰囲気があるから	仕事の責任上、周囲の人に迷惑がかかるから	男性が取ることにについて社会全体の認識が十分でないから	育児休業・介護休暇中は所得が大幅に減るから	人事評価や昇給等に不利だから	その他	無回答
全体	2,717	61.6	40.9	40.2	14.6	11.6	2.6	4.7
女性全体	1,414	65.1	37.1	42.9	14.6	11.0	2.8	4.6
18～29歳	141	71.6	29.8	44.7	16.3	18.4	2.1	2.1
30～39歳	153	63.4	39.9	43.1	18.3	14.4	3.9	2.6
40～49歳	226	70.4	40.3	37.6	12.4	14.6	4.0	1.8
50～59歳	244	70.1	39.8	41.4	19.7	8.6	4.5	1.2
60～69歳	210	70.0	29.0	51.0	15.2	11.9	1.4	2.9
70歳以上	439	55.6	39.4	41.9	10.7	6.6	1.8	10.3
男性全体	1,200	58.8	45.5	37.8	15.1	12.3	2.5	3.8
18～29歳	110	61.8	43.6	34.5	20.0	16.4	3.6	5.5
30～39歳	126	66.7	40.5	29.4	27.8	18.3	4.0	-
40～49歳	201	62.7	53.7	34.3	15.9	12.4	2.5	1.0
50～59歳	227	53.7	54.6	37.0	15.9	7.9	1.8	2.6
60～69歳	201	65.7	36.3	40.8	11.9	15.9	2.0	2.5
70歳以上	333	51.7	42.3	42.9	9.6	9.6	2.4	7.8

(3) 男女がともに仕事と家庭を両立するための条件

◇「育児休業・介護休暇制度を利用できる職場環境を整備すること」が約6割で最も多い

問 38. 一般的に、男女がともに仕事と家庭を両立していくためには、どのような条件が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

図表 11-3-1 男女がともに仕事と家庭を両立するための条件



男女がともに仕事と家庭を両立するための条件については、「育児休業・介護休暇制度を利用できる職場環境を整備すること」(61.7%)が最も多く、次いで「保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実させること」(36.7%)、「育児休業・介護休暇中の賃金など経済面を充実させること」(31.0%)、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」(29.4%)、「女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること」(28.9%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「昇給などの男女格差をなくすこと」は平成30年度(12.8%)に比べ6.2ポイント上回っている。一方、「育児や介護のため退職した方を、元の職場で再雇用する制度を導入すること」「女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること」は平成30年度(25.8%、32.9%)に比べそれぞれ6.1ポイント、4.1ポイント下回っており、「保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実させること」を含め調査ごとに減少傾向にある。

第4章 調査結果の詳細

性別でみると、「女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること」（女性 32.7%、男性 24.9%）、「昇給などの男女格差をなくすこと」（女性 20.9%、男性 17.0%）は女性が男性をそれぞれ 7.8 ポイント、3.9 ポイント上回っている。一方、「年間労働時間を短縮すること」は男性（17.3%）が女性（12.5%）を 4.8 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「育児休業・介護休暇制度を利用できる職場環境を整備すること」は女性 30 歳代・40 歳代（58.8%、59.7%）、男性 50 歳代（58.1%）を除くすべての年齢で男女ともに 6 割を超えている。また、「保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実させること」では 30 歳代（女性 44.4%、男性 49.2%）と 60 歳代（女性 44.3%、男性 42.8%）が、「育児休業・介護休暇中の賃金など経済面を充実させること」では男性 18～29 歳（40.0%）が、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」では女性 18～29 歳・30 歳代（40.4%、43.8%）が、それぞれ 4 割を超えて多くなっている。

図表 11-3-2 性・年齢別 男女がともに仕事と家庭を両立するための条件

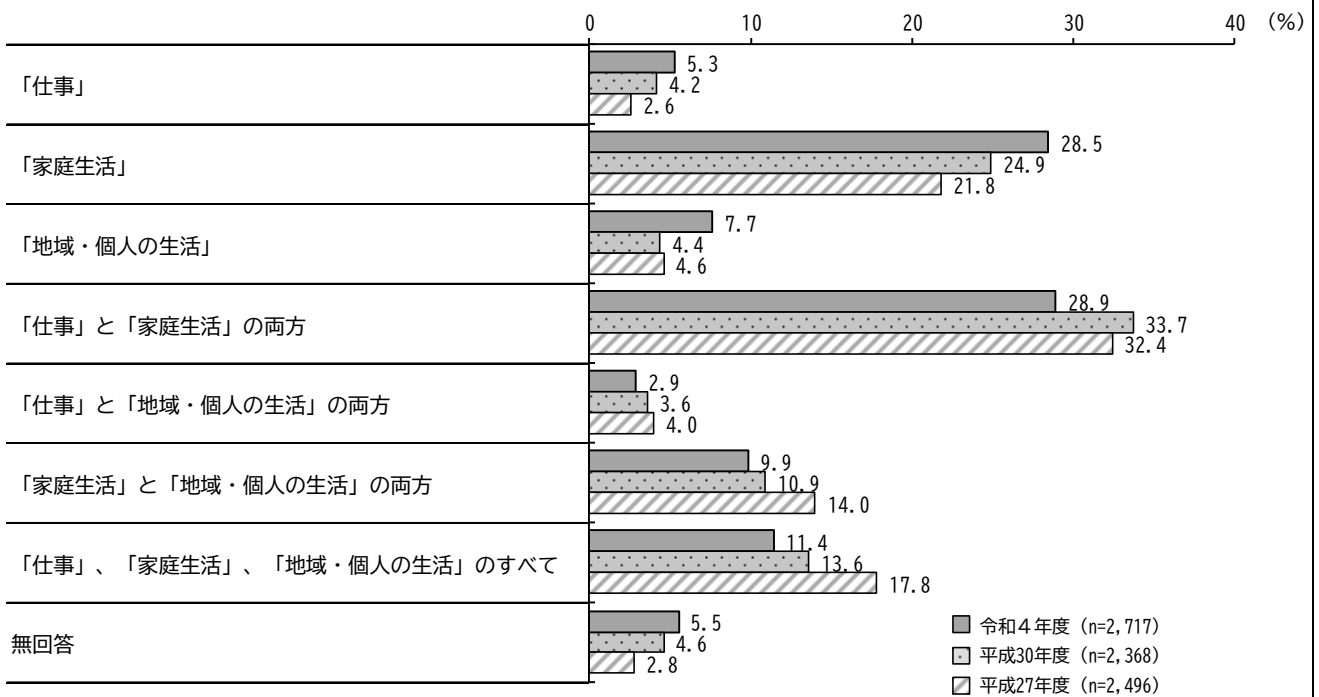
	調査数（人）	育児休業・介護休暇制度を利用できる職場環境を整備すること	保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実させること	育児休業・介護休暇中の賃金など経済面を充実させること	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること	育児や介護のため退職した方を、元の職場で再雇用する制度を導入すること	昇給などの男女格差をなくすこと	年間労働時間を短縮すること	職務上必要な知識や技術などを習得するための訓練を充実させること	その他	無回答
全体	2,717	61.7	36.7	31.0	29.4	28.9	19.7	19.0	14.6	4.3	2.9	5.2
女性全体	1,414	62.5	35.4	30.1	30.6	32.7	21.2	20.9	12.5	3.5	2.7	4.9
18～29歳	141	65.2	34.0	39.0	40.4	21.3	15.6	25.5	22.0	1.4	4.3	2.1
30～39歳	153	58.8	44.4	38.6	43.8	27.5	13.7	17.6	20.9	3.3	-	2.6
40～49歳	226	59.7	33.6	28.8	38.5	31.9	20.4	25.7	16.4	4.4	3.5	1.8
50～59歳	244	65.2	33.6	29.1	36.9	36.5	19.3	22.5	13.1	2.5	3.3	1.6
60～69歳	210	64.8	44.3	32.9	28.6	33.3	22.9	20.5	6.7	3.3	1.9	3.8
70歳以上	439	61.7	30.5	24.1	16.4	36.2	26.4	17.1	7.1	4.6	2.7	10.5
男性全体	1,200	62.3	39.2	31.9	29.3	24.9	18.3	17.0	17.3	5.1	3.2	4.1
18～29歳	110	66.4	29.1	40.0	30.0	25.5	11.8	14.5	22.7	2.7	4.5	4.5
30～39歳	126	67.5	49.2	34.1	34.9	20.6	9.5	13.5	27.0	4.8	4.0	0.8
40～49歳	201	60.7	39.3	30.3	36.3	22.4	17.4	16.4	22.4	4.0	4.0	1.0
50～59歳	227	58.1	34.8	33.0	32.2	19.8	19.8	18.9	22.0	4.0	4.0	2.6
60～69歳	201	66.2	42.8	29.4	32.3	27.9	16.9	18.4	9.5	4.0	3.5	2.5
70歳以上	333	60.4	39.6	30.3	18.9	29.7	24.0	17.4	9.9	8.1	1.2	8.7

(4) 日常生活のなかでの優先度（希望）

◇優先したいと希望するものは、「仕事」と「家庭生活」の両方が3割弱で最も多い

問 39. 日常生活のなかでの、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について伺います。あなたの希望と現実(現状)に最も近いものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

図表 11-4-1 日常生活のなかでの優先度（希望）



日常生活での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、優先したいと希望するものは、「仕事」と「家庭生活」の両方（28.9%）が最も多く、次いで「家庭生活」（28.5%）、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」のすべて（11.4%）、「家庭生活」と「地域・個人の生活」の両方（9.9%）、「地域・個人の生活」（7.7%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「仕事」と「家庭生活」の両方は平成30年度（33.7%）に比べ4.8ポイント減少している。また、「仕事」「家庭生活」が調査ごとに増加する傾向にあるのに対し、「仕事」と「地域・個人の生活」の両方」「家庭生活」と「地域・個人の生活」の両方」「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」のすべては調査ごとに減少傾向にある。

優先したいと希望するものを性別でみると、「仕事」は男性（7.4%）が女性（3.3%）を4.1ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「家庭生活」はすべての年齢で男女ともに2割を超えており、女性60歳代（35.7%）が3割半ばを占め最も多くなっている。「仕事」と「家庭生活」の両方は女性30歳代～50歳代（34.0%、38.5%、34.4%）、男性30歳代～60歳代（39.7%、34.8%、38.3%、36.3%）で3割を超えている。

図表 11-4-2 性・年齢別 日常生活のなかでの優先度（希望）

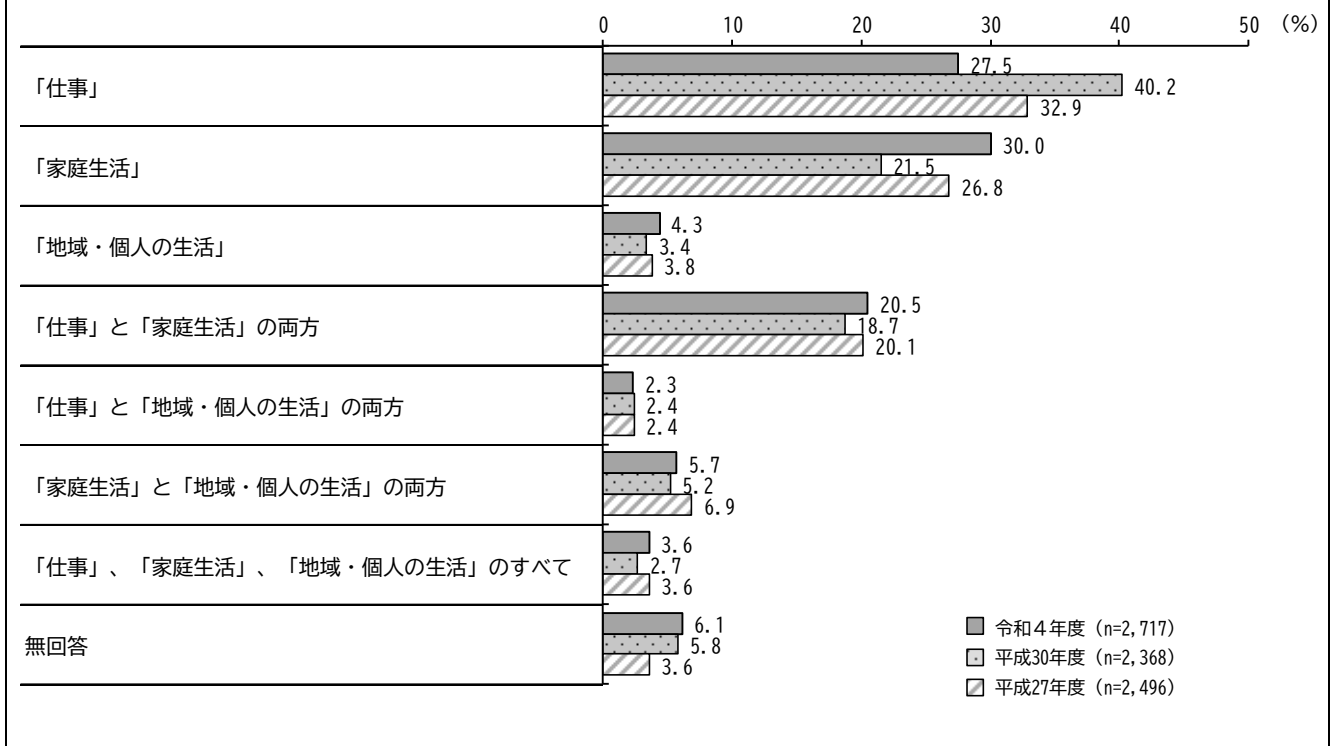
	調査数（人）	「仕事」	「家庭生活」	「地域・個人の生活」	「仕事」と「家庭生活」の両方	「仕事」と「地域・個人の生活」の両方	「家庭生活」と「地域・個人の生活」の両方	「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」のすべて	無回答
全体	2,717	5.3	28.5	7.7	28.9	2.9	9.9	11.4	5.5
女性全体	1,414	3.3	29.9	7.1	27.7	2.9	11.6	11.5	6.0
18～29歳	141	2.1	27.0	15.6	23.4	6.4	8.5	14.2	2.8
30～39歳	153	1.3	32.0	4.6	34.0	3.9	7.2	14.4	2.6
40～49歳	226	4.4	27.4	6.2	38.5	2.7	6.2	13.3	1.3
50～59歳	244	2.9	25.0	4.9	34.4	3.7	10.7	15.6	2.9
60～69歳	210	2.9	35.7	6.2	25.7	2.4	12.9	11.0	3.3
70歳以上	439	4.3	31.2	7.3	18.5	1.4	16.9	6.8	13.7
男性全体	1,200	7.4	26.8	8.2	30.8	2.8	8.3	11.7	4.2
18～29歳	110	3.6	30.0	19.1	17.3	2.7	9.1	12.7	5.5
30～39歳	126	4.0	29.4	8.7	39.7	1.6	4.8	10.3	1.6
40～49歳	201	10.9	25.9	7.5	34.8	3.5	5.5	10.4	1.5
50～59歳	227	8.8	22.5	5.3	38.3	3.5	6.6	13.2	1.8
60～69歳	201	7.5	25.4	8.5	36.3	1.5	7.0	11.4	2.5
70歳以上	333	6.9	29.1	6.3	21.0	3.3	12.9	11.7	8.7

(5) 日常生活のなかでの優先度（現実）

◇現実に優先しているものは、「家庭生活」が3割で最も多い

問 39. 日常生活のなかでの、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について伺います。あなたの希望と現実(現状)に最も近いものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

図表 11-5-1 日常生活のなかでの優先度（現実）



現実に優先しているものは、「家庭生活」(30.0%)が最も多く、次いで「仕事」(27.5%)、「仕事」と「家庭生活」の両方(20.5%)、「家庭生活」と「地域・個人の生活」の両方(5.7%)、「地域・個人の生活」(4.3%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「家庭生活」は平成30年度(21.5%)に比べ8.5ポイント増加している。一方、「仕事」は平成30年度(40.2%)に比べ12.7ポイント減少している。

第4章 調査結果の詳細

現実に優先しているものを性別で見ると、「家庭生活」は女性（38.6%）が男性（20.2%）を18.4ポイント上回っている。一方、「仕事」は男性（37.6%）が女性（19.4%）を18.2ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「仕事」は男性18～29歳～50歳代（42.7%、59.5%、56.7%、44.9%）で4割を超えており、特に30歳代と40歳代では5割台と多くなっている。「家庭生活」は女性30歳以上（43.1%、39.4%、35.7%、44.3%、40.5%）と男性70歳以上（33.9%）で3割を超えている。一方、男性40歳代（9.5%）は1割未満で全体を20.5ポイント下回っている。

図表 11-5-2 性・年齢別 日常生活のなかでの優先度（現実）

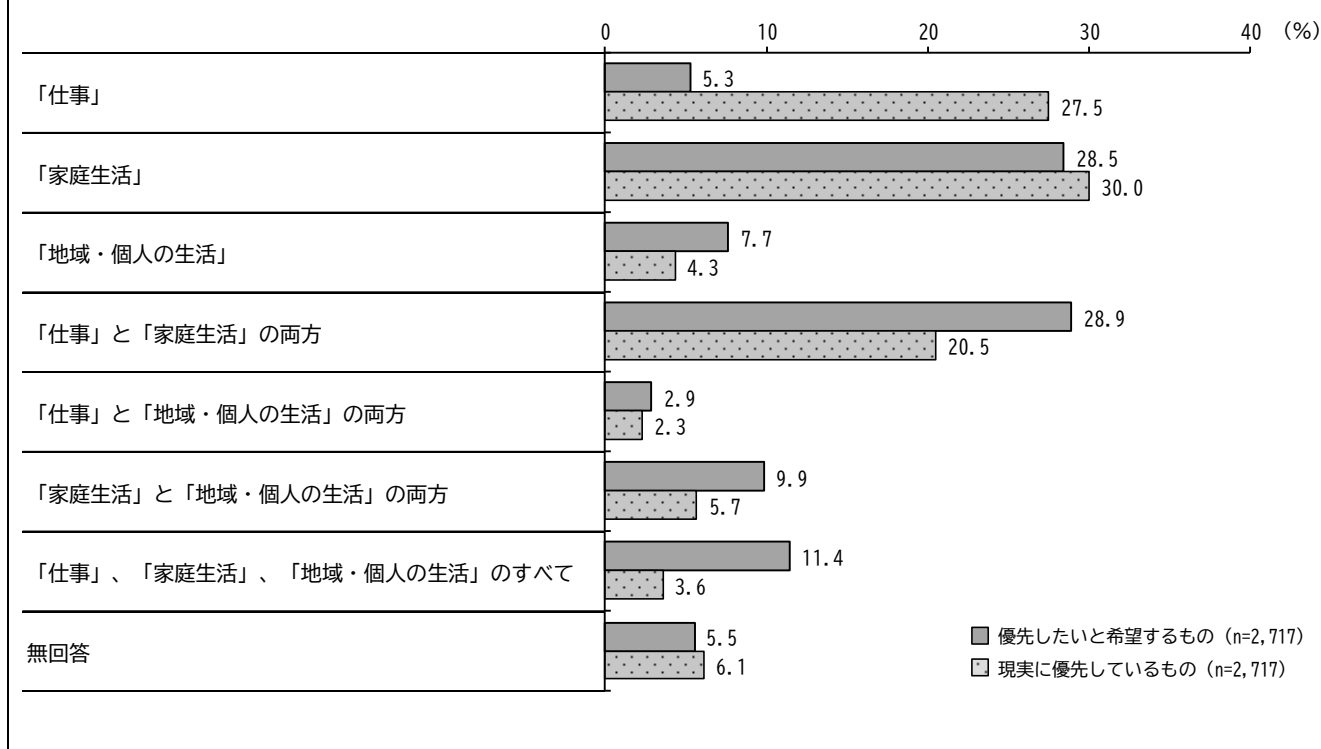
	調査数 (人)	「仕事」	「家庭生活」	「地域・個人の生活」	「仕事」と「家庭生活」の両方	「仕事」と「地域・個人の生活」の両方	「家庭生活」と「地域・個人の生活」の両方	「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」のすべて	「仕事」と「地域・個人の生活」のすべて	無回答
全体	2,717	27.5	30.0	4.3	20.5	2.3	5.7	3.6	6.1	
女性全体	1,414	19.4	38.6	4.0	19.7	1.9	6.5	3.2	6.6	
18～29歳	141	35.5	23.4	12.1	14.2	7.1	2.8	1.4	3.5	
30～39歳	153	24.2	43.1	0.7	23.5	2.6	0.7	2.6	2.6	
40～49歳	226	25.7	39.4	1.3	26.1	0.4	2.2	3.1	1.8	
50～59歳	244	25.8	35.7	1.2	25.4	1.6	4.1	4.5	1.6	
60～69歳	210	13.8	44.3	4.8	21.9	1.4	7.6	2.4	3.8	
70歳以上	439	8.4	40.5	5.2	12.8	1.1	12.8	3.6	15.5	
男性全体	1,200	37.6	20.2	4.5	21.8	2.9	4.5	3.9	4.7	
18～29歳	110	42.7	14.5	10.0	13.6	5.5	3.6	4.5	5.5	
30～39歳	126	59.5	11.1	2.4	19.0	4.0	0.8	1.6	1.6	
40～49歳	201	56.7	9.5	3.5	24.4	1.5	0.5	3.0	1.0	
50～59歳	227	44.9	13.2	2.6	29.5	2.2	1.3	4.4	1.8	
60～69歳	201	32.3	24.9	3.0	24.9	3.0	5.5	3.5	3.0	
70歳以上	333	14.1	33.9	6.3	16.8	3.0	10.2	5.1	10.5	

(6) 日常生活のなかでの優先度（比較）

◇「仕事」は現実が希望を22.2ポイント上回っている

問39. 日常生活のなかでの、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について伺います。あなたの希望と現実(現状)に最も近いものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

図表 11-6-1 日常生活のなかでの優先度（希望と現実の比較）



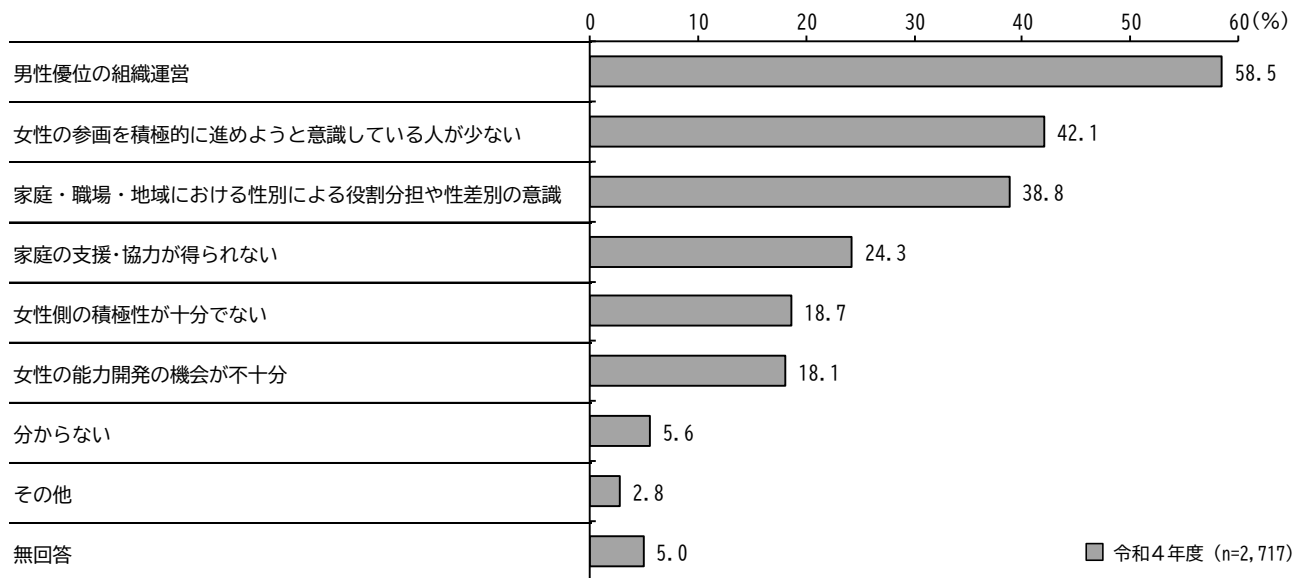
優先したいと希望するものと現実に優先しているものを比較すると、「「仕事」と「家庭生活」の両方」(希望28.9%、現実20.5%)、「「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」のすべて」(希望11.4%、現実3.6%)、「「家庭生活」と「地域・個人の生活」の両方」(希望9.9%、現実5.7%)は優先したいと希望するものが現実に優先しているものをそれぞれ8.4ポイント、7.8ポイント、4.2ポイント上回っている。一方、「仕事」は現実に優先しているもの(27.5%)が優先したいと希望するもの(5.3%)を22.2ポイント上回っている。

(7) 政治・行政分野で女性の参画が少ない理由

◇「男性優位の組織運営」が6割弱で最も多い

問 40. 政治や行政の分野で女性の参画が少ない現状がありますが、どのようなことが理由だと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものをお選びください。(〇は3つまで)

図表 11-7-1 政治・行政分野で女性の参画が少ない理由



政治・行政分野で女性の参画が少ない理由については、「男性優位の組織運営」(58.5%)が最も多く、次いで「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない」(42.1%)、「家庭・職場・地域における性別による役割分担や性差別の意識」(38.8%)、「家庭の支援・協力が得られない」(24.3%)、「女性側の積極性が十分でない」(18.7%)の順となっている。

性別でみると、「男性優位の組織運営」は女性（63.0%）が男性（54.6%）を8.4ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「男性優位の組織運営」は男性18～29歳（45.5%）を除くすべての年齢で男女ともに5割を超えており、女性70歳以上（54.0%）を除く女性すべての年齢で6割以上、特に女性50歳代（72.5%）は7割強となっている。「女性の参画を積極的に進めよう」と意識している人が少ない」では女性60歳代（55.2%）と男性70歳以上（52.0%）が、「家庭・職場・地域における性別による役割分担や性差別の意識」では女性18～29歳・30歳代（50.4%、51.6%）が5割を超えて多くなっている。また、「家庭の支援・協力が得られない」は女性30歳代（34.0%）で3割半ばを占めている。

図表 11-7-2 性・年齢別 政治・行政分野で女性の参画が少ない理由

	調査数（人）	男性優位の組織運営	女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない	家庭・職場・地域における性別による役割分担や性差別の意識	家庭の支援・協力が得られない	女性側の積極性が十分でない	女性の能力開発の機会が不十分	分からない	その他	無回答
全体	2,717	58.5	42.1	38.8	24.3	18.7	18.1	5.6	2.8	5.0
女性全体	1,414	63.0	42.6	41.3	25.5	17.0	18.7	4.8	2.4	5.0
18～29歳	141	64.5	39.7	50.4	22.0	12.1	14.2	7.1	2.8	2.8
30～39歳	153	63.4	36.6	51.6	34.0	13.7	17.0	2.0	3.9	2.6
40～49歳	226	67.7	37.2	47.3	27.9	15.5	14.6	4.0	2.7	2.2
50～59歳	244	72.5	41.0	44.3	27.5	19.3	15.6	3.7	2.9	1.2
60～69歳	210	64.3	55.2	45.7	25.2	18.1	20.5	4.3	1.0	2.9
70歳以上	439	54.0	43.3	27.8	21.4	18.9	23.7	6.4	2.1	10.9
男性全体	1,200	54.6	42.7	37.2	22.8	20.5	17.7	6.1	3.5	4.0
18～29歳	110	45.5	34.5	39.1	20.0	16.4	11.8	10.9	3.6	7.3
30～39歳	126	55.6	32.5	43.7	23.8	20.6	21.4	4.0	7.1	1.6
40～49歳	201	59.2	40.3	39.8	22.9	18.9	13.4	6.0	4.0	1.5
50～59歳	227	52.4	38.3	32.2	23.3	25.1	15.9	6.6	5.3	3.1
60～69歳	201	57.2	45.8	40.8	20.9	17.4	23.4	5.0	3.0	2.5
70歳以上	333	54.7	52.0	33.9	24.3	21.3	18.6	5.7	0.9	6.6

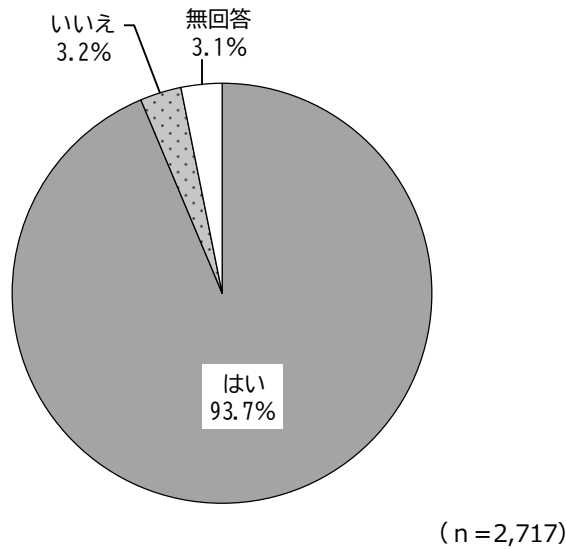
12. 成年年齢引下げについて

(1) 成年年齢引下げの認知度

◇9割強が成年年齢の引き下げを知っている

問 41. あなたは、成年年齢が 20 歳から 18 歳に引き下げられたことを知っていますか。(〇は1つ)

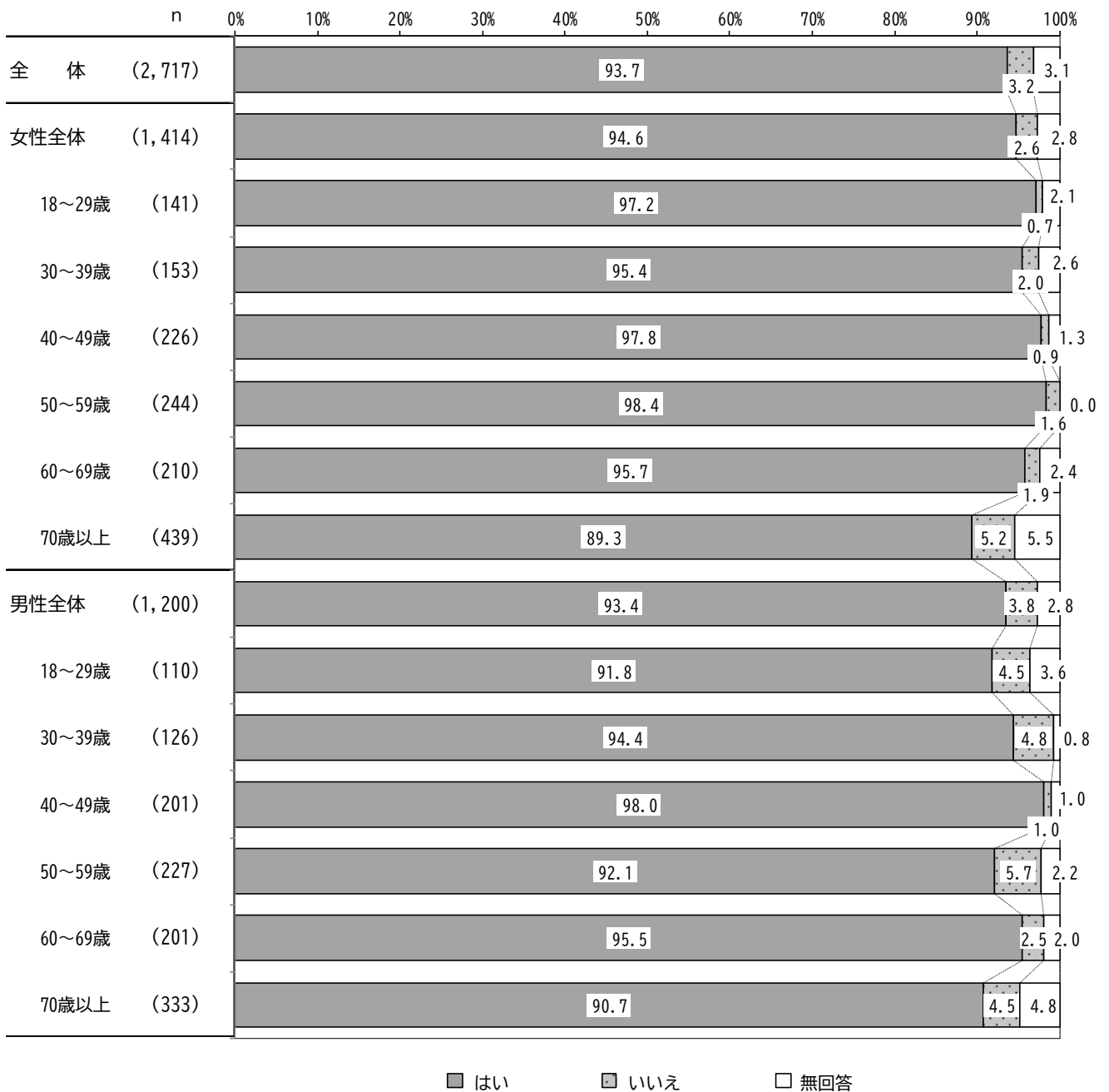
図表 12-1-1 成年年齢引下げの認知度



成年年齢が 20 歳から 18 歳に引き下げられたことを知っているか聞いたところ、「はい」(93.7%) が9割強を占め最も多く、「いいえ」(3.2%) は1割未満となっている。

性別で見ると、大きな差はみられない。
 性・年齢別で見ると、「はい」は女性70歳以上（89.3%）を除くすべての年齢で男女ともに9割以上を占めている。

図表 12-1-2 性・年齢別 成年年齢引下げの認知度



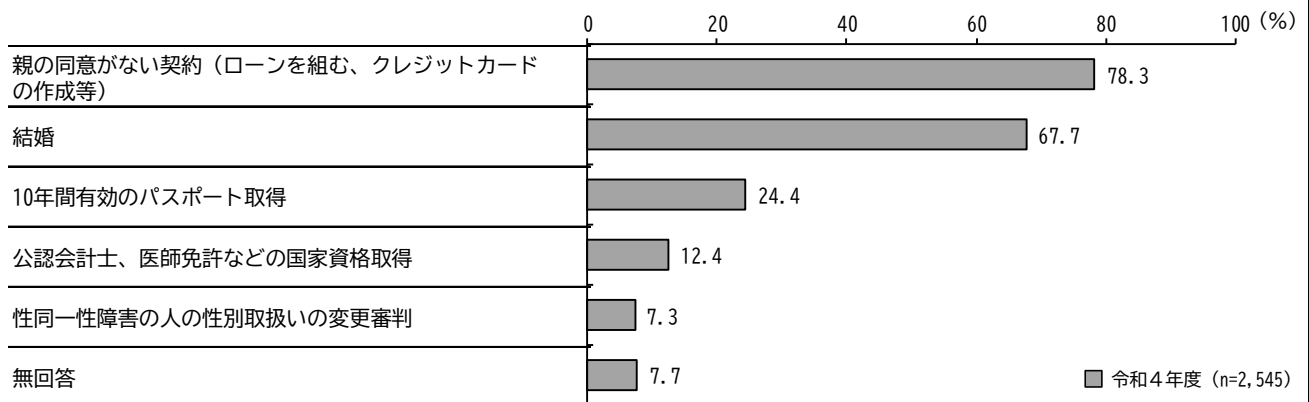
(2) 18歳からできることと、20歳にならないとできないこと

- ◇18歳になったらできることは「親の同意がない契約（ローンを組む、クレジットカードの作成等）」が8割弱で最も多い
- 20歳にならないとできないことは「飲酒」が9割強で最も多い

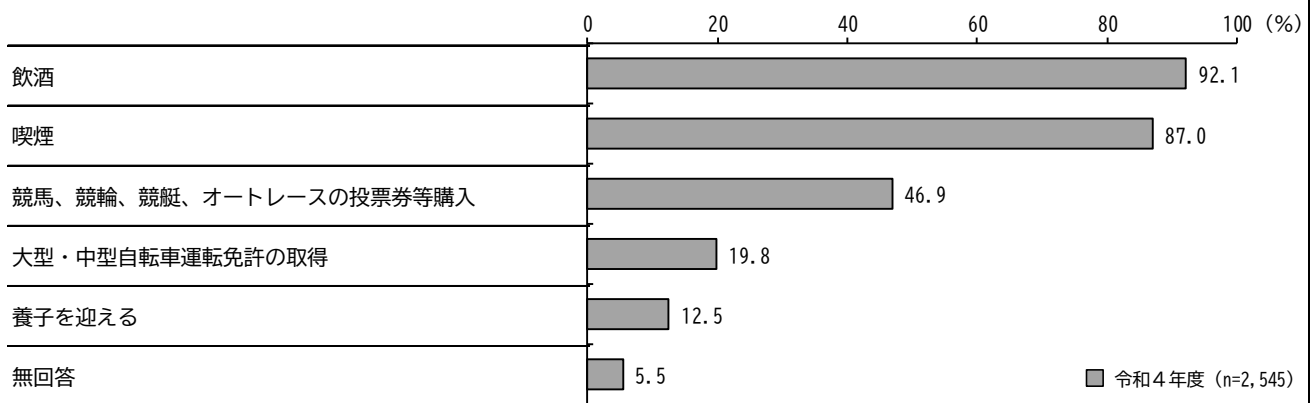
問 41-2. 問 41 で「1. はい」と答えた方に伺います。成年年齢の引き下げとともに、18歳になったらできることと、20歳にならないとできないことがあります。あなたが知っていることを次の中から選んでください。(それぞれ〇はいくつでも)

図表 12-2-1 18歳からできることと、20歳にならないとできないこと

18歳からできること



20歳にならないとできないこと



成年年齢が20歳から18歳に引き下げられたことを知っているかについて「はい」と回答した2,545人に、18歳からできることを聞いたところ、「親の同意がない契約（ローンを組む、クレジットカードの作成等）」(78.3%)が最も多く、次いで「結婚」(67.7%)、「10年間有効のパスポート取得」(24.4%)、「公認会計士、医師免許などの国家資格取得」(12.4%)、「性同一性障害の人の性別取扱いの変更審判」(7.3%)の順となっている。

20歳にならないとできないことを聞いたところ、「飲酒」(92.1%)が最も多く、次いで「喫煙」(87.0%)、「競馬、競輪、競艇、オートレースの投票券等購入」(46.9%)、「大型・中型自転車運転免許の取得」(19.8%)、「養子を迎える」(12.5%)の順となっている。

18歳からできることを性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「親の同意がない契約（ローンを組む、クレジットカードの作成等）」はすべての年齢で男女ともに7割を超えている。「結婚」はすべての年齢で男女ともに6割を超えており、女性50歳代以下（75.2%、74.7%、76.0%、72.1%）、男性40歳代以下（77.2%、78.2%、72.1%）で7割台となっている。

20歳にならないとできないことを性別でみると、「競馬、競輪、競艇、オートレースの投票券等購入」（男性53.6%、女性41.7%）、「大型・中型自転車運転免許の取得」（男性21.9%、女性17.5%）は男性が女性をそれぞれ11.9ポイント、4.4ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「飲酒」は70歳以上の女性（81.4%）と男性（86.4%）を除くすべての年齢で男女ともに9割、「喫煙」は女性70歳以上（71.4%）を除くすべての年齢で男女ともに8割を超えている。

図表12-2-2 性・年齢別 18歳になったらできることと、20歳にならないとできないこと (%)

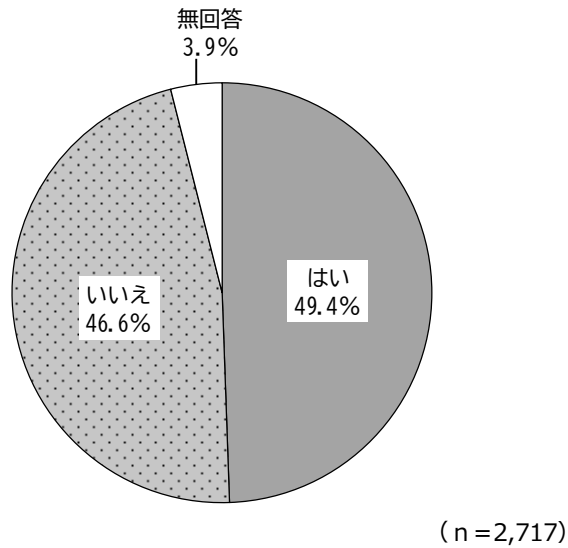
	調査数（人）	18歳からできること						20歳にならないとできないこと					
		親の同意がない契約（ローンを作成等）	結婚	10年間有効のパスポート取得	公認会計士、医師免許などの国家資格取得	性同一性障害の人の性別取扱いの変更	無回答	飲酒	喫煙	競馬、競輪、競艇、オートレースの投票券等購入	大型・中型自転車運転免許の取得	養子を迎える	無回答
全体	2,545	78.3	67.7	24.4	12.4	7.3	7.7	92.1	87.0	46.9	19.8	12.5	5.5
女性全体	1,338	78.5	69.2	23.6	12.2	7.6	7.4	91.9	86.2	41.7	17.5	13.4	5.5
18～29歳	137	70.8	75.2	24.1	13.9	10.2	5.1	96.4	92.7	56.9	27.0	22.6	2.2
30～39歳	146	70.5	74.7	20.5	12.3	8.2	8.2	97.3	96.6	43.2	14.4	14.4	1.4
40～49歳	221	77.8	76.0	24.4	13.6	7.7	4.5	96.8	95.0	52.5	15.4	13.6	2.7
50～59歳	240	83.8	72.1	27.1	10.0	6.7	6.3	95.8	91.3	41.3	11.7	10.4	2.5
60～69歳	201	84.1	68.7	27.9	13.4	8.5	6.5	95.0	87.1	41.8	18.4	14.4	2.5
70歳以上	392	78.3	59.7	19.9	11.5	6.6	10.7	81.4	71.4	30.1	19.6	11.0	13.3
男性全体	1,121	78.4	67.9	25.0	12.4	6.8	7.5	93.5	89.2	53.6	21.9	12.0	4.6
18～29歳	101	77.2	77.2	26.7	18.8	7.9	5.0	96.0	94.1	55.4	26.7	9.9	4.0
30～39歳	119	84.0	78.2	32.8	14.3	9.2	5.0	98.3	95.8	60.5	25.2	20.2	0.8
40～49歳	197	70.1	72.1	27.9	11.7	8.1	7.1	93.9	90.9	55.3	16.2	12.2	5.1
50～59歳	209	82.8	66.0	23.4	13.9	7.2	9.6	97.1	93.3	58.9	23.0	11.5	1.9
60～69歳	192	83.9	66.1	23.4	9.4	5.2	4.7	95.8	89.6	55.2	15.1	10.4	3.6
70歳以上	302	75.5	60.3	21.5	10.6	5.3	9.9	86.4	80.8	44.4	26.5	10.9	8.6

(3) 消費者トラブルに関する相談先の認知度

◇約5割が消費者トラブルに関する相談先を知っている

問 42. あなたは、消費者トラブルに関する相談先を知っていますか。(〇は1つ)

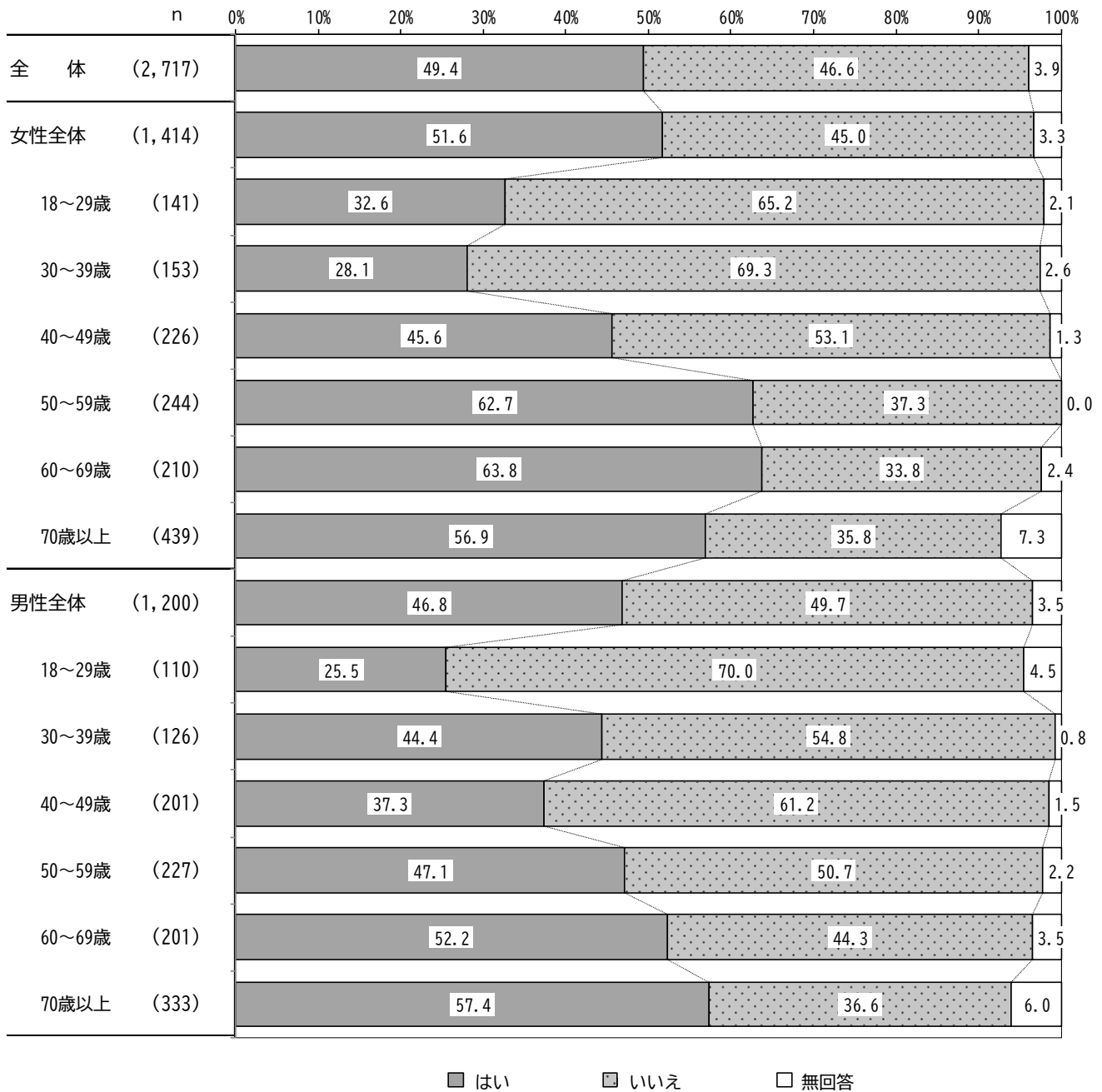
図表 12-3-1 消費者トラブルに関する相談先の認知度



消費者トラブルに関する相談先を知っているか聞いたところ、「はい」(49.4%)は約5割を占めており、「いいえ」(46.4%)は4割半ばとなっている。

性別で見ると、「はい」は女性（51.6%）が男性（46.8%）を4.8ポイント上回っている。
 性・年齢別で見ると、「はい」は女性50歳代・60歳代（62.7%、63.8%）で6割強を占めて多くなっている。「いいえ」は男性18～29歳（70.0%）で7割、女性18～29歳・30歳代（65.2%、69.3%）と男性40歳代（61.2%）で6割台となっている。

図表 12-3-2 性・年齢別 成年年齢引下げの認知度

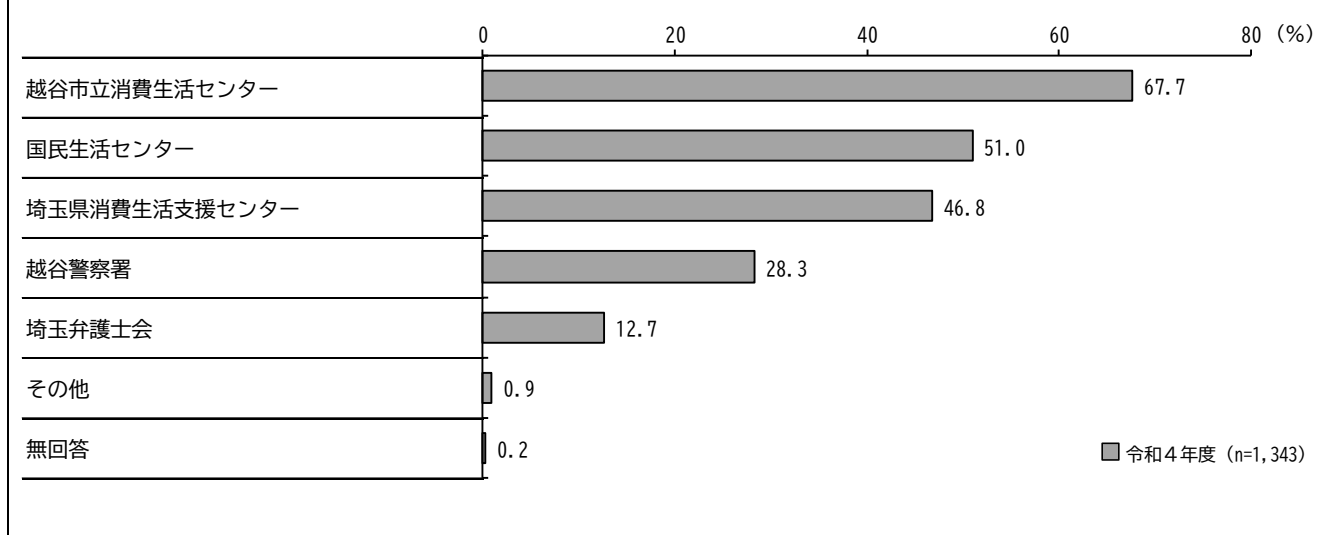


(4) 知っている相談先

◇「越谷市立消費生活センター」が7割弱で最も多い

問 42-2. 問 42 で「1. はい」と答えた方に伺います。知っている相談先を次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

図表 12-4-1 知っている相談先



消費者トラブルに関する相談先を知っているかについて「はい」と回答した1,343人に、知っている相談先を聞いたところ、「越谷市立消費生活センター」(67.7%)が最も多く、次いで「国民生活センター」(51.0%)、「埼玉県消費生活支援センター」(46.8%)、「越谷警察署」(28.3%)、「埼玉弁護士会」(12.7%)の順となっている。

性別で見ると、「越谷市立消費生活センター」は女性（69.2%）が男性（64.9%）を4.3ポイント上回っている。一方、「国民生活センター」は男性（54.4%）が女性（48.5%）を5.9ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「越谷市立消費生活センター」は男女ともにすべての年齢で5割を超えており、70歳以上の女性（80.4%）で約8割、男性（76.4%）で7割半ばを占め多くなっている。「国民生活センター」は男性50歳代以下（60.7%、62.5%、60.0%、63.6%）で6割を占めている。「埼玉県消費生活支援センター」は女性18～29歳・30歳代（50.0%、51.2%）、男性70歳以上（50.3%）が5割台と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 12-4-2 性・年齢別 知っている相談先

	調査数（人）	越谷市立消費生活センター	国民生活センター	埼玉県消費生活支援センター	越谷警察署	埼玉弁護士会	その他	無回答
全体	1,343	67.7	51.0	46.8	28.3	12.7	0.9	0.2
女性全体	730	69.2	48.5	46.0	27.7	11.0	0.8	0.1
18～29歳	46	67.4	41.3	50.0	39.1	4.3	4.3	-
30～39歳	43	55.8	58.1	51.2	30.2	9.3	-	-
40～49歳	103	56.3	58.3	35.9	25.2	12.6	1.0	-
50～59歳	153	64.1	49.7	44.4	23.5	7.8	-	0.7
60～69歳	134	68.7	51.5	49.3	22.4	12.7	-	-
70歳以上	250	80.4	42.0	48.0	31.6	12.8	1.2	-
男性全体	562	64.9	54.4	47.3	29.7	14.2	1.1	0.4
18～29歳	28	64.3	60.7	35.7	25.0	3.6	-	-
30～39歳	56	58.9	62.5	44.6	26.8	14.3	3.6	-
40～49歳	75	58.7	60.0	46.7	26.7	12.0	-	1.3
50～59歳	107	54.2	63.6	48.6	28.0	12.1	0.9	-
60～69歳	105	62.9	59.0	45.7	23.8	13.3	1.9	-
70歳以上	191	76.4	41.4	50.3	36.6	18.3	0.5	0.5

13. 防犯カメラについて

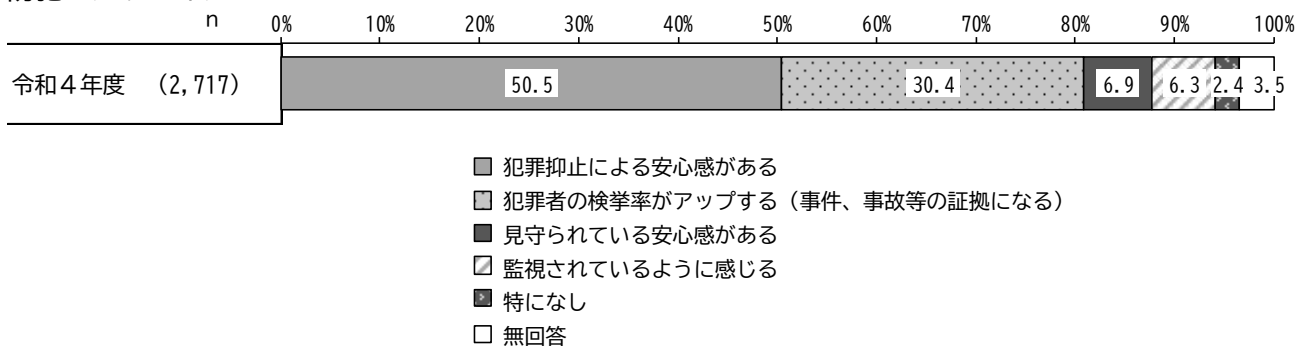
(1) 防犯カメラのイメージ・設置してほしい場所・設置数

- ◇防犯カメラのイメージは「犯罪抑止による安心感がある」が約5割で最も多い
- 防犯カメラを設置してほしい場所は、「人や車の通りが少ない道路（周りに家などが無い道路など）」が4割半ばで最も多い
- 防犯カメラの設置数は「増設してほしい」が8割弱で最も多い

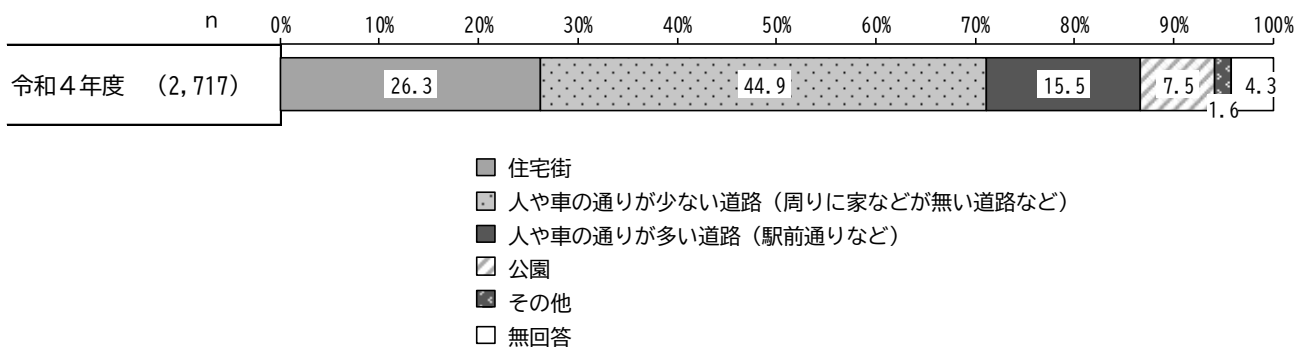
問 43. 防犯カメラのイメージ・設置してほしい場所・設置数について、あなたの考えに近いものを、次の中から選んでください。(それぞれ○は1つずつ)

図表 13-1-1 防犯カメラのイメージ・設置してほしい場所・設置数

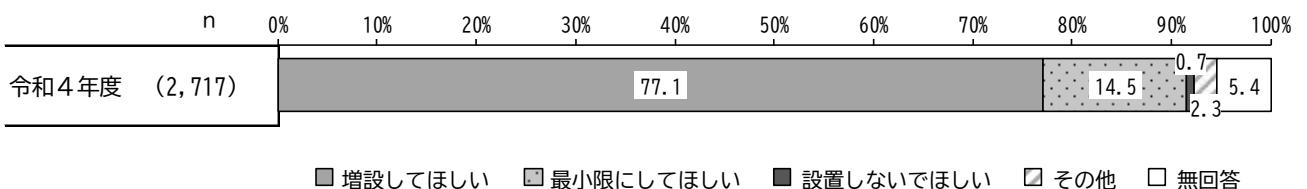
防犯カメラのイメージ



防犯カメラを設置してほしい場所



防犯カメラの設置数



防犯カメラのイメージについては、「犯罪抑止による安心感がある」(50.5%)が最も多く、次いで「犯罪者の検挙率がアップする(事件、事故等の証拠になる)」(30.4%)、「見守られている安心感がある」(6.9%)、「監視されているように感じる」(6.3%)、「特になし」(2.4%)の順となっている。

防犯カメラを設置してほしい場所については、「人や車の通りが少ない道路(周りに家などが無い道路など)」(44.9%)が最も多く、次いで「住宅街」(26.3%)、「人や車の通りが多い道路(駅前通りなど)」(15.5%)、「公園」(7.5%)の順となっている。

防犯カメラの設置数については、「増設してほしい」(77.1%)が最も多く、次いで「最小限にしてほしい」(14.5%)、「設置しないでほしい」(0.7%)の順となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

第4章 調査結果の詳細

防犯カメラのイメージについて性別でみると、「犯罪抑止による安心感がある」は女性（52.3%）が男性（48.3%）を4ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「犯罪抑止による安心感がある」は男性18～29歳（36.4%）を除くすべての年齢で男女ともに最も多くなっており、女性40歳代（47.3%）を除くすべての年齢の女性と男性30歳代・70歳以上（51.6%、52.0%）で5割を超えている。また、「犯罪者の検挙率がアップする（事件、事故等の証拠になる）」は女性60歳代・70歳以上（29.5%、21.6%）、男性30歳代・70歳以上（27.8%、22.5%）を除くすべての年齢で男女ともに3割を超えている。一方、「監視されているように感じる」は男性18～29歳・30歳代（12.7%、11.9%）で1割台となっている。

防犯カメラを設置してほしい場所について性別でみると、「人や車の通りが少ない道路（周りに家などが無い道路など）」は女性（50.1%）が男性（39.8%）を10.3ポイント上回っている。一方、「住宅街」は男性（31.6%）が女性（21.6%）を10ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「人や車の通りが少ない道路（周りに家などが無い道路など）」は男性70歳以上（34.2%）を除くすべての年齢で男女ともに最も多くなっており、特に女性18～29歳（63.1%）は6割強で多く、女性40歳代・50歳代（54.0%、53.3%）、男性18～29歳（54.5%）でも5割を超えている。また「住宅街」は男性30歳代・50歳代以上（36.5%、30.4%、33.3%、35.7%）で3割を超えて多くなっている。

防犯カメラの設置数について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「増設してほしい」はすべての年齢で男女ともに最も多く、男性18～29歳（69.1%）を除くすべての年齢で男女ともに7割を超えている。一方、「最小限にしてほしい」は男性18～29歳・30歳代（20.0%、20.6%）で2割を占めている。

図表 13-1-2 性・年齢別 防犯カメラのイメージ・設置してほしい場所・設置数

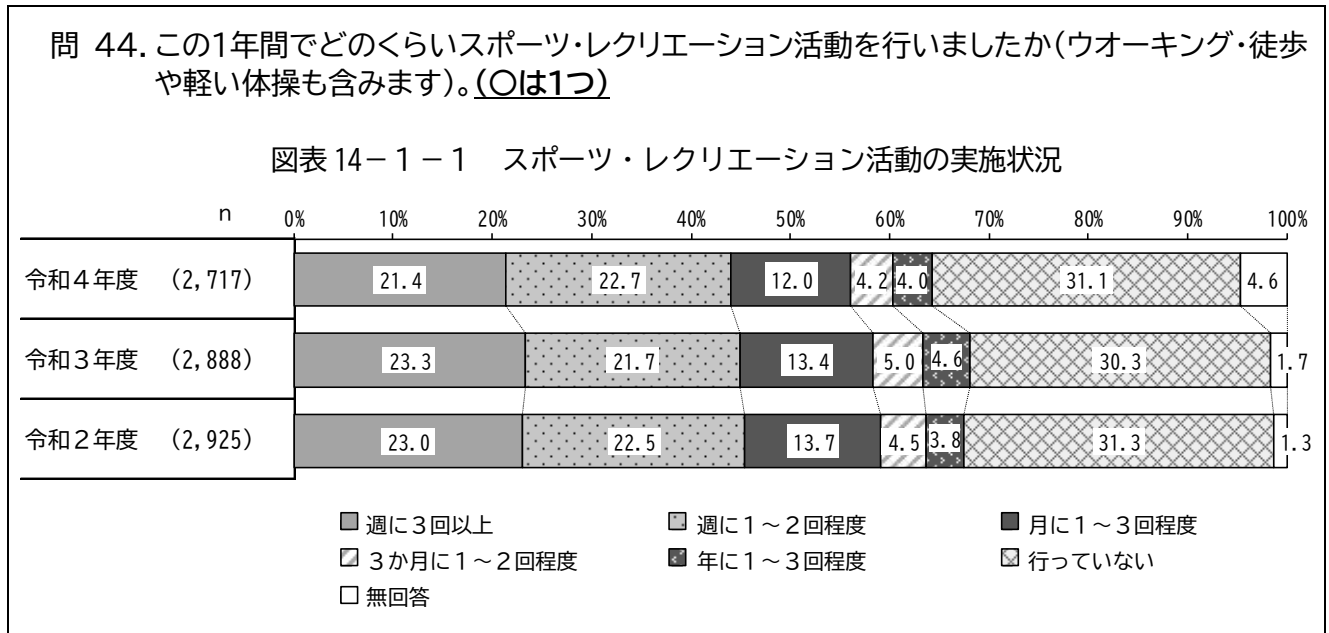
(%)

	調査数（人）	防犯カメラのイメージ						防犯カメラを設置してほしい場所						防犯カメラの設置数				
		犯罪抑止による安心感がある	（犯罪者の検挙率等がアップする）	見守られている安心感がある	監視されているように感じる	特になし	無回答	住宅街	人や車の通りが少ない道路など（周りに家などが無い道路など）	人や車の通りが多い道路（駅前）	公園	その他	無回答	増設してほしい	最小限にしてほしい	設置しないでほしい	その他	無回答
全体	2,717	50.5	30.4	6.9	6.3	2.4	3.5	26.3	44.9	15.5	7.5	1.6	4.3	77.1	14.5	0.7	2.3	5.4
女性全体	1,414	52.3	30.6	6.9	5.0	2.1	3.1	21.6	50.1	13.8	9.1	1.4	4.0	77.4	13.4	0.8	2.9	5.6
18～29歳	141	50.4	34.8	3.5	6.4	2.8	2.1	18.4	63.1	9.2	5.7	-	3.5	79.4	12.1	-	5.0	3.5
30～39歳	153	53.6	30.1	3.3	6.5	3.9	2.6	20.9	47.7	15.7	8.5	3.9	3.3	82.4	10.5	1.3	2.6	3.3
40～49歳	226	47.3	38.5	7.1	4.0	1.8	1.3	18.6	54.0	11.5	11.5	2.2	2.2	80.5	11.5	0.4	3.1	4.4
50～59歳	244	50.8	37.7	3.7	5.7	1.6	0.4	22.5	53.3	15.2	7.4	1.2	0.4	82.8	11.5	0.4	3.7	1.6
60～69歳	210	52.9	29.5	8.1	4.8	2.4	2.4	25.2	44.8	13.3	12.4	1.4	2.9	74.3	16.7	1.0	1.9	6.2
70歳以上	439	55.8	21.6	10.5	4.1	1.6	6.4	22.3	45.6	15.3	8.4	0.7	7.7	71.8	15.3	1.1	2.3	9.6
男性全体	1,200	48.3	31.3	6.6	8.0	3.0	2.9	31.6	39.8	17.4	5.8	1.9	3.6	77.7	15.8	0.8	1.7	4.1
18～29歳	110	36.4	37.3	5.5	12.7	1.8	6.4	17.3	54.5	16.4	2.7	2.7	6.4	69.1	20.0	-	3.6	7.3
30～39歳	126	51.6	27.8	6.3	11.9	1.6	0.8	36.5	42.9	11.9	5.6	2.4	0.8	74.6	20.6	0.8	2.4	1.6
40～49歳	201	47.3	36.8	3.0	8.5	3.5	1.0	29.4	41.3	16.9	7.5	3.5	1.5	82.1	13.4	1.5	2.0	1.0
50～59歳	227	46.7	37.0	2.2	8.4	3.5	2.2	30.4	41.4	20.7	2.2	2.2	3.1	80.6	13.7	1.3	1.8	2.6
60～69歳	201	49.8	32.3	6.5	6.5	3.0	2.0	33.3	35.3	20.9	7.5	1.0	2.0	82.1	13.4	1.0	1.5	2.0
70歳以上	333	52.0	22.5	12.3	5.4	3.3	4.5	35.7	34.2	15.9	7.2	0.9	6.0	74.5	17.1	-	0.6	7.8

14. スポーツ・レクリエーションの実施状況について

(1) スポーツ・レクリエーション活動の実施状況

◇『週に1回以上』が4割半ば、『月に1回以上』が5割半ば



この1年間のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況については、「週に3回以上」(21.4%)と「週に1～2回程度」(22.7%)を合わせた『週に1回以上』(44.1%)は4割半ば、『週に1回以上』と「月に1～3回程度」(12.0%)を合わせた『月に1回以上』(56.1%)は5割半ばとなっている。一方、「行っていない」(31.1%)は約3割となっている。

過去2回の調査と比較すると、『週に1回以上』『月に1回以上』とも令和3年度(45.0%、58.4%)と概ね同様の傾向となっている。

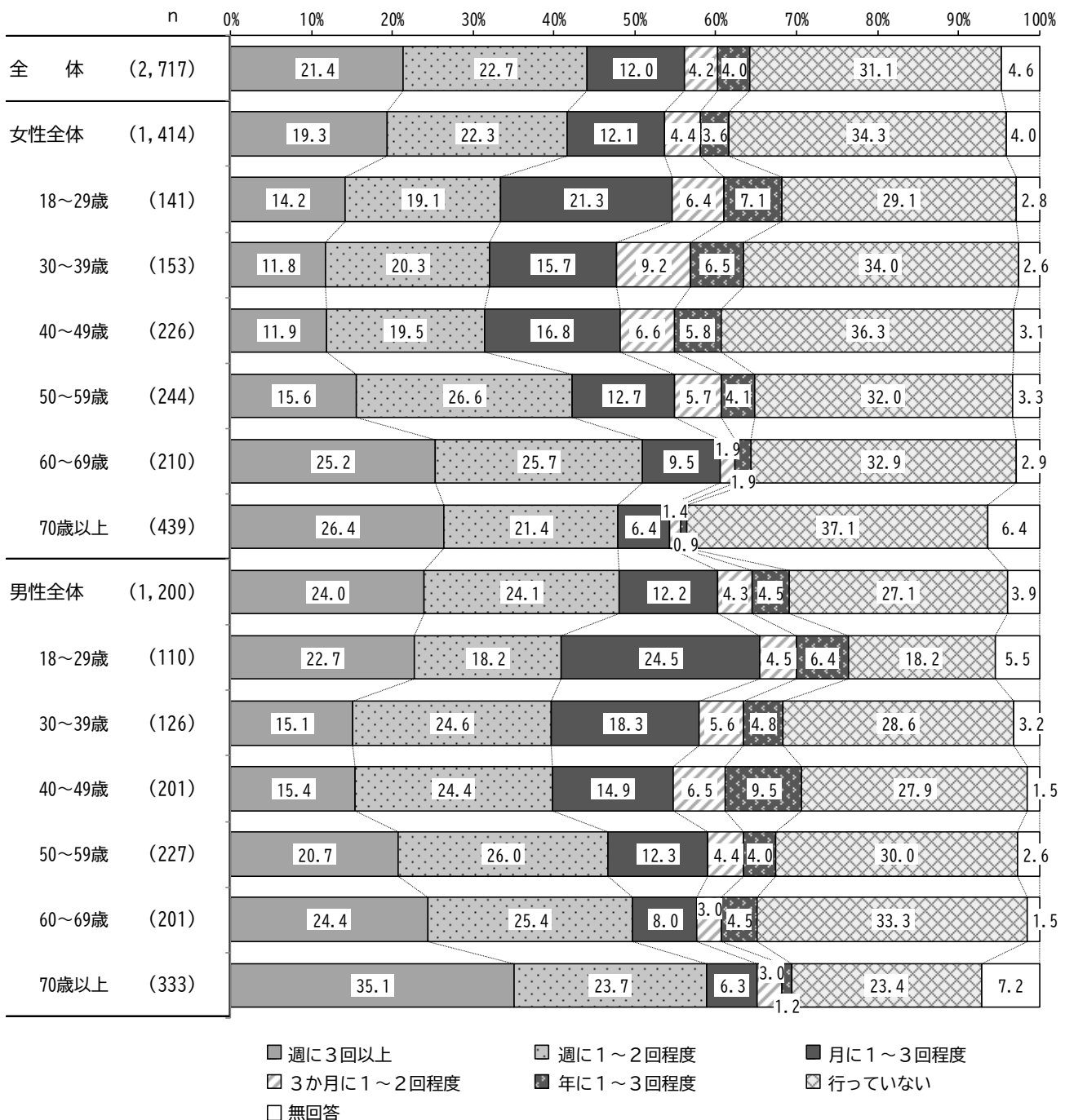
※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

第4章 調査結果の詳細

性別で見ると、『週に1回以上』（女性41.6%、男性48.1%）は6.5ポイント、『月に1回以上』（女性53.7%、男性60.3%）は6.6ポイント、男性が女性を上回っている。

性・年齢別で見ると、女性は『週に1回以上』が40歳代以下（33.3%、32.1%、31.4%）で3割台、50歳代以上（42.2%、50.9%、47.8%）で4割以上となっている。また、『月に1回以上』は60歳代（60.4%）で6割を超えるが、30歳代・40歳代（47.7%、48.2%）は5割弱となっている。一方、男性は『週に1回以上』が70歳以上（58.8%）で6割弱、40歳代以下（40.9%、39.7%、39.8%）で約4割、50歳代・60歳代（46.7%、49.8%）で4割台となっている。また、『月に1回以上』は18～29歳・70歳以上（65.4%、65.1%）で6割を超え、それ以外の年齢も5割台となっている。『週に1回以上』『月に1回以上』とも60歳代以外の年齢ではいずれも男性が女性を上回っている

図表 14-1-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動の実施状況

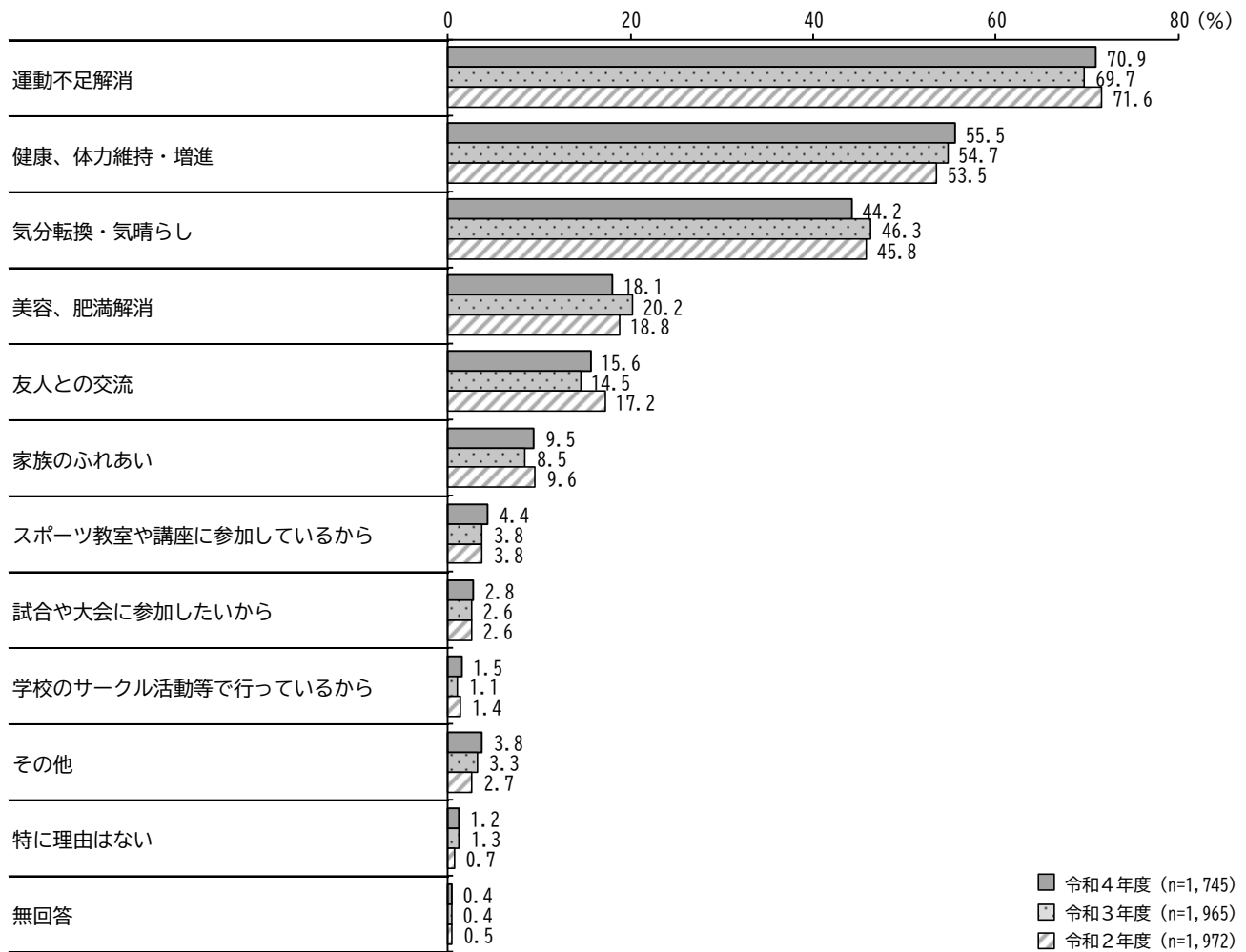


(2) スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由

◇ 「運動不足解消」が約7割で最も多い

問 44-2. 問 44 で「1」から「5」のいずれかと答えた方に伺います。
 あなたがスポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由は何ですか。
 (〇は3つまで)

図表 14-2-1 スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由



この1年間でスポーツ・レクリエーション活動を行ったと回答した1,745人に、スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由を聞いたところ、「運動不足解消」(70.9%)が最も多く、次いで「健康、体力維持・増進」(55.5%)、「気分転換・気晴らし」(44.2%)、「美容、肥満解消」(18.1%)、「友人との交流」(15.6%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、令和3年度と項目の順位が同じとなっており、割合も概ね同様の傾向となっている。

第4章 調査結果の詳細

性別で見ると、「美容、肥満解消」（女性 21.9%、男性 14.4%）、「スポーツ教室や講座に参加しているから」（女性 6.3%、男性 2.3%）、「家族のふれあい」（女性 11.6%、男性 7.7%）は女性が男性をそれぞれ 7.5 ポイント、4.0 ポイント、3.9 ポイント上回っている。一方、「気分転換・気晴らし」（女性 40.4%、男性 48.6%）、「運動不足解消」（女性 67.5%、男性 74.4%）は男性が女性をそれぞれ 8.2 ポイント、6.9 ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「運動不足解消」はすべての年齢で男女とも 5 割を超え、女性 18～29 歳（58.3%）を除くすべての年齢で最も多くなっている。「健康、体力維持・増進」は男性 40 歳代（44.4%）を除くと、男女ともに年齢が上がるにつれ増加する傾向にあり、70 歳以上（女性 73.0%、男性 73.6%）は 7 割強を占め、最も多くなっている。また「気分転換・気晴らし」は女性 18～19 歳（60.4%）、男性 18 歳～29 歳・30 歳（60.7%、60.5%）で約 6 割を占めている。一方「美容、肥満解消」は女性 40 歳代以下（30.2%、32.0%、33.6%）で 3 割台を占めるが、70 歳以上（9.3%）は低くなっている。

「友人との交流」は女性 70 歳以上（女性 27.8%）、「家族のふれあい」は女性 30 歳代（39.2%）で多くなっている。

図表 14-2-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由

	調査数（人）	運動不足解消	健康、体力維持・増進	気分転換・気晴らし	美容、肥満解消	友人との交流	家族のふれあい	スポーツ教室や講座に参加しているから	試合や大会に参加したいから	学校のサークル活動等で行っているから	その他	特に理由はない	無回答
全体	1,745	70.9	55.5	44.2	18.1	15.6	9.5	4.4	2.8	1.5	3.8	1.2	0.4
女性全体	872	67.5	53.8	40.4	21.9	16.2	11.6	6.3	1.4	1.4	4.4	1.5	0.5
18～29歳	96	58.3	24.0	60.4	30.2	8.3	12.5	2.1	-	8.3	4.2	4.2	-
30～39歳	97	52.6	34.0	38.1	32.0	8.2	39.2	2.1	-	-	6.2	1.0	1.0
40～49歳	137	67.2	40.1	35.0	33.6	10.2	19.7	2.9	1.5	1.5	5.1	2.2	-
50～59歳	158	70.3	54.4	48.1	20.3	10.1	9.5	6.3	1.9	1.3	4.4	1.3	-
60～69歳	135	69.6	66.7	40.0	22.2	19.3	4.4	11.1	2.2	-	3.7	0.7	-
70歳以上	248	74.2	73.0	31.9	9.3	27.8	1.2	8.9	1.6	-	3.6	0.8	1.2
男性全体	828	74.4	56.8	48.6	14.4	14.6	7.7	2.3	4.2	1.4	3.1	1.0	0.1
18～29歳	84	66.7	28.6	60.7	15.5	16.7	1.2	2.4	6.0	8.3	8.3	1.2	-
30～39歳	86	72.1	47.7	60.5	20.9	11.6	16.3	3.5	3.5	2.3	1.2	-	-
40～49歳	142	71.8	44.4	53.5	23.9	10.6	16.2	2.1	7.0	0.7	2.8	1.4	0.7
50～59歳	153	74.5	52.3	54.2	17.0	14.4	6.5	2.0	5.2	-	4.6	1.3	-
60～69歳	131	79.4	69.5	42.7	14.5	14.5	3.1	2.3	3.1	-	0.8	-	-
70歳以上	231	76.6	73.6	36.4	3.9	17.3	5.2	2.2	2.2	0.9	2.6	1.3	-

(3) スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由

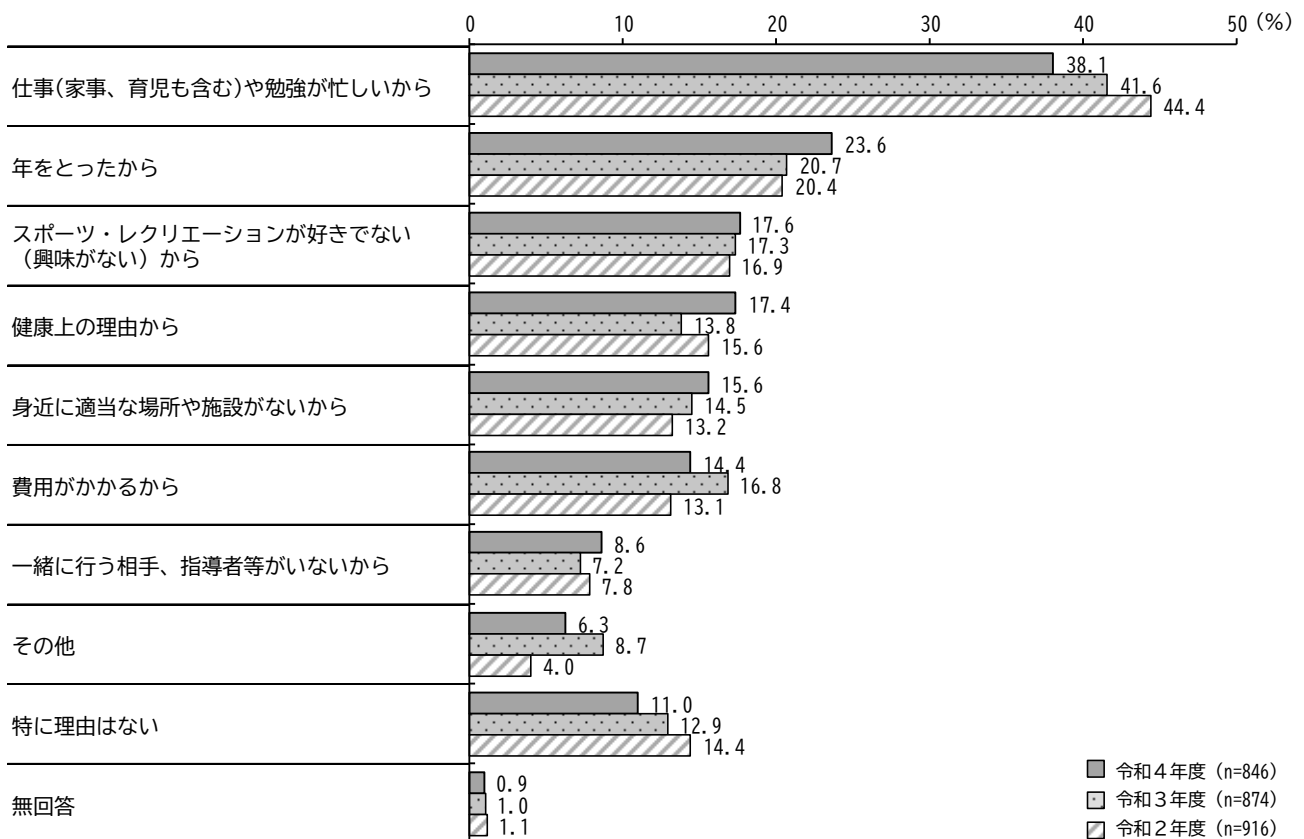
◇「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」が4割弱で最も多い

問 44-3. 問 44 で「6. 行っていない」と答えた方に伺います。

あなたが、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由は何ですか。

(○は3つまで)

図表 14-3-1 スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由



この1年間にスポーツ・レクリエーション活動を「行っていない」と回答した846人に、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由を聞いたところ、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」(38.1%)が最も多く、次いで「年をとったから」(23.6%)、「スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から」(17.6%)、「健康上の理由から」(17.4%)、「身近に適切な場所や施設がないから」(15.6%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「健康上の理由から」を除く上位4項目は令和3年度と同じ順位になっているが、「仕事(家事、育児も含む)や勉強が忙しいから」は減少傾向にあり、反対に「年をとったから」「スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から」「身近に適切な場所や施設がないから」は増加傾向にある。

第4章 調査結果の詳細

性別で見ると、「身近に適切な場所や施設がないから」（女性 18.1%、男性 12.3%）、「健康上の理由から」（女性 19.2%、男性 14.5%）は女性が男性をそれぞれ 5.8 ポイント、4.7 ポイント上回っている。一方、「特に理由はない」は男性（13.8%）が女性（8.9%）を 4.9 ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、男女ともに 70 歳以上を除き「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」が最も多く、男性 30 歳代（75.0%）で 7 割半ば、女性 18～29 歳・30 歳代（68.3%、63.5%）と男性 40 歳代（62.5%）で 6 割台と多くなっている。一方、70 歳以上は「年をとったから」（女性 57.7%、男性 44.9%）と「健康上の理由から」（女性 35.0%、男性 37.2%）で多くなっている。また、「スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から」は女性 18～29 歳（41.5%）で約 4 割、「費用がかかるから」は女性 50 歳代（24.4%）で 2 割半ば、「健康上の理由から」は 70 歳以上の女性（35.0%）と男性（37.2%）で 3 割台となっている。一方、「特に理由はない」は男性 50 歳代（23.5%）で 2 割強を占めている。

※調査数が少ないもの（本調査では 30 人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 14-3-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由

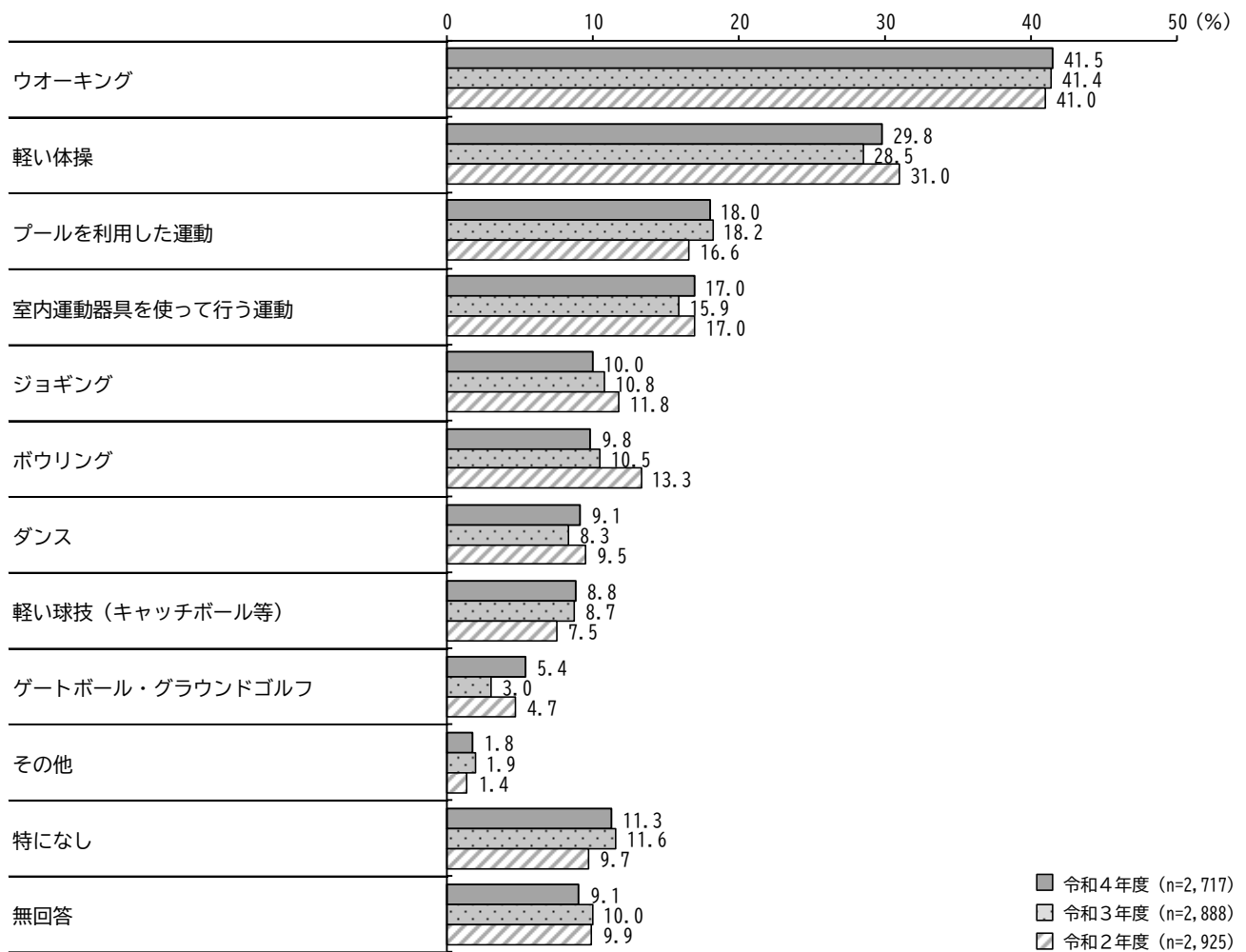
	調査数（人）	忙しい（家事、育児も含む）や勉強が	年をとったから	スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から	健康上の理由から	身近に適切な場所や施設がないから	費用がかかるから	一緒に相手、指導者等がないから	その他	特に理由はない	無回答
全体	846	38.1	23.6	17.6	17.4	15.6	14.4	8.6	6.3	11.0	0.9
女性全体	485	38.8	23.7	18.4	19.2	18.1	15.7	8.5	6.4	8.9	0.2
18～29歳	41	68.3	2.4	41.5	2.4	22.0	19.5	12.2	2.4	7.3	-
30～39歳	52	63.5	-	23.1	1.9	17.3	21.2	5.8	1.9	13.5	-
40～49歳	82	58.5	6.1	17.1	7.3	25.6	20.7	11.0	4.9	8.5	-
50～59歳	78	52.6	6.4	17.9	11.5	23.1	24.4	5.1	12.8	6.4	-
60～69歳	69	33.3	14.5	15.9	27.5	13.0	14.5	11.6	1.4	14.5	1.4
70歳以上	163	9.2	57.7	12.9	35.0	13.5	6.7	7.4	8.6	6.7	-
男性全体	325	38.8	20.6	18.2	14.5	12.3	13.2	9.2	6.5	13.8	1.8
18～29歳	20	50.0	-	25.0	5.0	5.0	20.0	15.0	15.0	15.0	5.0
30～39歳	36	75.0	5.6	30.6	5.6	13.9	13.9	19.4	2.8	-	-
40～49歳	56	62.5	7.1	17.9	3.6	16.1	17.9	7.1	7.1	16.1	-
50～59歳	68	47.1	13.2	13.2	5.9	13.2	17.6	8.8	4.4	23.5	2.9
60～69歳	67	25.4	25.4	22.4	13.4	9.0	11.9	9.0	4.5	11.9	3.0
70歳以上	78	6.4	44.9	11.5	37.2	12.8	5.1	5.1	9.0	11.5	1.3

(4) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（比較的軽いスポーツ）

◇「ウォーキング」が約4割で最も多い

問 45. 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

図表 14-4-1 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
—比較的軽いスポーツ—



今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（比較的軽いスポーツ）については、「ウォーキング」(41.5%)が最も多く、次いで「軽い体操」(29.8%)、「プールを利用した運動」(18.0%)、「室内運動器具を使って行う運動」(17.0%)、「ジョギング」(10.0%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、順位に変動はあるものの、全体的に大きな変化はみられない。

第4章 調査結果の詳細

性別で見ると、「軽い体操」(女性 38.9%、男性 19.6%)、「ダンス」(女性 13.8%、男性 3.7%)は女性が男性をそれぞれ 19.3 ポイント、10.1 ポイント上回っている。一方、「ジョギング」(男性 13.7%、女性 7.0%)、「軽い球技(キャッチボール等)」(男性 11.8%、女性 6.2%)は男性が女性をそれぞれ 6.7 ポイント、5.6 ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「ウォーキング」は男性 18～29 歳(23.6%)を除くすべての年齢で男女ともに 3 割を超えており、特に男性 60 歳代(51.7%)は約 5 割を占めている。「軽い体操」女性 50 歳代以上(40.2%、45.2%、43.7%)で 4 割台となっている。また、「プールを利用した運動」は女性 50 歳代以下と男性 40 歳代以下で 2 割を超え、「ジョギング」は男性 18～29 歳・30 歳代(20.0%、21.4%)、「ボウリング」は男性 18～29 歳(23.6%)、「ダンス」は女性 18～29 歳・30 歳代(25.5%、22.9%)で 2 割台となっている。一方、「特になし」は女性 70 歳以上(17.8%)が最も多く、すべての年齢で男女ともに 2 割未満となっている。

図表 14-4-2 性・年齢別 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
—比較的軽いスポーツ—

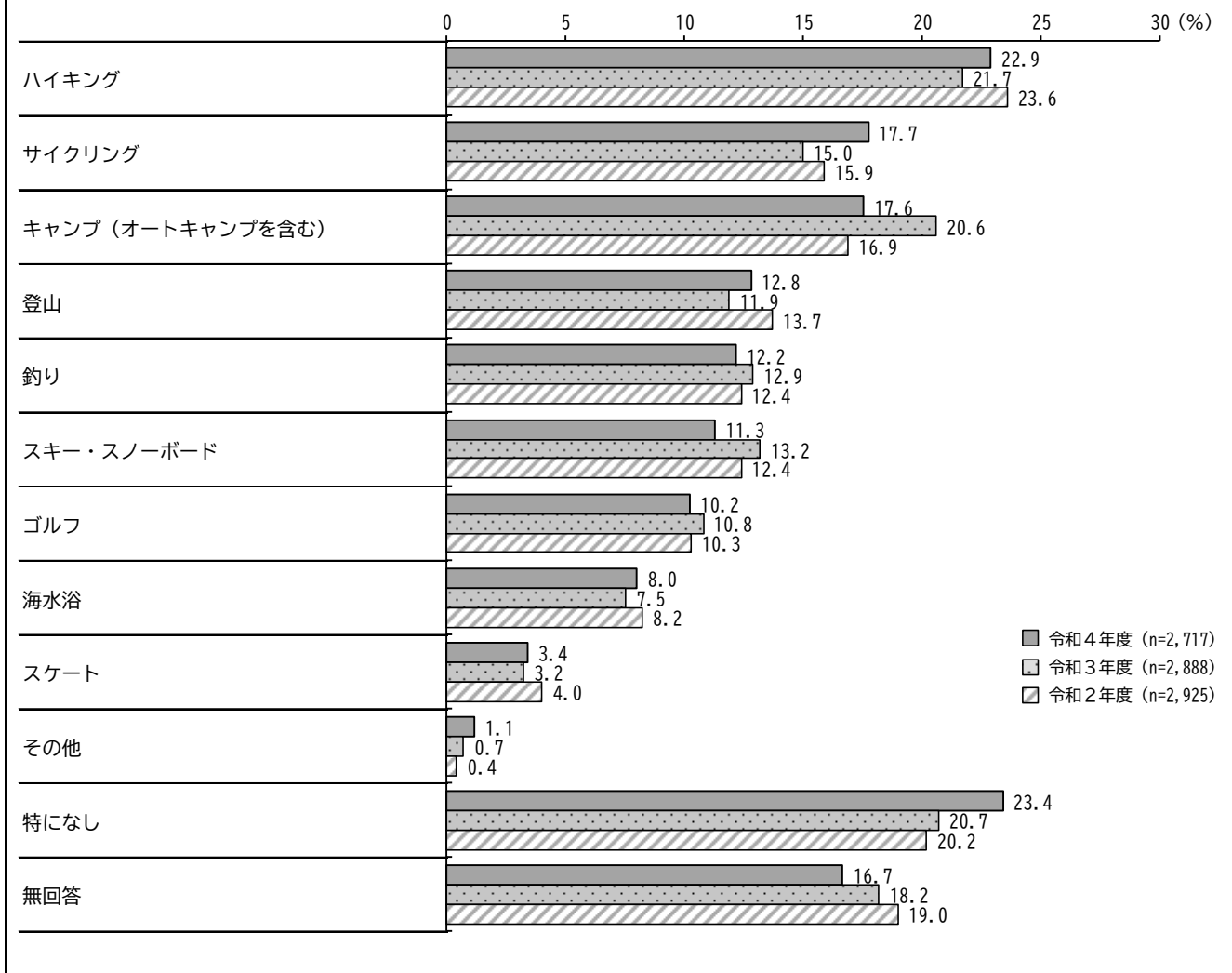
	調査数(人)	ウォーキング	軽い体操	プールを利用した運動	室内運動器具を使って行う運動	ジョギング	ボウリング	ダンス	軽い球技(キャッチボール等)	ゲートボール・グラウンドゴルフ	その他	特になし	無回答
全体	2,717	41.5	29.8	18.0	17.0	10.0	9.8	9.1	8.8	5.4	1.8	11.3	9.1
女性全体	1,414	41.0	38.9	17.8	18.2	7.0	8.6	13.8	6.2	4.4	2.2	11.5	7.7
18～29歳	141	33.3	27.0	27.7	18.4	19.9	14.9	25.5	17.0	3.5	2.1	8.5	5.0
30～39歳	153	47.1	34.0	28.1	15.0	18.3	11.8	22.9	12.4	2.0	2.0	8.5	3.9
40～49歳	226	43.4	33.2	21.7	16.4	8.4	9.3	16.8	8.8	2.7	4.0	7.1	8.4
50～59歳	244	43.9	40.2	20.5	28.3	5.3	9.0	15.2	6.6	3.3	2.9	8.2	5.7
60～69歳	210	45.2	45.2	16.2	18.1	1.9	8.6	9.5	2.4	5.7	2.4	11.0	6.2
70歳以上	439	36.7	43.7	8.2	14.6	1.6	5.0	6.6	0.9	6.4	0.9	17.8	11.4
男性全体	1,200	42.8	19.6	19.0	16.3	13.7	11.5	3.7	11.8	6.8	1.3	11.0	9.2
18～29歳	110	23.6	8.2	24.5	24.5	20.0	23.6	4.5	19.1	3.6	2.7	12.7	11.8
30～39歳	126	37.3	15.9	27.0	19.0	21.4	8.7	9.5	21.4	4.0	1.6	8.7	4.8
40～49歳	201	37.3	16.9	26.4	14.9	19.9	12.9	3.5	18.9	3.5	0.5	8.5	8.5
50～59歳	227	43.2	14.1	15.4	16.3	12.3	12.8	2.2	9.3	3.1	1.3	13.2	11.0
60～69歳	201	51.7	20.4	16.9	14.4	12.9	8.5	1.5	7.5	8.0	0.5	11.4	5.5
70歳以上	333	48.9	29.7	13.2	14.7	6.3	8.7	3.6	6.0	12.6	1.8	11.1	11.1

(5) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（野外活動）

◇「ハイキング」が2割強で最も多い

問 45. 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

図表 14-5-1 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
—野外活動—



今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（野外活動）については、「ハイキング」(22.9%)が最も多く、次いで「サイクリング」(17.7%)、「キャンプ(オートキャンプを含む)」(17.6%)、「登山」(12.8%)、「釣り」(12.2%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、順位に変動はあるものの、全体的に大きな変化はみられないが「特になし」は増加傾向にある。

第4章 調査結果の詳細

性別で見ると、「ハイキング」は女性（25.5%）が男性（20.6%）を4.9ポイント上回っており、「特になし」も女性（27.6%）が男性（18.8%）を8.8ポイント上回っている。一方、「釣り」（男性18.3%、女性7.0%）、「ゴルフ」（男性16.0%、女性5.3%）、「サイクリング」（男性22.2%、女性14.6%）、「スキー・スノーボード」（男性14.5%、女性9.2%）は男性が女性をそれぞれ11.3ポイント、10.7ポイント、7.6ポイント、5.3ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「ハイキング」は女性50歳代・60歳代（30.3%、38.1%）と男性60歳代（30.8%）で3割台と多くなっている。「サイクリング」は男性70歳以上（15.3%）を除く男性のすべての年齢で2割台となっており、女性18～29歳（20.6%）も約2割を占めている。「キャンプ（オートキャンプを含む）」は女性30歳代（43.1%）で4割強と最も多く、女性18～29歳（30.5%）、男性40歳代以下（30.9%、34.1%、32.8%）で3割台を占めている。「スキー・スノーボード」は18～29歳の女性（36.9%）と男性（31.8%）ともに3割台と多く、女性30歳代（20.3%）と男性30歳代・40歳代（27.8%、22.4%）で2割台を占めている。また、「登山」は女性18～29歳・30歳代（22.0%、24.8%）、男性30歳代（21.4%）で、「釣り」は男性18～29歳・30歳代（23.6%、23.0%）で、「海水浴」は女性18～29歳（21.3%）、男性18～29歳・30歳代（20.0%、23.0%）で2割台となっている。一方、「特になし」は女性70歳以上（41.5%）が約4割を占め最も多く女性40～60歳代（21.2%、26.6%、21.9%）と男性70歳以上（26.7%）も2割台を占めている。

図表14-5-2 性・年齢別 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
—野外活動—

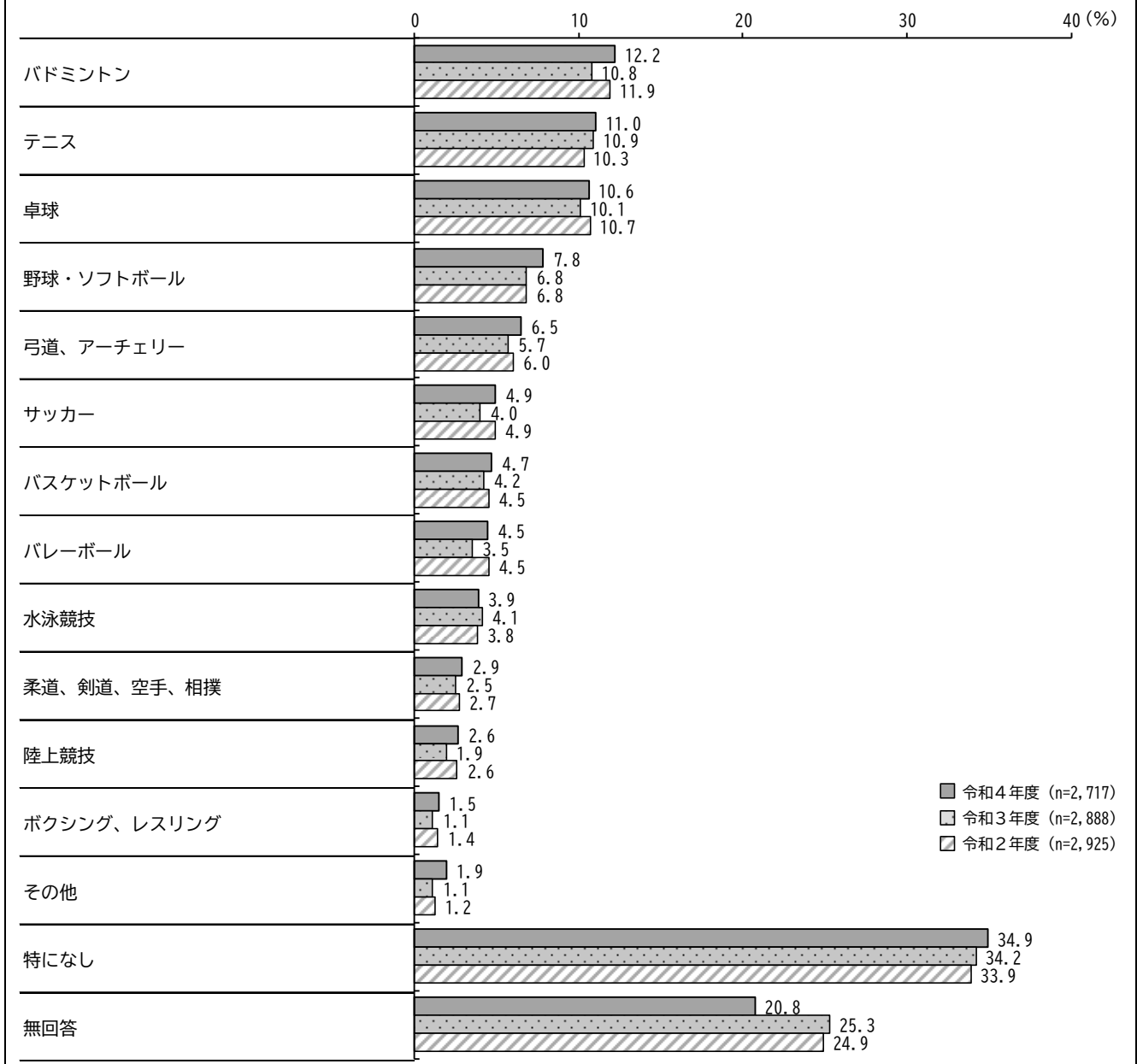
	調査数（人）	ハイキング	サイクリング	を キャンプ（含む）	登山	釣り	スキー・スノーボード	ゴルフ	海水浴	スケート	その他	特になし	無回答
全体	2,717	22.9	17.7	17.6	12.8	12.2	11.3	10.2	8.0	3.4	1.1	23.4	16.7
女性全体	1,414	25.5	14.6	16.3	12.0	7.0	9.2	5.3	6.8	4.2	0.9	27.6	18.1
18～29歳	141	13.5	20.6	30.5	22.0	16.3	36.9	7.8	21.3	16.3	0.7	19.1	8.5
30～39歳	153	29.4	19.6	43.1	24.8	15.7	20.3	5.2	19.0	7.8	0.7	13.7	11.1
40～49歳	226	21.7	16.8	22.6	15.5	9.7	10.2	7.5	7.1	6.6	0.9	21.2	13.3
50～59歳	244	30.3	19.3	13.1	11.9	6.6	6.6	7.4	4.5	2.9	1.2	26.6	11.9
60～69歳	210	38.1	17.1	11.0	8.6	2.9	2.9	4.8	2.9	0.5	1.4	21.9	22.4
70歳以上	439	21.2	6.2	3.6	4.3	1.8	0.5	2.5	0.9	0.2	0.7	41.5	27.6
男性全体	1,200	20.6	22.2	20.1	14.5	18.3	14.5	16.0	9.8	2.7	1.4	18.8	12.9
18～29歳	110	9.1	27.3	30.9	19.1	23.6	31.8	15.5	20.0	9.1	0.9	18.2	13.6
30～39歳	126	14.3	27.8	34.1	21.4	23.0	27.8	12.7	23.0	2.4	2.4	12.7	10.3
40～49歳	201	16.4	24.9	32.8	17.4	13.4	22.4	18.4	14.9	4.0	0.5	12.4	7.0
50～59歳	227	22.5	22.0	25.6	16.3	18.1	14.1	18.9	9.7	1.8	1.3	15.4	8.8
60～69歳	201	30.8	24.9	15.9	13.9	16.9	8.0	18.4	2.5	1.5	-	19.9	11.4
70歳以上	333	21.9	15.3	2.4	7.8	18.3	3.3	12.6	2.7	1.2	2.7	26.7	20.7

(6) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（競技的スポーツ）

◇「バドミントン」が1割強で最も多い

問 45. 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

図表 14-6-1 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
— 競技的スポーツ —



今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（競技的スポーツ）については、「バドミントン」(12.2%)が最も多く、次いで「テニス」(11.0%)、「卓球」(10.6%)、「野球・ソフトボール」(7.8%)、「弓道、アーチェリー」(6.5%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられないが、上位3項目中「バドミントン」が1位となった。また、「特になし」(34.9%)はやや増加傾向にある。

第4章 調査結果の詳細

性別で見ると、「バドミントン」は女性（15.5%）が男性（8.6%）を6.9ポイント上回っている。また、「特になし」も女性（38.3%）が男性（31.5%）を6.8ポイント上回っている。一方、「野球・ソフトボール」（男性13.9%、女性2.6%）、「サッカー」（男性9.0%、女性1.8%）は男性が女性をそれぞれ11.3ポイント、7.2ポイントを上回っている。

性・年齢別で見ると、「バドミントン」は女性40歳代以下（29.8%、26.8%、24.3%）と男性18～29歳（24.5%）、「テニス」は18～29歳の女性（23.4%）と男性（20.9%）、「サッカー」は男性18～29歳（20.0%）で2割台を占めて多くなっている。一方、男女ともに50歳代以上で「特になし」が3割を超え、特に女性70歳以上（50.1%）では約5割を占めている。

図表 14-6-2 性・年齢別 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
—競技的スポーツ—

	調査数（人）	バドミントン	テニス	卓球	野球・ソフトボール	弓道、アーチェリー	サッカー	バスケットボール	バレーボール	水泳競技	柔道、剣道、空手、相撲	陸上競技	ボクシング、レスリング	その他	特になし	無回答
全体	2,717	12.2	11.0	10.6	7.8	6.5	4.9	4.7	4.5	3.9	2.9	2.6	1.5	1.9	34.9	20.8
女性全体	1,414	15.5	11.5	11.7	2.6	6.4	1.8	3.7	5.4	4.0	1.8	1.5	0.7	1.6	38.3	21.6
18～29歳	141	29.8	23.4	6.4	5.7	11.3	7.8	9.2	7.1	9.9	3.5	5.7	1.4	2.1	23.4	14.2
30～39歳	153	26.8	16.3	10.5	7.8	7.2	5.9	10.5	12.4	5.2	3.9	2.0	3.3	2.6	29.4	17.6
40～49歳	226	24.3	16.4	11.9	3.5	11.9	1.8	7.1	6.6	6.6	2.7	1.3	0.9	1.3	26.1	16.8
50～59歳	244	18.0	13.5	13.9	1.6	7.0	-	1.6	5.7	2.0	2.0	1.2	-	1.2	42.2	16.0
60～69歳	210	8.6	10.5	17.6	1.0	2.4	0.5	1.0	5.2	3.8	0.5	1.4	-	1.9	38.6	22.4
70歳以上	439	4.3	3.0	9.8	0.7	3.2	0.2	0.5	1.6	1.6	0.7	0.2	0.2	1.1	50.1	30.5
男性全体	1,200	8.6	11.0	9.6	13.9	7.2	9.0	6.1	3.3	4.0	4.3	4.1	2.4	2.3	31.5	17.7
18～29歳	110	24.5	20.9	16.4	17.3	10.9	20.0	17.3	10.9	7.3	6.4	5.5	7.3	2.7	14.5	11.8
30～39歳	126	16.7	15.9	6.3	16.7	11.9	15.9	19.0	7.9	8.7	5.6	6.3	3.2	3.2	15.9	13.5
40～49歳	201	10.0	14.9	9.0	19.4	3.5	17.9	8.5	3.5	5.5	7.0	7.0	5.0	0.5	23.4	11.9
50～59歳	227	5.3	9.3	7.0	18.1	4.8	8.8	4.0	3.1	3.5	2.6	3.5	2.2	2.6	35.7	15.9
60～69歳	201	7.5	11.9	10.9	10.0	11.9	4.5	1.0	1.0	1.5	2.0	4.5	0.5	2.0	38.8	14.9
70歳以上	333	2.4	4.2	9.9	8.1	5.1	0.3	0.6	0.6	1.8	3.9	1.2	0.3	3.0	40.8	27.3

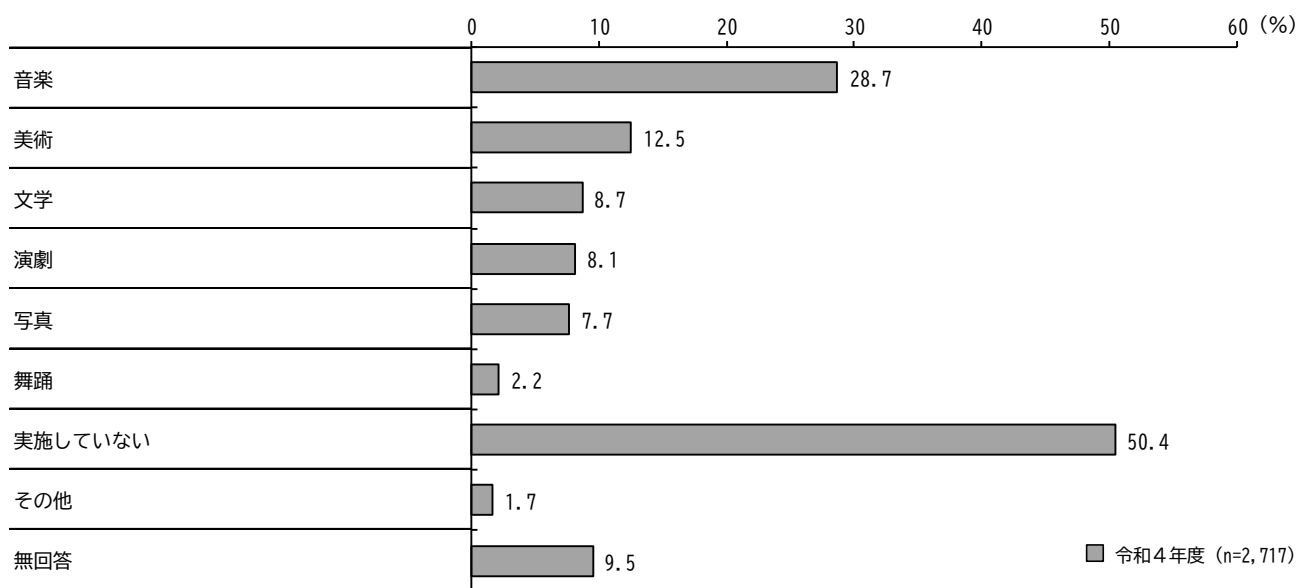
15. 芸術文化活動について

(1) 日常的に実施している芸術文化活動

◇「音楽」が3割弱で最も多い

問 46. 芸術文化とは、人々の創造性をはぐくみ、その表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壌を提供し、多様性を受け入れることのできる心豊かな社会を形成するものです。
あなたが日常的に実施(出演、出展、観覧、応募)している芸術文化活動を次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

図表 15-1-1 日常的に実施している芸術文化活動



日常的に実施している芸術文化活動については、「音楽」(28.7%)が最も多く、次いで「美術」(12.5%)、「文学」(8.7%)、「演劇」(8.1%)、「写真」(7.7%)の順となっている。一方、「実施していない」(50.4%)は約5割を占めている。

性別で見ると、「演劇」(女性 11.5%、男性 4.6%)、「音楽」(女性 31.7%、男性 25.8%)は女性が男性をそれぞれ6.9ポイント、5.9ポイント上回っている。一方、「実施していない」は男性(55.2%)が女性(47.2%)を8ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「音楽」は18～29歳の女性(49.6%)と男性(49.1%)が約5割を占め多く、女性30歳代(45.1%)も4割半ばを占めており、女性40歳代～60歳代(31.0%、31.6%、31.0%)と男性30歳代(31.7%)は約3割を占めている。「美術」は50歳代(20.5%)が約2割を占めている。「演劇」はすべての年齢の男性と女性70歳以上(5.9%)が1割未満となっており、女性60歳以下はいずれも1割台となっている。「写真」は18～29歳・30歳代の女性(17.0%、16.3%)と男性(17.3%、10.3%)が1割台を占めており、それ以外の年齢は男女ともに1割未満となっている。一方、「実施していない」は女性50歳代(51.6%)と男性30歳以上(56.3%、63.2%、58.6%、55.7%、54.4%)で5割を超えており、特に男性40歳代は6割強を占めている。

図表 15-1-2 性・年齢別 日常的に実施している芸術文化活動

	調査数 (人)	音楽	美術	文学	演劇	写真	舞踊	実施 してい ない	その他	無 回 答
全 体	2,717	28.7	12.5	8.7	8.1	7.7	2.2	50.4	1.7	9.5
女性全体	1,414	31.7	14.2	9.0	11.5	7.0	3.3	47.2	1.8	9.0
18～29歳	141	49.6	13.5	12.1	13.5	17.0	3.5	39.7	0.7	2.8
30～39歳	153	45.1	15.7	13.1	15.0	16.3	4.6	37.3	0.7	3.3
40～49歳	226	31.0	11.5	12.8	13.7	8.4	1.8	49.1	1.3	4.0
50～59歳	244	31.6	20.5	10.2	14.3	5.7	2.5	51.6	2.5	3.7
60～69歳	210	31.0	11.9	5.7	12.9	3.3	1.9	48.6	1.0	10.5
70歳以上	439	21.9	12.8	5.5	5.9	2.3	4.6	49.0	2.7	17.8
男性全体	1,200	25.8	10.7	8.8	4.6	8.9	1.0	55.2	1.6	8.3
18～29歳	110	49.1	13.6	12.7	8.2	17.3	2.7	33.6	1.8	9.1
30～39歳	126	31.7	12.7	13.5	2.4	10.3	-	56.3	0.8	3.2
40～49歳	201	22.4	8.5	8.5	4.0	8.0	0.5	63.2	1.0	4.0
50～59歳	227	27.8	10.1	5.3	4.4	6.6	-	58.6	1.3	5.3
60～69歳	201	28.4	13.4	11.4	6.0	9.5	0.5	55.7	1.0	4.0
70歳以上	333	15.3	9.0	6.6	3.9	7.5	2.1	54.4	2.7	16.8

(2) 市が主催する芸術文化事業の認知度・参加状況

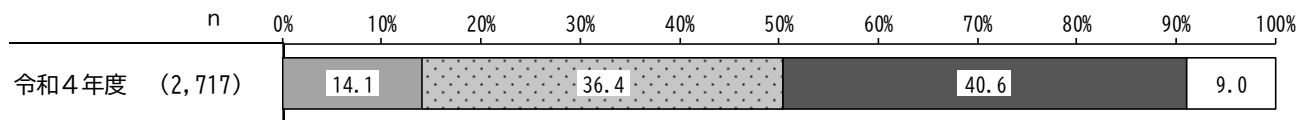
◇『知っている』は「越谷市市民文化祭」が約5割で最も多い

問 47. 皆さんに伺います。越谷市が主催する以下の芸術文化に係る事業を知っていますか。
また、参加(出演、出展、観覧、応募)したことはありますか。

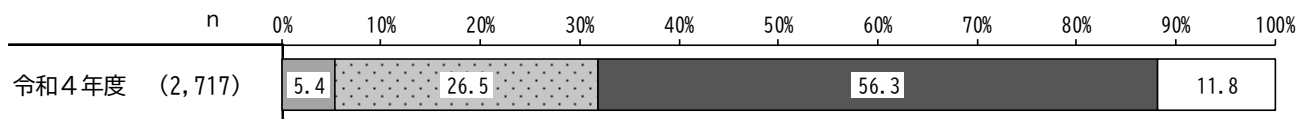
(ア～エ それぞれ横に〇は1つずつ)

図表 15-2-1 市が主催する芸術文化事業の認知度・参加状況

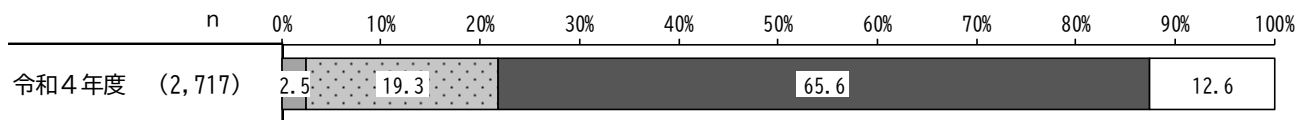
ア 越谷市市民文化祭



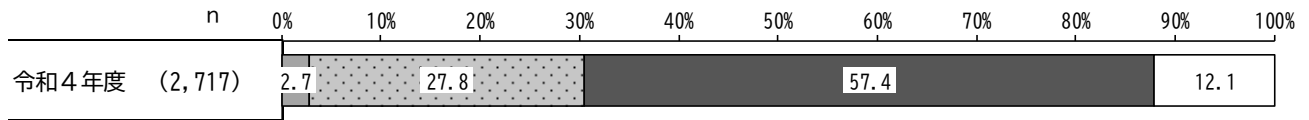
イ 越谷市美術展覧会 (市展)



ウ 越谷市県展記念作品展



エ 文化総合誌「川のあるまちー越谷文化」



- 参加 (出演、出展、観覧、応募) したことがある
- ▨ 知っているが、参加 (出演、出展、観覧、応募) したことがない
- 知らない
- 無回答

市が主催する芸術文化事業の認知度について、「参加 (出演、出展、観覧、応募) したことがある」と「知っているが、参加 (出演、出展、観覧、応募) したことがない」を合わせた『知っている』は「越谷市市民文化祭」(50.4%) が約5割で最も多く、次いで「越谷市美術展覧会 (市展)」(31.9%)、「文化総合誌「川のあるまちー越谷文化」」(30.5%)、「越谷市県展記念作品展」(21.8%) の順になっている。

市が主催する芸術文化事業の参加状況については、「参加 (出演、出展、観覧、応募) したことがある」は「越谷市市民文化祭」(14.1%) が1割半ばで最も多く、次いで「越谷市美術展覧会 (市展)」(5.4%)、「文化総合誌「川のあるまちー越谷文化」」(2.7%)、「越谷市県展記念作品展」(2.5%) の順になっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

越谷市市民文化祭について性別でみると、「参加（出演、出展、観覧、応募）したことがある」は女性（18.1%）が男性（9.3%）を8.8ポイント上回っている。一方、「知らない」は男性（47.8%）が女性（35.3%）を12.5ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「参加（出演、出展、観覧、応募）したことがある」は70歳以上（26.2%）が2割半ばを占めて最も多くなっている。「知っているが、参加（出演、出展、観覧、応募）したことがない」は女性50歳代・60歳代（45.1%、55.2%）と男性60歳代・70歳以上（46.3%、45.9%）で4割を超えて多くなっている。「知らない」は女性30歳代以下と男性50歳代以下で5割を超えており、特に男性18～29歳・30歳代（70.0%、72.2%）は7割台を占めている。

越谷市美術展覧会（市展）について性別でみると、「知っているが、参加（出演、出展、観覧、応募）したことがない」は女性（28.9%）が男性（24.5%）を4.4ポイント上回っている。一方、「知らない」は男性（62.5%）が女性（52.4%）を10.1ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「参加（出演、出展、観覧、応募）したことがある」は70歳以上（10.5%）が約1割を占めて最も多くなっている。「知っているが、参加（出演、出展、観覧、応募）したことがない」は女性60歳代・70歳以上（38.6%、36.0%）と男性70歳以上（35.7%）で3割台を占めて多くなっている。「知らない」は女性50歳代以下と男性60歳代以下で6割を超えており、特に男性40歳代（80.6%）は約8割を占めて最も多くなっている。

越谷市県展記念作品展について性別でみると、「知っているが、参加（出演、出展、観覧、応募）したことがない」は女性（22.2%）が男性（16.4%）を5.8ポイント上回っている

性・年齢別でみると、「参加（出演、出展、観覧、応募）したことがある」は70歳以上（4.5%）が最も多く、すべての年齢で男女ともに1割未満となっている。「知っているが、参加（出演、出展、観覧、応募）したことがない」は女性70歳以上（31.7%）が約3割を占め最も多く、女性60歳代（25.7%）と男性70歳以上（26.1%）で2割台を占めている。「知らない」は女性50歳代以下と男性60歳代以下で7割を超えており、特に女性18～29歳・30歳代（80.9%、84.3%）、男性40歳代以下（81.8%、82.5%、87.1%）は8割台を占めて最も多くなっている。

文化総合誌「川のあるまちー越谷文化」について性別でみると、「知っているが、参加（出演、出展、観覧、応募）したことがない」は女性（31.1%）が男性（24.8%）を6.3ポイント上回っている。一方、「知らない」は男性（63.4%）が女性（53.5%）を9.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「参加（出演、出展、観覧、応募）したことがある」はすべての年齢で男女ともに1割未満となっている。「知っているが、参加（出演、出展、観覧、応募）したことがない」は女性40歳代以上（32.3%、33.6%、39.5%、34.9%）と男性70歳以上（34.5%）が3割台を占め最も多くなっている。「知らない」は女性30歳代以下と男性50歳代以下で7割を超えており、特に男性18～29歳（80.9%）は約8割を占めて最も多くなっている。

図表 15-2-2 性・年齢別 市が主催する芸術文化事業の認知度・参加状況

(%)

	調査数 (人)	ア 越谷市市民文化祭				イ 越谷市美術展覧会(市展)			
		と観参加 がある(出 演、出 展、出 展、 したこ と	が ない 、出 演、 出 展、 した こと	知 ら な い	無 回 答	と観参加 がある(出 演、出 展、出 展、 したこ と	が ない 、出 演、 出 展、 した こと	知 ら な い	無 回 答
全 体	2,717	14.1	36.4	40.6	9.0	5.4	26.5	56.3	11.8
女性全体	1,414	18.1	38.2	35.3	8.4	6.9	28.9	52.4	11.9
18~29歳	141	9.9	17.7	67.4	5.0	7.8	10.6	75.9	5.7
30~39歳	153	9.2	30.1	57.5	3.3	2.0	16.3	78.4	3.3
40~49歳	226	16.4	33.2	46.0	4.4	2.7	26.5	65.0	5.8
50~59歳	244	15.6	45.1	34.8	4.5	5.7	28.3	60.2	5.7
60~69歳	210	18.1	55.2	19.0	7.6	8.1	38.6	41.4	11.9
70歳以上	439	26.2	38.3	19.6	15.9	10.5	36.0	30.1	23.5
男性全体	1,200	9.3	35.4	47.8	7.5	3.6	24.5	62.5	9.4
18~29歳	110	7.3	17.3	70.0	5.5	4.5	15.5	74.5	5.5
30~39歳	126	1.6	23.0	72.2	3.2	0.8	19.0	76.2	4.0
40~49歳	201	4.0	27.9	64.7	3.5	0.5	14.9	80.6	4.0
50~59歳	227	10.1	33.0	53.3	3.5	3.5	21.1	71.8	3.5
60~69歳	201	9.5	46.3	40.3	4.0	4.0	27.9	62.2	6.0
70歳以上	333	15.6	45.9	21.6	16.8	6.0	35.7	36.3	21.9

(%)

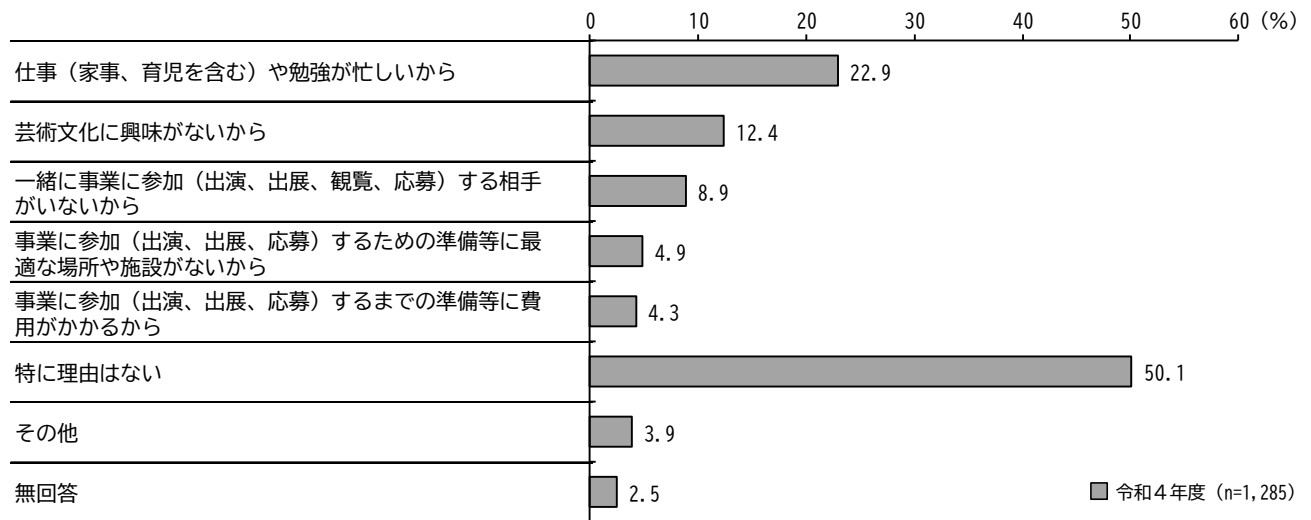
	調査数 (人)	ウ 越谷市県展記念作品展				エ 文化総合誌「川のあるまちー越谷文化」			
		と観参加 がある(出 演、出 展、出 展、 したこ と	が ない 、出 演、 出 展、 した こと	知 ら な い	無 回 答	と観参加 がある(出 演、出 展、出 展、 したこ と	が ない 、出 演、 出 展、 した こと	知 ら な い	無 回 答
全 体	2,717	2.5	19.3	65.6	12.6	2.7	27.8	57.4	12.1
女性全体	1,414	2.8	22.2	62.2	12.7	3.5	31.1	53.5	11.8
18~29歳	141	2.1	11.3	80.9	5.7	3.5	13.5	77.3	5.7
30~39歳	153	0.7	11.1	84.3	3.9	1.3	19.6	76.5	2.6
40~49歳	226	0.4	17.7	76.1	5.8	2.7	32.3	60.2	4.9
50~59歳	244	2.9	19.7	70.9	6.6	3.7	33.6	57.0	5.7
60~69歳	210	4.3	25.7	58.1	11.9	5.2	39.5	44.3	11.0
70歳以上	439	4.3	31.7	38.5	25.5	3.9	34.9	36.9	24.4
男性全体	1,200	2.2	16.4	71.5	9.9	1.9	24.8	63.4	9.9
18~29歳	110	1.8	10.0	81.8	6.4	1.8	11.8	80.9	5.5
30~39歳	126	0.8	12.7	82.5	4.0	1.6	19.8	74.6	4.0
40~49歳	201	-	9.0	87.1	4.0	0.5	19.4	75.6	4.5
50~59歳	227	2.6	14.1	79.7	3.5	-	21.1	74.9	4.0
60~69歳	201	1.0	16.4	75.1	7.5	2.5	28.4	62.2	7.0
70歳以上	333	4.5	26.1	46.8	22.5	3.9	34.5	39.0	22.5

(3) 市が主催する芸術文化事業に参加したことがない理由

◇「仕事（家事、育児を含む）や勉強が忙しいから」が2割強で最も多い

問 47-2. 問 47 のア～エにおいて、「2」と答えた方に伺います。あなたが、越谷市が主催する芸術文化に係る事業に参加（出演、出展、観覧、応募）したことがない理由は何ですか。
(〇はいくつでも)

図表 15-3-1 市が主催する芸術文化事業に参加したことがない理由



市が主催する芸術文化事業を「知っているが、参加（出演、出展、観覧、応募）したことがない」と回答した1,258人に参加したことがない理由を聞いたところ、「仕事（家事、育児を含む）や勉強が忙しいから」（22.9%）が最も多く、次いで「芸術文化に興味がないから」（12.4%）、「一緒に事業に参加（出演、出展、観覧、応募）する相手がいないから」（8.9%）、「事業に参加（出演、出展、応募）するための準備等に最適な場所や施設がないから」（4.9%）、「事業に参加（出演、出展、応募）するまでの準備等に費用がかかるから」（4.3%）の順となっている。一方、「特に理由はない」（50.1%）は約5割を占めている。

性別で見ると、「特に理由はない」は女性(52.2%)が男性(47.5%)を4.7ポイント上回っている。
 性・年齢別で見ると、「仕事(家事、育児を含む)や勉強が忙しいから」は女性40歳代以下と男性50歳代以下で3割を超えており、特に30歳代の女性(41.1%)と男性(45.0%)で4割台と多くなっている。「芸術文化に興味がないから」は男性40歳代以下(20.0%、25.0%、25.4%)で2割台を占めて多くなっている。一方、「特に理由はない」は60歳代(女性53.5%、男性51.4%)で5割台、70歳以上(女性63.2%、男性60.3%)で6割台を占めて多くなっている。

図表 15-3-2 性・年齢別 市が主催する芸術文化事業に参加したことがない理由

	調査数(人)	忙しいから(家事、育児を含む)や勉強が	芸術文化に興味がないから	一緒に応募する相手がいないから	事業に参加するための準備等に最適な場所や施設	事業に参加(出演、出展、応募)するまでに準備(出演、出展、費用がかかる)から	特に理由はない	その他	無回答
全体	1,285	22.9	12.4	8.9	4.9	4.3	50.1	3.9	2.5
女性全体	728	22.9	10.9	8.7	5.2	4.3	52.2	3.4	2.5
18～29歳	38	31.6	15.8	-	2.6	2.6	55.3	-	-
30～39歳	56	41.1	17.9	1.8	7.1	3.6	37.5	-	-
40～49歳	108	39.8	16.7	11.1	7.4	7.4	36.1	3.7	0.9
50～59歳	137	29.2	10.2	11.7	4.4	5.1	48.9	3.6	0.7
60～69歳	142	19.7	10.6	12.7	2.8	2.8	53.5	2.8	2.1
70歳以上	247	8.5	6.5	6.5	6.1	3.6	63.2	4.9	5.3
男性全体	526	23.2	14.4	9.1	4.0	4.4	47.5	4.2	2.5
18～29歳	30	30.0	20.0	10.0	3.3	3.3	40.0	6.7	3.3
30～39歳	40	45.0	25.0	2.5	-	7.5	25.0	2.5	-
40～49歳	67	37.3	25.4	4.5	3.0	7.5	34.3	6.0	-
50～59歳	95	35.8	14.7	10.5	1.1	2.1	38.9	4.2	-
60～69歳	105	21.0	12.4	9.5	5.7	3.8	51.4	2.9	1.9
70歳以上	189	7.4	8.5	11.1	5.8	4.2	60.3	4.2	5.3

16. 介護サービスについて

(1) 介護サービスの利用時に事業・事業所・職員に求めるもの

◇事業の形態は「地域に密着した事業展開をしている施設（市内在住者のみ利用できる施設）」が約4割で最も多い

事業所の体制は「職員のスキル向上や知識の取得に力を入れている」が5割半ばで最も多い

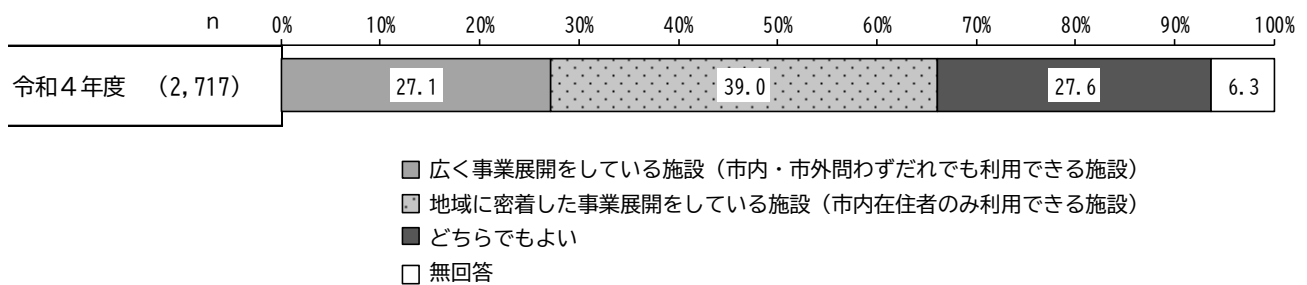
職員の資質は「利用者の話をしっかり聞く」が5割強で最も多い

問 48. あなた又はあなたの家族が介護サービスを利用する際、事業・事業所・職員に求めるものを次の中から選んでください。(それぞれ○は1つずつ)

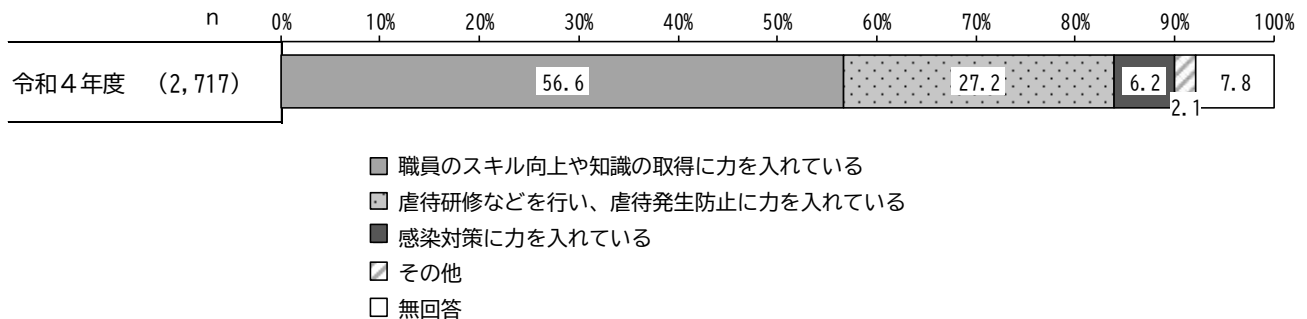
※現在、介護サービスの利用予定がない、利用対象者がいない場合でもご回答願います。

図表 16-1-1 介護サービスの利用時に事業・事業所・職員に求めるもの

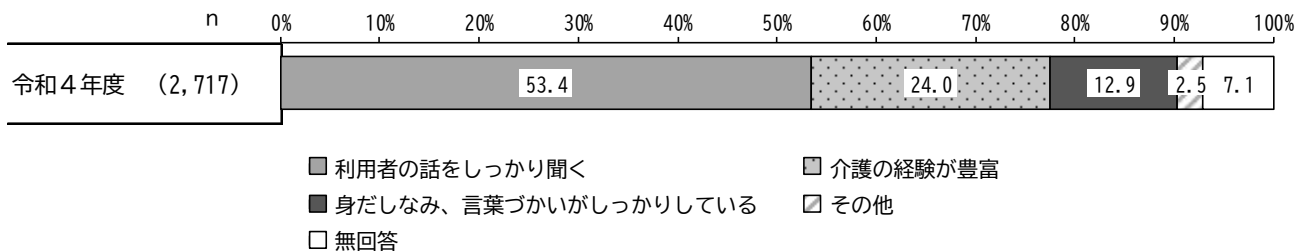
事業の形態



事業所の体制



職員の資質



事業の形態については、「地域に密着した事業展開をしている施設（市内在住者のみ利用できる施設）」（39.0%）が最も多く、次いで「どちらでもよい」（27.6%）、「広く事業展開をしている施設（市内・市外問わずだれでも利用できる施設）」（27.1%）の順となっている。

事業所の体制については、「職員のスキル向上や知識の取得に力を入れている」（56.6%）が最も多く、次いで「虐待研修などを行い、虐待発生防止に力を入れている」（27.2%）、「感染対策に力を入れている」（6.2%）の順となっている。

職員の資質については、「利用者の話をしっかり聞く」（53.4%）が最も多く、次いで「介護の経験が豊富」（24.0%）、「身だしなみ、言葉づかいがしっかりしている」（12.9%）の順となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計が合計と一致しない場合がある。

事業の形態について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「広く事業展開をしている施設（市内・市外問わずだれでも利用できる施設）」は男女ともにすべての年齢で2割を超えており、特に女性18～29歳・60歳代（31.2%、31.4%）で3割台と多くなっている。「地域に密着した事業展開をしている施設（市内在住者のみ利用できる施設）」は男女ともにすべての年齢で3割を超えており、特に女性18～29歳・30歳代・70歳以上（40.4%、41.8%、41.7%）と男性18～29歳・50歳代・60歳代（43.6%、41.4%、41.3%）で4割台と多くなっている。一方、「どちらでもよい」は男女ともにすべての年齢で2割を超えており、特に女性30歳代～50歳代（30.7%、33.2%、35.7%）で3割台と多くなっている。

事業所の体制について性別でみると、「虐待研修などを行い、虐待発生防止に力を入れている」は女性（30.4%）が男性（24.4%）を6ポイント上回っている。一方、「職員のスキル向上や知識の取得に力を入れている」は男性（59.8%）が女性（55.2%）を4.6ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「職員のスキル向上や知識の取得に力を入れている」は男女ともにすべての年齢で5割を超えており、特に女性40歳代（60.6%）と男性30歳代・50歳代・60歳代（62.7%、67.0%、64.7%）で6割台を占めて多くなっている。「虐待研修などを行い、虐待発生防止に力を入れている」は、女性70歳以上（25.7%）を除く女性すべての年齢と男性18～29歳・40歳代（31.8%、31.8%）で3割台と多くなっている。

職員の資質について性別でみると、「利用者の話をしっかり聞く」は女性（58.0%）が男性（49.4%）を8.6ポイント上回っている。一方、「身だしなみ、言葉づかいがしっかりしている」は男性（15.6%）が女性（10.6%）を5ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「利用者の話をしっかり聞く」は男女ともにすべての年齢で4割を超えており、特に女性18～29歳（70.2%）で約7割を占め最も多い。「介護の経験が豊富」は、女性18～29歳・30歳代（11.3%、17.0%）を除くすべての年齢で男女ともに2割を超えており、特に男性50歳代（30.8%）で約3割を占め最も多い。「身だしなみ、言葉づかいがしっかりしている」は女性50歳代以上（9.8%、9.0%、9.6%）を除くすべての年齢で男女ともに1割を超えている。

図表 16-1-2 性・年齢別 介護サービスの利用時に事業・事業所・職員に求めるもの

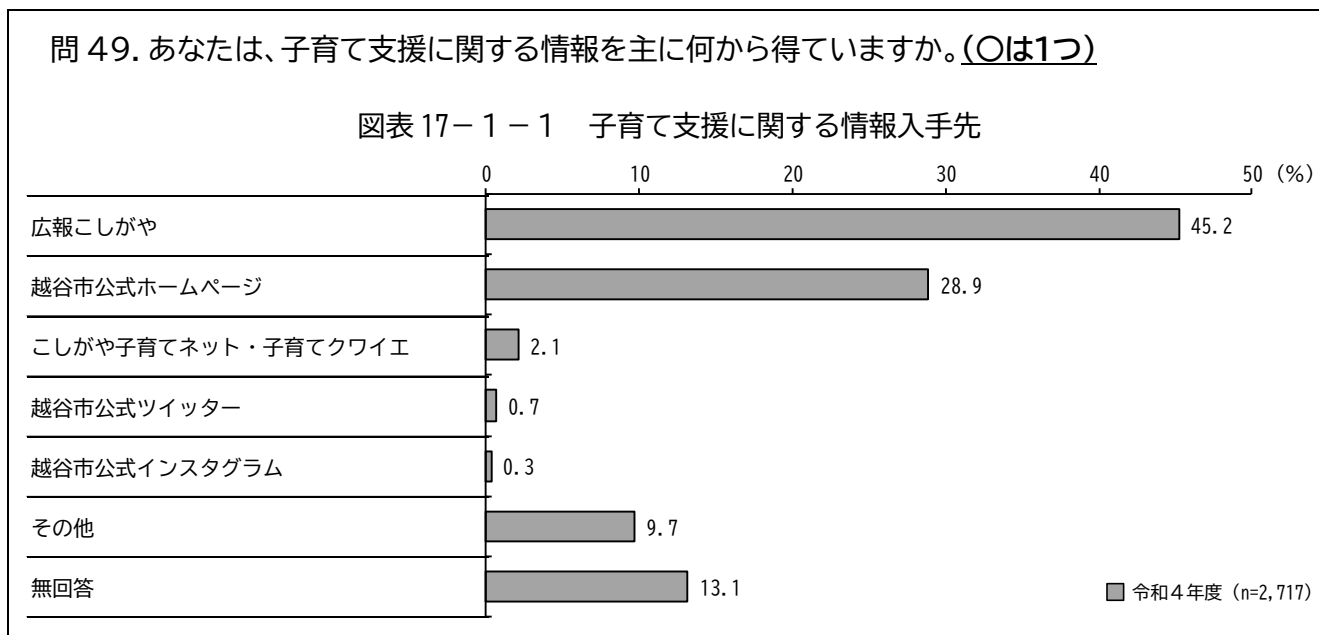
(%)

	調査数（人）	事業の形態				事業所の体制					職員の資質				
		広く事業展開をしている施設（市内・市外問わず）	地域に密着した事業展開をしている施設（市内在住者のみ）	どちらでもよい	無回答	職員のスキル向上や知識の取得に力を入れている	虐待研修などを行い、虐待発生防止に力を入れている	感染対策に力を入れている	その他	無回答	利用者の話をしっかりと聞く	介護の経験が豊富	身だしなみ、言葉づかいがしっかりしている	その他	無回答
全体	2,717	27.1	39.0	27.6	6.3	56.6	27.2	6.2	2.1	7.8	53.4	24.0	12.9	2.5	7.1
女性全体	1,414	27.7	39.0	27.9	5.3	55.2	30.4	5.6	2.1	6.8	58.0	23.1	10.6	2.3	6.0
18～29歳	141	31.2	40.4	24.8	3.5	53.2	36.2	4.3	2.1	4.3	70.2	11.3	12.1	2.8	3.5
30～39歳	153	24.8	41.8	30.7	2.6	59.5	34.0	2.0	2.0	2.6	64.7	17.0	13.1	2.6	2.6
40～49歳	226	23.5	39.8	33.2	3.5	60.6	32.3	2.2	1.3	3.5	59.7	22.6	12.4	1.8	3.5
50～59歳	244	27.0	33.6	35.7	3.7	58.2	31.1	4.5	2.0	4.1	57.8	25.8	9.8	2.5	4.1
60～69歳	210	31.4	36.2	28.1	4.3	53.3	30.5	8.6	2.4	5.2	62.4	21.4	9.0	1.9	5.2
70歳以上	439	28.5	41.7	20.7	9.1	50.8	25.7	8.2	2.3	13.0	48.7	28.7	9.6	2.3	10.7
男性全体	1,200	26.4	39.8	28.2	5.6	59.8	24.4	6.6	2.3	6.9	49.4	25.5	15.6	2.8	6.8
18～29歳	110	22.7	43.6	28.2	5.5	50.9	31.8	5.5	3.6	8.2	52.7	23.6	12.7	2.7	8.2
30～39歳	126	27.8	39.7	29.4	3.2	62.7	27.8	5.6	0.8	3.2	53.2	23.8	15.9	4.0	3.2
40～49歳	201	27.4	39.3	29.9	3.5	55.7	31.8	5.5	2.0	5.0	47.8	24.9	19.9	2.0	5.5
50～59歳	227	26.0	41.4	29.5	3.1	67.0	22.0	5.7	1.8	3.5	51.5	30.8	13.7	0.4	3.5
60～69歳	201	27.4	41.3	28.4	3.0	64.7	23.4	4.5	3.5	4.0	45.3	27.9	19.4	3.0	4.5
70歳以上	333	26.4	36.9	25.8	10.8	56.5	18.3	9.9	2.4	12.9	48.9	22.2	12.9	4.2	11.7

17. 子育て支援について

(1) 子育て支援に関する情報入手先

◇「広報こしがや」が4割半ばで最も多い



子育て支援に関する情報入手先は、「広報こしがや」(45.2%)が最も多く、次いで「越谷市公式ホームページ」(28.9%)、「こしがや子育てネット・子育てクワイエ」(2.1%)、「越谷市公式ツイッター」(0.7%)、「越谷市公式インスタグラム」(0.3%)の順となっている。

性別で見ると、「広報こしがや」は女性（48.5%）が男性（41.7%）を6.8ポイント上回っている。一方、「越谷市公式ホームページ」は男性（35.4%）が女性（24.3%）を11.1ポイント上回っている。性・年齢別で見ると、「広報こしがや」は女性50歳代以上（57.4%、69.5%、56.3%）と男性60歳以上（52.7%、59.5%）で5割を超えて多くなっている。「越谷市公式ホームページ」は女性40歳代以下（42.6%、49.0%、40.3%）と男性50歳以下（46.4%、60.3%、47.8%、43.2%）で4割を超えており、特に男性30歳代は約6割を占めて多くなっている。

図表17-1-2 性・年齢別 子育て支援に関する情報入手先

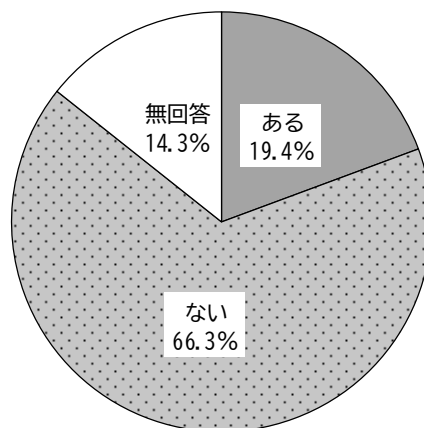
	調査数（人）	広報こしがや	越谷市公式ホームページ	こしがや子育てネット・子育てクワイエ	越谷市公式ツイッター	越谷市公式インスタグラム	その他	無回答
全体	2,717	45.2	28.9	2.1	0.7	0.3	9.7	13.1
女性全体	1,414	48.5	24.3	3.0	0.4	0.3	10.2	13.3
18～29歳	141	15.6	42.6	5.7	-	1.4	22.7	12.1
30～39歳	153	27.5	49.0	7.2	1.3	-	10.5	4.6
40～49歳	226	38.9	40.3	5.3	-	0.4	9.7	5.3
50～59歳	244	57.4	25.4	1.2	0.8	-	10.2	4.9
60～69歳	210	69.5	14.3	1.0	-	0.5	7.1	7.6
70歳以上	439	56.3	5.7	1.6	0.5	-	7.7	28.2
男性全体	1,200	41.7	35.4	1.2	0.9	0.4	9.4	11.0
18～29歳	110	16.4	46.4	0.9	4.5	-	17.3	14.5
30～39歳	126	23.8	60.3	3.2	1.6	1.6	6.3	3.2
40～49歳	201	32.3	47.8	1.5	1.0	0.5	10.0	7.0
50～59歳	227	36.1	43.2	1.3	-	0.4	12.3	6.6
60～69歳	201	52.7	25.9	1.5	1.0	0.5	9.5	9.0
70歳以上	333	59.5	15.6	-	-	-	5.7	19.2

(2) 子育て支援に関する情報取得が難しいと感じたこと

◇「ある」が約2割

問 50. あなたは、越谷市において、子育て支援に関する情報を得ることが難しいと感じたことはありますか。(〇は1つ)

図表 17-2-1 子育て支援に関する情報取得が難しいと感じたこと



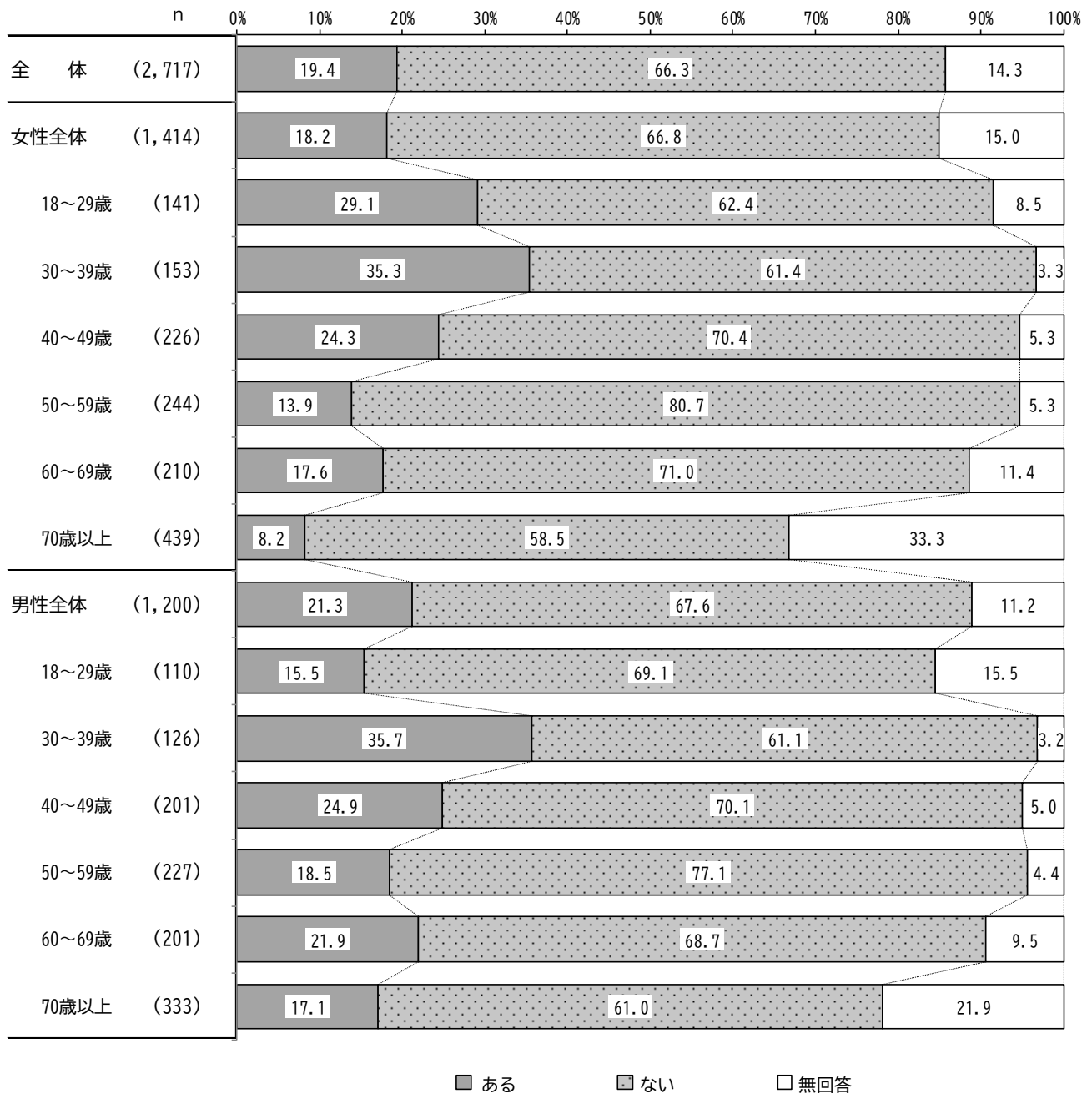
(n=2,717)

越谷市において、子育て支援に関する情報を得ることが難しいと感じたことがあるか聞いたところ、「ある」(19.4%)が約2割、「ない」(66.3%)が6割半ばを占めている。

性別で見ると、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、「ある」は30歳代の女性（35.3%）と男性（35.7%）がともに3割半ばを占めて最も多く、女性18～29歳・40歳代（29.1%、24.3%）と男性40歳代・60歳代（24.9%、21.9%）で2割台となっている。

図表 17-2-2 性・年齢別 子育て支援に関する情報取得が難しいと感じたこと



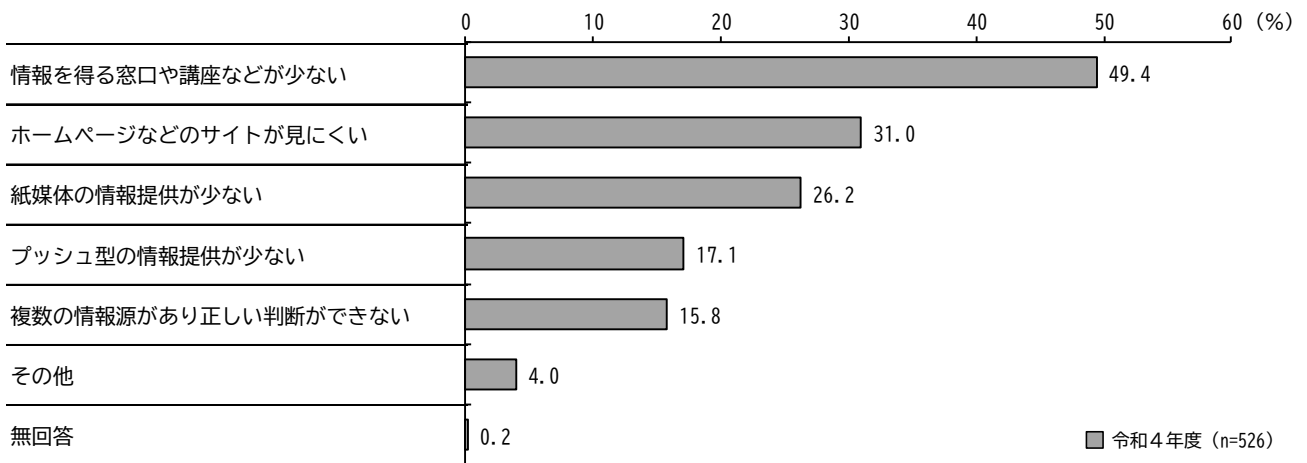
(3) 子育て支援に関する情報が得にくい理由

◇「情報を得る窓口や講座などが少ない」が約5割で最も多い

問 50-2. 問 50 で「1. ある」と答えた方に伺います。どのような時にそう感じましたか。

(○はいくつでも)

図表 17-3-1 子育て支援に関する情報が得にくい理由



越谷市において、子育て支援に関する情報を得ることが難しいと感じたことが「ある」と回答した526人に、子育て支援に関する情報が得にくい理由を聞いたところ、「情報を得る窓口や講座などが少ない」(49.4%)が最も多く、次いで「ホームページなどのサイトが見にくい」(31.0%)、「紙媒体の情報提供が少ない」(26.2%)、「プッシュ型の情報提供が少ない」(17.1%)、「複数の情報源があり正しい判断ができない」(15.8%)の順となっている。

性別で見ると、「ホームページなどのサイトが見にくい」は女性（33.9%）が男性（28.6%）を5.3ポイント上回っている。一方、「紙媒体の情報提供が少ない」は男性（28.6%）が女性（24.1%）を4.5ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「情報を得る窓口や講座などが少ない」は男女ともにすべての年齢で3割を超えており、男性70歳以上（61.4%）で約6割を占め最も高く、女性19～29歳・30歳代・50歳代・60歳代（56.1%、50.0%、55.9%、54.1%）と男性60歳代（56.8%）で5割台を占めて多くなっている。

「ホームページなどのサイトが見にくい」は30歳代の女性（59.3%）と男性（51.1%）で5割を超えて多く、女性18～29才（41.5%）と男性40歳代（40.0%）も4割を超えて多くなっている。「紙媒体の情報提供が少ない」は男女ともに50歳以上で3割を超えており、特に60歳代の女性（43.2%）と男性（43.2%）で4割台を占めている。また、「プッシュ型の情報提供が少ない」では女性40歳代以下（24.4%、22.2%、21.8%）と男性30歳代（22.2%）が、「複数の情報源があり正しい判断ができない」では男性40歳代（28.0%）が2割台となっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 17-3-2 性・年齢別 子育て支援に関する情報が得にくい理由

	調査数（人）	情報が得る窓口や講座などが少ない	ホームページなどのサイトが見にくい	紙媒体の情報提供が少ない	プッシュ型の情報提供が少ない	複数の情報源があり正しい判断ができない	その他	無回答
全体	526	49.4	31.0	26.2	17.1	15.8	4.0	0.2
女性全体	257	49.0	33.9	24.1	18.7	14.0	3.9	0.4
18～29歳	41	56.1	41.5	9.8	24.4	12.2	2.4	-
30～39歳	54	50.0	59.3	14.8	22.2	14.8	1.9	-
40～49歳	55	43.6	36.4	21.8	21.8	14.5	-	-
50～59歳	34	55.9	26.5	32.4	14.7	14.7	-	-
60～69歳	37	54.1	16.2	43.2	16.2	13.5	2.7	-
70歳以上	36	36.1	8.3	30.6	8.3	13.9	19.4	2.8
男性全体	255	48.6	28.6	28.6	15.3	18.0	4.3	-
18～29歳	17	58.8	17.6	5.9	23.5	29.4	-	-
30～39歳	45	37.8	51.1	26.7	22.2	13.3	6.7	-
40～49歳	50	46.0	40.0	18.0	18.0	28.0	6.0	-
50～59歳	42	33.3	33.3	31.0	16.7	19.0	9.5	-
60～69歳	44	56.8	11.4	43.2	11.4	11.4	-	-
70歳以上	57	61.4	14.0	33.3	7.0	14.0	1.8	-

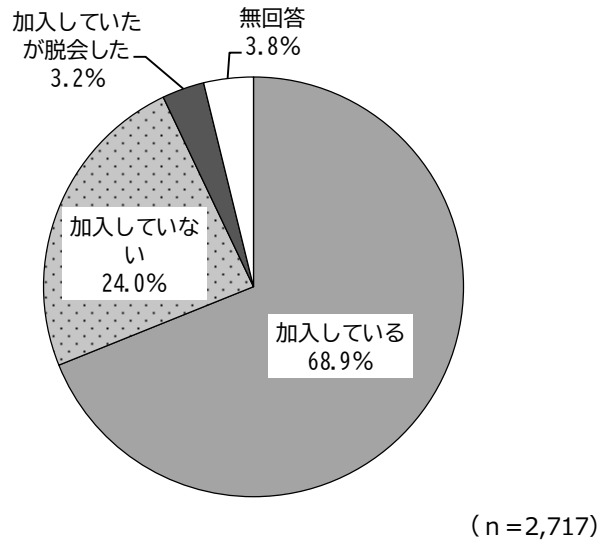
18. 自治会について

(1) 自治会の加入状況

◇7割弱が「加入している」

問 51. あなたは、自治会に加入していますか。(〇は1つ)

図表 18-1-1 自治会の加入状況

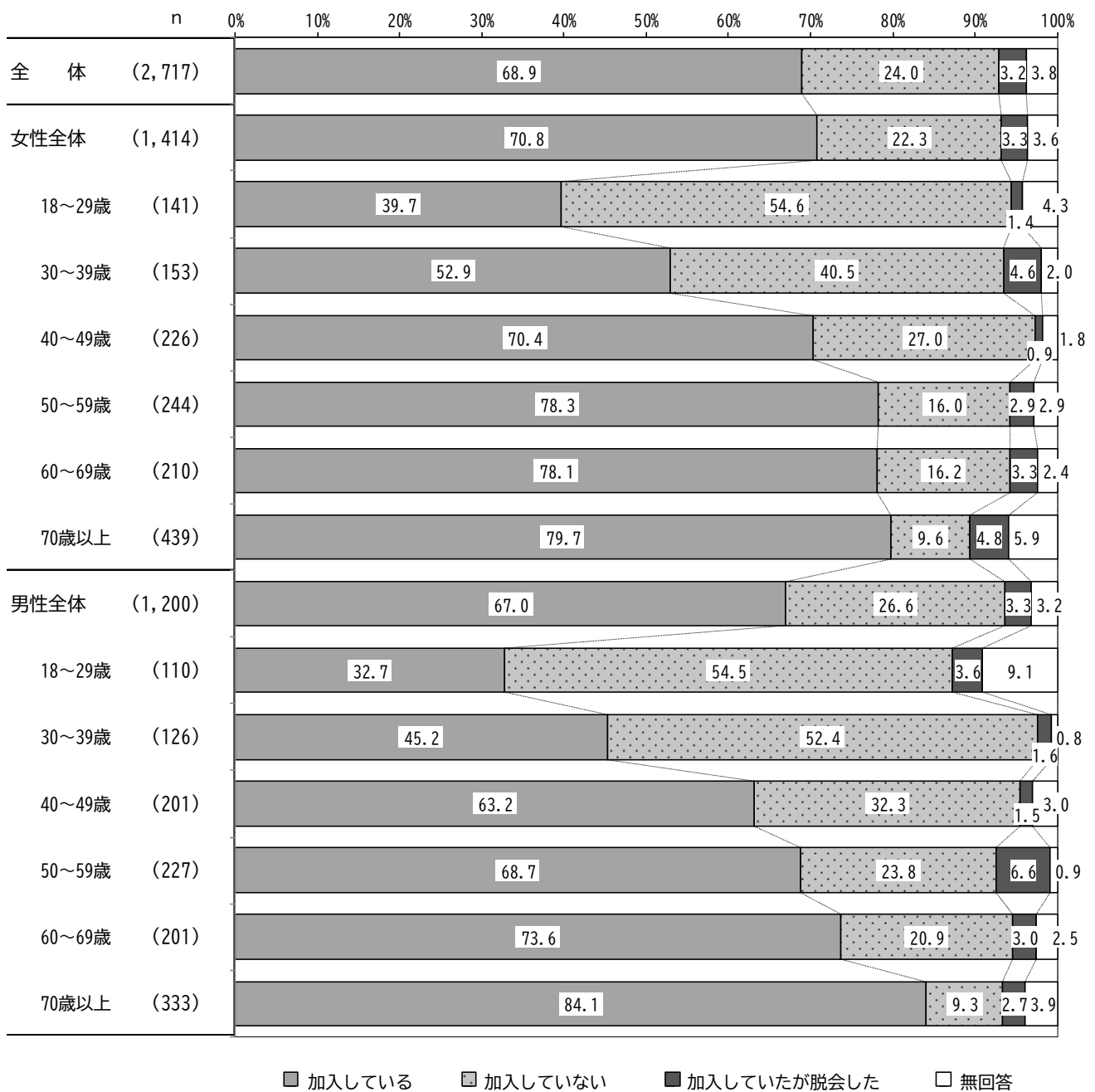


自治会の加入状況について、「加入している」(68.9%)が最も多く、次いで「加入していない」(24.0%)、「加入していたが脱会した」(3.2%)の順となっている。

性別で見ると、「加入している」は女性（70.8%）が男性（67.0%）を3.8ポイント上回っている一方、「加入していない」は男性（26.6%）が女性（22.3%）を4.3ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「加入している」は男性70歳以上（84.1%）が8割半ばを占め最も多く、女性40歳代以上（70.4%、78.3%、78.1%、79.7%）と男性60歳代（73.6%）も7割台が多い。「加入していない」は女性18～29歳（54.6%）と男性18～29歳・30歳代（54.5%、52.4%）で5割台を占め多くなっている。

図表 18-1-2 性・年齢別 自治会の加入状況

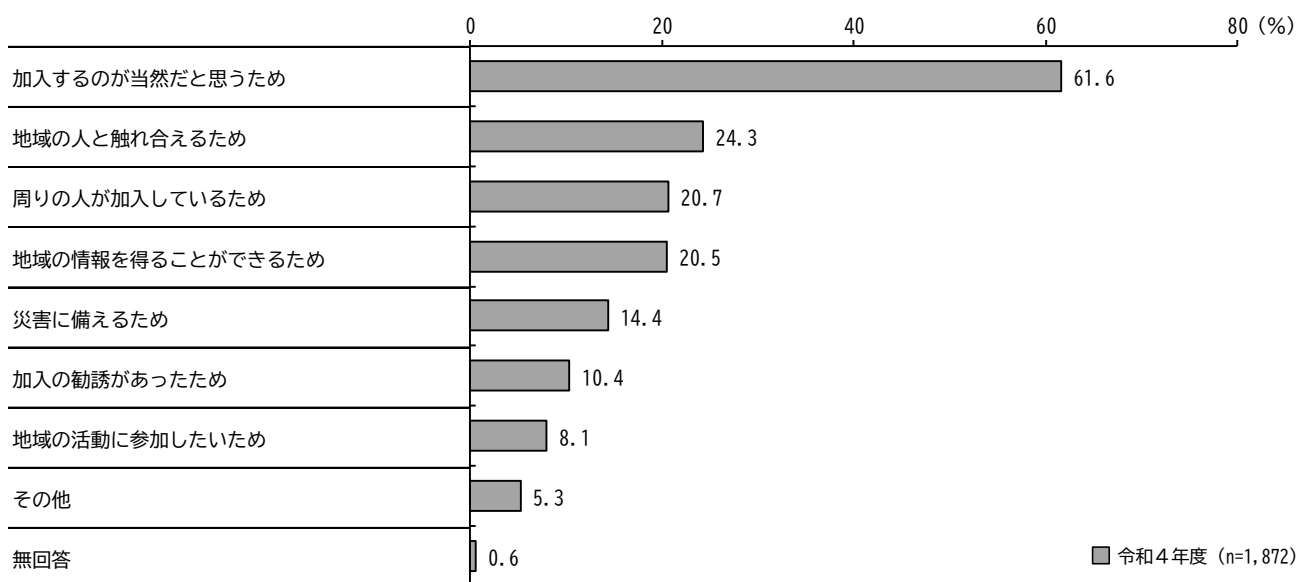


(2) 自治会に加入した理由

◇「加入するのが当然だと思うため」が約6割で最も多い

問 51-2. 問 51 で「1. 加入している」と答えた方に伺います。あなたが自治会に加入した理由・参加している自治会活動・自治会に加入して感じている点を、次の中から選んでください。
(〇はいくつでも)

図表 18-2-1 自治会に加入した理由



自治会に「加入している」と回答した 1,872 人に、自治会に加入した理由について聞いたところ、「加入するのが当然だと思うため」(61.6%)が最も多く、次いで「地域の人と触れ合えるため」(24.3%)、「周りの人が加入しているため」(20.7%)、「地域の情報を得ることができるため」(20.5%)、「災害に備えるため」(14.4%)の順となっている。

性別で見ると、「地域の人と触れ合えるため」は男性（27.7%）が女性（20.7%）を7ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「加入するのが当然だと思つたため」は女性18～29歳・30歳代（39.3%、45.7%）と男性30歳代（47.4%）を除くすべての年齢で男女ともに5割を超えており、特に70歳以上は女性（74.9%）と男性（70.7%）ともに7割台を占めて多くなっている。「地域の人と触れ合えるため」は女性60歳代以上（21.3%、32.6%）と男性40歳代以上（20.5%、23.1%、26.4%、38.2%）で2割を超えており、特に70歳以上は男女ともに3割台と多くなっている。「周りの人が加入しているため」は女性18～29歳・40歳代（33.9%、30.2%）と男性18～29歳・60歳代（33.3%、31.1%）で3割台と多くなっている。「地域の情報を得ることができるため」は60歳以上の女性（23.2%、25.4%）と男性（21.6%、30.0%）で2割を超えており、特に男性70歳以上では3割と多くなっている。「災害に備えるため」は女性70歳以上（21.1%）で約2割と多くなっている。

図表 18-2-2 性・年齢別 自治会に加入した理由

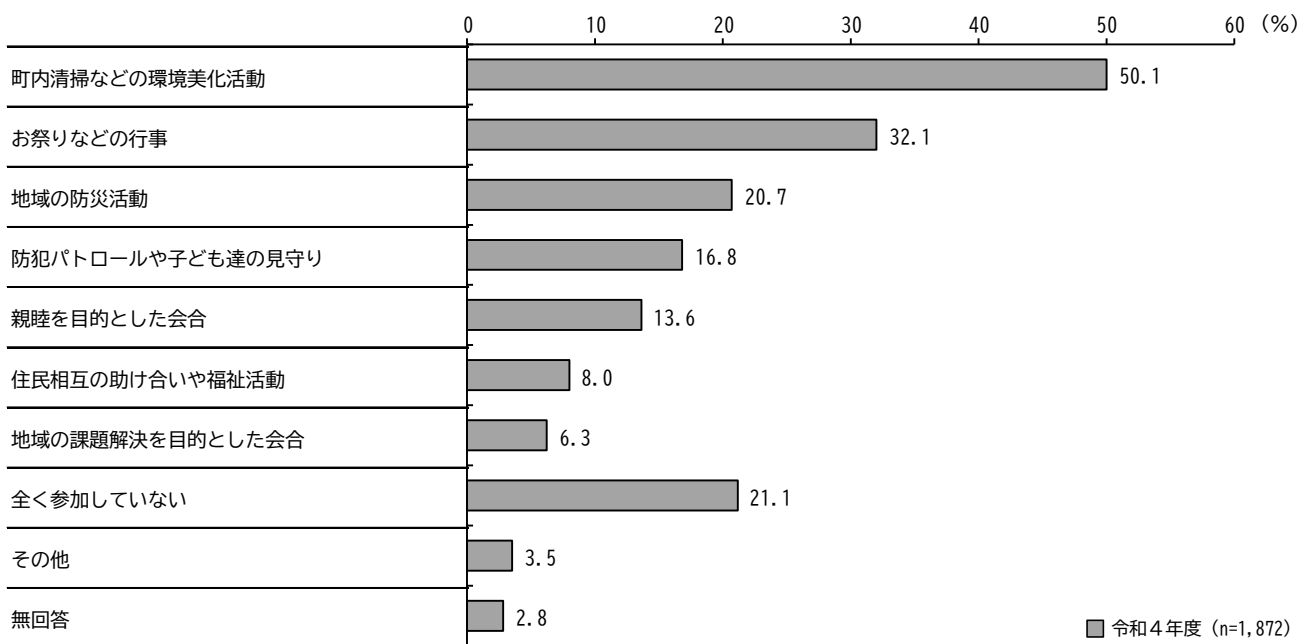
	調査数（人）	加入するのが当然だと思つたため	地域の人と触れ合えるため	周りの人が加入しているため	地域の情報を得ることができるため	災害に備えるため	加入の勧誘があつたため	地域の活動に参加したため	その他	無回答
全体	1,872	61.6	24.3	20.7	20.5	14.4	10.4	8.1	5.3	0.6
女性全体	1,001	61.3	20.7	20.9	18.4	15.0	10.4	6.7	4.9	0.5
18～29歳	56	39.3	5.4	33.9	7.1	3.6	10.7	1.8	14.3	3.6
30～39歳	81	45.7	14.8	23.5	14.8	11.1	16.0	7.4	6.2	-
40～49歳	159	53.5	11.3	30.2	9.4	11.3	19.5	7.5	5.0	-
50～59歳	191	51.8	13.1	26.7	13.6	9.9	11.5	2.1	7.9	0.5
60～69歳	164	66.5	21.3	15.2	23.2	17.1	9.8	4.9	4.3	0.6
70歳以上	350	74.9	32.6	13.4	25.4	21.1	4.6	10.3	1.7	0.3
男性全体	804	61.2	27.7	20.6	22.1	12.8	10.8	9.6	6.1	0.9
18～29歳	36	50.0	13.9	33.3	11.1	2.8	8.3	5.6	2.8	5.6
30～39歳	57	47.4	17.5	21.1	17.5	12.3	10.5	-	21.1	-
40～49歳	127	58.3	20.5	21.3	18.9	12.6	13.4	8.7	10.2	-
50～59歳	156	57.7	23.1	19.2	15.4	12.2	17.3	8.3	4.5	1.3
60～69歳	148	57.4	26.4	31.1	21.6	9.5	12.2	6.8	4.7	0.7
70歳以上	280	70.7	38.2	13.9	30.0	16.4	5.7	14.6	3.2	0.7

(3) 参加している自治会活動

◇「町内清掃などの環境美化活動」が約5割で最も多い

問 51-2. 問 51 で「1. 加入している」と答えた方に伺います。あなたが自治会に加入した理由・参加している自治会活動・自治会に加入して感じている点を、次の中から選んでください。
(〇はいくつでも)

図表 18-3-1 参加している自治会活動



自治会に「加入している」と回答した1,872人に、参加している自治会活動について聞いたところ、「町内清掃などの環境美化活動」(50.1%)が最も多く、次いで「お祭りなどの行事」(32.1%)、「地域の防災活動」(20.7%)、「防犯パトロールや子ども達の見守り」(16.8%)、「親睦を目的とした会合」(13.6%)の順となっている。一方、「全く参加していない」(21.1%)は約2割を占めている。

性別で見ると、「防犯パトロールや子ども達の見守り」は男性（19.8%）が女性（14.6%）を5.2ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「町内清掃などの環境美化活動」は女性30歳代以上、男性40歳代以上のすべての年齢で4割を超えており、特に女性60歳代以上（52.4%、58.9%）と男性50歳代以上（53.8%、55.4%）で5割台を占めて多くなっている。「お祭りなどの行事」は男性18～29歳・30歳代（22.2%、8.8%）を除くすべての年齢で男女ともに3割を超えており、特に30歳代は女性（39.5%）が男性（8.8%）を30.7ポイント上回っている。「地域の防災活動」は60歳以上の女性（20.7%、28.3%）と男性（26.4%、31.4%）で2割を超えており、特に70歳以上の男性で約3割を占めて多くなっている。「防犯パトロールや子ども達の見守り」「親睦を目的とした会合」は70歳以上の女性（前者21.4%、後者20.9%）と男性（前者27.9%、後者20.4%）でそれぞれ2割台を占めて多くなっている。一方、「全く参加していない」は30歳以下の女性（51.8%、30.9%）と男性（38.9%、47.4%）ともに3割を超えており、特に女性18～29歳は約5割を占めて多くなっている。

図表 18-3-2 性・年齢別 参加している自治会活動

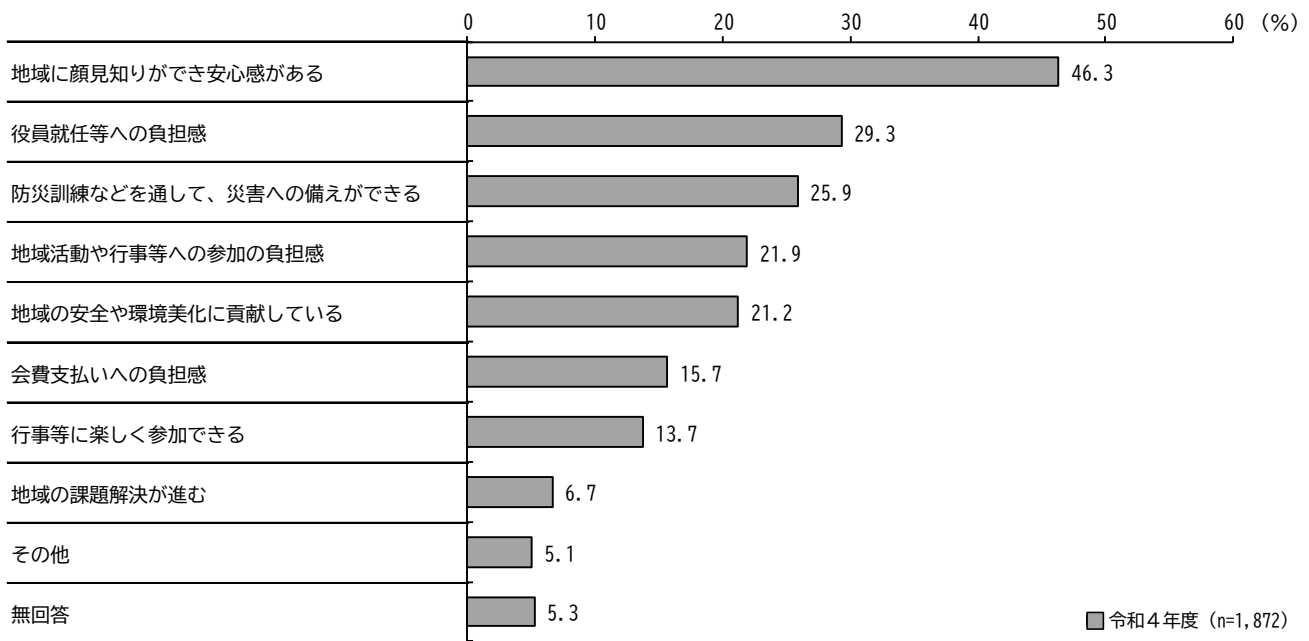
	調査数（人）	町内清掃などの環境美化活動	お祭りなどの行事	地域の防災活動	防犯パトロールや子ども達の見守り	親睦を目的とした会合	住民相互の助け合いや福祉活動	地域の課題解決を目的とした会合	全く参加していない	その他	無回答
全体	1,872	50.1	32.1	20.7	16.8	13.6	8.0	6.3	21.1	3.5	2.8
女性全体	1,001	49.5	33.5	19.6	14.6	12.6	6.6	6.2	21.0	3.9	2.7
18～29歳	56	21.4	30.4	3.6	1.8	3.6	1.8	1.8	51.8	-	-
30～39歳	81	40.7	39.5	12.3	12.3	9.9	1.2	7.4	30.9	4.9	-
40～49歳	159	42.1	36.5	13.8	11.9	7.5	1.9	5.7	25.8	5.7	0.6
50～59歳	191	47.6	30.4	15.2	12.0	7.3	4.7	6.3	26.2	6.3	2.1
60～69歳	164	52.4	36.0	20.7	11.0	10.4	9.1	5.5	17.1	4.3	3.7
70歳以上	350	58.9	31.7	28.3	21.4	20.9	10.6	7.1	10.6	2.0	4.6
男性全体	804	50.9	31.2	22.1	19.8	14.7	9.5	6.5	21.4	2.9	2.7
18～29歳	36	27.8	22.2	5.6	11.1	5.6	5.6	-	38.9	-	11.1
30～39歳	57	33.3	8.8	3.5	5.3	5.3	3.5	1.8	47.4	5.3	1.8
40～49歳	127	46.5	35.4	15.0	18.1	10.2	7.1	5.5	28.3	3.1	0.8
50～59歳	156	53.8	35.3	17.9	16.0	13.5	5.8	5.1	19.9	2.6	1.9
60～69歳	148	55.4	35.8	26.4	17.6	14.9	9.5	10.1	16.2	2.7	4.1
70歳以上	280	55.4	30.4	31.4	27.9	20.4	14.3	7.5	14.3	2.9	2.5

(4) 自治会に加入して感じている点

◇「地域に顔見知りができ安心感がある」が4割半ばで最も多い

問 51-2. 問 51 で「1. 加入している」と答えた方に伺います。あなたが自治会に加入した理由・参加している自治会活動・自治会に加入して感じている点を、次の中から選んでください。
(〇はいくつでも)

図表 18-4-1 自治会に加入して感じている点



自治会に「加入している」と回答した1,872人に、自治会に加入して感じている点について聞いたところ、「地域に顔見知りができ安心感がある」(46.3%)が最も多く、次いで「役員就任等への負担感」(29.3%)、「防災訓練などを通して、災害への備えができる」(25.9%)、「地域活動や行事等への参加の負担感」(21.9%)、「地域の安全や環境美化に貢献している」(21.2%)の順となっている。

性別で見ると、「役員就任等への負担感」は女性（31.7%）が男性（27.7%）を4ポイント上回っている。「地域の安全や環境美化に貢献している」（男性24.8%、女性18.1%）、「地域の課題解決が進む」（男性8.8%、女性5.0%）は男性が女性をそれぞれ6.7ポイント、3.8ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「地域に顔見知りができ安心感がある」は女性18～29歳（28.6%）と男性30歳代（28.1%）を除くすべての年齢で男女ともに3割を超えており、特に女性70歳以上（56.6%）と男性18～29歳・70歳以上（50.0%、57.9%）で5割台を占めて多くなっている。「役員就任等への負担感」は男性18～29歳（13.9%）を除くすべての年齢で男女ともに2割を超えており、特に女性40歳代～60歳代（44.7%、39.8%、36.6%）と男性50歳代・60歳代（35.9%、31.1%）で3割を超えて多くなっている。「防災訓練などを通して、災害への備えができる」は男女ともに50歳代以上で2割を超えており、特に70歳代（女性37.7%、男性40.4%）は3割以上で多くなっている。「地域の安全や環境美化に貢献している」は男性70歳以上（33.2%）が、「会費支払いへの負担感」は女性18～29歳（33.9%）と男性30歳代（35.1%）がそれぞれ3割を超えて多くなっている。「行事等に楽しく参加できる」は女性30歳代（27.2%）が全体を13.5ポイント上回って多くなっている。

図表18-4-2 性・年齢別 自治会に加入して感じている点

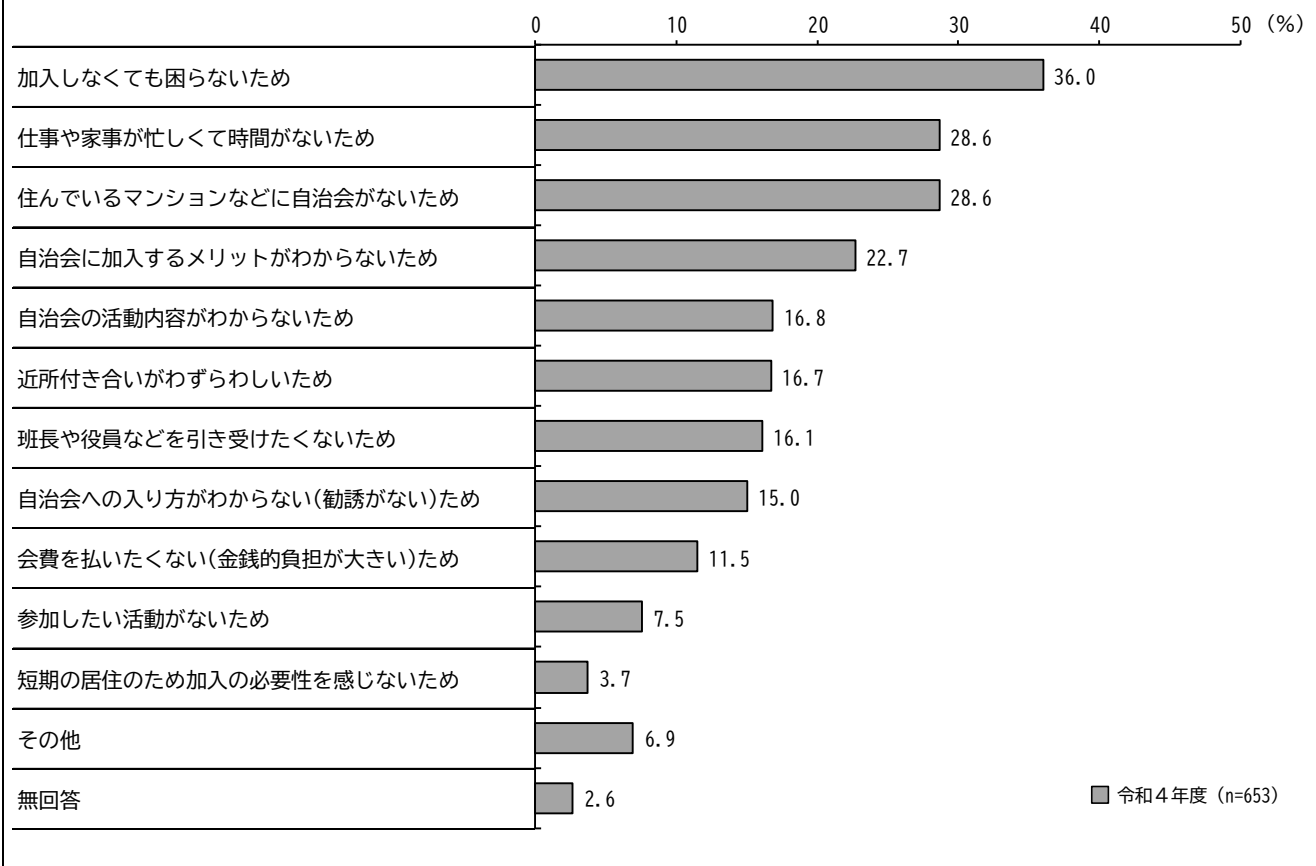
	調査数（人）	地域に顔見知りができ安心感がある	役員就任等への負担感	防災訓練などを通して、災害への備えができる	地域活動や行事等への参加の負担感	地域の安全や環境美化に貢献している	会費支払いへの負担感	行事等に楽しく参加できる	地域の課題解決が進む	その他	無回答
全体	1,872	46.3	29.3	25.9	21.9	21.2	15.7	13.7	6.7	5.1	5.3
女性全体	1,001	45.4	31.7	25.7	23.0	18.1	17.4	14.0	5.0	5.4	5.3
18～29歳	56	28.6	28.6	1.8	25.0	7.1	33.9	8.9	-	14.3	3.6
30～39歳	81	39.5	28.4	8.6	19.8	16.0	21.0	27.2	6.2	9.9	2.5
40～49歳	159	37.7	44.7	18.2	28.9	13.8	25.2	11.9	5.7	4.4	4.4
50～59歳	191	37.7	39.8	24.6	28.8	16.8	23.0	12.6	2.6	6.8	3.1
60～69歳	164	46.3	36.6	25.0	27.4	20.7	15.2	7.9	4.9	3.7	4.3
70歳以上	350	56.6	20.3	37.7	15.4	21.7	8.3	16.3	6.6	3.4	8.3
男性全体	804	47.6	27.7	26.2	21.0	24.8	14.1	13.3	8.8	5.0	4.1
18～29歳	36	50.0	13.9	16.7	8.3	13.9	13.9	16.7	2.8	2.8	5.6
30～39歳	57	28.1	24.6	12.3	22.8	15.8	35.1	3.5	8.8	10.5	3.5
40～49歳	127	40.9	26.8	11.8	26.8	23.6	20.5	17.3	7.1	8.7	2.4
50～59歳	156	42.3	35.9	21.8	23.1	16.0	14.7	16.0	6.4	7.1	3.2
60～69歳	148	46.6	31.1	24.3	25.7	25.0	14.2	7.4	9.5	2.7	2.7
70歳以上	280	57.9	24.3	40.4	16.1	33.2	6.4	14.6	11.4	2.5	6.1

(5) 自治会に加入しない理由

◇「加入しなくても困らないため」が3割半ばで最も多い

問 51-3. 問 51 で「2. 加入していない」と答えた方に伺います。あなたが自治会に加入していない理由・自治会に加入するために必要だと思うこと、自治会への加入意思を、次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

図表 18-5-1 自治会に加入しない理由



自治会に「加入していない」と回答した 653 人に、自治会に加入しない理由について聞いたところ、「加入しなくても困らないため」(36.0%) が最も多く、次いで「仕事や家事が忙しくて時間がないため」「住んでいるマンションなどに自治会がないため」(ともに 28.6%)、「自治会に加入するメリットがわからないため」(22.7%)、「自治会の活動内容がわからないため」(16.8%) の順となっている。

性別で見ると、「住んでいるマンションなどに自治会がないため」は女性(35.1%)が男性(22.9%)を12.2ポイント上回っている。一方、「仕事や家事が忙しくて時間がないため」(9.8ポイント)、「加入しなくても困らないため」(8.2ポイント)、「自治会に加入するメリットがわからないため」(6.7ポイント)、「会費を払いたくない(金銭的負担が大きい)ため」(4.3ポイント)、「参加したい活動がないため」(4.0ポイント)、「自治会の活動内容がわからないため」(3.9ポイント)、「近所付き合いがわずらわしいため」(3.9ポイント)と、7項目で男性が女性を上回っている。

性・年齢別で見ると、「加入しなくても困らないため」は女性30歳代以下と男性40歳代以下・70歳以上で4割を超えており、特に男性40歳代(50.8%)は約5割を占めている。「仕事や家事が忙しくて時間がないため」は女性60歳代以下で2割台、男性50歳代以下で3割以上を占め、特に男性30歳代(47.0%)で4割を超えている。「住んでいるマンションなどに自治会がないため」は女性18～29歳を除く女性すべての年齢で3割を超えており、特に女性60歳代(55.9%)は5割半ばを占めている。「自治会に加入するメリットがわからないため」は男性30歳代(33.3%)で3割強を占めて多くなっている。

図表 18-5-2 性・年齢別 自治会に加入しない理由

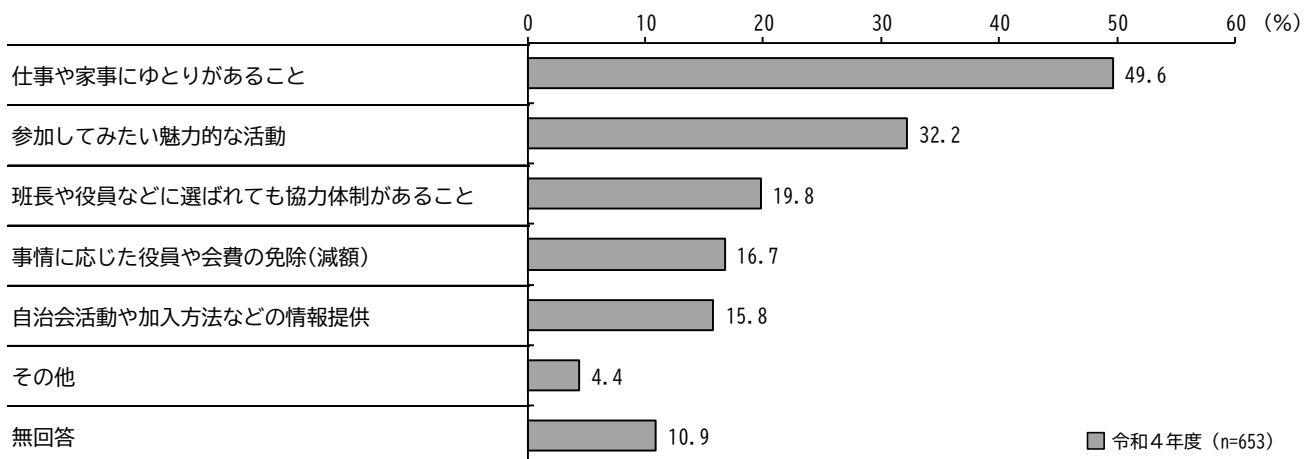
	調査数(人)	加入しなくても困らないため	仕事や家事が忙しくて時間がないため	住んでいるマンションなどに自治会がないため	自治会に加入するメリットがわからないため	自治会の活動内容がわからないため	近所付き合いがわずらわしいため	班長や役員などを引き受けたくないため	自治会への入り方がわからない(勧誘がない)ため	会費を払いたくない(金銭的負担が大きい)ため	参加したい活動がないため	短期の居住のため加入の必要性を感じないため	その他	無回答
全体	653	36.0	28.6	28.6	22.7	16.8	16.7	16.1	15.0	11.5	7.5	3.7	6.9	2.6
女性全体	316	32.6	23.7	35.1	19.6	15.2	14.9	17.1	14.9	9.2	5.7	2.5	7.3	3.5
18～29歳	77	40.3	24.7	22.1	22.1	16.9	18.2	19.5	16.9	13.0	10.4	9.1	9.1	2.6
30～39歳	62	41.9	29.0	38.7	27.4	17.7	19.4	22.6	21.0	12.9	6.5	1.6	3.2	-
40～49歳	61	32.8	27.9	36.1	14.8	16.4	14.8	13.1	19.7	8.2	3.3	-	4.9	3.3
50～59歳	39	23.1	25.6	35.9	17.9	7.7	7.7	15.4	7.7	7.7	5.1	-	10.3	2.6
60～69歳	34	23.5	23.5	55.9	14.7	2.9	11.8	14.7	2.9	2.9	2.9	-	5.9	2.9
70歳以上	42	21.4	4.8	35.7	14.3	21.4	11.9	11.9	9.5	4.8	2.4	-	11.9	11.9
男性全体	319	40.8	33.5	22.9	26.3	19.1	18.8	15.4	15.4	13.5	9.7	4.7	6.3	1.9
18～29歳	60	41.7	35.0	3.3	26.7	15.0	18.3	16.7	18.3	20.0	20.0	3.3	1.7	1.7
30～39歳	66	42.4	47.0	30.3	33.3	19.7	16.7	19.7	15.2	22.7	13.6	7.6	4.5	1.5
40～49歳	65	50.8	33.8	29.2	24.6	21.5	18.5	15.4	12.3	13.8	9.2	6.2	6.2	3.1
50～59歳	54	31.5	38.9	22.2	29.6	13.0	25.9	18.5	11.1	3.7	3.7	1.9	9.3	-
60～69歳	42	26.2	19.0	28.6	14.3	21.4	16.7	4.8	16.7	7.1	4.8	2.4	7.1	-
70歳以上	31	48.4	12.9	25.8	22.6	25.8	16.1	9.7	19.4	6.5	-	3.2	12.9	6.5

(6) 自治会に加入するために必要だと思うこと

◇「仕事や家事にゆとりがあること」が約5割で最も多い

問 51-3. 問 51 で「2. 加入していない」と答えた方に伺います。あなたが自治会に加入していない理由・自治会に加入するために必要だと思うこと、自治会への加入意思を、次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

図表 18-6-1 自治会に加入するために必要だと思うこと



自治会に「加入していない」と回答した 653 人に、自治会に加入するために必要だと思うことについて聞いたところ、「仕事や家事にゆとりがあること」(49.6%) が最も多く、次いで「参加してみたい魅力的な活動」(32.2%)、「班長や役員などに選ばれても協力体制があること」(19.8%)、「事情に応じた役員や会費の免除(減額)」(16.7%)、「自治会活動や加入方法などの情報提供」(15.8%) の順となっている。

性別でみると、「班長や役員などに選ばれても協力体制があること」は女性(23.7%)が男性(16.3%)を7.4ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「仕事や家事にゆとりがあること」は70歳代(女性19.0%、男性12.9%)を除くすべての年齢で男女ともに4割を超えて最も多くなっており、特に女性18～29歳(67.5%)、男性40歳代(60.0%)で6割台を占めて多くなっている。「参加してみたい魅力的な活動」は男性70歳以上(16.1%)を除くすべての年齢で男女ともに2割を超えており、特に女性30歳代以下・60歳代(33.8%、38.7%、38.2%)と男性40歳代以下(38.3%、40.9%、46.2%)で3割を超えて多くなっている。「班長や役員などに選ばれても協力体制があること」は女性30歳代～60歳代(35.5%、29.5%、23.1%、29.4%)と男性40歳代・50歳代(23.1%、25.9%)で2割を超えており、特に女性30歳代は3割半ばを占めて多くなっている。「事情に応じた役員や会費の免除(減額)」では女性30歳代・40歳代(24.2%、23.0%)と男性30歳代(24.2%)が、「自治会活動や加入方法などの情報提供」では男性70歳以上(29.0%)がそれぞれ2割台を占めて多くなっている。

図表 18-6-2 性・年齢別 自治会に加入するために必要だと思うこと

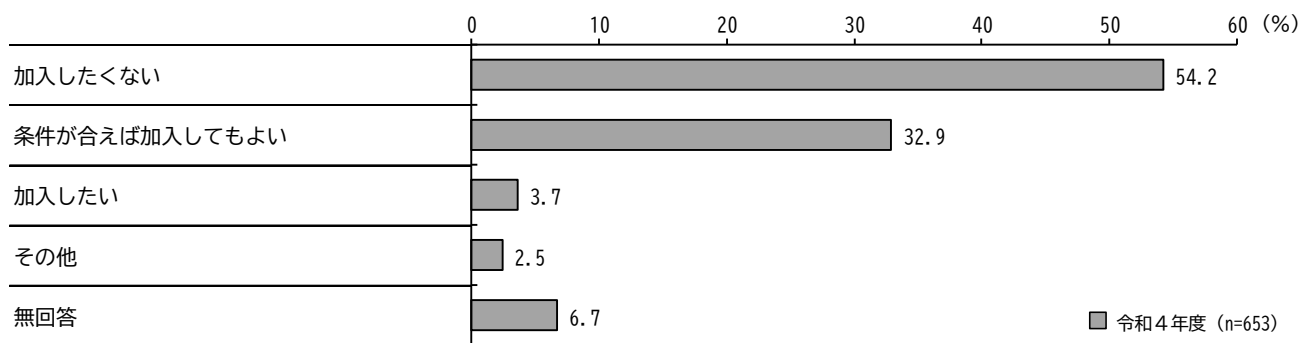
	調査数(人)	仕事や家事にゆとりがあること	参加してみたい魅力的な活動	班長や役員などに選ばれても協力体制があること	事情に応じた役員や会費の免除(減額)	自治会活動や加入方法などの情報提供	その他	無回答
全体	653	49.6	32.2	19.8	16.7	15.8	4.4	10.9
女性全体	316	49.4	32.0	23.7	17.4	16.1	3.2	12.3
18～29歳	77	67.5	33.8	19.5	19.5	19.5	-	7.8
30～39歳	62	53.2	38.7	35.5	24.2	19.4	-	-
40～49歳	61	45.9	27.9	29.5	23.0	14.8	8.2	11.5
50～59歳	39	48.7	28.2	23.1	12.8	15.4	-	7.7
60～69歳	34	47.1	38.2	29.4	8.8	8.8	5.9	14.7
70歳以上	42	19.0	23.8	2.4	7.1	14.3	7.1	40.5
男性全体	319	49.8	33.9	16.3	16.0	16.0	5.6	8.5
18～29歳	60	51.7	38.3	13.3	15.0	15.0	8.3	5.0
30～39歳	66	59.1	40.9	15.2	24.2	12.1	6.1	4.5
40～49歳	65	60.0	46.2	23.1	15.4	13.8	1.5	4.6
50～59歳	54	48.1	25.9	25.9	11.1	16.7	7.4	7.4
60～69歳	42	45.2	21.4	9.5	14.3	14.3	7.1	7.1
70歳以上	31	12.9	16.1	3.2	12.9	29.0	3.2	35.5

(7) 自治会への加入意思

◇「加入したくない」が5割半ばで最も多い

問 51-3. 問 51 で「2. 加入していない」と答えた方に伺います。あなたが自治会に加入していない理由・自治会に加入するために必要だと思うこと、自治会への加入意思を、次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

図表 18-7-1 自治会への加入意思



自治会に「加入していない」と回答した 653 人に、自治会への加入意思について聞いたところ、「加入したくない」(54.2%) が最も多く、次いで「条件が合えば加入してもよい」(32.9%)、「加入したい」(3.7%) の順となっている。

性別で見ると、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、「加入したくない」は男性70歳代（35.5%）を除くすべての年齢で男女ともに4割を超えて最も多くなっており、特に女性30歳代（61.3%）と男性18～29歳・50歳代（60.0%、64.8%）で6割台を占め多くなっている。「条件が合えば加入してもよい」は女性70歳以上（23.8%）と男性18～29歳・50歳代・60歳代（25.0%、27.8%、23.8%）を除くすべての年齢で男女ともに3割を超えており、特に男性40歳代（43.1%）で4割を超えて多くなっている。一方、「加入したい」は男性18～29歳（8.3%）が最も多いが、男女ともにすべての年齢で1割未満となっている。

図表 18-7-2 性・年齢別 自治会への加入意思

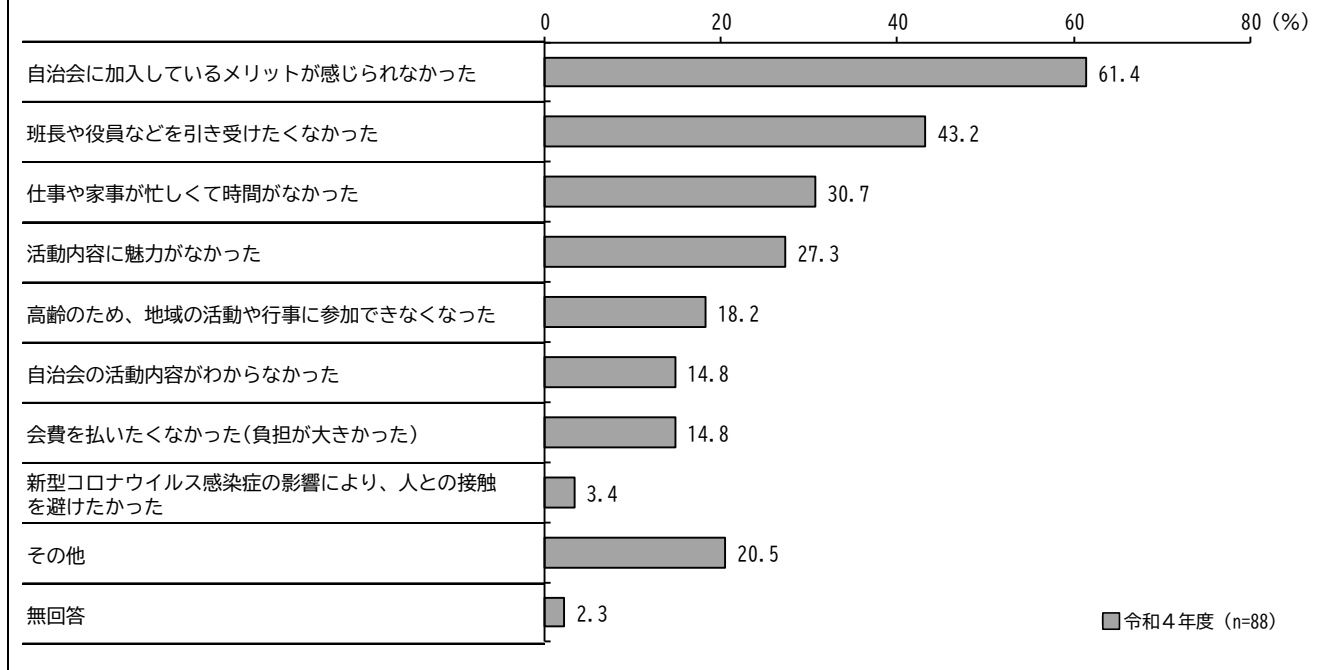
	調査数 (人)	加入したくない	条件が合えば加入してもよい	加入したい	その他	無回答
全体	653	54.2	32.9	3.7	2.5	6.7
女性全体	316	53.5	33.5	2.8	1.6	8.5
18～29歳	77	53.2	39.0	3.9	-	3.9
30～39歳	62	61.3	35.5	1.6	1.6	-
40～49歳	61	57.4	32.8	3.3	1.6	4.9
50～59歳	39	51.3	30.8	7.7	-	10.3
60～69歳	34	47.1	35.3	-	2.9	14.7
70歳以上	42	45.2	23.8	-	4.8	26.2
男性全体	319	54.2	33.5	4.7	3.4	4.1
18～29歳	60	60.0	25.0	8.3	1.7	5.0
30～39歳	66	51.5	39.4	4.5	1.5	3.0
40～49歳	65	49.2	43.1	3.1	-	4.6
50～59歳	54	64.8	27.8	1.9	3.7	1.9
60～69歳	42	59.5	23.8	4.8	9.5	2.4
70歳以上	31	35.5	38.7	6.5	9.7	9.7

(8) 自治会を脱会した理由

◇「自治会に加入しているメリットが感じられなかった」が約6割で最も多い

問 51-4. 問 51 で「3. 加入していたが脱会した」と答えた方に伺います。あなたが自治会を脱会した理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図表 18-8-1 自治会を脱会した理由



自治会に「加入していたが脱会した」と回答した 88 人に、自治会を脱会した理由について聞いたところ、「自治会に加入しているメリットが感じられなかった」(61.4%) が最も多く、次いで「班長や役員などを引き受けたくなかった」(43.2%)、「仕事や家事が忙しくて時間がなかった」(30.7%)、「活動内容に魅力がなかった」(27.3%)、「高齢のため、地域の活動や行事に参加できなくなった」(18.2%) の順となっている。

性別で見ると、男女ともに「自治会に加入しているメリットが感じられなかった」（女性 52.2%、男性 71.8%）が5割を多く占めている。また、「班長や役員などを引き受けたくなかった」（女性 52.2%、男性 35.9%）、「高齢のため、地域の活動や行事に参加できなくなった」（女性 21.7%、男性 12.8%）、「活動内容に魅力がなかった」（女性 28.3%、男性 23.1%）、「会費を払いたくなかった（負担が大きかった）」（女性 17.4%、男性 12.8%）はそれぞれ 16.3 ポイント、8.9 ポイント、5.2 ポイント、4.6 ポイント、女性が男性を上回っている。一方、「自治会に加入しているメリットが感じられなかった」（男性 71.8%、女性 52.2%）、「仕事や家事が忙しくて時間がなかった」（男性 33.3%、女性 28.3%）はそれぞれ 19.6 ポイント、5 ポイント、男性が女性を上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では 30 人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 18-8-2 性・年齢別 自治会を脱会した理由

	調査数（人）	自治会に加入しているメリットが感じられなかった	班長や役員などを引き受けたくなかった	仕事や家事が忙しくて時間がなかった	活動内容に魅力がなかった	高齢のため、地域の活動や行事に参加できなくなった	自治会の活動内容がわからなかった	会費を払いたくなかった（負担が大きかった）	新型コロナウイルスの接触を避けた影響により、人と人の接点を感じられなかった	その他	無回答
全体	88	61.4	43.2	30.7	27.3	18.2	14.8	14.8	3.4	20.5	2.3
女性全体	46	52.2	52.2	28.3	28.3	21.7	15.2	17.4	4.3	23.9	4.3
18～29歳	2	50.0	-	50.0	-	-	-	50.0	-	50.0	-
30～39歳	7	57.1	57.1	42.9	42.9	14.3	28.6	57.1	14.3	14.3	14.3
40～49歳	2	50.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-
50～59歳	7	100.0	57.1	28.6	71.4	-	42.9	14.3	-	14.3	-
60～69歳	7	28.6	57.1	28.6	14.3	-	14.3	28.6	14.3	28.6	-
70歳以上	21	42.9	47.6	14.3	19.0	42.9	4.8	-	-	28.6	4.8
男性全体	39	71.8	35.9	33.3	23.1	12.8	15.4	12.8	2.6	15.4	-
18～29歳	4	75.0	25.0	-	-	-	-	-	-	25.0	-
30～39歳	2	50.0	50.0	100.0	50.0	-	-	50.0	-	-	-
40～49歳	3	100.0	-	-	-	33.3	66.7	-	-	-	-
50～59歳	15	80.0	40.0	46.7	26.7	-	6.7	20.0	6.7	20.0	-
60～69歳	6	66.7	33.3	66.7	50.0	-	33.3	-	-	16.7	-
70歳以上	9	55.6	44.4	-	11.1	44.4	11.1	11.1	-	11.1	-

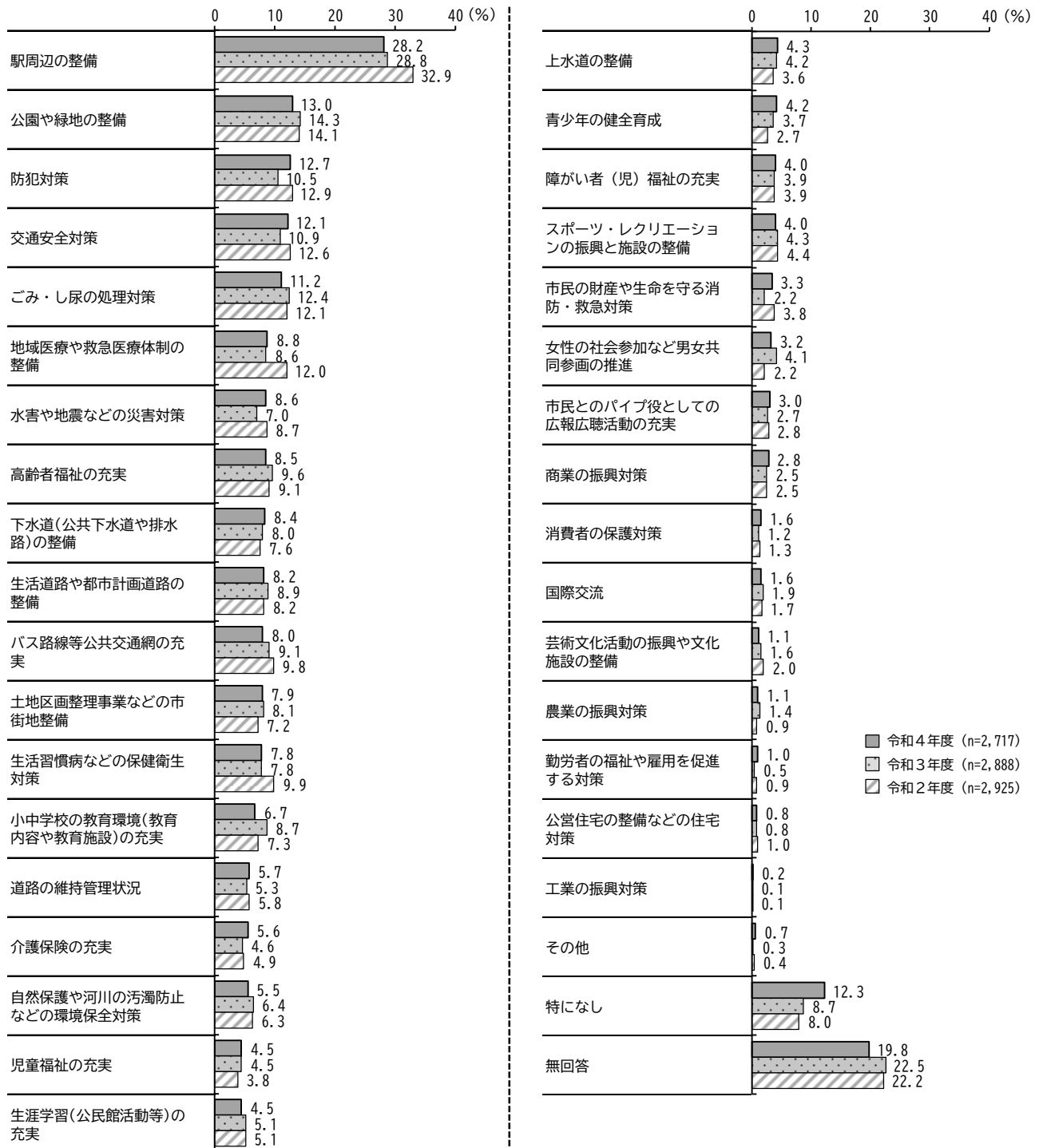
19. 越谷市の施策について

(1) よくなってきたと感じるもの

◇「駅周辺の整備」が3割弱で最も多い

問 52. 市では様々な施策を進めていますが、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の口内に番号をご記入ください。

図表 19-1-1 よくなってきたと感じるもの



市の施策に対して、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」は、1位「駅周辺の整備」(28.2%)、2位「公園や緑地の整備」(13.0%)、3位「防犯対策」(12.7%)、4位「交通安全対策」(12.1%)、5位「ごみ・し尿の処理対策」(11.2%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、令和3年度から「防犯対策」と「ごみ・し尿の処理対策」の順位が入れ替わっているが、全体的に大きな差はなく、「駅周辺の整備」は依然「公園や緑地の整備」以下の倍以上多くなっている。

性別で見ると、男女ともに1位が「駅周辺の整備」(女性26.2%、男性30.9%)となっている。2位は女性が「公園や緑地の整備」(13.2%)、男性が「交通安全対策」(15.1%)、3位は男女ともに「防犯対策」(女性11.0%、男性15.0%)、4位は女性が「ごみ・し尿の処理対策」(10.5%)、男性が「公園や緑地の整備」(13.3%)、5位は女性が「交通安全対策」(9.7%)、男性が「ごみ・し尿の処理対策」(12.1%)となっている。

性・年齢別で見ると、1位は男女ともすべての年齢で「駅周辺の整備」が最も多くなっており、女性40歳代(31.9%)と男性30歳代~60歳代(37.3%、30.3%、31.7%、33.8%)を除き2割台となっている。2位は女性30歳代・40歳代・60歳代(16.3%、13.3%、16.2%)と男性40歳代・60歳代(14.9%、17.4%)が「公園や緑地の整備」、女性50歳代(13.1%)と男性30歳代・50歳代(15.1%、14.5%)が「防犯対策」、18~29歳の女性(9.9%)と男性(20.0%)がともに「交通安全対策」、70歳以上の女性(17.3%)と男性(21.0%)がともに「ごみ・し尿の処理対策」となっている。

図表19-1-2 性・年齢別 よくなってきたと感じるもの

(%)

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,717)	駅周辺の整備 28.2	公園や緑地の整備 13.0	防犯対策 12.7	交通安全対策 12.1	ごみ・し尿の処理対策 11.2
女性全体 (1,414)	駅周辺の整備 26.2	公園や緑地の整備 13.2	防犯対策 11.0	ごみ・し尿の処理対策 10.5	交通安全対策 9.7
18~29歳 (141)	駅周辺の整備 27.7	交通安全対策 9.9	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実 9.2	公園や緑地の整備 8.5	生活道路や都市計画道路の整備 7.8
30~39歳 (153)	駅周辺の整備 22.9	公園や緑地の整備 16.3	水害や地震などの災害対策 10.5	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実 9.8	生活道路や都市計画道路の整備 9.2
40~49歳 (226)	駅周辺の整備 31.9	公園や緑地の整備 13.3	防犯対策 12.8	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実 11.5	交通安全対策 10.2
50~59歳 (244)	駅周辺の整備 29.5	防犯対策 13.1	ごみ・し尿の処理対策 11.5	公園や緑地の整備 10.7	水害や地震などの災害対策 10.2
60~69歳 (210)	駅周辺の整備 27.1	公園や緑地の整備 16.2	交通安全対策 13.3	生活習慣病などの保健衛生対策 11.9	バス路線等公共交通網の充実 10.0
70歳以上 (439)	駅周辺の整備 21.6	ごみ・し尿の処理対策 17.3	防犯対策 生活習慣病などの保健衛生対策	14.4	公園や緑地の整備 13.4
男性全体 (1,200)	駅周辺の整備 30.9	交通安全対策 15.1	防犯対策 15.0	公園や緑地の整備 13.3	ごみ・し尿の処理対策 12.1
18~29歳 (110)	駅周辺の整備 29.1	交通安全対策 20.0	防犯対策 16.4	ごみ・し尿の処理対策 10.9	土地区画整理事業などの市街地 整備 10.0
30~39歳 (126)	駅周辺の整備 37.3	防犯対策 15.1	土地区画整理事業などの市街地 整備 14.3	公園や緑地の整備 13.5	交通安全対策 地域医療や救急医療体制の整備 11.1
40~49歳 (201)	駅周辺の整備 30.3	公園や緑地の整備 14.9	交通安全対策 14.4	生活道路や都市計画道路の整備 10.0	土地区画整理事業などの市街地 整備 小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実 9.5
50~59歳 (227)	駅周辺の整備 31.7	防犯対策 14.5	交通安全対策 水害や地震などの災害対策	11.9	生活道路や都市計画道路の整備 11.5
60~69歳 (201)	駅周辺の整備 33.8	公園や緑地の整備 17.4	防犯対策 15.9	ごみ・し尿の処理対策 13.4	交通安全対策 水害や地震などの災害対策 11.9
70歳以上 (333)	駅周辺の整備 27.3	ごみ・し尿の処理対策 21.0	交通安全対策 19.5	防犯対策 18.0	下水道(公共下水道や排水路)の 整備 17.1

第4章 調査結果の詳細

居住地区別でみると、1位はすべての地区で「駅周辺の整備」となっており、南越谷地区(34.5%)、越ヶ谷地区(32.4%)、出羽地区(31.8%)、大袋地区(30.2%)は3割台となっている。また、川柳地区は「公園や緑地の整備」(16.0%)も同率1位となっている。2位は増林地区(18.8%)以下4地区が「公園や緑地の整備」、荻島地区(16.5%)以下4地区が「防犯対策」、越ヶ谷地区(15.8%)と出羽地区(14.7%：「ごみ・し尿の処理対策」と同率2位)が「交通安全対策」、蒲生地区(14.0%)が「ごみ・し尿の処理対策」、新方地区(17.5%)が「水害や地震などの災害対策」、大沢地区(12.9%：「公園や緑地の整備」と同率2位)が「下水道(公共下水道や排水路)の整備」となっている。「公園や緑地の整備」は10地区、「防犯対策」は9地区、「交通安全対策」は9地区、「ごみ・し尿の処理対策」は8地区、「地域医療や救急医療体制の整備」は4地区で5位以内となっている。また、「バス路線等公共交通網の充実」は増林地区(13.6%)で全体を5ポイント以上上回っている。

図表 19-1-3 居住地区別 よくなってきたと感じるもの

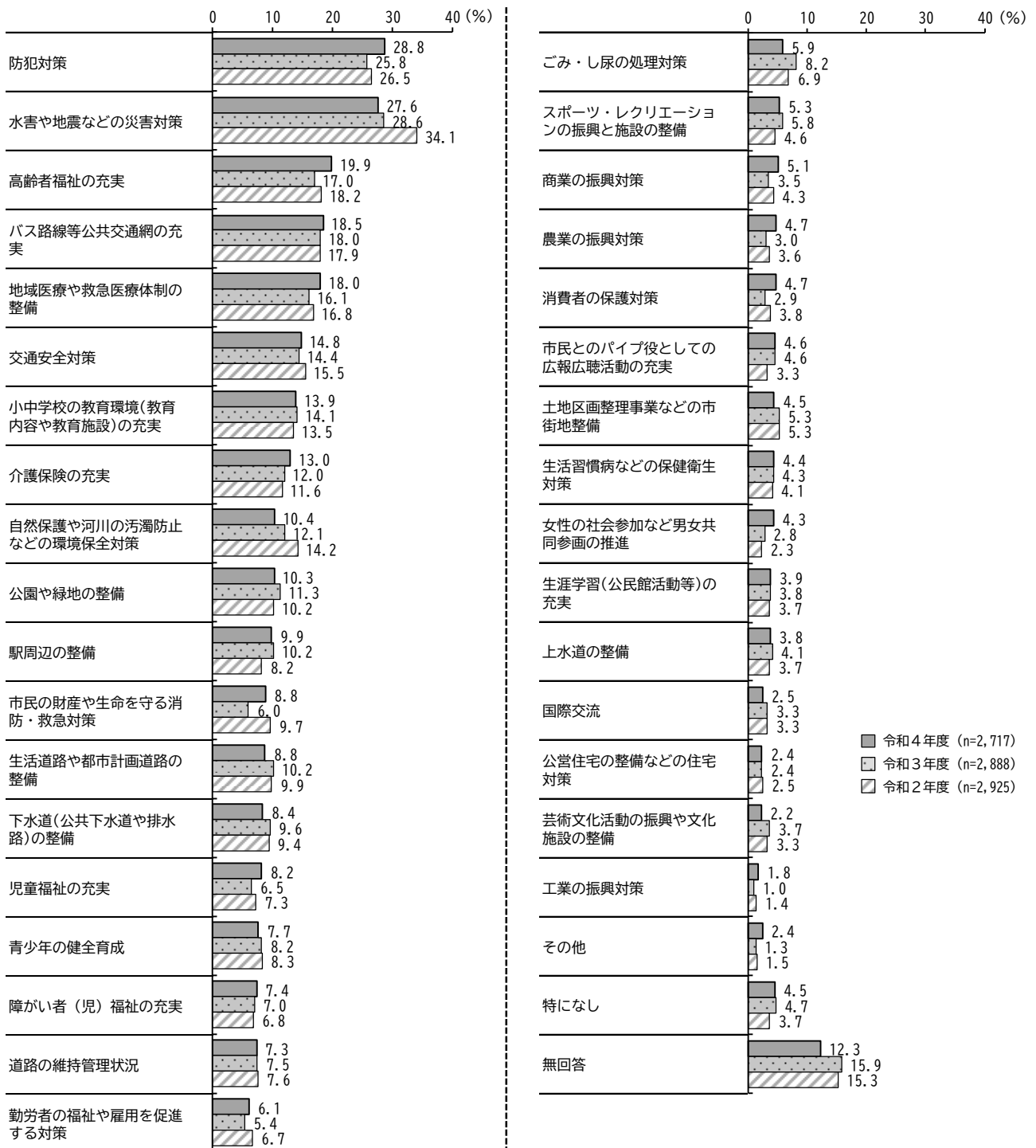
調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,717)	駅周辺の整備 28.2	公園や緑地の整備 13.0	防犯対策 12.7	交通安全対策 12.1	ごみ・し尿の処理対策 11.2
桜井地区 (304)	駅周辺の整備 21.4	公園や緑地の整備 12.8	ごみ・し尿の処理対策 水害や地震などの災害対策 11.8		防犯対策 高齢者福祉の充実 10.5
新方地区 (120)	駅周辺の整備 25.8	水害や地震などの災害対策 17.5	公園や緑地の整備 16.7	地域医療や救急医療体制の整備 15.8	ごみ・し尿の処理対策 14.2
増林地区 (191)	駅周辺の整備 27.7	公園や緑地の整備 18.8	土地区画整理事業などの市街地 整備 15.2	バス路線等公共交通網の充実 13.6	地域医療や救急医療体制の整備 12.0
大袋地区 (378)	駅周辺の整備 30.2	防犯対策 13.5	公園や緑地の整備 12.7	交通安全対策 12.4	下水道(公共下水道や排水路)の 整備 11.9
荻島地区 (79)	駅周辺の整備 29.1	防犯対策 16.5	交通安全対策 15.2	自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策 ごみ・し尿の処理対策 11.4	
出羽地区 (217)	駅周辺の整備 31.8	交通安全対策 ごみ・し尿の処理対策 14.7		水害や地震などの災害対策 12.9	公園や緑地の整備 12.4
蒲生地区 (344)	駅周辺の整備 26.7	ごみ・し尿の処理対策 14.0	交通安全対策 13.7	防犯対策 13.1	生活道路や都市計画道路の整備 8.7
川柳地区 (75)	駅周辺の整備 公園や緑地の整備 16.0		生活道路や都市計画道路の整備 14.7	防犯対策 交通安全対策 13.3	
大相模地区 (222)	駅周辺の整備 29.3	公園や緑地の整備 15.3	生活道路や都市計画道路の整備 14.4	防犯対策 13.1	交通安全対策 11.3
大沢地区 (171)	駅周辺の整備 28.7	公園や緑地の整備 下水道(公共下水道や排水路)の整備 12.9		高齢者福祉の充実 11.1	交通安全対策 ごみ・し尿の処理対策 水害や地震などの災害対策 10.5
北越谷地区 (92)	駅周辺の整備 22.8	防犯対策 13.0	交通安全対策 12.0	地域医療や救急医療体制の整備 ごみ・し尿の処理対策 9.8	
越ヶ谷地区 (247)	駅周辺の整備 32.4	交通安全対策 15.8	防犯対策 13.8	公園や緑地の整備 13.4	バス路線等公共交通網の充実 8.5
南越谷地区 (235)	駅周辺の整備 34.5	防犯対策 14.9	公園や緑地の整備 14.0	地域医療や救急医療体制の整備 12.3	土地区画整理事業などの市街地 整備 ごみ・し尿の処理対策 11.9

(2) 特に力を入れるべきだと思われるもの

◇「防犯対策」が3割弱で最も多い

問 52. 市では様々な施策を進めています。ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の口内に番号をご記入ください。

図表 19-2-1 特に力を入れるべきだと思われるもの



第4章 調査結果の詳細

市の施策に対して、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」は、1位「防犯対策」(28.8%)、2位「水害や地震などの災害対策」(27.6%)、3位「高齢者福祉の充実」(19.9%)、4位「バス路線等公共交通網の充実」(18.5%)、5位「地域医療や救急医療体制の整備」(18.0%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、令和2年度・令和3年度から1位と2位に順位が入れ替わっている。

性別でみると、女性は1位が「水害や地震などの災害対策」(27.9%)、2位が「防犯対策」(27.6%)、男性は1位が「防犯対策」(31.1%)、2位が「水害や地震などの災害対策」(28.1%)となっている。3位以下は女性が「バス路線等公共交通網の充実」(21.4%)、「高齢者福祉の充実」(20.3%)、「地域医療や救急医療体制の整備」(19.7%)、男性が「高齢者福祉の充実」(19.8%)、「地域医療や救急医療体制の整備」(16.8%)、「交通安全対策」(16.5%)となっている。

性・年齢別でみると、1位は女性40歳代以下(33.3%、31.4%、35.0%)と男性60歳代以下(37.3%、32.5%、32.3%、35.7%、31.8%)が「防犯対策」、女性50歳代以上(29.9%、31.9%、30.1%)と男性70歳以上(30.3%)が「水害や地震などの災害対策」となっている。「防犯対策」は女性70歳以上(19.4%)以外、「水害や地震などの災害対策」は女性18～29歳(18.4%)以外の年齢で2割を超え、男女ともすべての年齢で5位以内となっている。また「小中学校の教育環境教育内容や教育施設の充実」は女性30歳代・40歳代(30.7%、23.0%)と男性30歳代・40歳代(23.0%、20.9%)、「交通安全対策」は40歳代・50歳代(20.9%、21.1%)で2割を超え、全体を4ポイント以上上回っている。

図表 19-2-2 性・年齢別 特に力を入れるべきだと思われるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (2,717)	防犯対策 28.8	水害や地震などの災害対策 27.6	高齢者福祉の充実 19.9	バス路線等公共交通網の充実 18.5	地域医療や救急医療体制の整備 18.0
女性全体 (1,414)	水害や地震などの災害対策 27.9	防犯対策 27.6	バス路線等公共交通網の充実 21.4	高齢者福祉の充実 20.3	地域医療や救急医療体制の整備 19.7
18～29歳 (141)	防犯対策 33.3	交通安全対策 19.9	水害や地震などの災害対策 18.4	駅周辺の整備 16.3	バス路線等公共交通網の充実 14.9
30～39歳 (153)	防犯対策 31.4	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 30.7	水害や地震などの災害対策 26.8	地域医療や救急医療体制の整備 19.6	児童福祉の充実 17.0
40～49歳 (226)	防犯対策 35.0	バス路線等公共交通網の充実 25.2	水害や地震などの災害対策 24.8	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 23.0	地域医療や救急医療体制の整備 20.8
50～59歳 (244)	水害や地震などの災害対策 29.9	高齢者福祉の充実 29.5	防犯対策 29.1	地域医療や救急医療体制の整備 26.2	介護保険の充実 23.0
60～69歳 (210)	水害や地震などの災害対策 31.9	防犯対策 28.1	バス路線等公共交通網の充実 21.4	高齢者福祉の充実 21.0	地域医療や救急医療体制の整備 20.5
70歳以上 (439)	水害や地震などの災害対策 30.1	高齢者福祉の充実 28.2	バス路線等公共交通網の充実 23.5	防犯対策 19.4	介護保険の充実 18.7
男性全体 (1,200)	防犯対策 31.1	水害や地震などの災害対策 28.1	高齢者福祉の充実 19.8	地域医療や救急医療体制の整備 16.8	交通安全対策 16.5
18～29歳 (110)	防犯対策 37.3	水害や地震などの災害対策 24.5	駅周辺の整備 20.0	バス路線等公共交通網の充実 16.4	道路の維持管理状況 公園や緑地の整備 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 14.5
30～39歳 (126)	防犯対策 32.5	水害や地震などの災害対策 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 23.0	児童福祉の充実 16.7	公園や緑地の整備 15.9	
40～49歳 (201)	防犯対策 32.3	水害や地震などの災害対策 27.4	交通安全対策 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 20.9	駅周辺の整備 18.9	
50～59歳 (227)	防犯対策 35.7	水害や地震などの災害対策 32.2	交通安全対策 21.1	高齢者福祉の充実 18.9	地域医療や救急医療体制の整備 17.2
60～69歳 (201)	防犯対策 31.8	高齢者福祉の充実 27.4	水害や地震などの災害対策 25.9	地域医療や救急医療体制の整備 21.9	交通安全対策 15.4
70歳以上 (333)	水害や地震などの災害対策 30.3	高齢者福祉の充実 29.7	防犯対策 24.3	バス路線等公共交通網の充実 18.9	地域医療や救急医療体制の整備 18.6

居住地区別でみると、1位は南越谷地区(34.5%)以下8地区が「防犯対策」(出羽地区は「水害や地震などの災害対策」と同率1位)、増林地区(38.7%)以下5地区が「水害や地震などの災害対策」、新方地区(36.7%)が「バス路線等公共交通網の充実」となっており、新方地区の「バス路線等公共交通網の充実」は全体(18.5%)の約2倍の割合となっている。2位は新方地区(34.2%)以下7地区が「水害や地震などの災害対策」、増林地区(33.5%)以下4地区が「防犯対策」、蒲生地区(23.5%)が「高齢者福祉の充実」となっており、新方地区、蒲生柳地区を除く11地区で、「防犯対策」「水害や地震などの災害対策」が1・2位を占めている。また、「高齢者福祉の充実」は大沢地区(25.1%)、蒲生地区(23.5%)、南越谷地区(22.1%)、大袋地区(22.0%)、新方地区(20.0%)、桜井地区(20.4%)で、「バス路線等公共交通網の充実」は新方地区(36.7%)、桜井地区(24.3%)、出羽地区(21.2%)、増林地区(20.9%)、大相模地区(20.7%)で、「地域医療や救急医療体制の整備」は大沢地区(22.2%)、大袋地区(22.0%)、大相模地区(21.6%)、桜井地区(21.4%)で2割台を占めている。

図表 19-2-3 居住地区別 特に力を入れるべきと思われるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位	(%)
全 体 (2,717)	防犯対策 28.8	水害や地震などの災害対策 27.6	高齢者福祉の充実 19.9	バス路線等公共交通網の充実 18.5	地域医療や救急医療体制の整備 18.0	
桜井地区 (304)	水害や地震などの災害対策 29.6	防犯対策 27.3	バス路線等公共交通網の充実 24.3	地域医療や救急医療体制の整備 21.4	高齢者福祉の充実 20.4	
新方地区 (120)	バス路線等公共交通網の充実 36.7	水害や地震などの災害対策 34.2	防犯対策 25.8	高齢者福祉の充実 20.0	交通安全対策 介護保険の充実 15.0	
増林地区 (191)	水害や地震などの災害対策 38.7	防犯対策 33.5	バス路線等公共交通網の充実 20.9	地域医療や救急医療体制の整備 19.4	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実 18.8	
大袋地区 (378)	水害や地震などの災害対策 28.8	防犯対策 26.7	地域医療や救急医療体制の整備 高齢者福祉の充実 22.0	バス路線等公共交通網の充実 19.8		
荻島地区 (79)	防犯対策 27.8	水害や地震などの災害対策 25.3	交通安全対策 高齢者福祉の充実 バス路線等公共交通網の充実 16.5			
出羽地区 (217)	防犯対策 水害や地震などの災害対策 31.8		バス路線等公共交通網の充実 21.2	交通安全対策 18.4	高齢者福祉の充実 18.0	
蒲生地区 (344)	防犯対策 30.2	高齢者福祉の充実 23.5	水害や地震などの災害対策 19.8	地域医療や救急医療体制の整備 バス路線等公共交通網の充実 19.2		
川柳地区 (75)	防犯対策 25.3	水害や地震などの災害対策 24.0	自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 20.0	地域医療や救急医療体制の整備 18.7		
大相模地区 (222)	防犯対策 24.3	水害や地震などの災害対策 23.4	地域医療や救急医療体制の整備 21.6	バス路線等公共交通網の充実 20.7	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実 19.4	
大沢地区 (171)	防犯対策 32.2	水害や地震などの災害対策 31.6	高齢者福祉の充実 25.1	地域医療や救急医療体制の整備 22.2	バス路線等公共交通網の充実 16.4	
北越谷地区 (92)	水害や地震などの災害対策 30.4	防犯対策 19.6	高齢者福祉の充実 18.5	地域医療や救急医療体制の整備 16.3	交通安全対策 15.2	
越ヶ谷地区 (247)	防犯対策 30.8	水害や地震などの災害対策 24.3	高齢者福祉の充実 18.2	交通安全対策 15.0	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実 13.4	
南越谷地区 (235)	防犯対策 34.5	水害や地震などの災害対策 24.7	高齢者福祉の充実 22.1	交通安全対策 17.9	地域医療や救急医療体制の整備 15.7	

(3) 自由回答

問 53. 問 52 で選ばれた「特に力を入れるべきだと思われるもの」について、どのような対応(対策)を望めますか。また、市政に関するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

市政に関する意見や要望の回答件数は 713 件（意見等合計 1,013 件）であった。
これを下記のとおり「第5次越谷市総合振興計画前期基本計画」の項目ごとに整理した。

		件数
大綱1. 多様な人が交流し、参加と協働により発展するまちづくり	市民参加と協働による市政を推進する	20
	互いに認め合い人権を尊重する社会づくりを推進する	6
	健全でスマートな都市経営を推進する	12
大綱2. みんなが健康で共生して住み続けられるまちづくり	ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる	8
	予防と助け合いのもとで、充実した地域医療・保健衛生体制をつくる	49
	子どもたちが夢と希望を持って育ち、安心して子育てできるまちをつくる	32
	障がい者（児）が安心して暮らせる環境をつくる	17
	高齢者が安心していきいきと暮らせるまちをつくる	53
	市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る	16
大綱3. 都市と自然が調和した集約と連携によるまちづくり	生活の質が高く選ばれ続ける都市をつくる	20
	地域を支える道路・公共交通をつくる	163
	水と緑でつながるやすらぎのある空間をつくる	44
	安全で良好な水環境をつくる	61
	安心して住むことができる住宅環境をつくる	14
大綱4. 持続可能で災害に強い安全・安心なまちづくり	環境にやさしい持続可能な地域・社会をつくる	41
	安全・安心に暮らせるまちをつくる	144
	生命・身体・財産を守る消防体制を整える	17
大綱5. 魅力ある資源を活かし、都市の活力を創造するまちづくり	地域産業の持続的発展を支援する	17
	魅力と活力でライフスタイルを豊かにする	15
	持続的に農業が行われる環境をつくる	5
	だれもがいきいきと働ける地域社会をつくる	6
大綱6. みんなが主体的に学び、生きがいを持って活躍できるまちづくり	生きる力を育む学校教育を推進する	52
	生涯にわたる学びを充実し、地域文化を振興する	14
	生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる	17
その他		170

総計 1,013

大綱	区分	内容	件数
1	市民参加と協働による市政を推進する	市政への市民参加を進める	3
		市民との協働のまちづくりを進める	3
		情報を提供し、市民との共有を図る	14
		計	20
	互いに認め合い人権を尊重する社会づくりを推進する	相手を思いやる人権意識を高める	1
		人権教育を進める	1
		男女共同参画社会を進める	3
		多文化共生社会の形成と国際交流を進める	1
		平和を愛する心を継承する	0
		計	6
	健全でスマートな都市経営を推進する	効率的かつ効果的な行政運営を進める	4
		行財政運営の健全化を進める	8
		計	12

大綱	区分	内容	件数
2	ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる	地域福祉体制の充実を図る	8
		計	8
	予防と助け合いのもとで、充実した地域医療・保健衛生体制をつくる	市民の健康づくりを進める	6
		地域医療体制の充実を図る	41
		保健衛生体制の充実を図る	2
		計	49
	子どもたちが夢と希望を持って育ち、安心して子育てできるまちをつくる	地域のなかで子育てを支える	4
		地域のなかで子どもが自ら育つ環境をつくる	1
		次世代を担う子どもたちを健やかに育てられる子育てしやすい環境を整える	23
		貧困の状況にある子どもと家庭を支える	4
		計	32
	障がい者（児）が安心して暮らせる環境をつくる	障がいの早期発見と療育環境を整える	4
		生活の質の向上を支援し、社会的自立を促進する	3
		地域での生活を支え、日常生活の充実を図る	9
		安心して外出するための円滑な移動を支援し、社会参加を促進する	1
		計	17
	高齢者が安心していきいきと暮らせるまちをつくる	生きがいづくりを支援する	1
		住民主体の介護予防を進める	0
		認知症の人にやさしい地域をつくる	0
		高齢者を支える環境をつくる	35
介護保険制度の充実を図る		17	
	計	53	
市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る	生活に困窮している方々へのサポート体制の充実に努める	10	
	医療保険制度の維持・充実を図る	6	
	安定した生活を送るため年金制度を支援する	0	
	計	16	

第4章 調査結果の詳細

大綱	区分	内容	件数
3	生活の質が高く選ばれ続ける都市をつくる	メリハリのある土地利用を進める	3
		活気ある市街地を整備する	13
		身近で親しみのある景観をつくる	4
		計	20
	地域を支える道路・公共交通をつくる	道路の整備を図る	55
		道路・水路の管理を図る	19
		公共交通網の維持・充実を図る	89
		計	163
	水と緑でつながるやすらぎのある空間をつくる	身近な緑を守り育てる	13
		だれもが利用しやすく安全な公園をつくる	30
		水辺を活かした快適な空間をつくる	1
		計	44
	安全で良好な水環境をつくる	水害に強いまちづくりを進める	32
		水質の保全と安全な水の確保により快適な生活環境を整える	29
		計	61
		安心して住むことができる住宅環境をつくる	安心して暮らせる住まいづくりを支援する
		住宅ストックの有効活用と快適な住宅環境の実現を図る	9
		計	14

大綱	区分	内容	件数
4	環境にやさしい持続可能な地域・社会をつくる	脱炭素社会をつくる	1
		地域の効率的な資源循環を進める	18
		生き物・人が共生する社会をつくる	10
		安全・安心な環境づくりを進める	12
		計	41
	安全・安心に暮らせるまちをつくる	危機管理対策の充実を図る	22
		災害対策を進める	32
		地域の防犯力を高める	54
		交通安全の充実を図る	36
		消費者の自立を支援し、消費者意識の高揚を図る	0
		計	144
	生命・身体・財産を守る消防体制を整える	火災を予防する活動の充実を図る	0
		消防力の充実・強化を図る	3
		消防署所の充実・強化を図る	0
		救急体制の充実・強化を図る	14
		消防団の充実・強化を図る	0
		計	17

大綱	区分	内容	件数
5	地域産業の持続的発展を支援する	既存産業の活性化を図る	3
		新たな産業を育成する	2
		魅力ある商業の振興を図る	11
		魅力ある工業の振興を図る	1
		計	17
	魅力と活力でライフスタイルを豊かにする	地域の魅力の発信と都市のブランドの構築でまちの総合力を高める	6
		にぎわいを創出し地域経済の循環を促進する	9
		計	15
	持続的に農業が行われる環境をつくる	越谷農業の強みを活かした農業経営を追求する	2
		立地特性に応じて農地を保全・活用する	2
		持続的に農業経営を担う人材を育成する	1
		消費者が農業を支える仕組みをつくる	0
		計	5
	持続的に農業が行われる環境をつくる	就業支援の充実と労働環境の向上を図る	6
	計	6	

大綱	区分	内容	件数
6	生きる力を育む学校教育を推進する	9年間を見通した越谷教育を推進する	2
		確かな学力を育む	1
		豊かな心を育む	2
		健やかな体を育む	2
		自立する力を育む	0
		質の高い教育環境を整備する	45
		計	52
	生涯にわたる学びを充実し、地域文化を振興する	生涯にわたる学びを進める	7
		文化活動を充実し、郷土の歴史を継承する	7
		計	14
	生涯にわたるスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる	健康ライフスタイルづくりを支援する	0
		スポーツ・レクリエーション活動を支援する環境の充実を図る	17
		計	17

大綱	区分	内容	件数
その他		市政への感謝・激励など	9
		アンケートについての意見・要望	11
		その他市政への意見・要望	109
		越谷市への感想など	17
		都市ガスの整備	0
		その他	24
		計	170

第5章 調査票

インターネット回答用ユーザーID・パスワード

ユーザーID

パスワード

令和4年度市政世論調査 調査票

【ご記入にあたってのお願い】

郵送とインターネットのいずれかを選択してご回答ください。

●郵送の場合

1. あて名のご本人がお答えください。(住所、氏名を記入する必要はありません。) ご本人によるご記入が困難な場合には、身近な方による代筆をお願いします。
2. ご記入は鉛筆、ボールペン、万年筆などで、黒または青色でお書きください。
3. 最初から1問ずつ、該当する全ての質問にお答えください。
4. お答えは、あなたのお考えに最も近いと思われる回答を設問文中に示された数の範囲で選び、その番号に○をつけるか番号を□の中にご記入ください。
5. 「その他 []」に○をつけたときは、[]内に具体的な内容をご記入ください。

ご記入いただいた調査票用紙を、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにご投函ください。
調査票用紙、返信用封筒に住所・氏名などを記入する必要はございません。

令和4年7月25日(月)までに郵便ポストにご投函いただきますよう、
お願いいたします。

●インターネットの場合

調査票フォームに回答を入力し、送信してください。

詳細につきましては、別紙「令和4年度市政世論調査ご協力のお願い」
裏面をご覧ください。

令和4年7月25日(月) 24時までに、送信を完了していただき
ますよう、お願いいたします。

調査票フォームへのアクセスは、右のQRコードを読み取っていただくか、
下記のURLを入力してください。

<調査票フォームURL> <https://www.cz-wee.com/if/koshigaya.php>

※お送りいただいたご回答は、個人を特定できないよう、取り扱っております。

※この調査に関してのお問い合わせは、下記までお願いします。

越谷市 市民協働部 暮らし安心課(広聴担当)

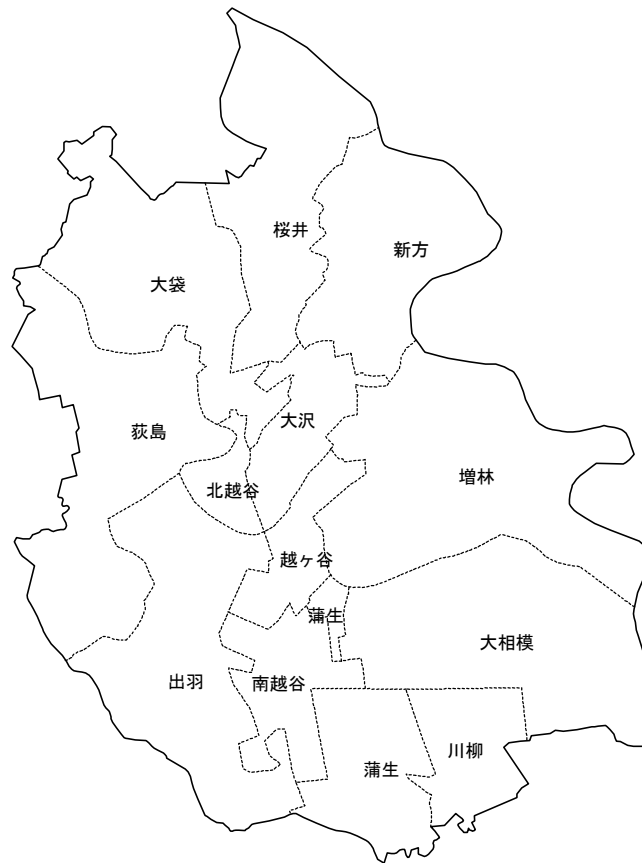
電話 048-963-9336 (直通)

FAX 048-965-7809

<QRコード>



<居住地区区分>



◆ 居住地区該当町表

地区区分	該当町名
桜井	大字大里、大字下間久里、大字上間久里、大字大泊、大字平方、平方南町、千間台東1～4丁目
新方	大字弥十郎、大字大吉、大字向畑、大字北川崎、大字大杉、大字大松、大字船渡、弥栄町1～4丁目
増林	大字花田、大字増林、大字増森、大字中島、東越谷1～10丁目、中島1～3丁目、増林1～3丁目、増森1～2丁目、花田1～7丁目
大袋	大字恩間、大字大竹、大字大道、大字三野宮、大字恩間新田、大字袋山、大字大林、大字大房、千間台西1～6丁目
荻島	大字野島、大字小曾川、大字砂原、大字南荻島、大字西新井、大字北後谷、大字長島
出羽	宮本町1～5丁目、神明町1～3丁目、谷中町1～4丁目、七左町1・4～8丁目、大間野町1～5丁目、新川町1～2丁目、新越谷2丁目
蒲生	大字蒲生、瓦曾根1～2丁目、南越谷1丁目、登戸町、蒲生東町、蒲生寿町、蒲生旭町、蒲生本町、蒲生西町1～2丁目、蒲生1～4丁目、蒲生愛宕町、蒲生南町、南町1～3丁目
川柳	伊原1～2丁目、川柳町1～5丁目、レイクタウン7丁目
大相模	大字西方、相模町1～5丁目、大成町1～2・6～8丁目、東町1～3・5丁目、相模町6～7丁目、流通団地1～4丁目、西方1～2丁目、レイクタウン1～6・8～9丁目
大沢	大沢、大沢1～4丁目、東大沢1～5丁目
北越谷	北越谷1～5丁目
越ヶ谷	越ヶ谷、越ヶ谷1～5丁目、御殿町、柳町、越ヶ谷本町、中町、弥生町、赤山町1～2丁目、宮前1丁目、赤山本町
南越谷	瓦曾根3丁目、南越谷2～5丁目、蒲生茜町、東柳田町、元柳田町、赤山町3～5丁目、新越谷1丁目

あなたご自身のことがらについておたずねします。

問1. あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 3. その他 |
|-------|-------|--------|

問2. あなたの年齢はどの区分にあてはまりますか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|------------|------------|
| 1. 18～19歳 | 6. 40～44歳 | 11. 65～69歳 |
| 2. 20～24歳 | 7. 45～49歳 | 12. 70～74歳 |
| 3. 25～29歳 | 8. 50～54歳 | 13. 75歳以上 |
| 4. 30～34歳 | 9. 55～59歳 | |
| 5. 35～39歳 | 10. 60～64歳 | |

問3. あなたのご職業は次のうちどれにあたりますか。(○は1つ)

- | | | |
|------------|--------------|----------------------|
| 1. 農業 | 6. 製造関係自営業 | 11. 学生 |
| 2. 市内会社員 | 7. サービス関係自営業 | 12. 家事従業 |
| 3. 市外会社員 | 8. 自由業 | 13. パートタイマー（アルバイト含む） |
| 4. 小売店自営業 | 9. 公務員 | 14. その他〔 〕 |
| 5. 建築関係自営業 | 10. 団体職員 | 15. 無職（年金生活を含む） |

問4. あなたの世帯は次のうちどれにあたりますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 単身世帯（ひとり暮らし） | 4. 三世帯世帯（親と子と孫など） |
| 2. 一世帯世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ） | 5. その他〔 〕 |
| 3. 二世帯世帯（親子など） | |

問5. あなたは、越谷市に住んでどれくらいになりますか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|-------------|-------------|
| 1. 1年未満 | 4. 5～10年未満 | 7. 20～30年未満 |
| 2. 1～3年未満 | 5. 10～15年未満 | 8. 30～40年未満 |
| 3. 3～5年未満 | 6. 15～20年未満 | 9. 40年以上 |

問6. あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 持ち家一戸建て | 6. 公団公社等賃貸マンション |
| 2. 民間借家一戸建て | 7. 社宅・官舎 |
| 3. 民間分譲マンション | 8. 間借り・下宿・寮・寄宿舍 |
| 4. 民間賃貸マンション・アパート | 9. 店舗・事務所併用住宅 |
| 5. 公団公社等分譲マンション | 10. その他〔 〕 |

問7. あなたは、どの地区に住んでいますか。(○は1つ)

※前ページの「居住地区該当町表」をご参照ください

- | | | |
|---------|----------|-----------|
| 1. 桜井地区 | 6. 出羽地区 | 11. 北越谷地区 |
| 2. 新方地区 | 7. 蒲生地区 | 12. 越ヶ谷地区 |
| 3. 増林地区 | 8. 川柳地区 | 13. 南越谷地区 |
| 4. 大袋地区 | 9. 大相模地区 | |
| 5. 荻島地区 | 10. 大沢地区 | |

あなたの暮らしや居住意向についておたずねします。

問8. あなたは現在の暮らし向きについて、どのように思っていますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------|------------|
| 1. 十分満足している | 4. まだまだ不満だ |
| 2. 十分とはいえないが、一応満足している | 5. 極めて不満だ |
| 3. ふつう | 6. わからない |

問9. あなたは今後も、現在のところに住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. ずっと住み続けたい | 3. どちらかといえば引っ越したい |
| 2. どちらかといえば住み続けたい | 4. 引っ越したい |
| | 5. わからない |

問9で「3」または「4」と答えた方(引っ越したいと答えた方)に伺います。 ←

問9-2. 引っ越したいと思われる主な理由は何ですか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 1. 商業や事業に不利なので | 8. 買い物が不便なので |
| 2. 交通の便が悪いので | 9. 医療機関が近くにない |
| 3. 現在、住んでいる住宅が狭いので | 10. このまちに愛着がないから |
| 4. 付近の生活環境が悪いので | 11. 地域になじめないから |
| 5. 仕事の関係で | 12. 家族の介護の関係で |
| 6. 賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため | 13. その他 [] |
| 7. こどもの教育のため | 14. 特に理由はない |

越谷市への愛着度と魅力発信についておたずねします。

問10. あなたは、越谷市に対して、どのくらい愛着がありますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. とても愛着がある | 4. 愛着がない |
| 2. 愛着がある | 5. どちらともいえない |
| 3. やや愛着がある | |

▶ 問10で「1」から「3」(愛着がある)と答えた方に伺います。

問10-2. 愛着がある理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1. 交通の利便性がよく、都内等に近い | 6. 歴史的建造物や誇れる街並みがある |
| 2. 仕事、子育て、余暇等で暮らしやすい | 7. おいしい食事がある |
| 3. 自然(水辺空間、農地等)が多く残されている | 8. 地域の特産品(土産品)がある |
| 4. ショッピング施設や商店街が豊富 | 9. 誇れる著名人がいる |
| 5. イベント、祭り、伝統芸能が豊富 | 10. その他 [] |

問11. 皆さんに伺います。越谷市の誇れるもの、知人に自慢したいものは何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|--------------------------------|
| 1. イオンレイクタウン | 8. 越谷ねぎ、くわい、山東菜等の農産物 |
| 2. 田んぼアート | 9. 日本庭園「花田苑」・日本文化伝承の館「こしがや能楽堂」 |
| 3. 越谷花火大会 | 10. 日光街道宿場町としての蔵のある街並み |
| 4. 南越谷阿波踊り | 11. だるまやせんべい等の伝統的手工芸品 |
| 5. 5本の1級河川等による水辺空間 | 12. 宮内庁埼玉鴨場 |
| 6. こしがや鴨ねぎ鍋等のグルメ | 13. その他 [] |
| 7. イチゴ狩り | |

広報についておたずねします。

問 12. あなたは、市政情報を主に何から得ていますか。(〇は1つ)

1. 広報こしがや	9. 越谷市公式 LINE (ライン)
2. テレビ広報番組	10. 越谷市公式インスタグラム
3. ラジオ広報番組	11. 公共施設にあるポスターやチラシ
4. 越谷市公式ホームページ	12. 直接、市役所に電話をする
5. 越谷市携帯サイト	13. 友人・知人
6. 越谷 city メール配信サービス	14. 新聞
7. 地区センターだより	15. その他 []
8. 越谷市公式ツイッター	16. 特に情報は得ていない

問 13. 市政情報を得るために活用したことがあるものを、次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

1. 広報こしがや	6. 越谷 city メール配信サービス
2. テレビ広報番組	7. 越谷市公式ツイッター
3. ラジオ広報番組	8. 越谷市公式 LINE (ライン)
4. 越谷市公式ホームページ	9. 越谷市公式インスタグラム
5. 越谷市携帯サイト	

問 14. 広報こしがやについて伺います。「広報こしがや」の感想を選んでください。(〇は1つ)

1. わかりやすい	4. わかりにくいところがある
2. おおむねわかりやすい	5. わかりにくい
3. どちらともいえない	

問 14-2. 問 14で「4」または「5」と答えた方に伺います。どのような点についてそう感じましたか。

(〇はいくつでも)

1. 記事の配置	5. 情報が多すぎる
2. 文字の大きさ	6. 情報が不足している
3. 文字が多すぎる、図が少ない	7. 情報が古い
4. 言葉遣いが難解、主旨が伝わらない	8. その他 []

問 15. 皆さんに伺います。あなたは、「広報こしがや」など紙媒体の広報の必要性をどう考えますか。

(〇は1つ)

1. インターネット未利用のため、紙媒体が必要である
2. インターネットを利用しているが、紙媒体も必要である
3. インターネットを利用しているため、紙媒体は不要である
4. その他 []

市内の公共交通についておたずねします。

問 16. ①あなたは、公共交通(鉄道・バス・タクシー)を利用していますか。

②あなたは、公共交通(鉄道・バス・タクシー)にどの程度満足していますか。

(それぞれ○は1つずつ)

設 問 項 目	①利用状況					②満足度			
	1 常 に 利 用 し て い る	2 よ く 利 用 し て い る	3 と き ど き 利 用 し て い る	4 た ま に 利 用 し て い る	5 全 く 利 用 し な い	1 と と も 満 足 し て い る	2 や や 満 足 し て い る	3 や や 不 満 で あ る	4 と と も 不 満 で あ る
回答例 (①、②それぞれに○) -->	1	2	3	④	5	1	②	3	4
(1) 鉄道	1	2	3	4	5	1	2	3	4
(2) バス	1	2	3	4	5	1	2	3	4
(3) タクシー	1	2	3	4	5	1	2	3	4

景観(風景)についておたずねします。

問 17. あなたは、お住まいの地区の景観(風景)に満足していますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1. 満足している | 4. とても不満である |
| 2. 十分とはいえないが、おおむね満足している | 5. どちらともいえない |
| 3. やや不満である | |

問 18. あなたは、良い景観(風景)のまちをつくるために行政に何を望みますか。(○は3つまで)

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 目標や基本方針を住民に示す | 5. 景観づくりに協力する際の助成金等 |
| 2. 良好な景観づくりに役立つ公共事業 | 6. 景観整備のための住民の合意づくり支援 |
| 3. 規制を含めた強いリーダーシップの発揮 | 7. その他 [] |
| 4. 景観に関する情報提供・普及啓発 | |

参加と協働のまちづくりについておたずねします。

問 19. 越谷市では、市民の市政への参加が可能となるような機会の充実や、地域コミュニティ組織との協働に取り組んでいます。あなたは、越谷市がこのような「参加と協働のまちづくり」をすすめていることを知っていますか。(○は1つ)

- | | | | |
|------------|--------------|-------------|---------|
| 1. よく知っている | 2. まあまあ知っている | 3. 聞いたことがある | 4. 知らない |
|------------|--------------|-------------|---------|

問 19-2. 問 19 で「1」から「3」と答えた方に伺います。越谷市が「参加と協働のまちづくり」をすすめていることをどのようにして知り(聞き)ましたか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. 広報こしがや | 6. 友人・知人 |
| 2. 越谷市公式ホームページ | 7. 自治会やコミュニティ推進協議会を通じて |
| 3. 越谷市携帯サイト | 8. 市民活動団体やボランティア団体を通じて |
| 4. 越谷 city メール配信サービス | 9. イベント |
| 5. 越谷市自治基本条例を通じて | 10. その他 [] |

問 20. 皆さんに伺います。あなたはこのようなまちづくりに参加したいと思いませんか。(○は1つ)

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 参加したい | 3. どちらかといえば参加したくない |
| 2. どちらかといえば参加したい | 4. 参加したくない |

問 21. 皆さんに伺います。あなたは参加と協働のまちづくりに必要なルールなどが書かれている「越谷市自治基本条例」を知っていますか。(○は1つ)

- | | | | |
|------------|--------------|-------------|---------|
| 1. よく知っている | 2. まあまあ知っている | 3. 聞いたことがある | 4. 知らない |
|------------|--------------|-------------|---------|

▶ 問 21-2. 問21で「1」から「3」と答えた方に伺います。

「越谷市自治基本条例」のことをどのようにして知り(聞き)ましたか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. 広報こしがや | 6. 友人・知人 |
| 2. 越谷市公式ホームページ | 7. 自治会やコミュニティ推進協議会を通じて |
| 3. 越谷市携帯サイト | 8. 市民活動団体やボランティア団体を通じて |
| 4. 越谷 city メール配信サービス | 9. イベント |
| 5. パンフレット等の啓発物 | 10. その他 [] |

問 22. 皆さんに伺います。「参加と協働のまちづくり」を推進するために「越谷市自治基本条例」の普及・啓発を行っていますが、普及・啓発方法としてどのような方法が効果的だと思いますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------------|
| 1. 広報こしがやへの情報掲載 | 10. 公共施設等でのポスター掲示 |
| 2. テレビ広報番組による広報 | 11. 公共交通機関等でのポスター掲示板や大型エターによる情報発信 |
| 3. ラジオ広報番組による広報 | 12. パンフレットの配布 |
| 4. 越谷市公式ホームページ上への情報掲載 | 13. 啓発物品(ポケットティッシュ・エコバッグ等)の配布 |
| 5. 越谷市携帯サイト上への情報掲載 | 14. シンポジウム・講演会の開催 |
| 6. 越谷 city メールによる情報発信 | 15. パネル展の開催 |
| 7. SNS(TwitterやLINE)による情報発信 | 16. 動画コンテスト等の体験型イベントの開催 |
| 8. 動画(YouTube等)による情報配信 | 17. 出張講座の開催 |
| 9. 啓発映像(DVD等)の上映や貸出 | 18. その他 [] |

地場農産物や地産地消についておたずねします。

問 23. 越谷を代表する農産物について、あなたが知っているものを選んでください。(○はいくつでも)

- | | | | |
|-----------|--------|-----------|------------|
| 1. 太郎兵衛もち | 3. ねぎ | 5. いちご | 7. 小松菜 |
| 2. くわい | 4. 山東菜 | 6. チューリップ | 8. その他 [] |

問 24. あなたは、越谷を代表する農産物を購入したことがありますか。ある場合は、どこで購入しましたか。

(ア～ク それぞれ横に○はいくつでも)	購入したことがある				購入したことがない
	市民まつり などイベント	農産物 直売所	市内スーパー マーケット	その他	
ア 太郎兵衛もち	1	2	3	4	5
イ くわい	1	2	3	4	5
ウ ねぎ	1	2	3	4	5
エ 山東菜	1	2	3	4	5
オ いちご	1	2	3	4	5
カ チューリップ	1	2	3	4	5
キ 小松菜	1	2	3	4	5
ク その他 []	1	2	3	4	5

自殺防止についておたずねします。

問 25. あなたはこれまでに自殺(自死)したいと考えたことがありますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

▶ 問 25-2. 問 25 で「1. はい」と答えた方に伺います。その理由は何ですか。(○はいくつでも)

1. 健康問題 5. 恋愛問題
2. 仕事問題 6. 学校問題
3. 家庭問題 7. その他 []
4. 経済・生活問題

問 26. もしあなたが自殺(自死)について悩んだとき、だれに相談しますか。(○は1つ)

1. 配偶者 4. 祖父母 7. 警察 10. 市役所
2. 親 5. 子ども 8. 消防 11. 誰にも相談しないと思う
3. 兄弟姉妹 6. 友人 9. いのちの電話 12. その他 []

問 27. 市に自殺(自死)に関する相談窓口があることを知っていますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

問 28. 自殺防止に最も効果的な対策は次のどれだと思いますか。(○は1つ)

1. 資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談 5. 街頭キャンペーン等による普及啓発
2. 就労に関する支援 6. 広報、インターネットによる普及啓発
3. 健康や病気に関する相談 7. その他
4. 講演会、研修会等による正しい知識の普及啓発 []

地域医療体制についておたずねします。

問 29. あなたは、「越谷市夜間急患診療所・休日当番医制度^{※1}・埼玉県救急電話相談^{※2}(#7119)・埼玉県AI救急相談^{※3}」を知っていますか。

(ア～エ それぞれ横に○は1つずつ)

	利用した ことがある	利用した ことはないが 知っている	知らない
ア 越谷市夜間急患診療所	1	2	3
イ 休日当番医制度	1	2	3
ウ 埼玉県救急電話相談(#7119)	1	2	3
エ 埼玉県AI救急相談	1	2	3

※1 休日当番医制度：祝日や年末年始に、病院・診療所・歯科診療所が交代で診療を行っている制度
 ※2 埼玉県救急電話相談：埼玉県が行っている、急病時の家庭での対処方法や受診の必要性についての電話相談ができる制度
 ※3 埼玉県A I 救急相談：埼玉県が行っている、急病時の家庭での対処方法や受診の必要性について、チャット形式で相談した内容をもとに、A I (人工知能) がアドバイスする制度

問 30. あなたは、夜間や休日に利用できる医療機関の情報が必要な場合、どこから情報を入手しますか。次の中から選んでください。(○はいくつでも)

1. 広報こしがや 6. インターネットで調べる
2. 市民ガイドブック (越谷市・埼玉県公式ホームページを除く)
3. 越谷市公式ホームページ 7. 埼玉県救急電話相談(#7119)
4. 越谷市発行のチラシ 8. 埼玉県A I 救急相談
(「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等) 9. 消防署に問い合わせ
5. 埼玉県公式ホームページ 10. 医療機関に問い合わせ
(医療機能情報提供システムを含む) 11. 知人・友人等に聞く
12. その他 []

問 31. 地域医療に関する事業のうち、あなたが特に力を入れる必要があると思うことは何ですか。

(○は3つまで)

- | | |
|---------------|-------------------------------------|
| 1. 夜間急患診療所 | 6. かかりつけ医療機関の普及啓発
(チラシ、地図冊子等の配付) |
| 2. 休日当番医制度 | 7. 救急車の適正利用の啓発 |
| 3. 電話等による相談事業 | 8. 在宅医療体制の整備促進 |
| 4. 医療機関の整備促進 | 9. 災害や感染症への備え |
| 5. 医療従事者の確保 | |

人権全般に関する意識についておたずねします。

問 32. あなたは、今の日本社会において、どのくらい基本的人権が尊重されていると思いますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 十分尊重されている | 3. あまり尊重されていない |
| 2. やや尊重されている | 4. 尊重されていない |

問 33. 一人ひとりの人権意識は、10年前に比べて高くなっていると思いますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------------|--------------|------------|
| 1. 非常に高くなっている | 3. 変わっていない | 5. 低くなっている |
| 2. やや高くなっている | 4. やや低くなっている | |

問 34. 今の日本の社会に様々な人権問題がありますが、あなたが関心のあるものはどれですか。

(○はいくつでも)

- | | |
|--|---------------------------|
| 1. 女性の人権問題 | 9. 刑を終えて出所した人々の人権問題 |
| 2. 子どもの人権問題 | 10. 犯罪被害者やその家族の人権問題 |
| 3. 高齢者の人権問題 | 11. インターネット上における人権問題 |
| 4. 障がい者の人権問題 | 12. 北朝鮮当局による拉致問題 |
| 5. 同和問題(部落差別) | 13. ホームレスの人々の人権問題 |
| 6. アイヌ民族の人権問題 | 14. LGBTなど性的少数者の人権問題 |
| 7. 外国人の人権問題 | 15. 大規模災害時の避難生活などにおける人権問題 |
| 8. エイズやハンセン病、新型コロナウイルス等
感染症患者やその家族の人権問題 | 16. その他 [] |

問 35. あなたは、日常生活の中であなた自身またはあなたの周りの人の人権が侵害されたと感じたことはありますか。(○は1つ)

- | | | |
|-------|-------|----------|
| 1. ある | 2. ない | 3. わからない |
|-------|-------|----------|

▶ 問 35-2. 問 35 で「1. ある」と答えた方に伺います。人権が侵害されたと感じたことは、どのような内容ですか。(○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた |
| 2. 人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた |
| 3. 職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた |
| 4. プライバシーを侵害された |
| 5. 性的嫌がらせ(セクシュアル・ハラスメント)を受けた |
| 6. 特定の人に執拗につきまとわれた(ストーカー行為) |
| 7. 配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力(ドメスティック・バイオレンス)を受けた |
| 8. その他 [] |

男女共同参画についておたずねします。

問 36. 育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業・介護休暇・子の看護休暇を取得できる制度があります。あなたは、男性がこの制度を活用することについてどう思いますか。(〇は1つ)

1. 男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を積極的に取るべきである
2. 男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う
3. 育児休業・介護休暇・子の看護休暇は女性が取るべきであり、男性が休業・休暇を取る必要はない
4. その他〔 〕

問 37. 育児・介護のための長期休暇は、男性の取得がきわめて少ない状況です。その理由は、何だと思えますか。(〇は2つまで)

1. 職場や周囲に休みにくい雰囲気があるから
2. 仕事の責任上、周囲の人に迷惑がかかるから
3. 男性が取ることについて社会全体の認識が十分でないから
4. 人事評価や昇給等に不利だから
5. 育児休業・介護休暇中は所得が大幅に減るから
6. その他〔 〕

問 38. 一般的に、男女がともに仕事と家庭を両立していくためには、どのような条件が必要だと思えますか。(〇は3つまで)

1. 育児休業・介護休暇制度を利用できる職場環境を整備すること
2. 女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること
3. 保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実させること
4. 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること
5. 育児や介護のため退職した方を、元の職場で再雇用する制度を導入すること
6. 昇給などの男女格差をなくすこと
7. 年間労働時間を短縮すること
8. 育児休業・介護休暇中の賃金など経済面を充実させること
9. 職務上必要な知識や技術などを習得するための訓練を充実させること
10. その他〔 〕

問 39. 日常生活のなかでの、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について伺います。あなたの希望と現実(現状)に最も近いものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

優先したいと希望するもの	現実に優先しているもの
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「仕事」 2. 「家庭生活」 3. 「地域・個人の生活」 4. 「仕事」と「家庭生活」の両方 5. 「仕事」と「地域・個人の生活」の両方 6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」の両方 7. 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」のすべて 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「仕事」 2. 「家庭生活」 3. 「地域・個人の生活」 4. 「仕事」と「家庭生活」の両方 5. 「仕事」と「地域・個人の生活」の両方 6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」の両方 7. 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」のすべて

問 40. 政治や行政の分野で女性の参画が少ない現状がありますが、どのようなことが理由だと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものをお選びください。(○は3つまで)

- | | |
|---------------------------------|-------------------|
| 1. 男性優位の組織運営 | 4. 家庭の支援・協力が得られない |
| 2. 女性の参画を積極的に進めようとして意識している人が少ない | 5. 女性側の積極性が十分でない |
| 3. 家庭・職場・地域における性別による役割分担や性差別の意識 | 6. 女性の能力開発の機会が不十分 |
| | 7. 分からない |
| | 8. その他 [] |

成年年齢引下げについておたずねします。

問 41. あなたは、成年年齢が 20 歳から 18 歳に引き下げられたことを知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

▶ 問 41-2. 問 41 で「1. はい」と答えた方に伺います。成年年齢の引き下げとともに、18 歳になっただけでできることと、20 歳にならないとできないことがあります。あなたが知っていることを次の中から選んでください。(それぞれ○はいくつでも)

18 歳からできること	20 歳にならないとできないこと
1. 親の同意がない契約 (ローンを組む、クレジットカードの作成等)	1. 飲酒
2. 10 年間有効のパスポート取得	2. 喫煙
3. 公認会計士、医師免許などの国家資格取得	3. 競馬、競輪、競艇、オートレースの投票券等購入
4. 結婚	4. 養子を迎える
5. 性同一性障害の人の性別取扱いの変更審判	5. 大型・中型自動車運転免許の取得

問 42. あなたは、消費者トラブルに関する相談先を知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

▶ 問 42-2. 問 42 で「1. はい」と答えた方に伺います。知っている相談先を次の中から選んでください。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 越谷市立消費生活センター | 4. 埼玉県消費生活支援センター |
| 2. 越谷警察署 | 5. 国民生活センター |
| 3. 埼玉弁護士会 | 6. その他 [] |

防犯カメラについておたずねします。

問 43. 防犯カメラのイメージ・設置してほしい場所・設置数について、あなたの考えに近いものを、次の中から選んでください。(それぞれ○は1つずつ)

防犯カメラのイメージ	防犯カメラを設置してほしい場所	防犯カメラの設置数
1. 犯罪抑止による安心感がある	1. 住宅街	1. 増設してほしい
2. 犯罪者の検挙率がアップする (事件、事故等の証拠になる)	2. 人や車の通りが少ない道路 (周りに家などが無い道路など)	2. 最小限にしてほしい
3. 見守られている安心感がある	3. 人や車の通りが多い道路(駅前通りなど)	3. 設置しないでほしい
4. 監視されているように感じる	4. 公園	4. その他
5. 特になし	5. その他 []	[]

スポーツ・レクリエーションの実施状況についておたずねします。

問 44. この1年間でどのくらいスポーツ・レクリエーション活動を行いましたか(ウォーキング・徒歩や軽い体操も含みます)。(○は1つ)

1. 週に3回以上	4. 3か月に1~2回程度	6. 行っていない
2. 週に1~2回程度	5. 年に1~3回程度	⇒問 44-3 へ
3. 月に1~3回程度		

▶問 44-2. 問 44 で「1」から「5」のいずれかと答えた方に伺います。

あなたがスポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由は何ですか。(○は3つまで)

1. 気分転換・気晴らし	7. 試合や大会に参加したいから
2. 運動不足解消	8. 学校のサークル活動等で行っているから
3. 美容、肥満解消	9. スポーツ教室や講座に参加しているから
4. 家族のふれあい	10. その他〔 〕
5. 友人との交流	11. 特に理由はない
6. 健康、体力維持・増進	

問 44-3. 問 44 で「6. 行っていない」と答えた方に伺います。

あなたが、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由は何ですか。(○は3つまで)

1. 仕事(家事、育児も含む)や勉強が忙しいから	6. 年をとったから
2. 費用がかかるから	7. スポーツ・レクリエーションが好きでない(興味が無い)から
3. 身近に適切な場所や施設がないから	8. その他〔 〕
4. 健康上の理由から	9. 特に理由はない
5. 一緒に行く相手、指導者等がないから	

問 45. 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。(○はいくつでも)

比較的軽いスポーツ	野外活動	競技的スポーツ
1. 軽い体操	1. スキー・スノーボード	1. 陸上競技
2. 軽い球技(キャッチボール等)	2. 海水浴	2. 水泳競技
3. ウォーキング	3. スケート	3. 野球・ソフトボール
4. ジョギング	4. 登山	4. サッカー
5. ゲートボール・グラウンドゴルフ	5. キャンプ(オートキャンプを含む)	5. バレーボール
6. ボウリング	6. ハイキング	6. バスケットボール
7. プールを利用した運動	7. サイクリング	7. バドミントン
8. ダンス	8. ゴルフ	8. テニス
9. 室内運動器具を使って行う運動	9. 釣り	9. 卓球
10. その他〔 〕	10. その他〔 〕	10. 柔道、剣道、空手、相撲
11. 特になし	11. 特になし	11. ボクシング、レスリング
		12. 弓道、アーチェリー
		13. その他〔 〕
		14. 特になし

芸術文化活動についておたずねします。

問 46. 芸術文化とは、人々の創造性をはぐくみ、その表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壌を提供し、多様性を受け入れることのできる心豊かな社会を形成するものです。あなたが日常的に実施(出演、出展、観覧、応募)している芸術文化活動を次の中から選んでください。
(○はいくつでも)

1. 文学	3. 美術	5. 演劇	7. 実施していない
2. 音楽	4. 写真	6. 舞踊	8. その他〔 〕

問 47. 皆さんに伺います。越谷市が主催する以下の芸術文化に係る事業を知っていますか。また、参加(出演、出展、観覧、応募)したことはありますか。

(ア～エ それぞれ横に○は1つずつ)	参加(出演、出展、観覧、応募)したことがある	知っているが、参加(出演、出展、観覧、応募)したことがない	知らない
ア 越谷市市民文化祭	1	2	3
イ 越谷市美術展覧会(市展)	1	2	3
ウ 越谷市県展記念作品展	1	2	3
エ 文化総合誌「川のあるまちー越谷文化」	1	2	3

問 47-2. 問 47 のア～エにおいて、「2」と答えた方に伺います。あなたが、越谷市が主催する芸術文化に係る事業に参加(出演、出展、観覧、応募)したことがない理由は何ですか。
(○はいくつでも)

1. 仕事(家事、育児を含む)や勉強が忙しいから	4. 一緒に事業に参加(出演、出展、観覧、応募)する相手がいないから
2. 事業に参加(出演、出展、応募)するまでの準備等に費用がかかるから	5. 芸術文化に興味がないから
3. 事業に参加(出演、出展、応募)するための準備等に最適な場所や施設がないから	6. 特に理由はない
	7. その他〔 〕

介護サービスについておたずねします。

問 48. あなた又はあなたの家族が介護サービスを利用する際、事業・事業所・職員に求めるものを次の中から選んでください。(それぞれ○は1つずつ)
※現在、介護サービスの利用予定がない、利用対象者がいない場合でもご回答願います。

事業の形態	事業所の体制	職員の資質
1. 広く事業展開をしている施設(市内・市外問わずだれでも利用できる施設)	1. 職員のスキル向上や知識の取得に力を入れている	1. 利用者の話をしっかり聞く
2. 地域に密着した事業展開をしている施設(市内在住者のみ利用できる施設)	2. 虐待研修などを行い、虐待発生防止に力を入れている	2. 介護の経験が豊富
3. どちらでもよい	3. 感染対策に力を入れている	3. 身だしなみ、言葉づかいがしっかりしている
	4. その他〔 〕	4. その他〔 〕

子育て支援についておたずねします。

問 49. あなたは、子育て支援に関する情報を主に何から得ていますか。(〇は1つ)

1. 越谷市公式ホームページ	4. 越谷市公式インスタグラム
2. こしがや子育てネット・子育てクワイエ	5. 広報こしがや
3. 越谷市公式ツイッター	6. その他 []

問 50. あなたは、越谷市において、子育て支援に関する情報を得ることが難しいと感じたことはありますか。(〇は1つ)

1. ある	2. ない
-------	-------

▶ 問 50-2. 問 50 で「1. ある」と答えた方に伺います。どのような時にそう感じましたか。

(〇はいくつでも)

1. 情報を得る窓口や講座などが少ない	4. ホームページなどのサイトが見にくい
2. 紙媒体の情報提供が少ない	5. 複数の情報源があり正しい判断ができない
3. プッシュ型の情報提供が少ない	6. その他 []

自治会についておたずねします。

問 51. あなたは、自治会に加入していますか。(〇は1つ)

1. 加入している	----▶ 問 51-2 へ
2. 加入していない	----▶ P.13 問 51-3 へ
3. 加入していたが脱会した	----▶ P.13 問 51-4 へ

問 51-2. 問 51 で「1. 加入している」と答えた方に伺います。あなたが自治会に加入した理由・参加している自治会活動・自治会に加入して感じている点を、次の中から選んでください。

(〇はいくつでも)

自治会に加入した理由	参加している自治会活動	自治会に加入して感じている点
1. 加入するのが当然だと思うため	1. 防犯パトロールや子ども達の見守り	1. 地域に顔見知りができ安心感がある
2. 地域の人と触れ合えるため	2. 地域の防災活動	2. 地域の安全や環境美化に貢献している
3. 地域の情報を得ることができるため	3. 住民相互の助け合いや福祉活動	3. 防災訓練などを通して、災害への備えができる
4. 地域の活動に参加したいため	4. 町内清掃などの環境美化活動	4. 地域の課題解決が進む
5. 周りの人が加入しているため	5. お祭りなどの行事	5. 行事等に楽しく参加できる
6. 加入の勧誘があったため	6. 地域の課題解決を目的とした会合	6. 役員就任等への負担感
7. 災害に備えるため	7. 親睦を目的とした会合	7. 会費支払いへの負担感
8. その他 []	8. 全く参加していない	8. 地域活動や行事等への参加の負担感
	9. その他 []	9. その他 []

問 51-3. 問51で「2. 加入していない」と答えた方に伺います。あなたが自治会に加入していない理由・自治会に加入するために必要だと思うこと、自治会への加入意思を、次の中から選んでください。(○はいくつでも)

自治会に加入しない理由	自治会に加入するために必要だと思うこと	自治会への加入意思
1. 仕事や家事が忙しくて時間がないうため	1. 仕事や家事にゆとりがあること	1. 加入したい
2. 近所付き合いがわずらわしいため	2. 自治会活動や加入方法などの情報提供	2. 加入したくない
3. 加入しなくても困らないため	3. 参加してみたい魅力的な活動	3. 条件が合えば加入してもよい
4. 自治会の活動内容がわからないため	4. 班長や役員などに選ばれても協力体制があること	4. その他 []
5. 自治会への入り方がわからない(勧誘がない)ため	5. 事情に応じた役員や会費の免除(減額)	
6. 自治会に加入するメリットがわからないため	6. その他 []	
7. 班長や役員などを引き受けたくないため		
8. 会費を払いたくない(金銭的負担が大きい)ため		
9. 参加したい活動がないため		
10. 短期の居住のため加入の必要性を感じないため		
11. 住んでいるマンションなどに自治会がないため		
12. その他 []		

問 51-4. 問51で「3. 加入していたが脱会した」と答えた方に伺います。あなたが自治会を脱会した理由は何ですか。(○はいくつでも)

1. 仕事や家事が忙しくて時間がなかった
2. 自治会の活動内容がわからなかった
3. 自治会に加入しているメリットが感じられなかった
4. 班長や役員などを引き受けなくなかった
5. 会費を払いたくなかった(負担が大きかった)
6. 活動内容に魅力がなかった
7. 高齢のため、地域の活動や行事に参加できなくなった
8. 新型コロナウイルス感染症の影響により、人との接触を避けたかった
9. その他 []

令和4年度 市政世論調査報告書

令和4年11月

発行：越谷市 市民協働部 くらし安心課
〒343-8501 埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号
電話 048(963)9336(直通)

調査実施：株式会社アイアールエス
〒160-0004 東京都新宿区四谷三丁目1番3号
電話 03(3357)7181
